富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第5集

梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）

――東海北陸自動車建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅰ――

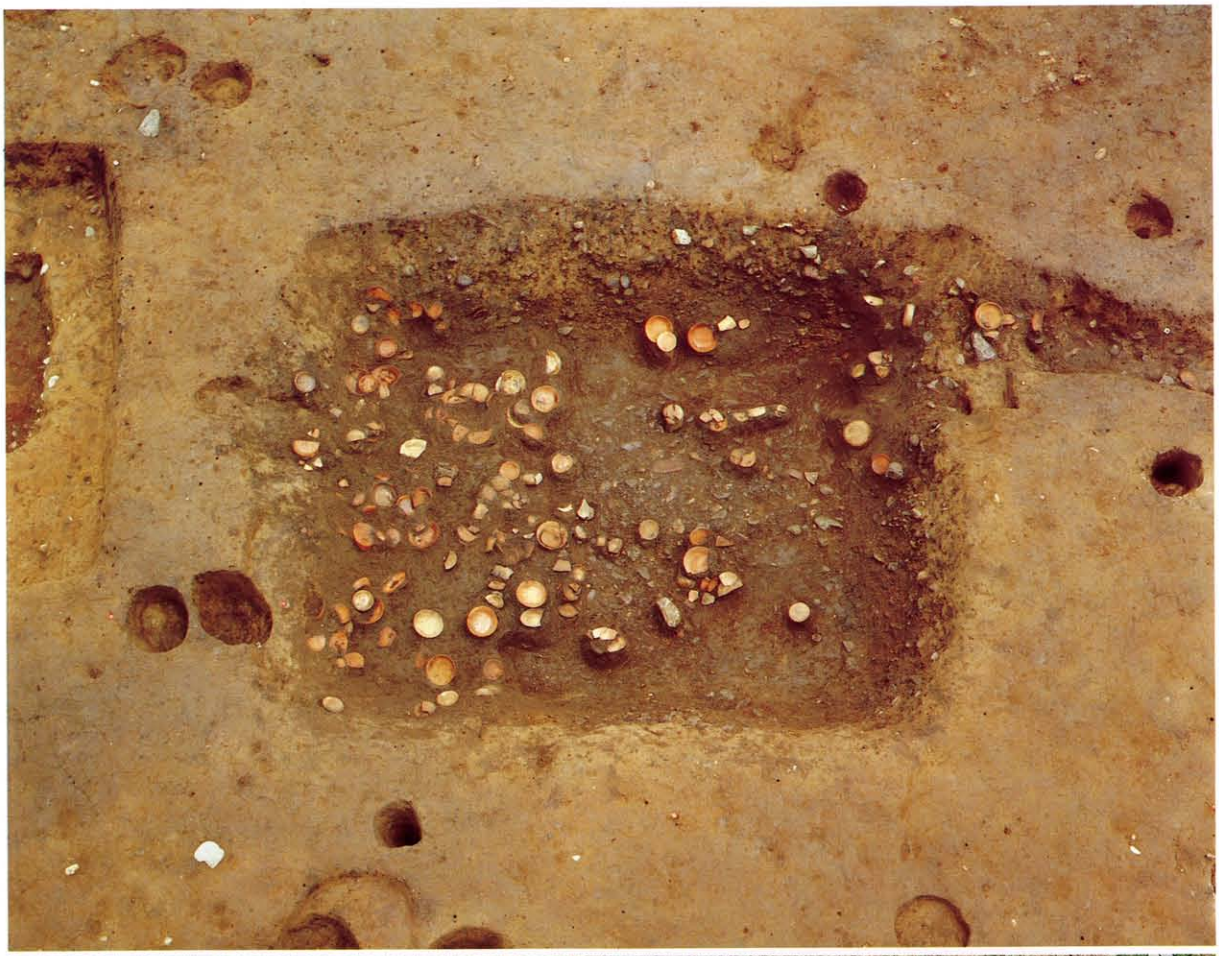
1994年

財団法人 富山県文化振興財団

遺跡遠景(東から)

上　A1地区北側全景(南から)

下　A1地区南側全景(南から)



上　2456号土坑(西から)

下　A３S地区全景(西から)

上　B２地区全景(北から)

下　7101号土台建物(西から)

C地区全景(北から)

梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）

――東海北陸自動車建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告Ⅰ――

1994年

財団法人 富山県文化振興財団

序

富山県下ではここ十数年，高速自動車道や国道バイパスの建設に伴って，大規模かつ長期にわたる発掘調査が行われ，膨大な資料が蓄積され，さらに次なる調査への足掛かりとなってきました。

本書は，日本道路公団の東海北陸自動車道の建設に伴い実施した福光町梅原胡摩堂遺跡の発掘調査報告書の遺構編です。平成元年度に発掘調査を開始し，平成４年度には現地調査を終了しました。発掘調査した遺跡は梅原胡摩堂遺跡の他４遺跡あり，その総延長は約2.3kmになります。調査の結果，発見された遺構と遺物は膨大な量にのぼります。そこで今回の報告書では，梅原胡摩堂遺跡の遺構を取り上げました。梅原胡摩堂遺跡の遺物編と，その他の遺跡については後年度報告することにしています。

この梅原胡摩堂遺跡は，発見された多数の掘立柱建物や溝等から，中世，近世の大規模な集落遺跡であることがわかりました。特に12世紀中頃から18世紀にいたるまでの北陸の一集落の構造の変遷を具体的にたどることのできる貴重な資料といえます。この発掘調査の成果が，中世考古学や民衆生活の解明にいささかなりとも貢献できればと念願しています。

これまでの調査に当たっては，関係機関や団体，また諸氏の御指導，御援助をいただき，厚く感謝いたします。今後とも，一層の御指導と御鞭撻をお願い申し上げ，発刊の御挨拶といたします。

平成６年３月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所　長　桃野真晃

例　　言

1　本書は富山県西礪波郡福光町梅原，同町宗守地内に所在する梅原胡摩堂遺跡の発掘調査報告書遺構編である。なお梅原胡摩堂遺跡遺物編と梅原加賀坊遺跡，久戸遺跡，梅原安丸遺跡，田尻遺跡の発掘調査報告書については平成7年度刊行予定である。

2　委託者は日本道路公団新潟建設局である。

3　発掘調査主体は財団法人富山県文化振興財団である。

4　本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記の通りである。

調査期間　　平成元（1989）年5月29日～平成4（1992）年6月2日

整理期間　　平成4（1992）年4月1日～平成6（1993）年3月31日

5　本書の作成にあたっては，富山県教育委員会文化課，富山県埋蔵文化財センターの指導・助言を受けながら，宮田進一，島田美佐子，田中道子，河西健二が分担した。執筆分担は各節末に記した。

6　報告書抄録については次頁に記載している。なお市町村コードは自治省が定めたもので，16は富山県，421は福光町を表している。遺跡コードは平成4年度刊行富山県遺跡地図に基づく遺跡番号である。

7　発掘調査から本書の作成に至るまで，下記の方々から多大な御教示・御協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略，五十音順）

秋田裕毅，足立順司，飯村　均，石上英一，伊藤隆三，岩田　隆，上田秀夫，宇野隆夫，梅原専従，梅原隆章，大澤正己，大庭康時，大橋康二，大山喬平，小沢一弘，垣内光次郎，金子裕之，狩野　睦，川上貞雄，金田章一，久保智康，斉木秀雄，佐伯哲也，佐伯安一，酒井重洋，坂井秀弥，高屋順五，田嶋明人，田嶋正和，佃　幹雄，坪井清足，鶴巻康志，得地和彦，楢崎彰一，西井龍儀，長谷川益夫，服部敬史，林　浩明，藤澤良祐，藤澤典彦，藤田邦雄，前川　要，前田　廣，間谷庄太郎，馬淵和雄，水野和雄，水野正好，南洋一郎，宮下幸夫，宮本長二郎，邑本順亮，森沢佐歳，森本朝子，山本信夫，吉岡康暢，四柳嘉章，米原　寛，和嶋俊二，富山県教育委員会，富山県埋蔵文化財センター，福野町教育委員会，福光町教育委員会，医王山文化調査委員会

凡　　例

1　本書は本文，挿図，表と図面，図版とからなる。挿図には遺構の個別実測図，図面には遺構全体図，図版には遺構全景のモザイク写真，遺構の個別写真を掲載する。

2　時期別に検出した主な遺構の内容については，章末に一覧に掲載している。

3　遺構番号は，調査時に調査地区別に付した番号にある一定の数値を加算して遺構番号とした。番号は遺構の種類と関係なく通し番号とした。ただし，掘立柱建物，柵・塀・道路の遺構番号については，新たに番号を付した。

4　遺構の種類は遺構番号の前に付し，詳細については36頁を参照されたい。

5　本文の記載については，遺構を時期別に分けた後，遺構番号の若いものから記載を行っている。挿図，図版の記載順もこれを援用する。

6　本書で示す方位はすべて真北である。

7　注は脚注とした。引用文献も注の中で扱い，章末に一括して掲載した。

8　遺構実測図は1/200の遺跡全体分割図35葉，1/40，1/80，1/100の個別図297葉がある。全体の分割図は北から１頁におさまる範囲を35のブロックに分けたものである。

9　個別実測図には時期が明確な遺構に限って掲載し，切り合う遺構は時期が異なっても同一の挿図に作成している。

10　本文の記載，実測図の表現方法については，36頁を参照されたい。

報告書抄録

ふりがな	うめはらごまどういせきはっくつちょうさほうこく（いこうへん）
書名	梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告 （遺構編）
副書名	東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告
巻次	I
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第5集
編著者名	宮田進一　島田美佐子　田中道子　河西健二
編集機関	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒930　富山県富山市五福4384番1号　Tel 0764-42-4229
発行年月日	西暦1994年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
うめはらごまどう 梅原胡摩堂	にしとなみぐんふくみつまち 西礪波郡福光町 うめはら・むねもり 梅原・宗守	16421	180	36度 33分 25秒	136度 54分 20秒	19890529～ 19891227 19900412～ 19901227 19910425～ 19911220 19920420～ 19920602	20,850 16,250 17,680 920	道路（東海北陸自動車道）建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
梅原胡摩堂	集落跡	縄文後・晩期	土坑4基	土器・石器	12世紀半ばから18世紀にいたる集落
		奈良・平安	溝1条・土坑1基	土師器・須恵器	
		中世	掘立柱建物181棟 溝152条 井戸271基 土坑464基 土壙墓1基	中世土師器・八尾 珠洲・越前・加賀 瀬戸・美濃・青磁 白磁・青花・石製品 金属製品・木製品	
		近世	掘立柱建物49棟 土台建物4棟 溝56条 井戸94基 土坑234基	越中瀬戸・唐津 伊万里・石製品 金属製品・木製品	
		近代	井戸1基・土坑20基	陶磁器・石製品 金属製品・木製品	

目　　次

第Ⅰ章　調査経緯……1

1　調査に至る経緯……1

A　調査の契機……1
B　分布調査……1
C　試掘調査……1
D　本調査……1

2　調査経過……2

A　調査方法……2
B　調査の経過……5
C　調査体制……8
D　現地説明会……9
E　整理体制……10

第Ⅱ章　地理的環境と歴史的環境……11

1　地理的環境……11

2　歴史的環境……18

A　旧石器時代……18
B　縄文時代……20
C　弥生・古墳時代……22
D　古　　代……24
E　中　　世……27
F　近世以降……33

第Ⅲ章　梅原胡摩堂遺跡 ……35

1　遺跡の概要 ……35

A　概　　要 ……35
B　土　　層 ……35
C　遺構の記述について ……36

2　遺　　構 ……39

A　縄文時代 ……39
B　奈良・平安時代 ……39
1　溝　……39　2　土　坑……41
C　中世前期 ……42
1　掘立柱建物……42　2　溝　……122
3　井　戸……157　4　土　坑……171
5　そ の 他……190
D　中世後期 ……250
1　掘立柱建物……250　2　溝　……273
3　井　戸……307　4　土　坑……337
E　近　　世 ……386
1　掘立柱建物……386　2　土台建物……411
3　溝　……422　4　井　戸……434
5　土　坑……448
F　近代以降 ……525
1　井　戸……525　2　土　坑……525

第Ⅳ章　ま と め ……526

1　遺構分布と地籍図 ……526
2　掘立柱建物 ……530
3　中世末から近世の建物 ……542
4　井　　戸 ……554
5　墓 ……559

挿図目次

第１図　調査区 …… 3
第２図　梅原胡摩堂遺跡周辺の地質図…… 12
第３図　梅原胡摩堂遺跡周辺の主要遺跡位置図…… 13
第４図　西原Ｃ遺跡出土遺物と立美遺跡出土遺物…… 19
第５図　うずら山遺跡の住居跡実測図と出土遺物，西原Ａ遺跡の住居跡実測図と出土遺物…… 21
第６図　安居五百歩遺跡出土遺物…… 22
第７図　梅原安丸Ⅲ遺跡4地区の第1号住居跡実測図と出土遺物…… 23
第８図　安居・岩木窯跡群出土遺物と古館遺跡出土遺物…… 25
第９図　記塚実測図・表面礫分布図と出土遺物…… 26
第10図　井口城跡の遺構配置図と井戸の実測図と出土遺物…… 28
第11図　井口城跡出土遺物…… 29
第12図　伝安楽寺跡実測図・石碑拓影及び出土遺物…… 31
第13図　梅原安丸遺跡出土遺物と寺家新屋敷館跡出土遺物…… 32
第14図　富山県北山田村梅原・宗守・小杉区の字界と字名…… 34
第15図　遺構実測図（縄文時代）SK2990 SK4310 SK4317 SK4650 …… 40
第16図　遺構実測図（奈良・平安時代）SK800…… 41
第17図　遺構実測図（中世前期）SB01～SB05 …… 71
第18図　遺構実測図（中世前期）SB01 …… 72
第19図　遺構実測図（中世前期）SB02 SB03 …… 73
第20図　遺構実測図（中世前期）SB04～SB06 …… 74
第21図　遺構実測図（中世前期）SB05 SB06 …… 75
第22図　遺構実測図（中世前期）SB07～SB12 …… 76
第23図　遺構実測図（中世前期）SB07 …… 77
第24図　遺構実測図（中世前期）SB08 SB10 …… 78
第25図　遺構実測図（中世前期）SB11 SB12 …… 79
第26図　遺構実測図（中世前期）SB13～SB16 …… 80
第27図　遺構実測図（中世前期）SB13 SB14 …… 81
第28図　遺構実測図（中世前期）SB15 SB16 SB19 …… 82
第29図　遺構実測図（中世前期）SB17 SB18 …… 83
第30図　遺構実測図（中世前期）SB17 …… 84
第31図　遺構実測図（中世前期）SB19～SB24 …… 85
第32図　遺構実測図（中世前期）SB21 …… 86
第33図　遺構実測図（中世前期）SB23 SB24 …… 87
第34図　遺構実測図（中世前期）SB24～SB27 …… 88
第35図　遺構実測図（中世前期）SB26 SB27 …… 89
第36図　遺構実測図（中世前期）SB28～SB30 …… 90
第37図　遺構実測図（中世前期）SB25 SB29 SB30 …… 91
第38図　遺構実測図（中世前期）SB33～SB39 …… 92
第39図　遺構実測図（中世前期）SB33 SB34 …… 93
第40図　遺構実測図（中世前期）SB40～SB42 …… 94
第41図　遺構実測図（中世前期）SB47～SB53 …… 95

第42図　遺構実測図（中世前期）SB47 SB49 …… 96
第43図　遺構実測図（中世前期）SB53 SB55 SB56 …… 97
第44図　遺構実測図（中世前期）SB52 SB59 …… 98
第45図　遺構実測図（中世前期）SB60 SB61 …… 99
第46図　遺構実測図（中世前期）SB63 …… 100
第47図　遺構実測図（中世前期）SB65～SB76 …… 101
第48図　遺構実測図（中世前期）SB65～SB67 …… 102
第49図　遺構実測図（中世前期）SB68～SB70 …… 103
第50図　遺構実測図（中世前期）SB75 …… 104
第51図　遺構実測図（中世前期）SB76 SB77 …… 105
第52図　遺構実測図（中世前期）SB78 SB80 SB81 …… 106
第53図　遺構実測図（中世前期）SB83 SB87 …… 107
第54図　遺構実測図（中世前期）SB85 SB86 SB88～SB90 …… 108
第55図　遺構実測図（中世前期）SB92 SB94 …… 109
第56図　遺構実測図（中世前期）SB95～SB97 …… 110
第57図　遺構実測図（中世前期）SB99～SB102 …… 111
第58図　遺構実測図（中世前期）SB101～SB110 …… 112
第59図　遺構実測図（中世前期）SB103 SB104 …… 113
第60図　遺構実測図（中世前期）SB108 SB110 …… 114
第61図　遺構実測図（中世前期）SB110～SB116 …… 115
第62図　遺構実測図（中世前期）SB111 SB115 …… 116
第63図　遺構実測図（中世前期）SB117 SB127～SB130 …… 117
第64図　遺構実測図（中世前期）SB121 SB122 …… 118
第65図　遺構実測図（中世前期）SB123～SB125 …… 119
第66図　遺構実測図（中世前期）SB131～SB133 …… 120
第67図　遺構実測図（中世前期）SB126 SB134 …… 121
第68図　遺構実測図（中世前期）SD01 SD03 SD161 SD302 SD777 SD778 SD785 SD786 SD794 SD795 SD834 SD924 …… 130
第69図　遺構実測図（中世前期）SD701 …… 131
第70図　遺構実測図（中世前期）SD701 …… 132
第71図　遺構実測図（中世前期）SD701 SD911 SD1441 …… 133
第72図　遺構実測図（中世前期）SD701 SD911遺物出土状況 …… 135
第73図　遺構実測図（中世前期）SD1250 …… 137
第74図　遺構実測図（中世前期）SD1250 SD1252 …… 138
第75図　遺構実測図（中世前期）SD1252遺物出土状況 …… 139
第76図　遺構実測図（中世前期）SD1406 SD1422 …… 140
第77図　遺構実測図（中世前期）SD1250 SD1252 SD1406 SD1422遺物出土状況 …… 141
第78図　遺構実測図（中世前期）SD2203 SD2450 SD2451 SD2453 SD3005～ SD3007遺物出土状況 …… 143
第79図　遺構実測図（中世前期）SD2201 SD2203 …… 145
第80図　遺構実測図（中世前期）SD2203 SD3005～SD3007 SD3010 …… 147
第81図　遺構実測図（中世前期）SD1285 SD1423 SD2453 …… 149
第82図　遺構実測図（中世前期）SD2450 SD2451 …… 150
第83図　遺構実測図（中世前期）SD3425 …… 151
第84図　遺構実測図（中世前期）SD3425 …… 152
第85図　遺構実測図（中世前期）SD3425 …… 153
第86図　遺構実測図（中世前期）SD3425 …… 154

第87図　遺構実測図（中世前期）SD3425 …… 155
第88図　遺構実測図（中世前期）SD3425 …… 156
第89図　遺構実測図（中世前期）SE1255 …… 162
第90図　遺構実測図（中世前期）SE1253 SE1291 SE1314 …… 163
第91図　遺構実測図（中世前期）SE2468 SE2497 …… 164
第92図　遺構実測図（中世前期）SE2658 SE3052 SE3970 SE3971 …… 165
第93図　遺構実測図（中世前期）SE3418 …… 166
第94図　遺構実測図（中世前期）SE3431 …… 167
第95図　遺構実測図（中世前期）SE3412 SE3420 SE4619 SE4732 SE4733 SE4735 …… 168
第96図　遺構実測図（中世前期）SE3591 SE3592 SE3852 SE3880 …… 169
第97図　遺構実測図（中世前期）SE4332 SE4355 SE4357 …… 170
第98図　遺構実測図（中世前期）SK06 SK07 SK305～SK307 SK309 …… 194
第99図　遺構実測図（中世前期）SK303 SK304 …… 195
第100図　遺構実測図（中世前期）SK760～SK762 SK781 …… 196
第101図　遺構実測図（中世前期）SK773 SK784 SK1074 …… 197
第102図　遺構実測図（中世前期）SK783 SK839 …… 198
第103図　遺構実測図（中世前期）SK787 SK920 SK1430 …… 199
第104図　遺構実測図（中世前期）SK913 …… 200
第105図　遺構実測図（中世前期）SK1277 SK1251 …… 201
第106図　遺構実測図（中世前期）SK1256 SK1258 SK1259 SK1275 …… 202
第107図　遺構実測図（中世前期）SK1271 SK1280 SK1281 SK1609 SK1830 …… 203
第108図　遺構実測図（中世前期）SK1283 SK1298 SK1857～SK1859 …… 204
第109図　遺構実測図（中世前期）SK1292～SK1294 …… 205
第110図　遺構実測図（中世前期）SK1295 SK1297 SK1421 …… 206
第111図　遺構実測図（中世前期）SK1282 SK1299 SK1852 SK1853 …… 207
第112図　遺構実測図（中世前期）SK1267～SK1269 SK1300 SK1301 …… 208
第113図　遺構実測図（中世前期）SK1302 SK1305 …… 209
第114図　遺構実測図（中世前期）SK1306 SK1307 …… 210
第115図　遺構実測図（中世前期）SK1401 SK1402 …… 211
第116図　遺構実測図（中世前期）SK1286 SK1403 SK1427 SK1428 SK1432 …… 212
第117図　遺構実測図（中世前期）SK1408～SK1410 SK1416 SK1417 …… 213
第118図　遺構実測図（中世前期）SK1411 SK1412 SK1700 SK1701 …… 214
第119図　遺構実測図（中世前期）SK1413 SK1414 SK1880 SK1881 …… 215
第120図　遺構実測図（中世前期）SK2205 SK2206 SK2216 SK2217 …… 216
第121図　遺構実測図（中世前期）SK2208 SK2210 …… 217
第122図　遺構実測図（中世前期）SK2211 SK2221 …… 218
第123図　遺構実測図（中世前期）SK2218 …… 219
第124図　遺構実測図（中世前期）SK2220 SK2246 SK2310 …… 220
第125図　遺構実測図（中世前期）SK2228 SK2229 SK2258 …… 221
第126図　遺構実測図（中世前期）SK2452 SK2457 SK2459 SK2480 SK2490 …… 222
第127図　遺構実測図（中世前期）SK2456 …… 223
第128図　遺構実測図（中世前期）SK2460 SK2471 SK2473 SK2495 …… 224
第129図　遺構実測図（中世前期）SK2461 SK2462 SK2470 …… 225
第130図　遺構実測図（中世前期）SK2464 SK2466 SK2467 SK2498 …… 226
第131図　遺構実測図（中世前期）SK2482 SK2483 SK2486 …… 227
第132図　遺構実測図（中世前期）SK2489 SK2492 …… 228

第133図　遺構実測図（中世前期）SK3009 SK3010 …… 229
第134図　遺構実測図（中世前期）SK3013 SK3019～SK3023 SK3025 …… 230
第135図　遺構実測図（中世前期）SK3026 SK3028 SK3051 …… 231
第136図　遺構実測図（中世前期）SK3456 SK3485 …… 232
第137図　遺構実測図（中世前期）SK3483 SK3484 SK3488 SK3529 …… 233
第138図　遺構実測図（中世前期）SK3489 SK3496 …… 234
第139図　遺構実測図（中世前期）SK3524 SK3553 …… 235
第140図　遺構実測図（中世前期）SK3686 SK3769 SK3967 SK4008 …… 236
第141図　遺構実測図（中世前期）SK3597 SK3750 SK3751 …… 237
第142図　遺構実測図（中世前期）SK3691 SK3707 SK3779 …… 239
第143図　遺構実測図（中世前期）SK3748 SK3771 …… 240
第144図　遺構実測図（中世前期）SK3772～SK3774 SK3776 SK4011 …… 241
第145図　遺構実測図（中世前期）SK3528 SK3570 SK4345 …… 242
第146図　遺構実測図（中世前期）SK4322 SK4360 SK4479 …… 243
第147図　遺構実測図（中世前期）SZ1199 SK4483 …… 244
第148図　遺構実測図（中世前期）SX2458 …… 245
第149図　遺構実測図（中世前期）SX2458 …… 246
第150図　遺構実測図（中世前期）SX3011 …… 247
第151図　遺構実測図（中世前期）SX2972 SX2477 …… 249
第152図　遺構実測図（中世後期）SB137～SB139 …… 260
第153図　遺構実測図（中世後期）SB140 SB142 …… 261
第154図　遺構実測図（中世後期）SB143 SB145 …… 262
第155図　遺構実測図（中世後期）SB147 SB150 …… 263
第156図　遺構実測図（中世後期）SB148 SB169 …… 264
第157図　遺構実測図（中世後期）SB156 SB185 …… 265
第158図　遺構実測図（中世後期）SB189 SB195 …… 266
第159図　遺構実測図（中世後期）SB196 SB204 …… 267
第160図　遺構実測図（中世後期）SB206～SB211 …… 268
第161図　遺構実測図（中世後期）SB211 SB212 SB214 …… 269
第162図　遺構実測図（中世後期）SB216 SB217 …… 270
第163図　遺構実測図（中世後期）SB220 SB221 SB223 …… 271
第164図　遺構実測図（中世後期）SB224～SB227 …… 272
第165図　遺構実測図（中世後期）SD3770 SD3777 …… 287
第166図　遺構実測図（中世後期）SD3401 SD3407 …… 288
第167図　遺構実測図（中世後期）SD3404 SD3407 …… 289
第168図　遺構実測図（中世後期）SD4602 SD4603 SD4607 SD4608 SD4624 SD4648 …… 290
第169図　遺構実測図（中世後期）SD4605 SD4606 SD4802 SD4805 …… 291
第170図　遺構実測図（中世後期）SD5001 SD5014 SD5018 SD5022 SD5024 SD5026 SD5052 SD5056
SD5058 SD5059 SD5113 SD5311 SD5312 …… 292
第171図　遺構実測図（中世後期）SD5003 SD5201 SD5247 SD5250 SD5374 SD5376 SD5933 SD5971
SD6004 SD6006 SD6021 …… 293
第172図　遺構実測図（中世後期）SD5936 SD5982 SD6096 …… 294
第173図　遺構実測図（中世後期）SD5910 SD5935 SD6014 SD7200 SD7220 …… 295
第174図　遺構実測図（中世後期）SD7220 SD7535 SD7580 …… 296
第175図　遺構実測図（中世後期）SD7520 SD8709 …… 297
第176図　遺構実測図（中世後期）SD5913 SD7220 SD7580 SD7600 SD8100 …… 298

第177図　遺構実測図（中世後期）SD9107 SD9301 SD9321 SD9332 SD9334 SD9337 …… 299
第178図　遺構実測図（中世後期）SD9303～SD9305 SD9310 SD9313 SD9318 SD9341 SD9661 …… 300
第179図　遺構実測図（中世後期）SD9301 SD9310 SD9312 SD9313 SD9318 SD9330 SD9339 SD9343 …… 301
第180図　遺構実測図（中世後期）SD9330 SD9339 SD9343 …… 303
第181図　遺構実測図（中世後期）SD10101 …… 304
第182図　遺構実測図（中世後期）SD10102 SD10103 SD10117 SD10122 SD10212～SD10215 …… 305
第183図　遺構実測図（中世後期）SD10302 SD10323 SD10331 SD10332 SD10438 SD10446 SD10448 …… 306
第184図　遺構実測図（中世後期）SE3018 SE3599 SE3677 SE3688 …… 321
第185図　遺構実測図（中世後期）SE3500 SE3503 SE3636 SE3661 SE3706 …… 322
第186図　遺構実測図（中世後期）SE3410 SE3413 SE3417 SE4327 SE4335 SE4336 …… 323
第187図　遺構実測図（中世後期）SE4628 SE4656 SE4658 SE4666 SE4669 SE4680 SE4697 SE4758 …… 324
第188図　遺構実測図（中世後期）SE4615 SE4665 SE4712 SE4721 SE4723 SE4727 SE4750 SE4771 …… 325
第189図　遺構実測図（中世後期）SE5028 SE5060 SE5072 SE5261 SE5309 SE5381 SE5591 SE5592
SE5806 …… 326
第190図　遺構実測図（中世後期）SE5120 SE5152 SE5407 SE5433 SE5434 SE5459 SE5682 …… 327
第191図　遺構実測図（中世後期）SE5521 SE5532 SE5536 SE5543 SE5549 SE5597 SE5661 SE5665
SE5777 …… 328
第192図　遺構実測図（中世後期）SE5914 SE5915 SE5996 SE6040 SE6056 SE6057 …… 329
第193図　遺構実測図（中世後期）SE6275 SE6321 SE6381 SE6623 SE6626 SE6849 …… 330
第194図　遺構実測図（中世後期）SE7500 SE7555 SE7724 SE7896 SE8252 SE8946 …… 331
第195図　遺構実測図（中世後期）SE8314 SE8526 SE8542 SE8543 SE8547 SE8638 …… 332
第196図　遺構実測図（中世後期）SE8905 SE8943 SE8955 SE8966 SE8968 SE8969 …… 333
第197図　遺構実測図（中世後期）SE8972 SE9342 SE9352 SE9388 SE9412 SE9428 SE9429 SE10242 …… 334
第198図　遺構実測図（中世後期）SE10109 SE10128 SE10141 SE10170 SE10225 SE10227 SE10228
SE10256 …… 335
第199図　遺構実測図（中世後期）SE10303 SE10306 SE10314 SE10343 SE10344 SE10419 SE10452
SE10453 …… 336
第200図　遺構実測図（中世後期）SK3527 SK4338 SK4439 …… 355
第201図　遺構実測図（中世後期）SK4611 SK4623 …… 356
第202図　遺構実測図（中世後期）SK4745 SK4809 SK4820 SK4821 SK4852 …… 357
第203図　遺構実測図（中世後期）SK4853 SK4858 SK4866 SK4867 SK5004 SK5007 SK5069 SK5070
SK5073 SK5078 SK5089 SK5098 SK5100 SK5390 …… 358
第204図　遺構実測図（中世後期）SK5075 SK5332 SK5333 …… 359
第205図　遺構実測図（中世後期）SK5482 …… 360
第206図　遺構実測図（中世後期）SK6044 SK6045 SK6213 …… 361
第207図　遺構実測図（中世後期）SK6608 SK6609 SK6616 …… 362
第208図　遺構実測図（中世後期）SK7318 SK7511 SK7633 SK7686 SK8057 …… 363
第209図　遺構実測図（中世後期）SK7235 SK7448 SK7570 …… 364
第210図　遺構実測図（中世後期）SK7955 SK7962 SK7980 SK7981 …… 365
第211図　遺構実測図（中世後期）SK8090 SK8093 SK8243 SK8274 …… 366
第212図　遺構実測図（中世後期）SK8272 SK8279 SK8451 SK8453 SK8456 …… 367
第213図　遺構実測図（中世後期）SK8530 SK8600 SK8646 SK8656～SK8658 SK8664 …… 368
第214図　遺構実測図（中世後期）SK8565 SK8570 SK8580 …… 369
第215図　遺構実測図（中世後期）SK8952 …… 370
第216図　遺構実測図（中世後期）SK8960～SK8962 …… 371
第217図　遺構実測図（中世後期）SK8965 SK8967 SK8975 …… 372

第218図　遺構実測図（中世後期）SK9133 SK9157 SK9328 SK9329 SK9338 SK9344 …… 373
第219図　遺構実測図（中世後期）SK9311 SK9326 SK9761 …… 374
第220図　遺構実測図（中世後期）SK9315 SK9316 SK9331 SK9357 SK9360 …… 375
第221図　遺構実測図（中世後期）SK9335 SK9885～SK9887 …… 376
第222図　遺構実測図（中世後期）SK9742 SK9743 SK9745～SK9747 SK9757 …… 377
第223図　遺構実測図（中世後期）SK9786 SK9787 SK9853 …… 378
第224図　遺構実測図（中世後期）SK9738 SK10216 …… 379
第225図　遺構実測図（中世後期）SK10105～SK10108 …… 380
第226図　遺構実測図（中世後期）SK10114 SK10115 SK10119 …… 381
第227図　遺構実測図（中世後期）SK10123 SK10136 …… 382
第228図　遺構実測図（中世後期）SK10186 SK10191 SK10198 SK10218～SK10220 SK10231 SK10268 …… 383
第229図　遺構実測図（中世後期）SK10162 SK10174 SK10175 SK10177 SK10181 SK10182 SK10184 SK10222 …… 384
第230図　遺構実測図（中世後期）SK10444 SK10445 SK10467 …… 385
第231図　遺構実測図（近世）SB31 SB32 SB43 …… 396
第232図　遺構実測図（近世）SB44～SB46 …… 397
第233図　遺構実測図（近世）SB45 SB46 …… 398
第234図　遺構実測図（近世）SB136 …… 399
第235図　遺構実測図（近世）SB146 SB149 SB151 …… 400
第236図　遺構実測図（近世）SB152 SB153 …… 401
第237図　遺構実測図（近世）SB154 SB155 SB168 …… 402
第238図　遺構実測図（近世）SB158～SB160 …… 403
第239図　遺構実測図（近世）SB157 SB161 …… 404
第240図　遺構実測図（近世）SB165～SB168 …… 405
第241図　遺構実測図（近世）SB165 SB166 …… 406
第242図　遺構実測図（近世）SB174 SB175 SB182 …… 407
第243図　遺構実測図（近世）SB179～SB182 …… 408
第244図　遺構実測図（近世）SB192～SB194 …… 409
第245図　遺構実測図（近世）SB197 SB201 …… 410
第246図　遺構実測図（近世）SB6390 SK5132 SK5151 …… 413
第247図　遺構実測図（近世）SB6665 SK6270 …… 415
第248図　遺構実測図（近世）SB7101 …… 417
第249図　遺構実測図（近世）SB8680 SK8684 …… 419
第250図　遺構実測図（近世）SD824 SD2207 SD2477 SD2481 SD2484 SD2485 …… 428
第251図　遺構実測図（近世）SD3401 SD3407 SD4302 SD4305 SD4315 SD4359 …… 429
第252図　遺構実測図（近世）SD3403 SD4604 SD5105 SD6034～SD6037 SD7508 SD7451 SD7452 SD7960 SD7961 …… 430
第253図　遺構実測図（近世）SD5002 SD5047 SD5105 SD5119 SD5409 …… 431
第254図　遺構実測図（近世）SD5910 SD5935 SD7111 SD9116 SD9117 SD10436 SD10437 …… 432
第255図　遺構実測図（近世）SD9116 SD9117 SD9126 SD9192 …… 433
第256図　遺構実測図（近世）SE05 SE812 SE816 SE817 …… 441
第257図　遺構実測図（近世）SE1378 SE2043 SE2044 …… 442
第258図　遺構実測図（近世）SE2544 SE4736 SE5103 SE5509 SE5511 SE5513 SE5519 SE5627 …… 443
第259図　遺構実測図（近世）SE5986～SE5988 SE6199 SE6200 …… 444
第260図　遺構実測図（近世）SE6008 SE6223 SE6322 SE6643 SE6644 SE6882 …… 445
第261図　遺構実測図（近世）SE7122 SE7194～SE7677 SE7879 SE8319 SE8686 SE8706 …… 446

第262図　遺構実測図（近世）SE8920 SE8954 SE9648 SE9715 SE9877 SE10249 …… 447
第263図　遺構実測図（近世）SK797 SK832 SK833 …… 471
第264図　遺構実測図（近世）SK1321 SK1335 SK1431 …… 472
第265図　遺構実測図（近世）SK803 SK871～SK875 SK895 SK900 SK901 …… 473
第266図　遺構実測図（近世）SK1340～SK1343 SK1346 SK1347 SK1349 SK1351～SK1356 …… 475
第267図　遺構実測図（近世）SK1317 SK1358～SK1360 …… 477
第268図　遺構実測図（近世）SK1404～SK1406 SK1436～SK1439 …… 478
第269図　遺構実測図（近世）SK2219 SK2222 SK2223 SK2232 SK2253 …… 479
第270図　遺構実測図（近世）SK2454 SK2469 SK2487 SK2491 …… 480
第271図　遺構実測図（近世）SK3016 SK3017 SK3414 …… 481
第272図　遺構実測図（近世）SK5051 …… 482
第273図　遺構実測図（近世）SK5526 SK5527 SK5331 …… 483
第274図　遺構実測図（近世）SK5383 SK5436 …… 484
第275図　遺構実測図（近世）SK5445 SK5474 SK5476 SK5484 …… 485
第276図　遺構実測図（近世）SK5435 SK5437 …… 486
第277図　遺構実測図（近世）SK5485 SK5486 SK5492 SK5740 …… 487
第278図　遺構実測図（近世）SK5906 SK5991 …… 488
第279図　遺構実測図（近世）SK5957 SK5958 SK5965 SK5966 SK5983 …… 489
第280図　遺構実測図（近世）SK5916 SK5973 SK5997 …… 490
第281図　遺構実測図（近世）SK5990 …… 491
第282図　遺構実測図（近世）SK6042 SK6043 SK6047～SK6050 SK6068 SK6217 …… 492
第283図　遺構実測図（近世）SK6100 …… 493
第284図　遺構実測図（近世）SK6109 SK6121 SK6664 SK6777 SK6833 …… 494
第285図　遺構実測図（近世）SK6120 …… 495
第286図　遺構実測図（近世）SK5742 SK6219 SK6274 SK6279 …… 496
第287図　遺構実測図（近世）SK6335 SK6995 …… 497
第288図　遺構実測図（近世）SK6286 SK6287 SK6310 …… 498
第289図　遺構実測図（近世）SK7114 SK7119 SK7120 …… 499
第290図　遺構実測図（近世）SK7155 SK7300 SK7302 …… 500
第291図　遺構実測図（近世）SK6282 SK6292 SK6298 SK6299 SK6304 SK6305 SK6308 …… 501
第292図　遺構実測図（近世）SK7180 SK7182 SK8080 …… 503
第293図　遺構実測図（近世）SK7199 SK7201 SK7355 …… 504
第294図　遺構実測図（近世）SK7228 SK7231 SK7253 SK7325 …… 505
第295図　遺構実測図（近世）SK7221～SK7226 …… 506
第296図　遺構実測図（近世）SK7510 SK7593 SK7611 …… 507
第297図　遺構実測図（近世）SK7820 SK7821 …… 508
第298図　遺構実測図（近世）SK7805～SK7807 SK7810 SK8000～SK8003 …… 509
第299図　遺構実測図（近世）SK8644 SK8666 SK8688 SK8712 SK8942 …… 510
第300図　遺構実測図（近世）SK8934 …… 511
第301図　遺構実測図（近世）SK8966 …… 512
第302図　遺構実測図（近世）SK9127 SK9129 SK9320 …… 513
第303図　遺構実測図（近世）SK9371 SK9462 …… 514
第304図　遺構実測図（近世）SK9606 SK9608 SK9609 SK9614 SK9631 SK9689 SK9690 SK9704
SK9733 …… 515
第305図　遺構実測図（近世）SK9778 SK9780 SK9782 SK9783 SK9785 SK9794 SK9796 SK9807
SK9818～SK9821 SK9823 SK9849 SK9851 …… 516

第306図　遺構実測図（近世）SK9803 SK9836 SK9850～SK9852 …… 517
第307図　遺構実測図（近世）SK10171 …… 518
第308図　遺構実測図（近世）SK9673 SK9680 SK9683～SK9685 SK9690 SK9691 SK9702 SK9703 SK9705 SK9708 SK9710 SK9732 …… 519
第309図　遺構実測図（近世）SK9859～SK9865 SK9867～SK9870 …… 521
第310図　遺構実測図（近世）SK10318～SK10321 SK10329 SK10335 …… 523
第311図　遺構実測図（近世）SK10322 SK10326 …… 524
第312図　梅原胡摩堂遺跡の時期別変遷 …… 526
第313図　溝分布と水路・道配置図 …… 529
第314図　掘立柱建物計測図(1) …… 532
第315図　掘立柱建物計測図(2) …… 533
第316図　掘立柱建物模式図(1) …… 536
第317図　掘立柱建物模式図(2) …… 537
第318図　県内の中世前期総柱建物 …… 538
第319図　用語例 …… 542
第320図　開発大滝遺跡・地崎遺跡の建物平面図 …… 542
第321図　中世後半から近世の掘立柱建物 …… 544
第322図　県内の近世土台建物 …… 552
第323図　推定復元間取図 …… 552
第324図　富山県の民家例 …… 552
第325図　井戸の分布 …… 555
第326図　中世墓検出遺跡例 …… 565

図面目次

図面１　遺構全体図の割付図
図面２　遺構全体実測図(1)
図面３　遺構全体実測図(2)
図面４　遺構全体実測図(3)
図面５　遺構全体実測図(4)
図面６　遺構全体実測図(5)
図面７　遺構全体実測図(6)
図面８　遺構全体実測図(7)
図面９　遺構全体実測図(8)
図面10　遺構全体実測図(9)
図面11　遺構全体実測図(10)
図面12　遺構全体実測図(11)
図面13　遺構全体実測図(12)
図面14　遺構全体実測図(13)
図面15　遺構全体実測図(14)
図面16　遺構全体実測図(15)
図面17　遺構全体実測図(16)
図面18　遺構全体実測図(17)
図面19　遺構全体実測図(18)
図面20　遺構全体実測図(19)
図面21　遺構全体実測図(20)
図面22　遺構全体実測図(21)
図面23　遺構全体実測図(22)
図面24　遺構全体実測図(23)
図面25　遺構全体実測図(24)
図面26　遺構全体実測図(25)
図面27　遺構全体実測図(26)
図面28　遺構全体実測図(27)
図面29　遺構全体実測図(28)
図面30　遺構全体実測図(29)
図面31　遺構全体実測図(30)
図面32　遺構全体実測図(31)
図面33　遺構全体実測図(32)
図面34　遺構全体実測図(33)
図面35　遺構全体実測図(34)
図面36　遺構全体実測図(35)

図版目次

巻首図版１　遺跡遠景
巻首図版２　A1地区北側全景　A1地区南側全景
巻首図版３　2456号土坑　A3S地区全景
巻首図版４　B2地区全景　7101号土台建物
巻首図版５　C地区全景
図版１　遺跡遠景
図版２　遺構全景(1)
図版３　遺構全景(2)
図版４　遺構全景(3)
図版５　遺構全景(4)
図版６　遺構全景(5)
図版７　遺構全景(6)
図版８　遺構全景(7)
図版９　遺構全景(8)
図版10　遺構全景(9)
図版11　遺構全景(10)
図版12　遺構全景(11)
図版13　遺構全景(12)
図版14　遺構全景(13)
図版15　遺構全景(14)
図版16　遺構全景(15)
図版17　遺構全景(16)
図版18　遺構全景(17)
図版19　遺構全景(18)
図版20　遺構全景(19)
図版21　遺構全景(20)
図版22　遺構全景(21)
図版23　遺構全景(22)
図版24　遺構全景(23)
図版25　遺構全景(24)
図版26　遺構全景(25)
図版27　遺構全景(26)

図版28　遺構全景(27)
図版29　遺構全景(28)
図版30　遺構全景(29)
図版31　遺構全景(30)
図版32　遺構全景(31)
図版33　遺構全景(32)
図版34　遺構全景(33)
図版35　遺構全景(34)
図版36　遺構全景(35)
図版37　航空写真
図版38　航空写真
図版39　土坑・溝（奈良・平安時代）SK800 SD3402
図版40　掘立柱建物（中世前期）SB01～SB05
図版41　掘立柱建物（中世前期）SB07～SB12
図版42　掘立柱建物（中世前期）SB07 SB11 SB12
図版43　掘立柱建物（中世前期）SB19～SB24
図版44　掘立柱建物（中世前期）SB34～SB38 SB41 SB42
図版45　掘立柱建物（中世前期）SB47 SB48 SB50～SB52 SB63 SB64
図版46　掘立柱建物（中世前期）SB65～SB81 SB92
図版47　掘立柱建物（中世前期）SB95～SB98 SB101 SB102
図版48　掘立柱建物（中世前期）SB122～SB133
図版49　掘立柱建物（中世前期）SB103～SB108 SB127～SB129
図版50　掘立柱建物（中世前期）SB01 SB07 SB35 SB36 SB40 SB52 SB63 SB75
図版51　掘立柱建物（中世前期）SB76 SB87 SB88 SB92 SB95 SB100 SB127 SB133
図版52　溝（中世前期）SD01 SD03 SD161 SD302
図版53　溝（中世前期）SD701 SD911
図版54　溝（中世前期）SD1250 SD1252 SD1406 SD1422
図版55　溝（中世前期）SD1252
図版56　溝（中世前期）SD2203
図版57　溝（中世前期）SD2203 SD2450 SD2451
図版58　溝（中世前期）SD2203 SD3005 SD3007 SD3425
図版59　溝（中世前期）SD3425
図版60　井戸（中世前期）SE2468
図版61　井戸（中世前期）SE2497 SE3052
図版62　井戸（中世前期）SE3420 SE3970 SE3971 SE3880
図版63　井戸（中世前期）SE3418
図版64　井戸（中世前期）SE3431 SE3591 SE3592
図版65　井戸（中世前期）SE4332 SE4355
図版66　井戸（中世前期）SE4732 SE4735
図版67　土坑（中世前期）SK303 SK305 SK306 SK309
図版68　土坑（中世前期）SK760 SK784 SK839
図版69　土坑（中世前期）SK913
図版70　土坑（中世前期）SK1256 SK1267～SK1269 SK1300 SK1301
図版71　土坑（中世前期）SK1302 SK1305
図版72　土坑（中世前期）SK1306
図版73　土坑（中世前期）SK1307
図版74　土坑（中世前期）SK1411 SK1412 SK2205 SK2216
図版75　土坑（中世前期）SK2211 SK2217 SK2228
図版76　土坑（中世前期）SK2452 SK2456 SK2457 SK2464
図版77　土坑（中世前期）SK2456
図版78　土坑（中世前期）SK2460 SK2461 SK2473
図版79　土坑（中世前期）SK2486 SK2489
図版80　土坑（中世前期）SK2492 SK3009 SK3019
図版81　土坑（中世前期）SX3011
図版82　土坑（中世前期）SK3020 SK3021 SK3028 SK3051
図版83　土坑（中世前期）SK3456 SK3483 SK3489 SK3496
図版84　土坑（中世前期）SK3524 SK3528 SK3554 SK3485
図版85　土坑（中世前期）SK3597 SK4008
図版86　土坑（中世前期）SK3691 SK3750 SK3751
図版87　土坑（中世前期）SK3748 SK3771 SK3773 SK3774 SK3776 SK4011
図版88　土壙墓（中世前期）SZ1199
図版89　土坑（中世前期）SX2972 SK4483
図版90　土坑（中世前期）SX2458
図版91　掘立柱建物（中世後期～近世）SB46 SB140～SB146
図版92　掘立柱建物（中世後期～近世）SB147 SB148 SB151
図版93　掘立柱建物（中世後期～近世）SB164 SB166 SB167
図版94　掘立柱建物（中世後期～近世）SB154 SB155 SB168 SB175
図版95　掘立柱建物（中世後期～近世）SB193 SB194 SB197

図版96　掘立柱建物（中世後期～近世）SB220
SB223～SB225
図版97　掘立柱建物（中世後期）SB134 SB135 SB137
SB138 SB147 SB169
SK9205 SK9208
図版98　掘立柱建物（中世後期）SB148 SB212
SB220～SB222
SB224 SB225
図版99　掘立柱建物（近世）SB43 SB136 SB146
SB150 SB151
図版100　掘立柱建物（近世）SB153～SB155 SB157
SB160 SB165 SB166
図版101　溝（中世後期）SD3407 SD3770 SD3777
図版102　溝（中世後期）SD4602
図版103　溝（中世後期）SD5936 SD7520 SD7200
図版104　溝（中世後期）SD7200 SD7520 SD7535
図版105　溝（中世後期）SD7520 SD7535 SD7600
図版106　溝（中世後期）SD7520
図版107　溝（中世後期）SD9301 SD9313
図版108　溝（中世後期）SD9318 SD9331
図版109　溝（中世後期）SD10101
図版110　溝（中世後期）SD10101
図版111　溝（中世後期）SD10102 SD10103 SD10117
SD10302 SD10438
図版112　井戸（中世後期）SE3018 SE3500 SE3599
SE3677
図版113　井戸（中世後期）SE3410 SE3417
図版114　井戸（中世後期）SE3413 SE3503 SE3636
SE4327 SE4335 SE4642
SE4646
図版115　井戸（中世後期）SE4628 SE4658 SE4727
SE4750 SE4754 SE4772
図版116　井戸（中世後期）SE6255 SE6271 SE7232
SE7400 SE7555 SE8078
SE9388　SE10248
図版117　井戸（中世後期）SE10306 SE10314 SE10344
SE10419
図版118　土坑（中世後期）SK4611 SK4613 SK4745
図版119　土坑（中世後期）SK4821 SK4852 SK4853
SK4858 SK5089他
図版120　土坑（中世後期）SK5482 SK7448 SK8243
図版121　土坑（中世後期）SK8570 SK8646
図版122　土坑（中世後期）SK8952 SK8960 SK8961他
SK8967
図版123　土坑（中世後期）SK9326 SK9742 SK9743
SK9745 SK9746 SK9759
図版124　土坑（中世後期）SK9320 SK9322 SK9327
SK9335
図版125　土坑（中世後期）SK10186 SK10191
SK10198 SK10231
SK10268 SK10467
C地区作業風景
図版126　土台建物（近世）SB6390
図版127　土台建物（近世）SB6390
図版128　土台建物（近世）SB6665
図版129　土台建物（近世）SB7101
図版130　土台建物（近世）SB7101
図版131　溝（近世）SD301 SD824
図版132　溝（近世）SD1441 SD3401
図版133　溝（近世）SD5002 SD5151
図版134　溝（近世）SD5910 SD5935
図版135　井戸（近世）SE5986 SE5987 SE6199 SE6617
図版136　井戸（近世）SE9857 SE9916
図版137　井戸（近世）SE10249
図版138　土坑（近世）SK831 SK832 SK1321
図版139　土坑（近世）SK871
図版140　土坑（近世）SK871～SK873
図版141　土坑（近世）SK1351～SK1354
SK1358～SK1360
図版142　土坑（近世）SK5051 SK5331
図版143　土坑（近世）SK5957 SK5958 SK6292他
図版144　土坑（近世）SK5435 SK5436 SK5445
SK5474 SK5486
図版145　土坑（近世）SK5991 SK6120
図版146　土坑（近世）SK5990
図版147　土坑（近世）SK6100 SK6310 SK6624
図版148　土坑（近世）SK6335
図版149　土坑（近世）SK7355 SK7510
図版150　土坑（近世）SK8000 SK8002
図版151　土坑（近世）SK7805 SK7807 SK7810
SK8000
図版152　土坑（近世）SX8680
図版153　土坑（近世）SK8934 SK8966
図版154　土坑（近世）SK9127 SK9129 SK9371
SK9376
図版155　土坑（近世）SK9371 SK9780他
図版156　土坑（近世）SK9850他 SK10171

表 目 次

第１表　調査一覧 …… 7
第２表　遺跡地名表 …… 14
第３表　土坑（縄文，奈良・平安時代）一覧 …… 41
第４表　掘立柱建物（中世前期）一覧 …… 64
第５表　溝（中世前期）一覧 …… 129
第６表　井戸（中世前期）一覧 …… 161
第７表　土坑（中世前期）一覧 …… 192
第８表　掘立柱建物（中世後期）一覧 …… 258
第９表　溝（中世後期）一覧 …… 285
第10表　井戸（中世後期）一覧 …… 318
第11表　土坑（中世後期）一覧 …… 353
第12表　掘立柱建物（近世）一覧 …… 394
第13表　土台建物（近世）一覧 …… 421
第14表　溝（近世）一覧 …… 427
第15表　井戸（近世）一覧 …… 440
第16表　土坑（近世）一覧 …… 468
第17表　県内中世掘立柱建物の梁行・桁行一覧 …… 541
第18表　建物棟数と井戸数 …… 558
第19表　北陸の中世墓 …… 566

第Ⅰ章　調査経緯

1　調査に至る経緯

A　調査の契機

滋賀県米原町と新潟県新潟市を結ぶ北陸自動車道が開通したのは，昭和63年７月のことである。日本道路公団による高速道路の建設は今もなお全国各地で続いており，富山県内においても第二の高速道路となる東海北陸自動車道の基本計画が昭和46年に提示された。東海北陸自動車道とは，愛知県一宮市を起点とし，岐阜県を経て富山県小矢部市に至る総延長184kmの高速道路である。その後，このうちの富山県内の福光・小矢部間の11.4kmについては，昭和53年11月に建設大臣から日本道路公団に施工命令が出された。これに対し，路線周辺の周知の埋蔵文化包蔵地以外の埋蔵文化財包蔵地の取扱いに対して，昭和57年11月に富山県教育委員会と日本道路公団との間に協議が行われ，同年12月には計画路線内の分布調査を実施することとなった。

B　分布調査

調査期間は昭和57年12月８日から同年12月14日までの間，富山県教育委員会が主体となり，富山県埋蔵文化財センターが実施した。調査対象地は砺波市・福光町間の計画路線内の幅150m，全長約11kmで，総面積は約165haとなった。調査の結果，計19箇所の埋蔵文化財包蔵地が新たに発見された。これらの包蔵地は，Toukai Hokuriku Jidousyadouの頭文字をとり，ＴＨＪ－01～ＴＨＪ－19遺跡と仮称された。特に福野町南部から福光町北部にかけて遺物の散布が濃密であり，中世の遺物が多く採集されることから中世の大規模な集落遺跡の存在が推定された[注1]。

C　試掘調査

昭和58年３月には福光・小矢部間の路線が発表され，昭和63年には用地買収が終了，同年福野・福光間に所在するＴＨＪ－02～ＴＨＪ－19遺跡の試掘調査が行われた。調査は富山県教育委員会が主体となり，福光町管内を富山県埋蔵文化財センターが，福野町管内を富山県埋蔵文化財センターと福野町教育委員会が実施した。試掘対象面積は福光町が244,000m²，福野町が106,200m²である。調査の結果，福光町の7箇所の遺跡推定地のうちＴＨＪ－13・ＴＨＪ－14から遺構が確認され，縄文時代・古代・中世の遺物が出土した。小字名から梅原安丸遺跡・梅原加賀坊遺跡・梅原胡摩堂遺跡と名付けられた。福野町は11箇所の遺跡推定地のうちＴＨＪ－12遺跡で遺構が確認され，縄文時代・古代・中世の遺物が出土し，田尻遺跡と名付けられた。平成元年には砺波・小矢部間のＴＨＪ－01・ＴＨＪ－02遺跡の試掘調査が富山県埋蔵文化財センター・小矢部市教育委員会によって行われたが，遺構は確認されなかった。同年，福光町のＴＨＪ－14遺跡内で家屋移転が難航して試掘調査が不可能であった箇所を対象として，富山県埋蔵文化財センターによって試掘調査が行われ，中・近世の遺構・遺物を確認した。一帯の字名をとり久戸遺跡と命名された。これらの調査から，東海北陸自動車道の建設に伴い，福野町南部から福光町北部にかけて総面積101,070m²に及ぶ五つの遺跡が確認されたのである[注2]。

D　本調査

試掘調査の結果をふまえ，昭和63年12月より富山県教育委員会と日本道路公団との間で３回の協議が行われた。この広範囲の遺跡群に対し対応策が検討された結果，平成元年４月に財団法人富山県文化振興財団に埋蔵文化財課が新設されることとなり，富山県教育委員会の指導を受けて日本道路公団と委託契約を締結し，同年５月より調査を開始した。以後，財団は約３年間にわたり梅原胡摩堂遺跡・梅原加賀坊遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡・久戸遺跡の調査を行い，その総面積は88,650m²に及ぶ。

2　調査経過

A　調査方法

現況　梅原胡摩堂遺跡は，福光町の市街地からやや東側に離れた隆起性扇状地上に立地する。付近は昭和初期に大規模な耕地整理事業が行われた地域で，整然と区画された水田が広がっている。所々には農家が点在し，有名な散居村の景観となっている。調査地は路線敷内の調査であるため，幅約55m，長さ約800mで南北に細長くのびる。標高は南が81m，北で71mを測り，北に向かって緩やかに傾斜している。調査地のほとんどが水田で，宅地（鉄工所）が1箇所（約400m²）のみ存在していた。また，調査地内は県道（金沢・井波線）1本，町道・農道が7本，用水1本が東西に横断しており，これらが調査にあたっての地区を分ける境界にもなっている。調査地区は，北からA・A1・A2・A3N・A3S・B1（平成2年度）・B1（平成3年度）・B・B2・B3・B4・B3W・CN・CS・C1・C2・C3に分けている。

グリッドの設定　グリッドの基準には国家座標を用い，+61.200−23.500をX0Y0とし，南北方向をX軸，東西方向をY軸とした。グリッドは2m方眼とし，各グリッド名は右上のX軸とY軸の座標とした。調査区はX軸でX5からX505まで，Y軸でY5からY120までの範囲に広がっている。

調査方法　調査は，表土・耕作土・無遺物層の除去，包含層の発掘，遺構確認面の精査・遺構の検出，遺構の発掘，遺構の記録，写真，空中写真測量，補足作業の順で行った。

表土・耕作土・無遺物層の除去　人力掘削による調査を開始する前の事前準備として，日本道路公団がバック・ホーによる表土・耕作土の除去を行った。除去する際には，試掘の調査結果をふまえて調査員が立ち会って基本層序を確認しながら行い，場所によっては無遺物層の除去も行った。

包含層の発掘　包含層はスコップ等を使って人力で掘削した。排土はベルトコンベアーを使用して路線敷内の調査区外に集積し，ダンプによる調査区外への排土の搬出は委託者が行った。

遺構確認面の精査・検出　遺構確認面に達するとジョレンやねじり鎌で精査を行う。検出した遺構からスプレーペンキ等でマーキングを行い，遺構概略図を作成していく。検出した遺構には遺構番号を付けるが，地区毎に遺構の種類に関係なく通し番号とした。また，概略図には遺構上面の覆土色を記入し，検討の材料とした。

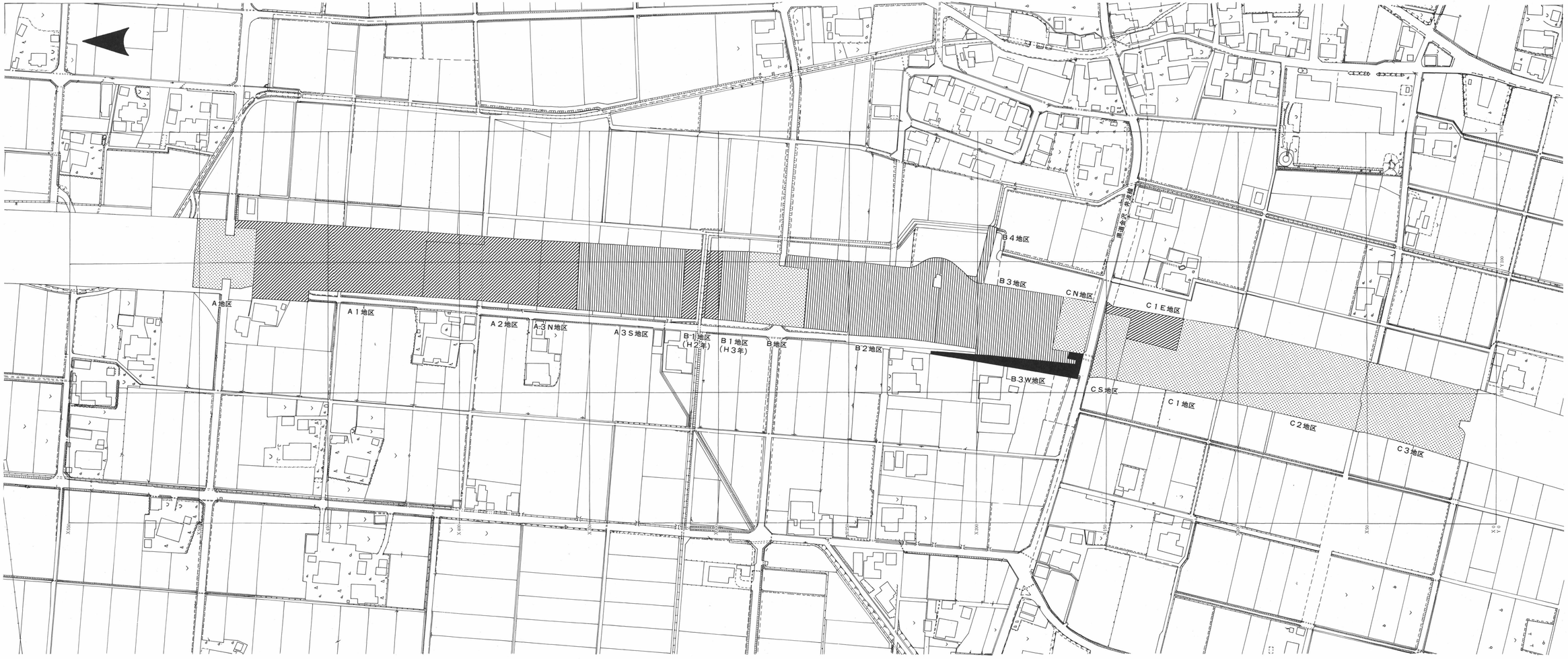
遺構の発掘　柱穴・井戸・小さい土坑は長軸に沿って半裁し，覆土の堆積状況を観察した。一辺約2m以上の土坑は十字に，またはそれ以上にセクションベルトを残し，移植ごてで発掘した。溝は適宜に間隔をあけてセクションベルトを残し，これを境にA～C区などと分けて遺物を取り上げた。井戸の発掘は半裁して掘り，人力での完掘は最少限として重機によって完掘した。

遺構の記録　各遺構の断面図は20分の1で実測した。遺構によっては10分の1の遺物出土状況図の作成や，遺物の出土状況を端点で計測した100分の1の図面を作成した。

写真　各遺構の断面は35mmカメラで，出土状況や個別の完掘写真・ブロック写真はブローニー判もあわせて撮影した。調査区の全景写真は4×5インチ判カメラで2方向以上から撮影している。フイルムは，35mm・ブロニー判はカラーと白黒，4×5インチ判はカラースライドと白黒を使用した。

空中写真測量　遺構の平面図作成には空中写真測量を利用し，面積によってクレーンとヘリコプターを使用した。

補足作業　人力で完掘できなかった井戸をバック・ホーで断ち割り，下層の層位，最終レベルの確認，湧水面の確認，遺物の採集を行った。また，空中写真測量のために残した畔などをはずし，遺構の完掘を確認した。


A地区
A１地区
A２地区
A-3N地区
A３S地区
B-1地区
(H２年)
B１地区
(H３年)
B地区
B２地区
B３地区
B４地区
CN地区
C１E地区
B３W地区
CS地区
C１地区
C２地区
C３地区
平成元年度調査区
平成２年度調査区
平成３年度調査区
平成４年度調査区
0
200m

第１図　調査区

B　調査の経過

平成元年度（1989年度）の調査

調査は日本道路公団との協議のうえ，県道・町道のボックス・橋梁工事にかかる３箇所（Ａ・Ｂ・Ｃ地区）と梅原胡摩堂遺跡の南端にあたる県道金沢・井波線の南側全域（Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３地区）を対象に行った。調査体制は調査員２名１班として，ボックス･橋梁工事にかかる４地区の調査を行い，終了した地区の班より漸次的にＣ地区の面調査に入っていった。調査期間は５月29日～12月27日までで，調査総面積は20,850m²である。

Ａ地区　調査にあたり町道の迂回が困難であったため，町道の北側と町道の南側を含む部分（ＡＮ・ＡＳ地区）に分割して調査した。調査期間は５月29日～８月10日までの延べ44日間，調査面積は2,350m²である。検出した遺構には中世前期の掘立柱建物・溝・土坑・柱穴，近世の井戸があり，建物のなかには９間×４間の大規模なものがある。

Ｂ地区　調査期間は５月29日～８月10日までの延べ49日間，調査面積は2,300m²である。検出した遺構には，中・近世の掘立柱建物・溝・井戸・土坑・柱穴がある。土坑には瀬戸の壺と石製暖房具としゃもじが一括して出土したものがあり，下駄・漆器など木製品の出土は他の地区に比べて多かった。

Ｃ地区　県道金沢・井波線の橋梁施工区北側をＣＮ地区，南側をＣＳ地区とした。

ＣＮ地区は，調査期間が５月29日～７月19日までの延べ27日間，調査面積は1,000m²である。遺構には，中・近世の掘立柱建物・井戸・土坑があり，特に素掘井戸は50基近く検出された。

ＣＳ地区は，調査期間が５月29日～７月21日までの延べ29日間，調査面積は1,000m²である。遺構は掘立柱建物・溝・井戸・土坑・柱穴・製鉄関連遺構がある。柱穴の中には直径約30cmの枘穴をもつ柱根が２本検出された。遺物では石臼が多数出土しているのが特徴的である。

Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３地区　Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３地区は，工事の関係上調査区内に工事用道路を設置しなければならない状況にあり，まず東側に工事用道路を仮設して西側半分の調査を実施し，終了した後道路を反転して東側の調査を行った。

Ｃ１地区は，調査期間は８月２日～12月27日までの延べ75日間，調査面積は3,400m²である。遺構は中・近世の掘立柱建物・溝・井戸・土坑・柱穴がある。西側中央は溝が「コ」の字にめぐって方形に区画されており，その溝からは枘穴をもつ建築材や木臼などが出土している。東側を調査中に降雪によって年内に終了することが困難であると見られたため，協議の上，東側北半1,400m²の調査を次年度に送ることとなった。

Ｃ２地区は，調査期間が８月２日～12月27日までの延べ73日間，調査面積は5,900m²である。調査区の中央は農道敷設および工場建設に伴う攪乱が著しく，加えて調査区西側南半は圃場整備による削平を受けており遺構の遺存状況は極めて悪い。検出した遺構は，中・近世の掘立柱建物・溝・井戸・土坑･柱穴である。なかでも幅約約４ｍ，深さ約１ｍの南北に走る堀状の区画溝は途中で途切れるもののＣ３地区へと続いている。また，珠洲・越前・信楽の破片が一括出土した土坑や室町時代の和鏡が出土した土坑がある。

Ｃ３地区は遺跡の南端にあたり，調査期間は９月18日～12月21日までの延べ50日間，調査面積は4,900m²である。遺構には中・近世の掘立柱建物・溝・井戸・土坑・柱穴があるが，他地区に比するとその分布は散漫である。遺物には内面底部に「卍」の墨書がある中世土師器や香炉として使用されたと考えられる瓦質土器などがある。

また，Ａ２地区において，次年度の準備として一部包含層掘りを行っている。

平成２年度（1990年度）の調査

調査は，梅原胡摩堂遺跡（Ａ１・Ａ２・Ａ３Ｎ・Ｂ１・Ｃ１Ｅ地区）・久戸遺跡・梅原加賀坊遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡の計5遺跡を対象とした。調査地区は，協議の上，ボックス・橋梁工事にかかる箇所を優先した。期間は４月12日～12月27日まで，梅原胡摩堂遺跡の調査面積は16,250m²，他の遺跡もあわせての調査総面積は44,420m²である。

Ａ１地区　当地区は平成元年度調査のＡ地区の南にあたる。調査面積が7,300m²に及び，排土場所の確保のため南北に分けて調査した。調査期間は６月11日～12月27日までの延べ100日間である。遺構には奈良時代の土坑，中・近世の掘立柱建物・川跡・溝・井戸・土坑・土壙墓・柱穴がある。中央には幅６ｍ～10ｍの川跡が北西に向かって流れ，覆土からは13世紀を中心とする多量の土器・陶磁器が出土した。川跡の北側にはＡ地区から続く中世前期の掘立柱建物群があり，南側も溝によって方形に区画され，掘立柱建物も多く検出されている。川跡が埋まった周囲にはまとまって17･18世紀の近世の遺構が検出されており，遺構は13･14世紀のものと17･18世紀のものに明確に分けられる。

Ａ２地区　Ａ１地区の南に隣接しており，調査期間は4月12日～8月27日までの延べ76日間，調査面積は4,550m²である。東側の北端から幅約６ｍ，長さ50ｍの範囲は，農耕作業用道路の確保のため，Ａ１地区の南半と合わせて調査している。遺構は中・近世の掘立柱建物・溝・井戸・石組遺構・集石遺構・土坑・柱穴がある。調査区内を大きく走る「コ」字形を呈する幅約４ｍの溝は，一辺約100ｍを測る。土坑には完形の中世土師器が大量に出土した方形の土坑や，底面と側面に整然と石が組まれた土坑などがある。井戸は方形の木組井戸が２基検出された。

Ａ３Ｎ地区　調査期間は８月28日～12月27日までの延べ55日間，調査面積は北側1,700m²である。検出した遺構は掘立柱建物・溝・井戸・土坑・柱穴である。土坑には，約８ｍ×７ｍの方形で床面に20条余りの小溝が並列，５条余りが直交するものがある。

Ｂ１地区　用水のボックス・橋梁工事にかかる地区で用水の北側と南側の調査を行った。調査面積は1,300m²，調査期間は10月16日～12月27日までの延べ40日間である。遺構には縄文時代の土坑，中・近世の溝・井戸・土坑・柱穴，近世の川跡がある。土坑には両面に梵字が墨書された板塔婆・柄・箸・中世土師器が一括して出土したものがある。また，溝下層からは横杵と鋤先が出土している。

Ｃ１Ｅ地区　前年度に残したＣ１地区東北半1,400m²の調査である。期間は４月12日～６月８日までの延べ28日間である。遺構は中・近世の掘立柱建物・溝・井戸・土坑・柱穴である。素掘井戸は約30基検出し，轆轤挽きの柄杓や茶せん・石製の暖房具などが出土した。

平成３年度（1991年度）の調査

当年は梅原胡摩堂遺跡（Ａ３Ｓ地区・Ｂ１地区・Ｂ２地区・Ｂ３地区・Ｂ４地区）・田尻遺跡の調査を実施した。調査期間は４月25日～12月20日までである。調査総面積は23,380m²，うち梅原胡摩堂遺跡の調査面積は17,680m²である。

Ａ３Ｓ地区　前年度調査Ａ３Ｎ地区の南側にあたる。調査期間は４月25日～10月29日までの延べ95日間，調査面積は4,600m²である。検出した遺構は，縄文時代の土坑，中世の掘立柱建物・溝・井戸・土坑・柱穴，近世の川跡・土坑である。溝には，平面形が一辺30ｍ～40ｍの不整形な長方形を呈するものがあり，掘立柱建物群を取り囲むように巡っている。井戸には石組の上に漆塗りの曲物を組み合わせる構造のものがある。

Ｂ１地区　前年度調査Ｂ１地区の南側にあたる。調査期間は10月16日～12月19日までの延べ36日間，調査面積は1,200m²である。検出した遺構には中・近世の川跡・溝・井戸・土坑・柱穴があり，特に溝・

井戸が多い。井戸には曲物の井戸枠をもつものと素掘りのものがある。

Ｂ２地区　調査期間は４月25日～12月19日までの延べ129日間，調査面積は6,100m²である。ボックス・橋梁工事にかかる箇所を含む南半を先に調査し，北半は東側が側道工事にかかるため東西にわけて調査した。遺構は中・近世の掘立柱建物・土台建物・柵列・溝・井戸・土坑，近代の井戸・土坑がある。掘立柱建物は楕円形柱穴をもつ中世末から近世初頭に位置付けられる建物があり，これに関連する方形竪穴状土坑には，石列を伴うものと伴わないものがある。土台建物は２棟検出し，貼床，バラス，石列などの構造が見られる。時期は17世紀～18世紀のものである。

Ｂ３地区　用水のボックス・橋梁工事にかかる北側から調査をし，南側は側道にかかる東側から行い，西側に向かって調査を進めて行った。西端の町道付け替え部分920m²は，調査期間中に終了できず，平成４年３月16日～３月26日までの延べ8日間，残した地区の包含層の除去を行っている。遺構には中・近世の溝・井戸・土坑・柱穴がある。建物にはＢ２地区でも検出した貼床状施設をもつ，17世紀後半の土台建物がある。調査区は多くの大小の東西・南北に走る溝により区切られる。

Ｂ４地区　高速道路建設の付帯工事として，Ｂ３地区の東側で用水の付け替え工事にかかる箇所をＢ４地区とした。期間は10月21日～11月27日までの延べ13日間，面積は300m²である。遺構には溝・井戸・土坑がある。

平成４年度（1992年度）の調査

Ｂ３Ｗ地区　前年度に残したＢ３地区の町道付け替え部分920m²の調査である。調査期間は４月20日～６月２日までの延べ28日間である。最初に擁壁工事にかかる60m²の調査を行い，残りの部分は住宅への通用口の確保のため，南半と北半に分けて調査した。検出した遺構は掘立柱建物・土台建物の一部・Ｂ３地区から続く溝・井戸・土坑・柱穴がある。

地　区	略　号	調　査　期　間	延べ日数	調査面積	調　査　担　当　者	検　出　遺　構	出　土　遺　物
A地区	UG－A	平成元年５月29日 ～８月10日	44日間	2,350m²	宮田　進一，高梨　清志	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器 石器，須恵器 土師器，中世土師器 珠洲，越前 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 伊万里，石製品
A１地区	UG－A１	平成２年６月11日 ～12月27日	100日間	7,300m²	島田美佐子，高梨　清志	掘立柱建物，川跡，溝，井戸，土坑，土壙墓，柱穴	縄文土器 石器，須恵器 土師器 緑釉，中世土師器 八尾 珠洲 越前 常滑 瀬戸 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津 伊万里，石製品，金属製品，木製品
A２地区	UG－A２	平成２年４月12日 ～８月27日	76日間	4,550m²	宮田　進一，越前　慎子	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，石組遺構，集石遺構，柱穴	縄文土器 石器，須恵器 土師器，中世土師器 八尾 珠洲 越前 常滑 瀬戸 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津 伊万里，石製品，金属製品，木製品，骨
A３N地区	UG－A３N	平成２年８月28日 ～12月27日	55日間	1,700m²	宮田　進一，越前　慎子	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，畝状遺構，柱穴	縄文土器 石器，須恵器 土師器，中世土師器 八尾 珠洲 越前 信楽 瀬戸 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津 伊万里，土製品，石製品，金属製品
A３S地区	UG－A３S	平成３年４月25日 ～10月29日	95日間	4,600m²	宮田　進一，田中　道子 越前　慎子	掘立柱建物，川跡，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器 石器，須恵器 土師器，中世土師器 八尾 珠洲 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 伊万里，石製品，金属製品，木製品
B地区	UG－B	平成元年５月29日 ～８月10日	49日間	2,300m²	岸本　雅敏，橋本　正春	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器 石器，須恵器 土師器，中世土師器 珠洲 越前 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津，石製品，金属製品，木製品
B１地区	UG－B１	平成２年10月16日 ～12月27日	40日間	1,300m²	佐藤　聖子	掘立柱建物，川跡，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器 石器，須恵器 土師器，中世土師器 珠洲 越前 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津 伊万里，石製品，金属製品，木製品
B１地区	UG－B１	平成３年10月16日 ～12月19日	36日間	1,200m²	宮田　進一，田中　道子 越前　慎子	川跡，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器 石器，須恵器 土師器，中世土師器 珠洲 越前 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津 伊万里，石製品，木製品
B２地区	UG－B２	平成３年４月25日 ～12月19日	129日間	6,100m²	島田美佐子，河西　健二	掘立柱建物，土台建物，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器 石器，須恵器 土師器，中世土師器 八尾 珠洲 越前 信楽 瀬戸 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津 伊万里，石製品，金属製品，木製品
B３地区	UG－B３	平成３年４月25日 ～12月20日	130日間	5,480m²	安念　幹倫，佐藤　聖子	掘立柱建物，土台建物，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器 石器，中世土師器 珠洲 加賀 越前 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津 伊万里，石製品，木製品
B３W地区	UG－B３W	平成４年４月20日 ～６月２日	28日間	920m²	河西　健二，佐賀　和美 越前　慎子，谷杉　廷子	掘立柱建物，土台建物，溝，井戸，土坑，柱穴	中世土師器 八尾 珠洲 越前 瀬戸 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津 伊万里，石製品，金属製品，木製品
B４地区	UG－B４	平成３年10月21日 ～11月27日	13日間	300m²	安念　幹倫，佐藤　聖子 佐賀　和美	溝，井戸，土坑，柱穴	中世土師器 珠洲 瀬戸美濃，越中瀬戸 唐津 伊万里，金属製品，木製品
CN地区	UG－CN	平成元年５月29日 ～７月19日	27日間	1,000m²	安念　幹倫，島田美佐子	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器，中世土師器 珠洲 越前 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津，石製品，金属製品，木製品
CS地区	UG－CS	平成元年５月29日 ～７月21日	29日間	1,000m²	橋本　正春，佐藤　聖子	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器 石器，須恵器，中世土師器 珠洲 越前 信楽 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津，石製品，金属製品，木製品
C１地区	UG－C１	平成元年８月２日 ～12月27日	75日間	3,400m²	高梨　清志，佐藤　聖子	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器 石器，須恵器，中世土師器 珠洲 越前 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津，石製品，金属製品，木製品
C１E地区	UG－C１E	平成２年４月12日 ～６月８日	28日間	1,400m²	島田美佐子，高梨　清志	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，柱穴	中世土師器 珠洲 越前 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津 伊万里，石製品，木製品
C２地区	UG－C２	平成元年８月２日 ～12月27日	73日間	5,900m²	宮田　進一，島田美佐子	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文時代の石器，中世土師器 珠洲 越前 信楽 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津，石製品，金属製品，木製品
C３地区	UG－C３	平成元年９月18日 ～12月21日	50日間	4,900m²	安念　幹倫	掘立柱建物，溝，井戸，土坑，柱穴	縄文土器，須恵器，中世土師器 珠洲 越前 瀬戸美濃 輸入陶磁器，越中瀬戸 唐津，石製品，木製品

第１表　調査一覧

C　調査体制

平成元年度（1989年度）

総　　括	桃野真晃	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課課長
庶　　務	高嶋忠夫	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主事
調査総括	岸本雅敏	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財係長
調 査 員	宮田進一	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主任
	橋本正春	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主任
	安念幹倫	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	島田美佐子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	高梨清志	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	佐藤聖子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
調査補助員	清水友博	
	佐賀和美	

平成2年度（1990年度）

総　　括	桃野真晃	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課課長
庶　　務	高嶋忠夫	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主事
調査総括	岸本雅敏	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財係長
調 査 員	宮田進一	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主任
	橋本正春	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主任
	安念幹倫	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	島田美佐子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	高梨清志	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	佐藤聖子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	伊佐智法	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	越前慎子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
調査補助員	佐賀和美	

平成3年度（1991年度）

総　　括	桃野真晃	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課課長
庶　　務	高嶋忠夫	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主事
	中川靖夫	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主事
調査総括	岸本雅敏	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課課長代理
調 査 員	宮田進一	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主任
	神保孝造	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課主任
	安念幹倫	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	島田美佐子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	河西健二	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	佐藤聖子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	佐賀和美	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
	田中道子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事

伊佐智法　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事
越前慎子　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財課文化財保護主事

平成４年度（1992年度）

総　括　桃野真晃　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所所長
関　清　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所所長代理
庶　務　大房友明　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所主事
中川靖夫　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括　池野正男　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所調査第一係長
調査員　河西健二　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
佐賀和美　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
越前慎子　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
谷杉廷子　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

D　現地説明会

発掘調査の成果を広く一般に公開するために，年に一度，調査工程と検討しながら対象地区を選定して現地説明会を実施した。

平成元年（1989年）

10月19日　新聞記者発表・開催案内
10月20日　各新聞に掲載　読売新聞　「戦国武士の集落発掘」
毎日新聞　「下級武士住居跡出る」
北陸中日新聞　「戦国時代の遺構出土」
北日本新聞　「戦国時代の住居跡発見」
富山新聞　「土豪武士の集落跡か」

10月22日㈰　秋晴の良い天気に恵まれ，地元の作業員・住民を中心に約300名の見学者が訪れた。開催地区は，「コ」の字形の溝や全長140m以上の大溝が検出されたＣ地区の西側である。遺跡の概要説明が終わったあと，見学者を幾つかのグループに分けて調査員が引率し，各遺構を説明してコースを回った。遺構の前には理解しやすいように看板を立て，縄を張って順路も示した。コースの最後にはテントの中で出土した遺物を展示した。説明会資料は遺跡の概要と遺構概略図を記載したＢ４判のレジュメを作成して配布した。

平成元年度現地説明会

平成２年度現地説明会

平成２年（1990年）

11月16日　新聞記者発表・開催案内

11月17日　各新聞に掲載　北日本新聞　「鎌倉期集落跡は小高い丘に」
北陸中日新聞　「鎌倉時代の集落跡出土」
富山新聞　「鎌倉時代の開発拠点跡を発掘」

11月18日㈰　本年の対象地区は中世の掘立柱建物などを検出したＡ３地区である。実際の遺構の説明にあわせて，今回は現地速報展と題し展示物にも力を入れた。速報展では，平成元年度の調査成果もあわせて各地区の航空測量の引き伸ばし写真やカラーパネル写真，遺物を展示した。見学者は300名にも及び，説明会資料（Ｂ４判レジュメ）を手に調査員の説明を熱心に聞く姿が見られた。

平成３年（1991年）

８月２日　新聞記者発表・開催案内

８月４日　各新聞に掲載　読売新聞　「近代風建物跡など発掘」
北日本新聞　「建築移行期の集落跡発掘」
富山新聞　「江戸初期の集落跡発掘」

８月４日㈰　雨が時折降るあいにくの天気となったが，約200名の人が現地を訪れた。本年は中世末から近世にかけての掘立柱建物・近世の建物を検出したＢ２・Ｂ３地区で説明会を行った。調査員はグループごとに，レジュメの概略図を参照しながら溝・建物・遺物などについて説明を行った。速報展では，カラーパネル写真・遺物を展示した。

同年９月15日㈰には，福野町との共催で田尻遺跡においても現地説明会を行っている。

この他にも，10月27日に行われた福光町の親子ふれあいハイウェーウオークの集いでは，参加者に発掘中の梅原胡摩堂遺跡を見学してもらい，地元の中世から近世にかけて存在した大規模な集落について，校下の歴史を再認識してもらった。

Ｅ　整理体制

平成元年から調査した出土遺物は，それぞれの年度内に可能な限り洗浄・注記・分類を行った。木製品については，メモ写真を撮影して整理台帳を作成した。また，年度毎の遺構の概要については『発掘調査概報』(1)～(3)，『埋蔵文化財年報』(1)～(4)として発刊している。

本格的な報告書刊行に向けての整理は，平成４年４月からである。平成４年度は遺構編の挿図作成を中心とし，平成５年度は遺構編の原稿執筆・編集・印刷，遺物編の準備を行っている。整理体制は以下の通りである。

平成４年度・平成５年度

総括	桃野真晃	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所所長
	関　清	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所所長代理
庶務	大房友明	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所主事
	中川靖夫	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所主事
遺物整理総括	宮田進一	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所調査第二係長
担当	島田美佐子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	田中道子	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
作業員	月平均約17名	

注１　富山県埋蔵文化財センター　1982　『東海北陸自動車道関連埋蔵文化財乞蔵地分布調査報告書－砺波市・福光町間－』
注２　富山県埋蔵文化財センター　1989　『東海北陸自動車道遺跡試掘調査報告－福光町編－』

第Ⅱ章　地理的環境と歴史的環境

1　地理的環境

富山県は本州中部の日本海側で，北緯36°16′～36°59′，東経136°46′～137°46′の間に位置する。東側を海抜2,000m～3,000m級の北アルプスに，南側を1,200m～1,700mの飛騨高地に，西側を1,000m～1,800mの両白山地，及び300m～500mの西部丘陵に囲まれ，北側は富山湾に面している。飛騨高原山地から北側に接して標高200m内外の音川山地，さらに標高を下げやがて射水丘陵，呉羽丘陵となって富山県中央部に突出し，平野を東部の複合扇状地平野（狭義の富山平野）と西部の主として庄川の扇状地である砺波平野に二分している。

これらの山地，丘陵に囲まれた砺波平野はその東半の大部分が高清水山地の断層崖を侵食した幾つもの谷による砺波平野南部の複合扇状地，庄川とは関係なく形成された南砺複合扇状地であり，この北に接して庄川新扇状地が砺波平野の北半の大部分を形成している。この庄川新扇状地は県内の扇状地中最大であるばかりでなく，日本の沖積扇状地の中でも最大級の面積を有するものである。扇頂の庄川町青島から扇端部の湧水帯まで13km～15km，面積約146km²であり，扇状地上には庄川の変遷を示す河道跡が放射状に残っている。これに対し小矢部川流域の平野は庄川新扇状地の発達に押され，狭い低地となっている。また砺波平野は散居村の形態が発達していることでも全国的に知られている。

福光町は富山県の南西部に位置し，石川県との県境は医王山（939m）を主とする山地で，その西麓には小矢部川が北流し，高清水山地との間には小矢部川により形成された立野ヶ原台地がある。医王山から北へ延びる丘陵は倶利伽羅峠を越え氷見山地へとつながり，医王山山地から渋江川を境に蟹谷山地が延びる。この医王山から北の倶利伽羅峠への山稜部には平坦な緩斜面が残っており，この間の侵食谷の源流部に幾つもの峠があり，古来加賀と越中との交通に利用されてきた。その代表的なものに倶利伽羅峠，渋江川源流部の砂子坂峠がある。

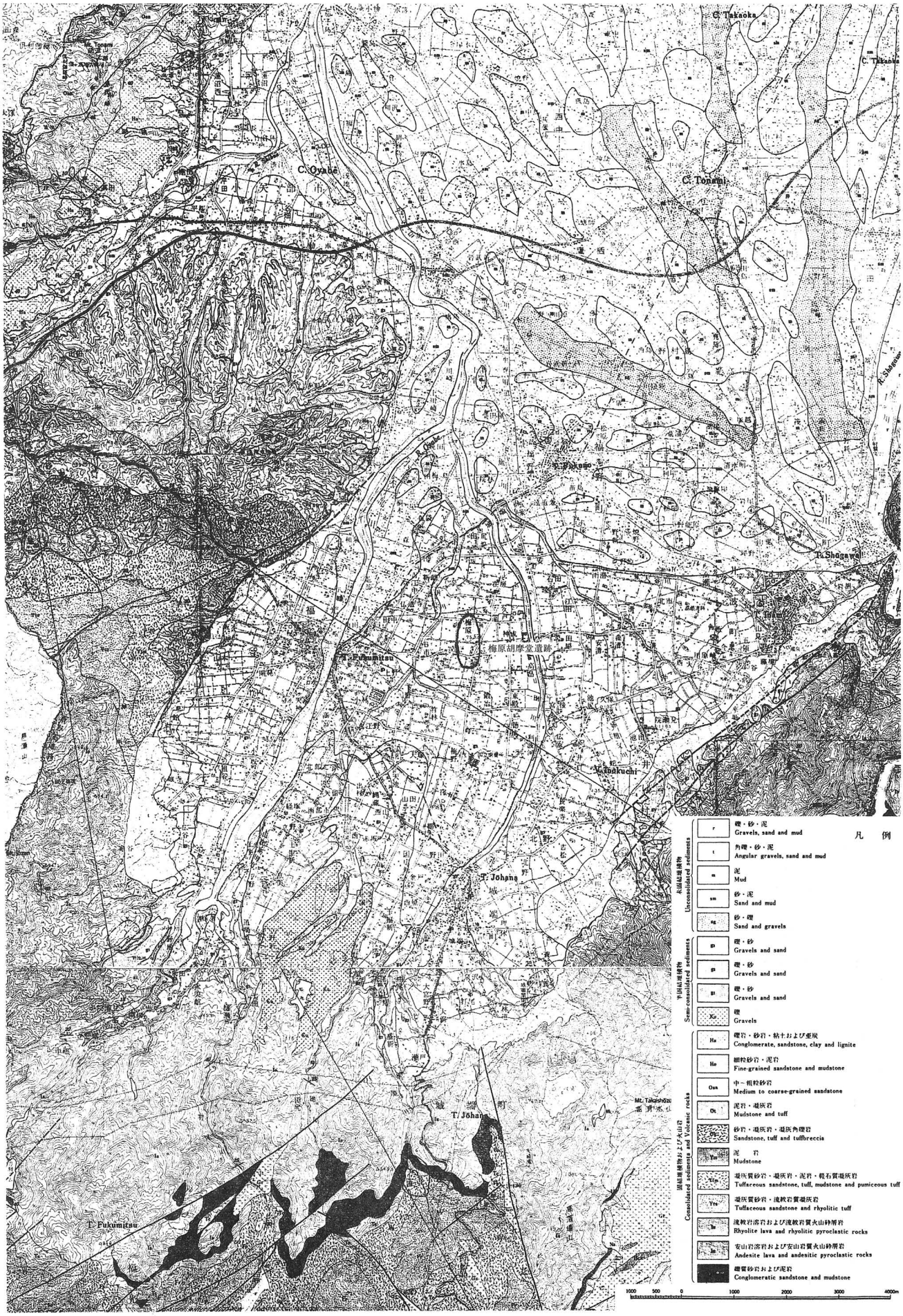
梅原胡摩堂遺跡は南砺扇状地上，山田川によって侵食された砂礫段丘とより低位な河岸段丘上に立地する。これらは洪積世前期に形成された立野原台地以後に形成された，段丘化した隆起扇状地に続く比較的広い面積を占める低位段丘であり，標高は100m～180mを測る。砂礫段丘は背後山地の侵食谷による山麓の複合扇状地であり，さらにそれに続く河岸段丘はそれ以後の堆積面で，その端は新扇状地と複合していく。

砺波平野は表層地質では河床堆積物が厚く分布する地質区を形成し，それにより砺波平野，医王山地区，庄川地区の地質区にわけられる。砺波平野に分布する新第三系から第四系及び現世堆積物は，全て完新世（およそ１万年前から現在にいたる）の堆積物である。地質の古い順に述べれば，南砺扇状地は半固結堆積物で構成され，梅原胡摩堂遺跡が立地する砂礫段丘，河岸段丘はその中でも低位段丘堆積物に区分される。砺波平野の北半を占める庄川新扇状地は未固結堆積物で構成され，それは旧河床堆積物と崖錐堆積物に区分される。旧河床堆積物は沖積平野を構成し，これらの大半が庄川による堆積物であることが明かである。現世河床堆積物は庄川，小矢部川，山田川の一部にみられるだけである。

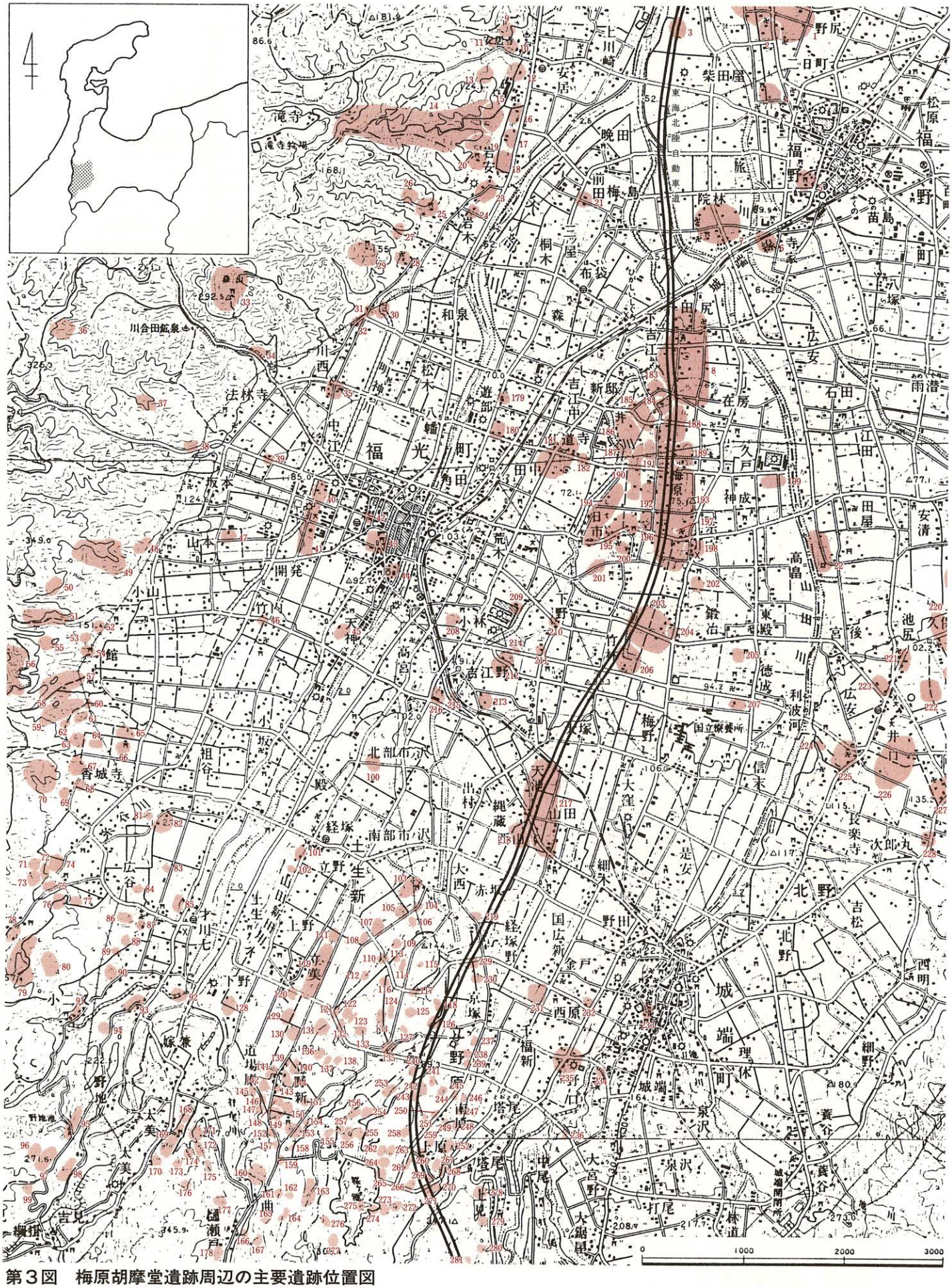
（田中道子）

注　上記の文章は以下の文献を参考にした。

新藤正夫　1981　「高岡・城端道」『富山県歴史の道調査報告書－飛騨街道（その２）五箇山道－』富山県教育委員会
深井三郎，相馬恒夫他　1982　『土地分類基本調査』城端　富山県
神島利夫，相馬恒夫他　1992　『10万分１富山県地質図説明書』　富山県



第２図　梅原胡摩堂遺跡周辺の地質図(5万分の1地質図「城端」 地質調査所　1964より)



第３図　梅原胡摩堂遺跡周辺の主要遺跡位置図

番号	遺跡名	所在地	時代	文献
福野町				
1	野尻遺跡	田尻	縄文(晩)～近世	51
2	野尻城跡	田尻字養正庵	中世(鎌倉～室町)・近世	51
3	上津遺跡	上津	平安・中世	42
4	柴田屋館跡	柴田屋字塚田島	中世(戦国)	51
5	寺家新屋敷館跡	寺家新屋敷	縄文・中世(室町・戦国)～近世(江戸)	3,51,58
6	寺家廃寺跡	寺家	奈良～中世	51
7	院林遺跡	院林	縄文・奈良・平安・中世	42
8	田尻遺跡	田尻・福光町	縄文・奈良・平安・中世(鎌倉・室町)・近世	26,27,29,30,50,51
9	伝利波臣古墳	安居	古墳？	51
10	茶畑遺跡	安居	古墳	42
11	備中ヶ岡古墳	安居	古墳？	42
12	安居墳墓群	安居字寺口ノ部	中世？	53
13	堂山遺跡	安居	旧石器・縄文(晩)・奈良・平安	42
14	安居・岩木窯跡群	安居	古墳・古代	1,2,4,44,45,51,53
15	安居遺跡	安居	縄文・弥生・古墳・古代・中世	41,51
16	堀池島遺跡	安居字堀池島	縄文・古墳・古代・中世	42
17	五百歩遺跡	安居	縄文(後)・弥生・奈良～中世(室町)	51,59
18	三本松遺跡	安居	縄文(後)・奈良～中世	42
19	安居城跡	安居	中世(戦国？)	51
20	善法寺古墳群	安居・福光町	古墳	42
21	前田館跡	前田	中世(戦国？)	51
22	田屋川原古戦場	田屋	中世(室町)	51,53
福光町				
23	岩木遺跡	岩木	中世・近世	42
24	岩木経塚	岩木	中世	42
25	寛勝寺跡	岩木	近世	52
26	記塚(志留志塚)	岩木	古代	37,51,53
27	諏訪社跡	岩木	近世	53
28	岩木尻広谷窯跡	岩木字尻広谷	古代	6,53
29	愛宕社跡	岩木	近世	53
30	高楯城跡	西勝寺	古代～中世	52,53
31	西勝寺遺跡	西勝寺	縄文	42
32	最勝寺跡	西勝寺字北辻	中世(室町)	52,53
33	桑山城跡	西勝寺	中世(室町)	53
34	地下寺跡	定竜寺	中世	52
35	川合田館跡	川合田字田中	中世(戦国)・近世	52
36	笹塚遺跡	川合田	中世	53
37	戸閉寺跡	法林寺	中世	52
38	覚証寺跡	法林寺	中世	52,53
39	妙法寺跡	川合田	中世	52,53
40	殿館	西町	中世	52,53
41	五瀬遺跡	栄町字五瀬	縄文(前・後)・古代・中世	39,52,53,56
42	福満城跡	栄町	中世～近世	52,53
43	福光御蔵跡	新町本町栄町宮脇	近世(江戸)	52
44	福光巴塚	天神町	中世～近世	52
45	天神遺跡	天神	縄文(晩)	52
46	竹内遺跡	竹内	縄文	42
47	山本城跡	山本	中世(鎌倉)	52,53
48	善徳寺跡	山本	中世(戦国)	52,53
49	山本経塚遺構群	山本	中世	53
50	法華寺跡	山本	中世	42
51	登屋尾遺跡	小山	中世	53
52	小山遺跡	小山	縄文	42
53	若宮遺跡	小山字若宮	古代・中世・近世	53
54	柿谷寺跡	館字白山	中世(鎌倉)	52,53
55	日野々	小山	中世	53
56	広瀬城跡	館・小山	中世(室町)	52,53
57	館御坊山遺跡	館	中世	53
58	白山遺跡	南谷	古代～中世	53
59	狐上遺跡	小坂	中世	53
60	青柴C遺跡	館字青柴	縄文	42
61	青柴B遺跡	館字青柴	旧石器	42
62	青柴A遺跡	館字青柴	旧石器・縄文	42
63	八幡社跡	祖谷	中世	42
64	祖谷遺跡	祖谷	中世	42
65	祖谷北遺跡	祖谷	不明	42
66	祖谷神明社遺跡	祖谷	縄文	53
67	西光寺跡	祖谷	中世？	42
68	西野野遺跡	香城寺字西野野	縄文	42
69	香城寺塚	香城寺字塚	中世	42
70	香城寺御坊山遺跡	香城寺	中世	53
71	ノマの谷遺跡	香城寺	平安～中世	53
72	古宮遺跡	香城寺	中世～近世	53
73	香城寺惣堂遺跡	香城寺	縄文・古代～中世	52,53
74	香城寺遺跡	香城寺	平安・中世	15,53
75	ジョウジャ畑遺跡	香城寺	中世～近世	53
76	才川七御坊山	才川七	中世	53
77	広谷林遺跡	広谷字林	縄文(中)	42
78	糸谷古屋敷遺跡	糸谷	不明	52
79	広谷御坊山遺跡	広谷	不明	53
80	才川七正権寺跡	才川七	縄文・中世	53
81	婆々堂遺跡	広谷	不明	42
82	古館遺跡	才川七字古館	縄文・古代～中世	52,53
83	香山寺跡	才川七	古代・中世	52,53
84	広谷経塚	広谷	中世～近世	52

第2表　遺跡地名表(1)

番号	遺跡名	所在地	時代	文献
85	釈迦堂遺跡	才川七	不明	42
86	松寺永福寺跡	才川七	不明	52,53
87	宗善寺跡	才川七字才川	中世～近世以降	53
88	百楽田窯跡	才川七	古代	53
89	才川七遺跡	才川七字才川	縄文	42
90	才川的場遺跡	才川七字的場	旧石器・縄文(中・後)・近世	52
91	才川水上谷遺跡	才川七	不明	42
92	カナン堂跡	才川七	不明	42
93	太美城跡	才川七	中世？	52,53
94	小二又遺跡	才川七	旧石器	52
95	野地島Ｄ遺跡	小院瀬見字野地島	縄文	52
96	野地島Ｂ遺跡	小院瀬見字野地島	縄文(前)	52
97	野地島Ａ遺跡	小院瀬見字野地島	旧石器・縄文(早～中)・弥生	52
98	野地島Ｃ遺跡	小院瀬見字野地島	縄文(中)	52
99	古堂跡	小院瀬見	不明	42
100	野丹保遺跡	高宮	中世・近世	53
101	土生新遺跡	土生新字経塚	縄文(中)	42
102	土生新経塚	土生新字経塚	中世～近世	52
103	有田ヶ原Ｅ遺跡	大西	旧石器・縄文(中～晩)	49
104	番人原Ｃ遺跡	大西	縄文・奈良～平安	12
105	番人原Ｂ遺跡	大西	縄文	12
106	番人原Ｄ遺跡	大西	縄文・奈良・平安	13
107	番人原Ａ遺跡	立野脇	縄文(前・中)・古墳	12
108	万年台Ｃ遺跡	立野脇	縄文(中・後)	12
109	万年台Ａ遺跡	大西字万年台	旧石器・縄文(前)	13
110	万年台Ｂ遺跡	大西字万年台	旧石器・縄文	13
111	有田ヶ原Ａ遺跡	立野脇	縄文	42
112	立美Ａ遺跡	立野脇	旧石器・縄文(前・晩)・弥生・古代	13
113	中尾台Ｊ遺跡	大西	縄文(前)	49
114	中尾台Ｋ遺跡	大西	旧石器・縄文	49
115	中尾台Ｌ遺跡	大西	縄文	49
116	中尾台Ｉ遺跡	大西	縄文	49
117	中尾台Ｐ遺跡	大西	縄文	42
118	中地山Ａ遺跡	立野脇	縄文	46
119	有田ヶ原Ｂ遺跡	立野脇	縄文(前・後)・古墳	46
120	有田ヶ原Ｃ遺跡	立野脇	縄文	46
121	有田ヶ原Ｄ遺跡	立野脇	奈良・平安	12
122	中尾台Ｂ遺跡	立野脇	縄文(中・後)	46
123	中尾台Ｃ遺跡	立野脇	縄文	46
124	中尾台Ｏ遺跡	立野脇	奈良～平安	49
125	中尾台Ｍ遺跡	立野脇	中世	49
126	中地山Ｂ遺跡	立野脇	縄文(中)・奈良～平安	46
127	中尾台Ｎ遺跡	立野脇	縄文・中世	49
128	神明原Ｃ遺跡	立野脇	縄文	42
129	立美Ｂ遺跡	立野脇	縄文(晩)・古墳	12
130	神明原Ｂ遺跡	立野脇	縄文	13
131	神明原Ａ遺跡	立野脇	縄文(早～晩)	13
132	中尾台Ａ遺跡	立野脇	縄文(早・中)	46
133	中尾台Ｄ遺跡	立野脇	縄文	49
134	中尾台Ｑ遺跡	立野脇	縄文	42
135	中尾台Ｆ遺跡	立野脇	縄文(中)	49
136	開発田Ａ遺跡	立野脇	縄文	42
137	開発田Ｂ遺跡	立野脇	旧石器・縄文(早・前)	42
138	開発田Ｃ遺跡	立野脇	縄文	42
139	立野新Ｉ遺跡	立野脇	縄文(早・晩)	13
140	大西遺跡	立野脇	縄文(早・中～晩)	42
141	立野新Ａ遺跡	立野脇・土生新	縄文(晩)	12
142	立野新Ｋ遺跡	土生新	不明	42
143	立野新Ｈ遺跡	立野脇	縄文(早)・中世	46
144	立美遺跡	立野脇	旧石器・縄文(早～前)・古墳	46
145	立野新Ｂ遺跡	立野脇	縄文	49
146	立野新Ｊ遺跡	立野脇	縄文(晩)・弥生	42
147	立野新Ｃ遺跡	立野脇	縄文(前・中)	49
148	立野新Ｇ遺跡	立野脇	縄文(中)	46
149	立野新Ｆ遺跡	立野脇	縄文(中)・弥生・奈良・平安	46
150	立野新Ｅ遺跡	立野脇	縄文(前)	46
151	立野新Ｄ遺跡	立野脇	縄文(中)	46
152	二郎江門堂台Ａ遺跡	立野脇	縄文(早・前)	42
153	二郎江門堂台Ｅ遺跡	立野脇	縄文	42
154	二郎江門堂台Ｄ遺跡	立野脇	縄文	42
155	中台Ｄ遺跡	立野脇	旧石器・縄文(前)	46
156	中台Ａ遺跡	立野脇	縄文(早・中)	46
157	二郎江門堂台Ｂ遺跡	立野脇	縄文	42
158	二郎江門堂台Ｃ遺跡	立野脇	縄文(前)	42
159	是ヶ谷Ａ遺跡	七曲字是ヶ谷	縄文	21
160	七曲遺跡	七曲	旧石器・縄文・古代	52
161	是ヶ谷Ｂ遺跡	七曲字是ヶ谷	縄文	21
162	是ヶ谷Ｃ遺跡	七曲字是ヶ谷	縄文(後)	21
163	是ヶ谷堤遺跡	七曲	中世	42
164	是ヶ谷Ｄ遺跡	立野脇	縄文(後)	21
165	鉄砲谷遺跡	立野脇	旧石器・縄文	21
166	向山島遺跡	立野脇	旧石器・縄文	21
167	坂ズリ遺跡	立野脇	旧石器・縄文	42
168	ヒジカケ坂遺跡	嫁兼	旧石器・縄文	42
169	飯山遺跡	重安	旧石器・縄文(中)	42
170	米田遺跡	米田	縄文(中・後)	42

第２表　遺跡地名表(2)

番号	遺跡名	所在地	時代	文献
171	小丸山城跡	嫁兼	中世	52
172	平林Ｂ遺跡	嫁兼字平林	縄文	42
173	飯山Ｃ遺跡	重安	不明	42
174	平林Ｃ遺跡	嫁兼字平林	不明	42
175	樋瀬戸遺跡	樋瀬戸	縄文(中)	42
176	飯山Ｂ遺跡	米田	旧石器	42
177	樋瀬戸Ｂ遺跡	樋瀬戸	不明	42
178	樋瀬戸道場跡	樋瀬戸	中世～近世	42
179	遊部城跡	遊部	中世(室町)	52
180	常楽寺跡	遊部	中世(南北朝)	52
181	仏道寺跡	仏道寺	中世	52
182	田中遺跡	田中	縄文・古代～中世	53
183	梅原安丸Ｖ遺跡	梅原字安丸	縄文・古代・中世・近世	34
184	梅原安丸遺跡	梅原字安丸	中世～近世	24,26,29
185	梅原安丸Ⅳ遺跡	梅原字安丸	縄文・古代・中世・近世	34
186	梅原安丸Ⅱ遺跡	梅原字安丸	縄文(後)・古代・中世～近世	24,34
187	梅原安丸Ⅲ遺跡	梅原字安丸	縄文・古墳・古代・中世・近世	24,34
188	梅原加賀坊遺跡	梅原字加賀坊	縄文・古代・中世～近世	26,29
189	久戸遺跡	久戸	縄文・奈良・中世・近世	26,28
190	梅原落戸遺跡	梅原字落戸	縄文・弥生・古代～近世	23
191	梅原 No.10遺跡	梅原字出村	古代・中世・近世	22,23
192	梅原 No.8遺跡	梅原	縄文・中世・近世	22,23
193	梅原胡摩堂遺跡	梅原・久戸・宗守	縄文～近世	25,26,27,28,29,30
194	梅原出村Ⅲ遺跡	梅原字出村	縄文～近世	22,23,24
195	梅原上村遺跡	梅原字上村	縄文・古代～中世	22,23,24
196	梅原 No.6遺跡	梅原字出村	中世・近世	22,23
197	安楽寺跡	梅原	中世	27,52
198	宗守遺跡	宗守	縄文(中)	52
199	久戸東遺跡	久戸	縄文・古代・中世	42
200	うずら山遺跡	梅原	縄文(前・中)	14
201	梅原出村Ⅱ遺跡	梅原字上村	縄文・中世・近世	23,24
202	宗守城跡	宗守字弥平開	中世(室町)	52,53
203	THJ-15	鍛冶	中世～近世	5
204	三十三塚	鍛冶	中世	42
205	東殿遺跡	東殿	縄文	52
206	THJ-16	竹林	中世～近世	5
207	徳成遺跡	徳成	縄文(中～晩)	52
208	文珠院跡	荒木	不明	42
209	荒木城跡	荒木	縄文	42
210	梅原出村南遺跡	梅原字出村	縄文	42
211	竹林Ⅱ遺跡	竹林	縄文	38,52
212	竹林Ⅰ遺跡	竹林	縄文(中期)	33,38,52
213	吉江野遺跡	吉江野	縄文	52
214	神宮寺塚	小林	不明	42
215	越中焼窯跡	高宮	明治	42
216	宝性寺跡	高宮	中世	42
217	THJ-19	大塚	縄文～近世	5
218	THJ-20	縄蔵	不明	42
219	京塚	大西	中世～近世	49
井口村				
220	久保・池田 No.2遺跡	久保	弥生末～古墳・奈良・平安・中世(鎌倉)	10,11,39
221	池尻遺跡	池尻	縄文・古代・中世(室町)～近世	10,40
222	井口城跡	池尻字勘定島	奈良・平安・中世	10,11,41
223	宮後キンケン塚	宮後	奈良～中世(室町)	10
224	井口遺跡	井口	縄文・古代	10,31,48
225	井口南遺跡	井口	平安～中世(室町)	10
226	井口Ａ遺跡	井口	縄文・中世(鎌倉～室町)	10
227	蛇喰正覚寺遺跡	蛇喰	中世(室町)～近世	10
228	川上中土居の宮遺跡	川上中	中世(鎌倉・室町)	10
城端町				
229	京塚Ｂ遺跡	南原	縄文(中)・中世	49
230	京塚Ａ遺跡	南原	縄文	49
231	金戸館跡	国広	中世	47
232	金戸経塚	金戸	中世？	42
233	城端城跡	西上	中世	42
234	城端中学北側遺跡	野下	縄文(中)	42
235	西原遺跡	西原	縄文(中・後)	17
236	大鋸屋Ａ遺跡	盛新	不明	42
237	幸台Ａ遺跡	京塚	旧石器・縄文(前)	49
238	幸台Ｃ遺跡	京塚	縄文	49
239	幸台Ｂ遺跡	京塚	縄文	49
240	中平遺跡	中平	縄文(中)	13
241	南原Ｊ遺跡	南原	縄文(早～中)	13
242	南原Ｋ遺跡	南原	縄文(中)	13
243	南原Ｉ遺跡	南原	縄文(早)	13
244	南原Ｃ遺跡	南原	旧石器・縄文	13
245	南原Ｂ遺跡	南原	縄文	47
246	南原Ａ遺跡	南原	縄文	47
247	南原Ｎ遺跡	南原	旧石器・縄文	49
248	南原Ｍ遺跡	南原	縄文・古代	49
249	南原Ｅ遺跡	南原	旧石器	47
250	南原Ｄ遺跡	南原	縄文・弥生	47
251	南原Ｆ遺跡	南原	縄文(後)・弥生	49
252	ウワダイラＡ遺跡	南原	縄文(中)	47
253	中台Ｇ遺跡	南原	旧石器・縄文	12
254	中台Ｆ遺跡	南原	縄文	46

第２表　遺跡地名表(3)

番号	遺跡名	所在地	時代	文献
255	中台Ｅ遺跡	南原	縄文(前)	46
256	中台Ｂ遺跡	南原	旧石器・縄文	46
257	中台Ｃ遺跡	南原	縄文(前～中)	46
258	ウワダイラＱ遺跡	南原	縄文(前～中)	46
259	ウワダイラＪ遺跡	南原	縄文	47
260	ウワダイラＧ遺跡	南原	旧石器	47
261	ウワダイラＨ遺跡	南原	旧石器・縄文	47
262	笹倉遺跡	南原	縄文(前・中)	46
263	ウワダイラＩ遺跡	南原	旧石器・縄文(早・中)	47
264	ウワダイラＯ遺跡	南原	縄文(前・中)	47
265	ウワダイラＭ遺跡	南原	縄文	47
266	ウワダイラＣ遺跡	南原	旧石器・縄文(早)・古代	12
267	西山Ｃ遺跡	南原	縄文(前・中)	12
268	西山Ｂ遺跡	南原	縄文(前・中)・弥生・中世	12
269	ウワダイラＤⅠ遺跡	南原	旧石器・縄文(早～中)	12
270	ウワダイラＤⅡ遺跡	南原	旧石器・縄文(早～中)	12
271	西山Ｄ遺跡	南原	縄文(早・中)	12
272	西原Ｄ遺跡	南原	縄文	13
273	西原Ｃ遺跡	南原	旧石器・縄文(中)・古代	13
274	西原Ａ遺跡	南原	旧石器・縄文(早)	13
275	西原Ｂ遺跡	南原	縄文・中世	13
276	桜ヶ池Ａ遺跡	桜ヶ池	中世	42
277	桜ヶ池Ｂ遺跡	桜ヶ池	中世	42
278	上見城跡	上見字瀬戸山	中世	42
279	平Ａ遺跡	上見字瀬戸山	旧石器・縄文	42
280	平Ｂ遺跡	上見字瀬戸山	縄文	42
281	平Ｃ遺跡	上見字瀬戸山	不明	42

第２表　遺跡地名表(4)

文　　献

1　安念幹倫　1988　「安居・岩木窯跡群の概要」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』資料編　石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
2　安念幹倫・林浩明　1984　「安居・岩木窯跡群における新資料の紹介Ⅰ」『大境』第８号　富山考古学会
3　安念幹倫・林浩明　1988　『富山県福野町寺家新屋敷館跡』福野町教育委員会
4　安念幹倫・山森伸正・林浩明　1985　「安居・岩木窯跡群における新資料の紹介Ⅱ」『大境』第９号　富山考古学会
5　池野正男　1989　『東海北陸自動車道遺跡試掘調査報告－福光町編－』富山県埋蔵文化財センター
6　石川考古学研究会・北陸古代土器研究会　1988　『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編・資料編
7　石田茂作　1977　『佛教考古學論巧』五　佛具編　思文閣出版
8　石田茂作　1984　『新版仏教考古学講座』第５巻　仏具　雄山閣出版
9　井口仁志　1960　『梅原小杉耕地整理事業誌』
10　井口村　1991　『井口村史』
11　上野章・押川恵子　1990　『井口城跡発掘調査概要』井口村教育委員会
12　上野章・神保孝造・酒井重洋　1976　『富山県福光町・城端町立野ヶ原遺跡群第四次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
13　上野章・山本正敏・岡上進一・松本幸治　1977　『富山県福光町・城端町立野ヶ原遺跡群第五次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
14　往蔵久雄　1991　『富山県福光町うずら山遺跡緊急発掘調査概要』福光町教育委員会
15　岸本雅敏　1982　『香城寺遺跡の調査－富山県福光町香城寺所在の中世遺跡調査概報－』福光町教育委員会
16　岸本雅敏　1983　『東海北陸自動車道関連埋蔵文化財包蔵地分布調査報告書－砺波市・福光町間－』富山県教育委員会
17　岸本雅敏・池野正男・山本正敏　1975　『富山県城端町西原遺跡第二次緊急発掘調査概報』富山県教育委員会
18　金田章裕　1985　『条里と村落の歴史地理学研究』大明堂
19　金田章裕　1989　「砺波散村地域の構造変化」『砺波散村地域研究所研究紀要』第６号　砺波市立砺波散村地域研究所
20　金田章裕　1990　「砺波平野における中心集落から散村地区への住居移転」『砺波散村地域研究所研究紀要』第７号　砺波市立砺波散村地域研究所
21　小島俊彰・西井龍儀・山本正敏　1973　『富山県福光町鉄砲谷・向山島・是ヶ谷遺跡調査報告書』富山県教育委員会
22　斎藤隆・荒井隆　1993　『富山県福光町梅原出村遺跡群Ⅰ　梅原上村遺跡群Ⅰ』福光町教育委員会
23　斎藤隆・岡本淳一郎・荒井隆　1993　『富山県福光町梅原出村遺跡群Ⅰ　梅原上村遺跡群Ⅰ』福光町教育委員会
24　斎藤隆・岡本淳一郎・島田修一　1992　『富山県福光町梅原安丸遺跡群Ⅱ』福光町教育委員会
25　財団法人富山県文化振興財団　1990　『東海北陸自動車道関連発掘調査概報(1)梅原胡摩堂遺跡』
26　財団法人富山県文化振興財団　1991　『東海北陸自動車道関連発掘調査概報(2)梅原胡摩堂遺跡・久戸遺跡・梅原加賀坊遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡』
27　財団法人富山県文化振興財団　1992　『東海北陸自動車道関連発掘調査概報(3)梅原胡摩堂遺跡・田尻遺跡』
28　財団法人富山県文化振興財団　1990　『埋蔵文化財年報(1)』
29　財団法人富山県文化振興財団　1991　『埋蔵文化財年報(2)』
30　財団法人富山県文化振興財団　1992，1993　『埋蔵文化財年報(3)(4)』
31　酒井重洋　1986　「井口村井口遺跡出土の縄文晩期の土器」『大境』第10号　富山考古学会
32　阪田宗彦　1989　『日本の美術』第282号　密教法具　至文堂
33　神保孝造　1980　『竹林Ⅰ遺跡緊急発掘調査概要』福光町教育委員会
34　神保孝造　1991　『富山県福光町梅原安丸遺跡群Ⅰ』福光町教育委員会
35　鈴木規夫　1989　『日本の美術』第283号　供養具と僧具　至文堂
36　砺波市　1990　『砺波市史』資料編１　考古，古代・中世
37　富山県　1972　『富山県史』考古編
38　富山県埋蔵文化財センター　1989　『富山県埋蔵文化財センター年報』昭和63年度
39　富山県埋蔵文化財センター　1990　『富山県埋蔵文化財センター年報』平成元年度
40　富山県埋蔵文化財センター　1991　『富山県埋蔵文化財センター年報』平成２年度
41　富山県埋蔵文化財センター　1992　『富山県埋蔵文化財センター年報』平成３年度
42　富山県埋蔵文化財センター　1993　『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』
43　西井龍儀　1975　「立美遺跡」『日本の旧石器文化』(2)　雄山閣
44　西井龍儀　1985　「砺波平野進出の足跡－周辺地域の考古資料－」『砺波散村地域研究所研究紀要』第２号　砺波市立砺波散村地域研究所
45　西井龍儀　1988　「小矢部川左岸における須恵器生産開始期の検討－安居口ノ部地内の窯跡から－」『両越地域史研究』創刊号
46　西井龍儀・上野章・柳井睦　1975　『富山県福光町・城端町立野ヶ原遺跡群第三次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
47　橋本正・上野章・神保孝造　1974　『富山県福光町・城端町立野ヶ原遺跡群第二次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
48　橋本正・酒井重洋・久々忠義　1980　『富山県井口村井口遺跡発掘調査概要』井口村教育委員会
49　橋本正・山本正敏・岡上進一・松本幸治・橋本正春　1978　『富山県福光町・城端町立野ヶ原遺跡群第六次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
50　林浩明　1990　『田尻遺跡発掘調査概報Ⅰ』福野町教育委員会
51　福野町　1991　『福野町史』通史編
52　福光町　1971　『福光町史』上・下巻
53　福光町・医王山文化調査委員会　1993　『医王山文化調査報告書　医王は語る』
54　北陸中世土器研究会　1991　『城館遺跡出土の土器・陶磁器』
55　北陸中世土器研究会　1992　『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』
56　湊　晨・往蔵久雄　1974　『五瀬遺跡調査概要』福光町教育委員会
57　山本正敏　1993　「射水丘陵と立野ヶ原丘陵－縄文時代遺跡数の時期的変遷－」『大境』第15号　富山考古学会
58　山本正敏・林浩明　1989　『富山県福野町寺家新屋敷館跡Ⅱ』福野町教育委員会
59　山本正敏・林浩明　1990　『安居五百歩遺跡Ⅰ（縄文時代編）』福野町教育委員会

2　歴史的環境

福光町の歴史は城端町との境をなす立野ヶ原台地に始まる。旧石器時代・縄文時代と連綿と生活が営まれてきた立野ヶ原台地から，平野へと生活の場が移るのは縄文時代からであろう。しかし小矢部川・庄川といった河川の氾濫によって，その実態はほとんど明らかになっていない。古墳時代には平野部で極僅かの遺跡が確認されるのみであるが，小矢部川左岸の小矢部市には古墳や古墳時代の遺跡が多く発見されていることから，福光町においても今後発見される可能性があろう。

ついで奈良時代になると砺波平野に開発の手が入り，生産力が向上した。それは利波臣志留志（となみのおみしるし）に代表される地方豪族を，全国有数の豪族に仕立て上げるほどのものであった。砺波郡の中心地は未だ不明であるが，小矢部川左岸にあったようである。

中世～近世にかけて砺波平野の開発はさらに南に進み，福光町には御蔵が設けられるなど南砺地方の中心地として発展する。また巡見使道など陸運，小矢部川，大井川などを利用した舟運の要所となっていく。ことに梅原胡摩堂遺跡が所在する梅原・宗守一帯は古くから交通の要衝であり，中世には山田郷の中心地として栄え，近世～明治初年までは城端御蔵の中出御蔵が置かれていた。近世には加賀藩の支配下におかれた砺波平野一帯は，米の生産力が全国有数のものとなり，加賀百万石と呼ばれる要因にもなった。福光町の中心地としての役割はさらに高まりをみせ，砺波平野は現在もなお全国でも有数の穀倉地帯であるが，そこに広がる散居村は中世以降の平野開発に伴って形成されたものである。

以下，時代を追って，梅原胡摩堂遺跡周辺の歴史と代表的な遺跡を紹介していく。

A　旧石器時代

この時代の遺跡は，小矢部川上流の立野（たての）ヶ原台地一帯に最も集中している。一般に洪積世に形成された河岸段丘や丘陵上に立地し，高位段丘面に集中する傾向にある。現在のところ立野ヶ原台地での最古の遺跡は西原Ｃ遺跡で，その他ウワダイラⅠ・Ｌ遺跡・西山（にしやま）Ｃ遺跡・中台（なかだい）Ｂ・Ｄ遺跡など多くの遺跡が集中し，地点を変えながらも連綿と営まれている。

西原（にしはら）Ｃ遺跡（地図 No.273，第 4 図，文献13）

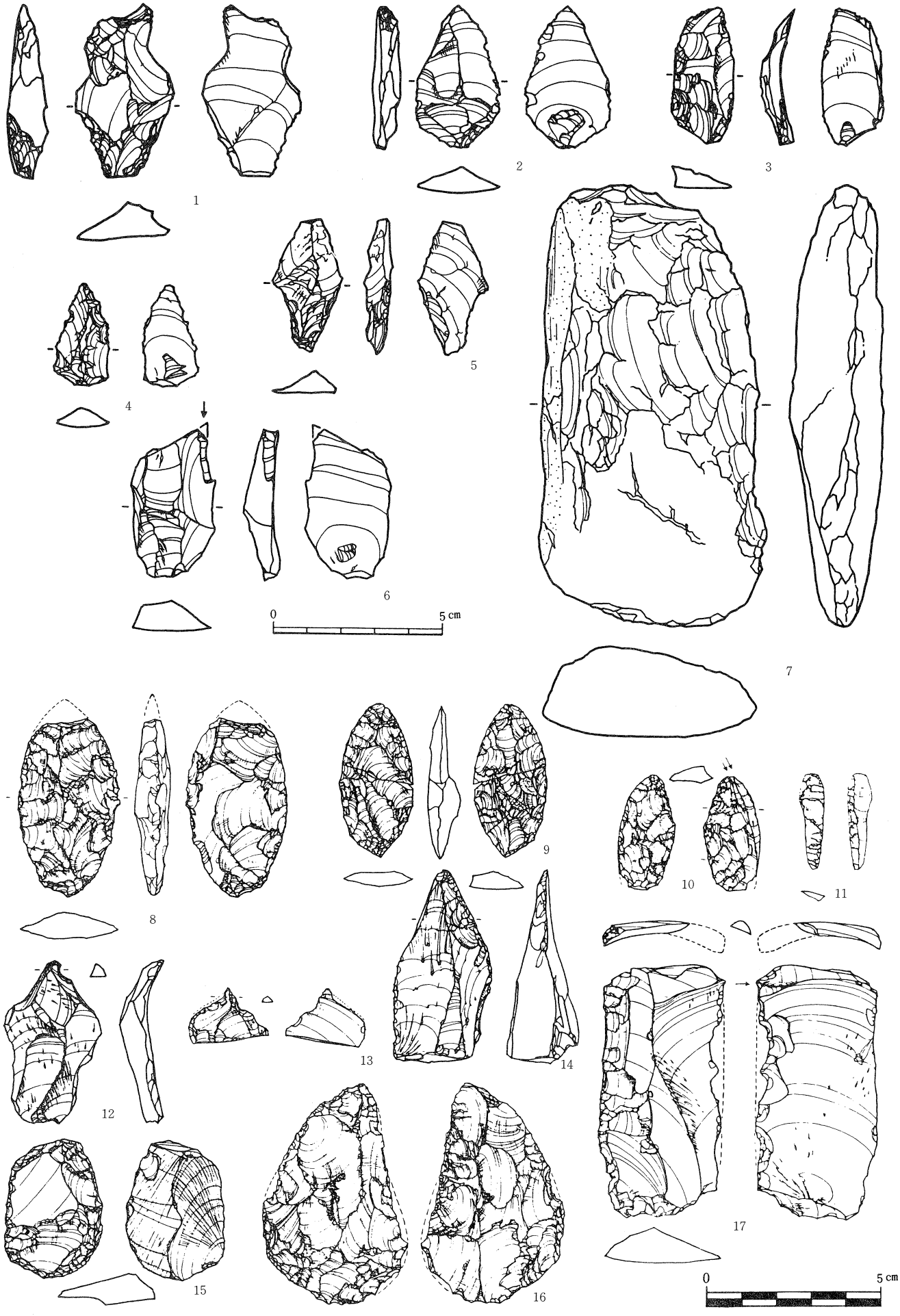
立野ヶ原台地の南東隅に位置し，標高が235m～237m を測る北北東に伸びる細長い丘陵上に立地する。旧石器時代に属する 2 つのユニットが発見された。出土層位と石器群の特徴は類似しており，同一時期に形成されたものと考えられる。両ユニットとも石器の製作跡的色彩を持つが，ナイフ形石器・彫器・揉錐器・削器・局部磨製石斧など，石器の器種はほぼ出揃っている。

ナイフ形石器の特徴とともに，石器組成に局部磨製石斧があること，定形的な掻器がない，さらに分断手法によるナイフ形石器が少ないこと，石器の出土層位が相対的にではあるが，より下位にあることなどから，この石器群は現在のところ立野ヶ原遺跡群中最古の旧石器時代文化に位置づけられる。

立美（たつみ）遺跡（地図 No.144，第 4 図，文献46）

立美遺跡は立野ヶ原台地内でも 3 カ所ある大きな開析谷の西側にあたり，長く南北に伸びた丘陵先端部，標高192m～194m の所に立地する。調査の結果，旧石器時代，縄文時代草創期～中期初頭，古墳時代初期の遺物が確認された。

旧石器時代終末期に近い尖頭器文化期に属し，丘陵中央部から東側平坦部を中心として，4 カ所のユニットを検出した。いずれも石器製作に関連したユニットで，被熱した黒曜石から 3 ユニットに炉の存在が推定される。石器の器種は尖頭器・先刃型掻器・掻器・揉錐器・彫器・スポール・ナイフ様石器に分けられ，なかでも彫器は尖頭器の出土遺跡でも類例が少ない。石材では信州和田峠産の黒曜



第４図　西原Ｃ遺跡出土遺物(1～7)と立美遺跡出土遺物(8～17)

石が85%以上を占め，流紋岩は揉錐器に，頁岩は彫器にと器種による石材の使い分けが認められる。

B　縄文時代

縄文時代になると，旧石器時代からの立野ヶ原台地に加え，平野部に面する丘陵や段丘面のほとんどに遺跡が分布するようになる。また平野部にも中期・後期・晩期の遺跡が確認されている。これらはいずれも隆起扇状地といわれる洪積世の河岸段丘面に位置する。

草創期の遺跡は県下では未発見であるが，僅かに福光町東殿遺跡の石槍などからその存在を知りうる。早期の遺跡には，数少ない隅丸方形の竪穴住居跡を検出した城端町神明原A遺跡，楕円形押型文土器が出土する人母シモヤマ遺跡がある。前期の遺跡には五瀬遺跡・人母茂谷遺跡があるが，遺跡の数は少ない。中期になると，平野部でも竹林遺跡・徳成遺跡・宗守遺跡など遺跡が確認されるようになり，後・晩期には，後期の五瀬遺跡・晩期の天神B遺跡・福野町の安居遺跡・後期の標識遺跡である井口村の井口遺跡など遺跡が増加し，段丘下の平野への生活の場の進出を窺わせる。

うずら山遺跡（地図No.200，第5図，文献14）

梅原集落の南西，県道金沢－井波線沿いの浄土真宗以速寺裏に所在する。小矢部川の浸食を受けてできた河岸段丘が南西から北東に続き，この段丘上，縁辺部より少し離れたところにあり，標高約80mを測る。付近で現在も湧水がみられる恵まれた環境にあり，遺跡全体としては相当の規模が推定され，先人が断続的に生活の場としたことが窺える。発掘調査の結果，遺構として住居跡1棟と穴1基を検出し，遺物としては土器，犬のものと思われる牙が出土した。

住居跡の規模は長軸約5.4m，短軸3.8mの楕円形プランで，中心に炉をもつ。床面は平坦でほぼ水平，黄褐色粘土の貼り床部分があり，厚さ3～5 cm測る。床面で16個の穴を検出した。このうちP1～P9が掘り方から柱穴と見られ，9本主柱のXY型プランが考えられる。炉には3個の平らな石を敷くように置いている。いずれも上面に火の熱を受けた痕跡が認められるが，周囲の土は焼けておらず炭化物を含む。住居跡覆土中からは，土器，石器が数点づつ出土している。

住居跡とその周辺から縄文時代前期中葉～後葉の土器が多く出土した。他に，縄文時代中期前葉～中葉，後期中葉，晩期前葉と古墳時代及び奈良～平安時代の土器が僅かにみられる。前期中葉の土器は蜆ヶ森式及びそれに並行する時期の土器で，本遺跡の主体を成す土器群である。北陸独自の土器形式といわれ，口縁部に口縁に平行な数条の隆起線文，胴部に羽状線文または斜線文を施す。

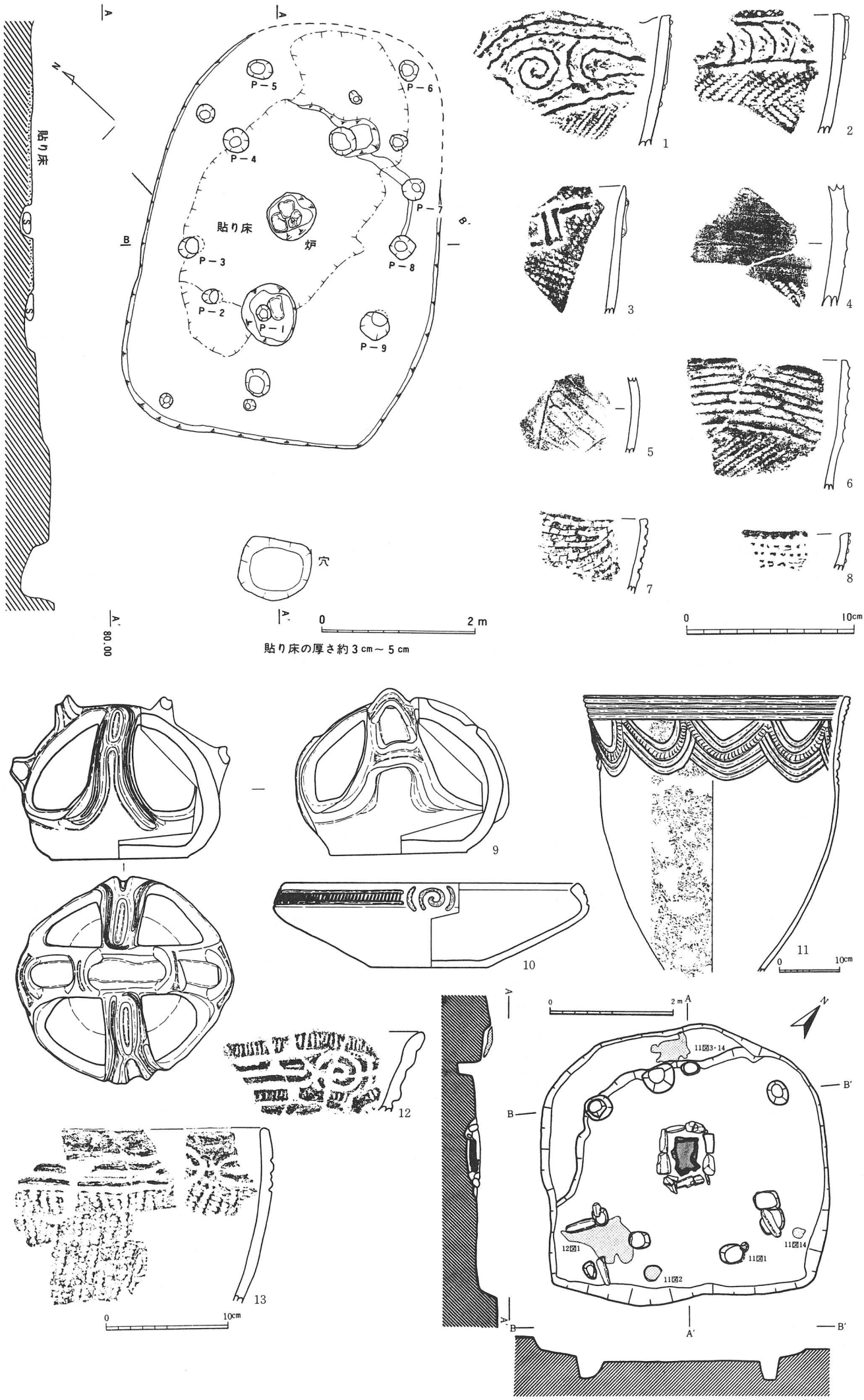
石器は住居跡を中心にかなり広範囲に出土した。石器には石鏃・石槍・石匙・打製石斧・擦石・凹石・石錘・磨製石斧・砥石・敲石・石錐・石刀・剥片などがある。このうち石鏃・磨製石斧が多い。かなりの剥片と，未成品があり，現地での石器の製作を暗示している。

西原A遺跡（地図No.274，第5図，文献13）

立野ヶ原台地南東隅の，標高238m～242mを測る丘陵上に位置する。検出された遺構は住居跡1棟，土坑である。住居跡の規模は4.6m×4.6mで，平面形は南東辺を底辺とするかまぼこ形をなす。柱穴は壁の60cm～80cm内側をめぐり，7本主柱XY型の配列となる。西側の壁の内側には高さ約10cm，幅約60cmのベッド状遺構が認められる。炉はほぼ中央に構築され，11個の転石が主体の石組炉である。平面形は長方形を呈し，床面を若干掘りくぼめて炉石を設置している。

遺物は旧石器時代末ないし縄文時代草創期に属する尖頭器をはじめ，縄文時代中期後葉にいたる6時期の石器，土器が出土した。中でも住居跡の床面から出土した中期後葉の鈎手形土器は出土例も数少なく，この住居跡の性格を暗示する資料であると考えられる。

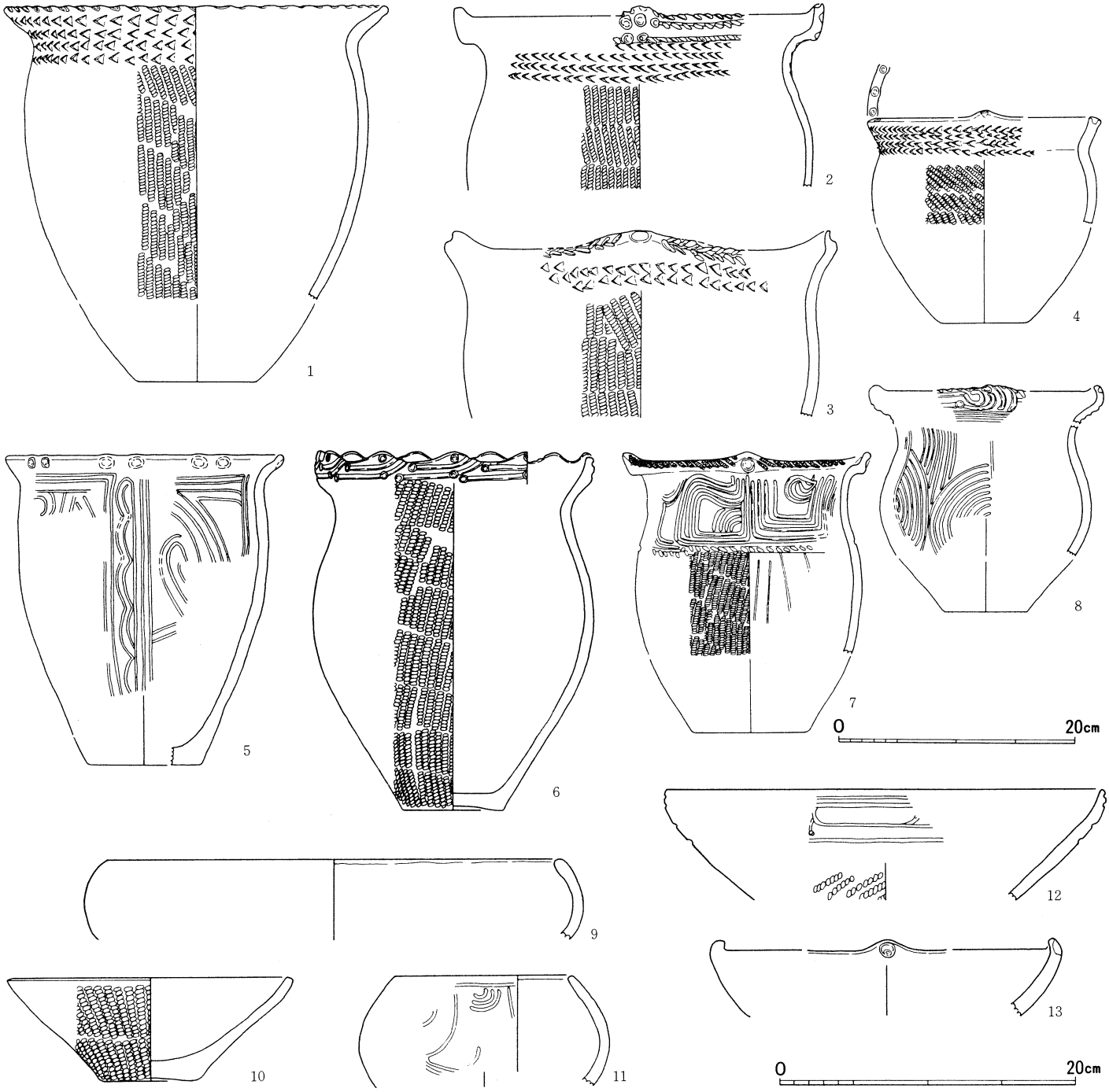
安居五百歩遺跡（地図No.17，第6図，文献51・59）



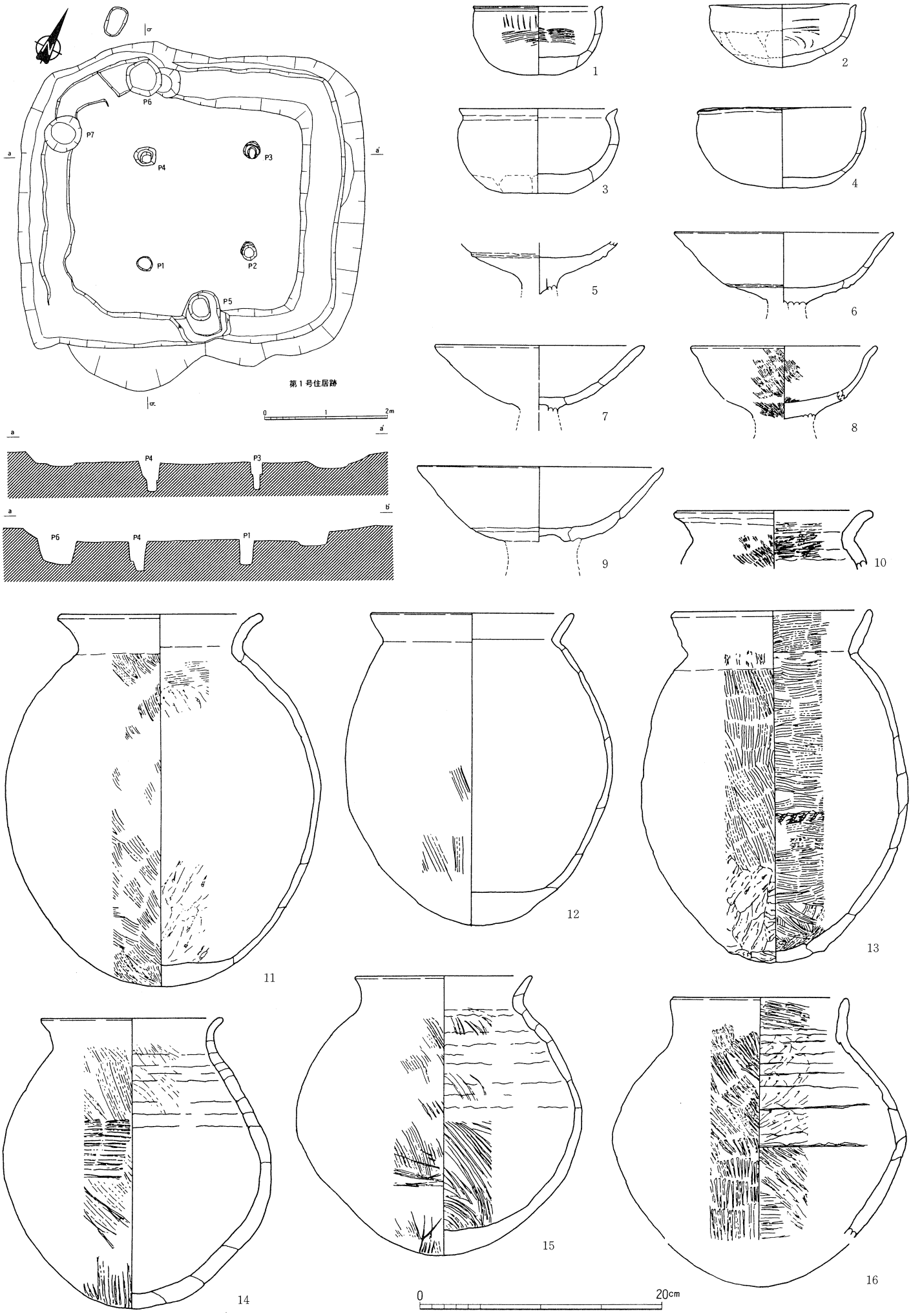
第５図　うずら山遺跡の住居跡実測図(左上図)**・出土遺物**(1~8)**と西原Ａ遺跡の住居跡実測図**(右下図)**・出土遺物**(9~13)

福野町西部の安居地区に所在する。小矢部川左岸の丘陵麓台地上にあり，周辺にも多くの遺跡がある。遺跡は台地上全体に広がり，年代も縄文後期の他弥生末，奈良・平安～中世の長期にわたるものである。縄文時代の遺構である穴７基は谷部に集中して検出された。

出土した土器は後期初頭のいわゆる気屋式に比定できるもので，その前後の資料を含まない単純な時期様相を示している。谷部に一括廃棄された土器群と谷部周辺の土坑内から出土したものであり，今後の土器編年を組み立てる上でも基準資料となりうるものである。同時期の石器には石鏃，石匙，打製石斧，石製容器，擦石，凹石，石錘，磨製石斧，敲石，砥石，石刀，石冠があり，中期末葉と同様に打製石斧と石錘の割合が高い。石錘については糸掛けの作り出し前の未成品がいくつか出土しており，集落内での石錘製作の実態を示す数少ない例であろう。



第６図　安居五百歩遺跡出土遺物



第7図　梅原安丸III遺跡4地区の第1号住居跡実測図(左上図)**と出土遺物**

C　弥生時代・古墳時代

このころには，小矢部川左岸にも遺跡の分布がみられるようになり，福野町五百歩遺跡，安居遺跡などの存在が知られている。福光町では小院瀬見野地島遺跡のみであり，大型蛤刃石斧１個と土器片が出土している。この時期の遺跡は平野部に近い谷水の流れ出るところに立地する傾向にあり，よく似た条件の地で今後更に新たな遺跡の発見があることが期待される。

古墳時代の遺跡は小矢部川左岸に多くみられ，福岡町から福野町にかけての小矢部川左岸段丘上には多くの古墳が立地する。特に小矢部市埴生地区には４世紀初め頃とされる谷内16号墳，４世紀中頃で県下最大級の関野１号墳，墳丘に埴輪を巡らす５世紀末頃の若宮古墳などの前方後円墳や大型円墳が集中している。しかしその上流で確認されている遺跡は梅原安丸Ⅲ遺跡など僅かである。

梅原安丸Ⅲ遺跡（地図 No.187，第７図，文献24・34）

検出された遺構は古墳時代の竪穴住居跡１棟である。平面形は隅丸方形で，規模は南北軸5.0m，東西5.6m，周壁下で南北4.4m，東西5.0m で，東西にやや広い隅丸方形となっている。柱穴は４本主柱で，直径25cm～30cm，深さ40cm～50cm である。柱穴の間隔は P1－P2－P3－P4－P1がそれぞれ1.7 m で，柱穴間を結んだ線は正方形となっている。住居跡の主軸はＮ－26.5°－Ｗである。周壁の下には幅50cm，深さ５ cm～10cm 前後の溝がほぼ全周し周壁溝と考えられる。炉及び竈は検出していない。

出土遺物には縄文土器，住居跡出土の土師器・砥石がある。住居跡の遺物のほとんどが床面から若干浮き上がっており，住居廃絶後に若干の時間を経過して一括投棄されたと考えられる。器種は甕・高杯・椀・鉢がある。黒色処理の盛行が認められない，須恵器の欠如等から，３様式Ⅱ期（田嶋1991）に併行と考えられている。しかし椀の中に１点ミガキ手法が認められ，４様式Ⅰ期に近い様相も認められる。また，縄文土器については後期後半に帰属するものが大半を占める。

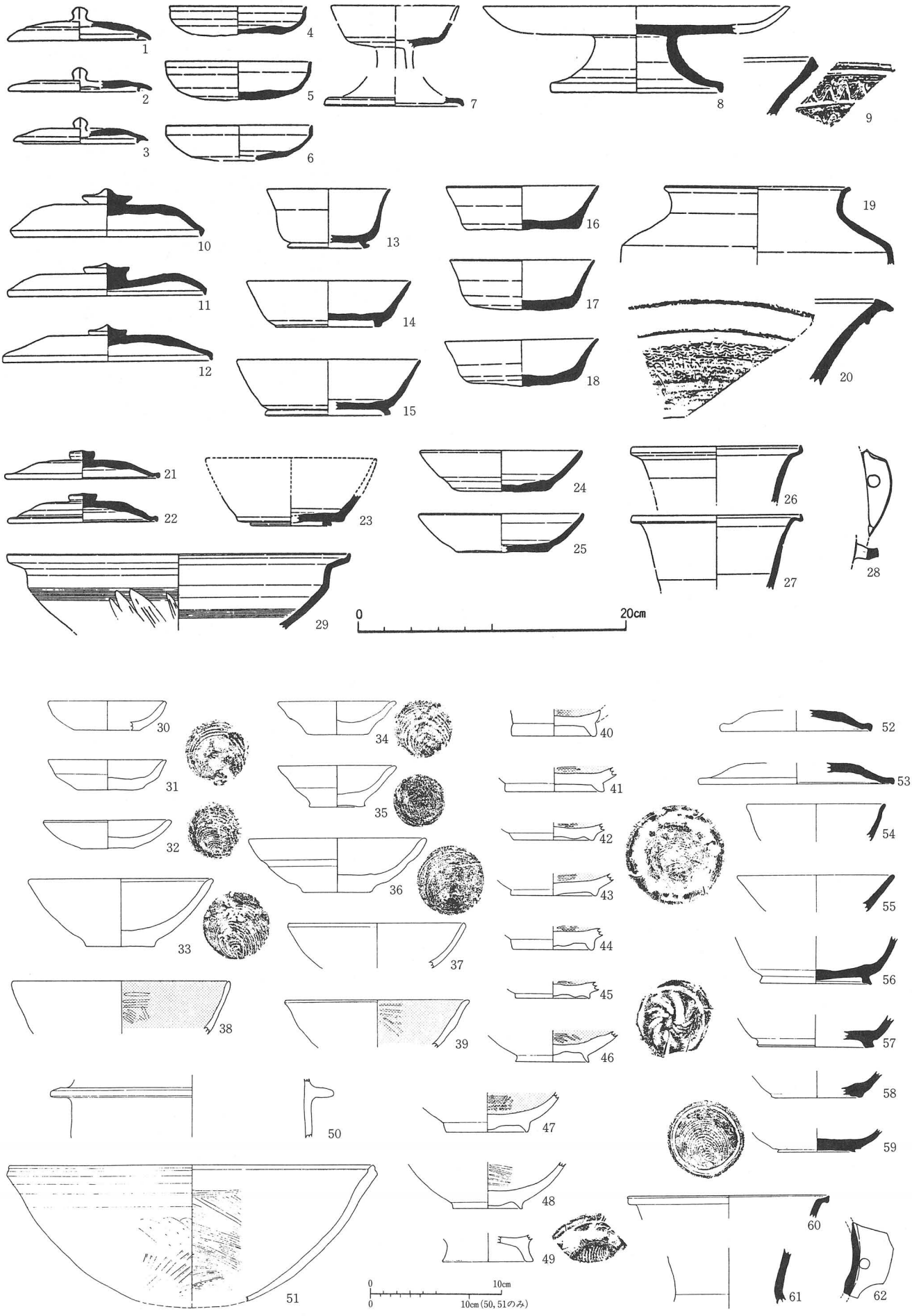
D　古　　代

奈良時代になると砺波郡が置かれ，平野の開発が進み東大寺の墾田地が占有されるようになったことが，今も東大寺に残る「越中国砺波郡伊加流伎野地開田地図」，「越中国砺波郡石粟村官施入田地図」，「越中国砺波郡井山村墾田地図」，「越中国砺波郡杵名蛭村墾田地図」によって明かである。開墾にともなう条里制の遺構は，小矢部川左岸に比較的まとまって確認されたが，砺波郡全体の条里に関しては諸説あり定まっていない。

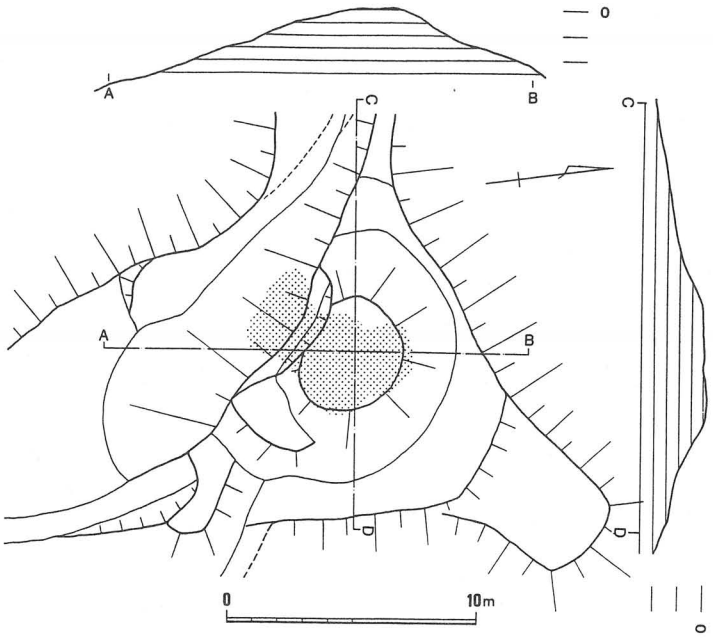
このころの文献『続日本紀』の天平19年（747）９月２日の条には，利波臣志留志が東大寺の大仏造立の資金として，3000碩の米を奉納したので，外従五位下の位を授けられたとあり，さらに『続日本紀』の神護景雲元年（767）３月20日の条には，志留志が墾田100町を東大寺に献じ，外従五位上に昇叙されるとともに，越中員外介に任じられたとある。この利波臣志留志とは砺波郡を治めた地方豪族であるとみられ，この頃既に砺波平野が有数の穀倉地帯であったことが窺われる。

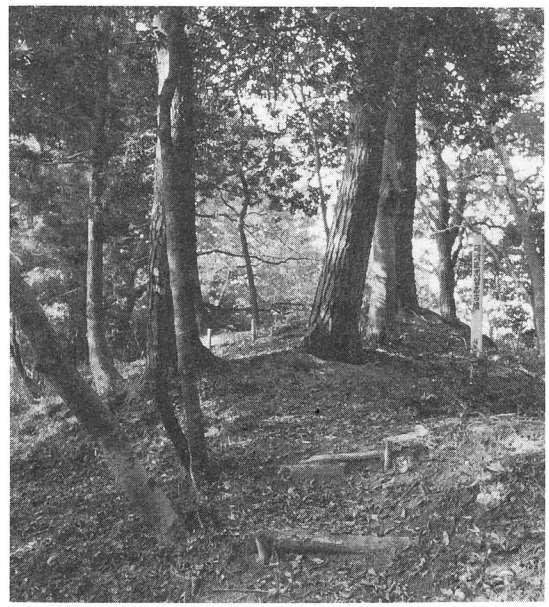
小矢部川左岸では条里制の遺構が確認され，重要な陸路であった北陸道が整備されていたことが最近の発掘例からも明かになっており，発展が推察される。これに対し梅原胡摩堂遺跡周辺の南砺平野では条里制の遺構は未確認で，確認された遺跡も極僅かである。しかし「越中国官倉納穀交替記」に，平安時代中頃には川上地方（福光町を含む砺波郡南部の一帯で，小矢部川と庄川の合流点を中心とする，小矢部川上流地帯のことを指すと考えられている）にかなり大きな官倉が群立していたとある。また「利波臣古墳」や「記塚」といった遺跡が存在することからも，南砺平野での開発もかなり進んでいたことが推察できる。

安居・岩木窯跡群（地図 No.14，第８図，文献1）

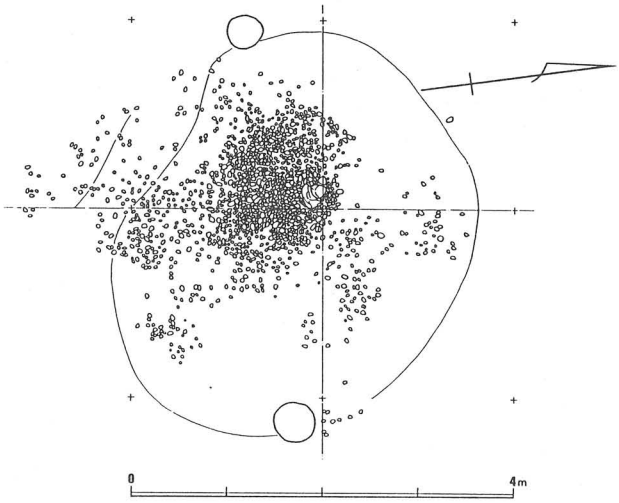


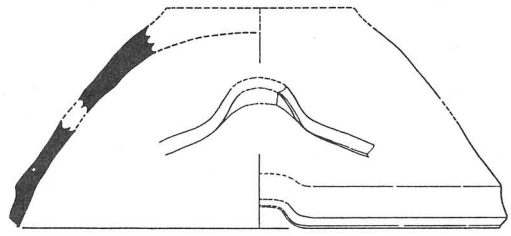
第８図　安居・岩木窯跡群出土遺物(1～9：安居口ノ部い2号窯，10～20：安居大堤窯，21～29：ぐみ谷奥窯)**と古館遺跡出土遺物**(30～62)

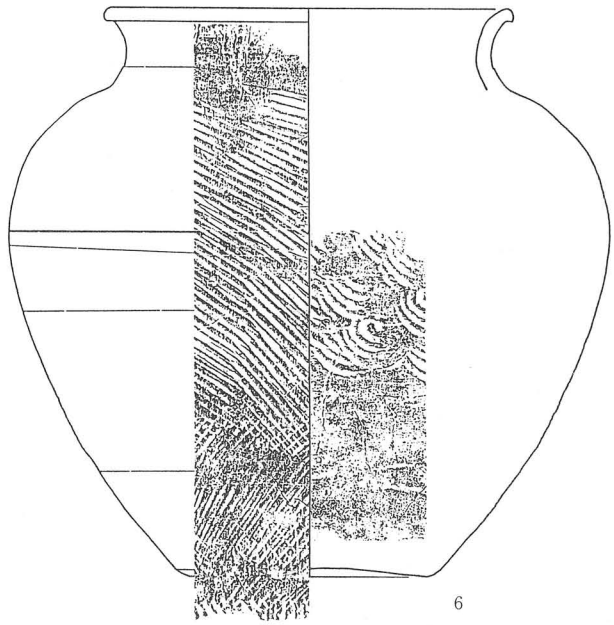


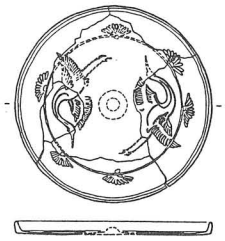


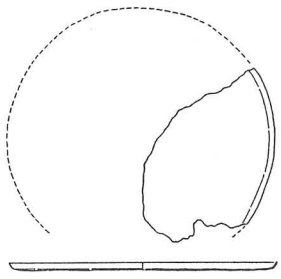
記　塚　近　景

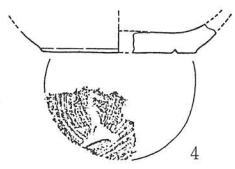












第９図　記塚実測図・表面礫分布図(左上図)**と出土遺物**(1～6)

福光町と福野町の境に位置する。医王山から北にのびる蟹谷丘陵の東側斜面にある，大小の開析谷の南北約２ km，東西約1.5km の範囲で，標高約100m 前後に位置する。小矢部川左岸の丘陵確認されている多くの窯跡群のうち，最南に位置する。窯跡群は安居支群と岩木支群に分かれ，安居支群には北から口ノ部地区のい２号窯を含む２基，大堤(おおつつみ)窯２基，中野山(なかのやま)窯４基があり，岩木支群には北から北谷(きただに)窯３基，中宮谷(なかみやたに)窯１基，尻広谷(しびろたに)窯１基がある。現在のところ最古の窯跡は７世紀中頃の安居い２号窯であるが，近接する口ノ部に号窯からは，更に遡る７世紀前半と比定される須恵器が出土すると伝えられている。その後時期が空き，８世紀前半～後半にかけて岩木尻広谷窯，安居大堤窯などが次々と操業を行い最盛期を迎える。しかし，９世紀前半にはぐみ谷奥窯を最期に生産は終焉を迎える。

大堤１・２号窯は，谷の斜面を利用したトンネル状で，わずか1.5m の間隔で作られている。１号窯に次いで２号窯が操業し，２号窯については３度の操業が確認されている。操業時期は８世紀前半～中頃であり，２号窯からは奈良時代としては全国でも例のない環状台付瓶や特殊な形の須恵器が出土し，製品の供給先として寺院などが考えられ，寺家廃寺跡との関係が注目される。

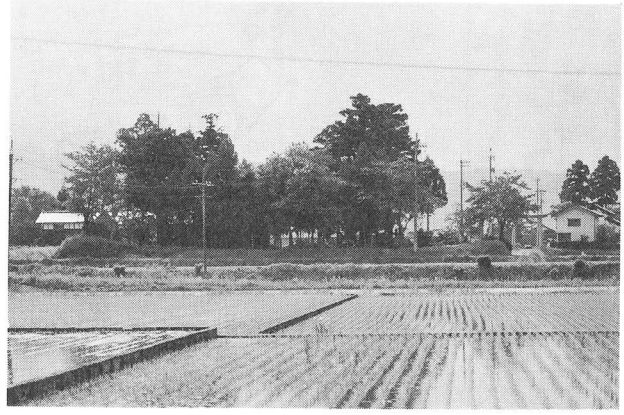
古館(ふるたち)遺跡（地図 No.82，第８図，文献53）

小矢部川左岸の河岸段丘上，標高130m に立地する。昭和49年の発掘調査により古代後半の遺跡であることが判明した。検出した土坑は９基で，覆土・遺物の出土状況からゴミ穴と考えられる。出土遺物には土師器・須恵器・木製品がある。土師器には皿・椀・羽釜・鍋があり，羽釜・鍋には煤が付着している。須恵器には杯蓋・杯・壺・双耳瓶・甕がある。遺物の時期は，須恵器は９世紀前半と９世紀後半～10世紀前半のものに，土師器は10世紀後半～11世紀初めと11世紀中頃～11世紀末のものに分けられる。医王山の麓で10世紀～11世紀代の遺跡が確認されたことは，砺波平野における石黒荘の開発との関連からみても興味深い。

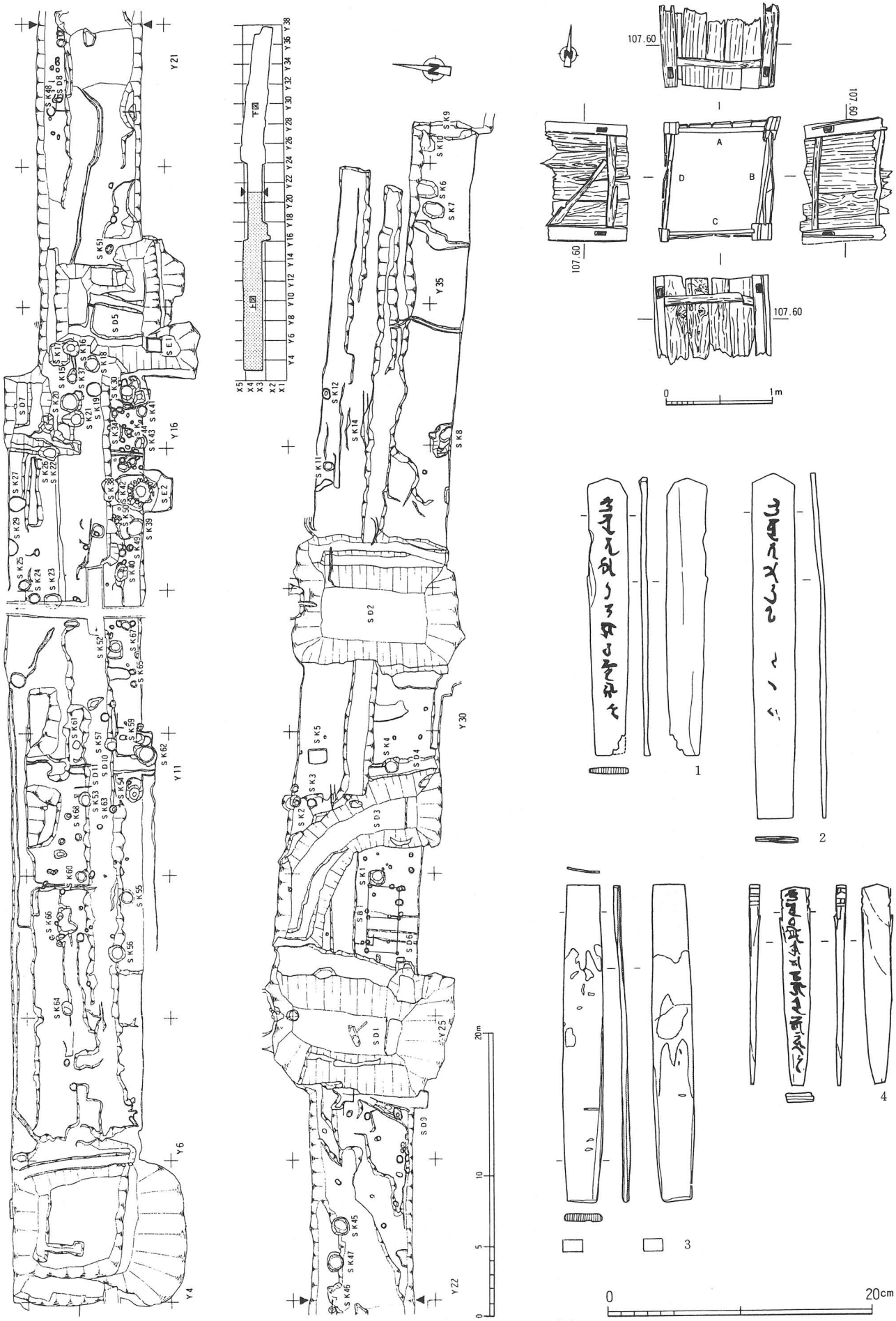
記(しるし)塚（地図 No.26，第９図，文献53）

福光町岩木に所在し，小矢部川左岸の北谷と中宮谷との間の丘陵頂部に位置し，標高約135m に立地する。荊波(やぶなみ)神社奥の院（本殿）の背後にある経塚であり，明治44年に遺物が発見された。出土した遺物は銅製経筒の断片１個分と銅製の和鏡の破片１個分，鉄刀の破片１個分，ガラス玉及び経筒を入れた陶製外容器の壺，その蓋と考えられる片口鉢が発見された。経筒は底板の破片から復元径約14cm，高さはその２倍程度と推定されている。和鏡は松鶴文鏡あるいは松双鶴鏡と分類される鏡式で，径約10.3cm，厚さ６ mm を測る。外容器の壺は口径21.5cm，高さ約30cm，最大径約31.5cm，底径13cm を測る。体部外面に右下がりの平行叩き目，内面に同心円文あて具痕を残し，外底面には木の葉痕がある。須恵器の製作手法を一部残す珠洲の最古段階（12世紀第３四半期）とみられる。片口鉢は推定復元で口径約26cm，器高約11.5cm である。これら経塚埋納品の年代については，鏡，経筒の特徴は12世紀中葉以前からあってもよく，外容器の壺が12世紀前半代とする見方もある。

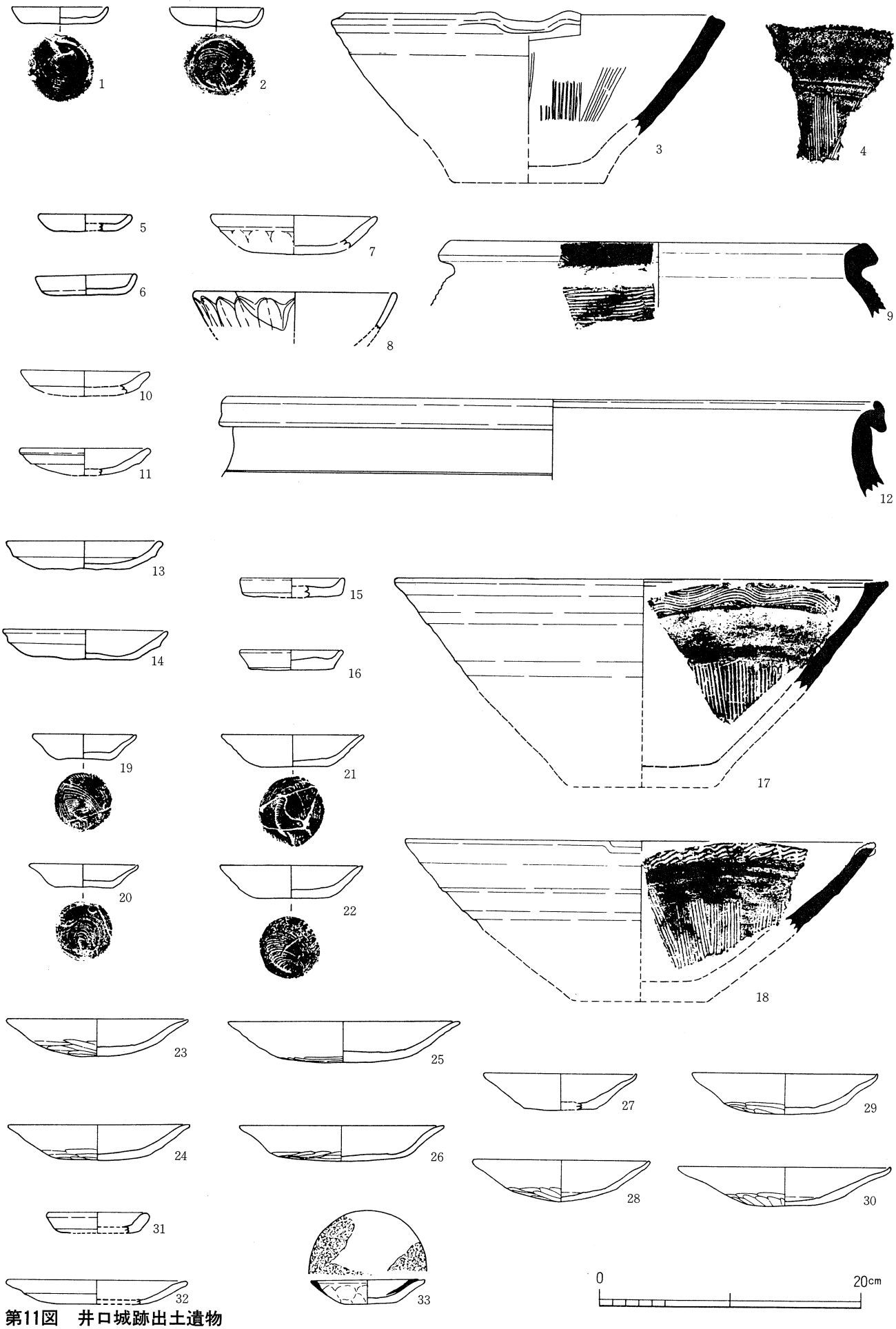
遺物が出土したのは第９図のように径約９ m，高さ約1.5m で，頂部の平坦面長径が約4.5m の塚である。この平坦面の大部分に径５ cm 前後の偏平な小礫が多く分布しており，一字一石経の可能性も推定されたが文字のあるものは検出されなかった。



宗守城近景



第10図　井口城跡の遺構配置図(左図)**と井戸**(ＳＥ１)**の実測図と出土遺物**(右図)



第11図　井口城跡出土遺物

ＳＤ５(10～12･15～18･32)　ＳＤ７(7～9･33)　ＳＫ１５(19～30)　ＳＫ２０(1～4)　ＳＫ２３(5･6･13･14･31)

築造時期の近い若宮遺跡第1号墓のように，塚表面に厚く小礫を敷きつめていたとも推定される。

E　中　　世

奈良時代に泰澄により開山されたと伝えられる医王山は，密教的な修験道的な内容をもつ山岳信仰の拠り所となった。医王山には寺院や僧堂などが置かれ，その周辺には集落が形成されていったと考えられ，それを裏付けるように医王山とその麓には中世の遺跡が点在するようになる。また奈良時代から開発が進んだ平野部には，砺波臣の子孫と伝えられる地方豪族石黒氏の根拠地，石黒庄が広がり，開発はさらに南へと進められた。梅原胡摩堂遺跡が立地する山田川と大井川に挟まれた地帯は，低位段丘で比較的安定した地であったらしく，宗守城跡をはじめとする土豪屋敷地跡が点在し，大規模な集落であったことを窺わせる遺跡が集中している。

宗守城跡（地図 No.202，文献52・53）

福光町宗守に所在し，永正３（1506）年に越後の上杉九郎房義の家臣，小林壱岐守が守備した城跡と伝えられる。宝暦14（1764）年の『古城塚山跡寺社古跡等書上帳』によれば，南北150間，東西25間～45間の広さで土塁も残っていたことがわかる。現在神明社があり，南・西・北に残る土塁は部分的に原形を保っていると考えられる。周辺からは多数の五輪塔が出土しているほか，神明社には珠洲・和鏡などの遺物が保管されており，鎌倉時代には既に何らかの施設があったことを示唆する。

井口城跡（地図 No.222，第10・11図，文献11）

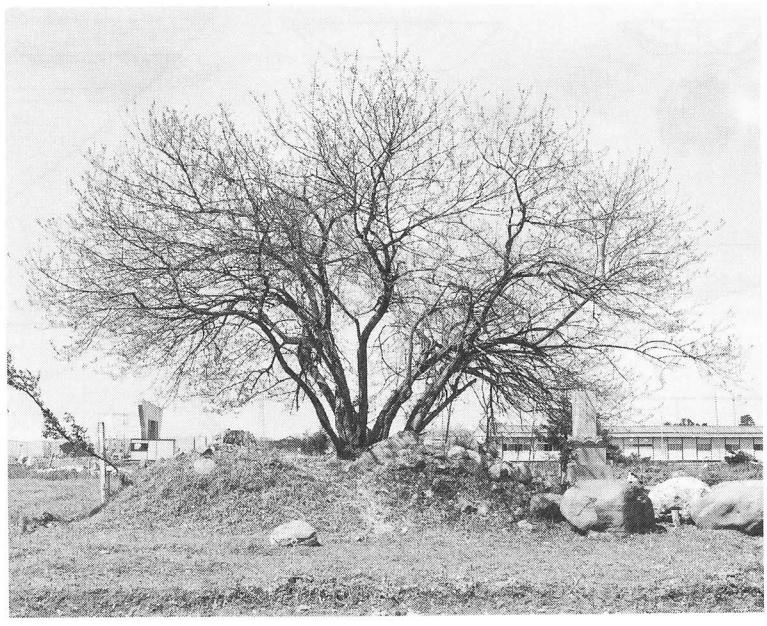
赤祖父川左岸の標高108m～110m の水田地帯に位置する。発掘調査により検出した遺構は堀，井戸，穴，掘立柱建物，溝である。堀は上幅５ m～８ m，底幅３ m～４ m，深さ２ m～３ m の規模で，底が平らな箱堀である。井戸は素掘りのもの，板組のもの，石積みのものがあり，板組，石積みは各１基，多くは素掘りものである。掘立柱建物は２間×１間で，長さ4.5m，幅2.25m の規模であるが，時期不明である。遺構の時期は出土遺物から13世紀後半～14世紀と，15世紀の時期に大きく分かれる。

また２つの郭が発見され，１つは東西90m，南北58m の規模で，堀は北側を幅16m，南側を幅25m，東側を幅7.6m，深さ2.8m に掘りあげ，西側は自然の川を利用しており，城の主郭となるものである。他の１つは，主郭の東側につく「二ノ郭」で，東西21m，南北45m の大きさである。

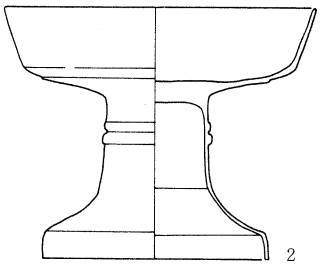
遺物は奈良・平安時代（８世紀後半～９世紀前半），鎌倉・南北朝・室町時代（13世紀～16世紀），江戸時代のものが出土している。奈良・平安時代の遺物は少なく，遺構も確認されていない。中世の遺物には，土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸美濃・中国製陶磁器・木製品・金属製品・石製品・植物種子などがあり，鎌倉時代から室町時代（13世紀前半～15世紀後半）に位置づけられる。江戸時代の遺物には，越中瀬戸・伊万里があるが，量は少なく遺構も判然としない。

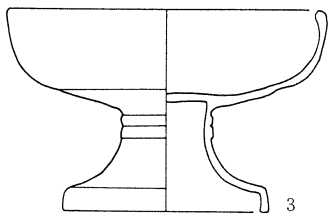
伝安楽寺跡（地図 No.197，第12図，文献27・52）

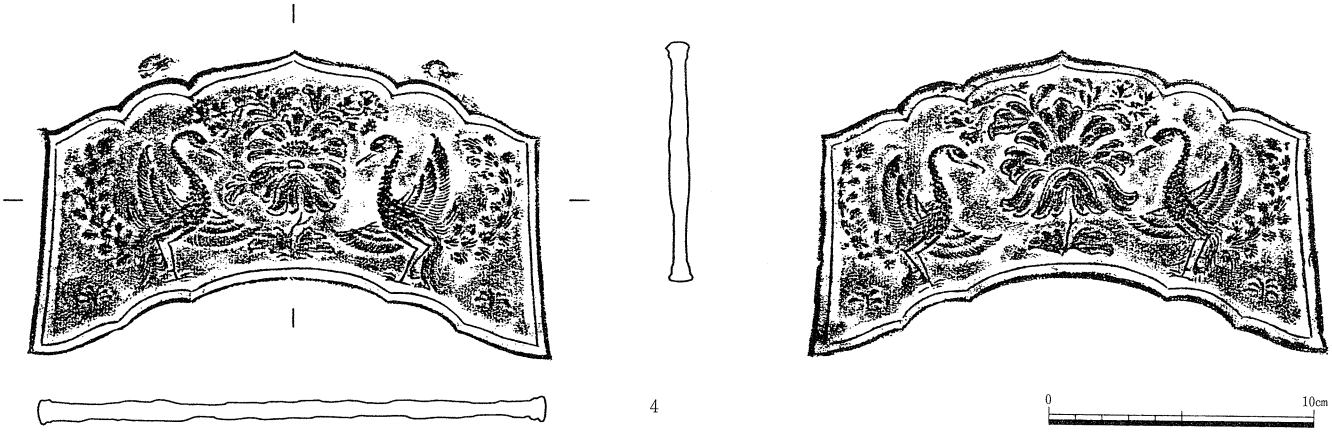
福光町梅原に所在する伝承地で，現在その地には塚がある。塚の中央



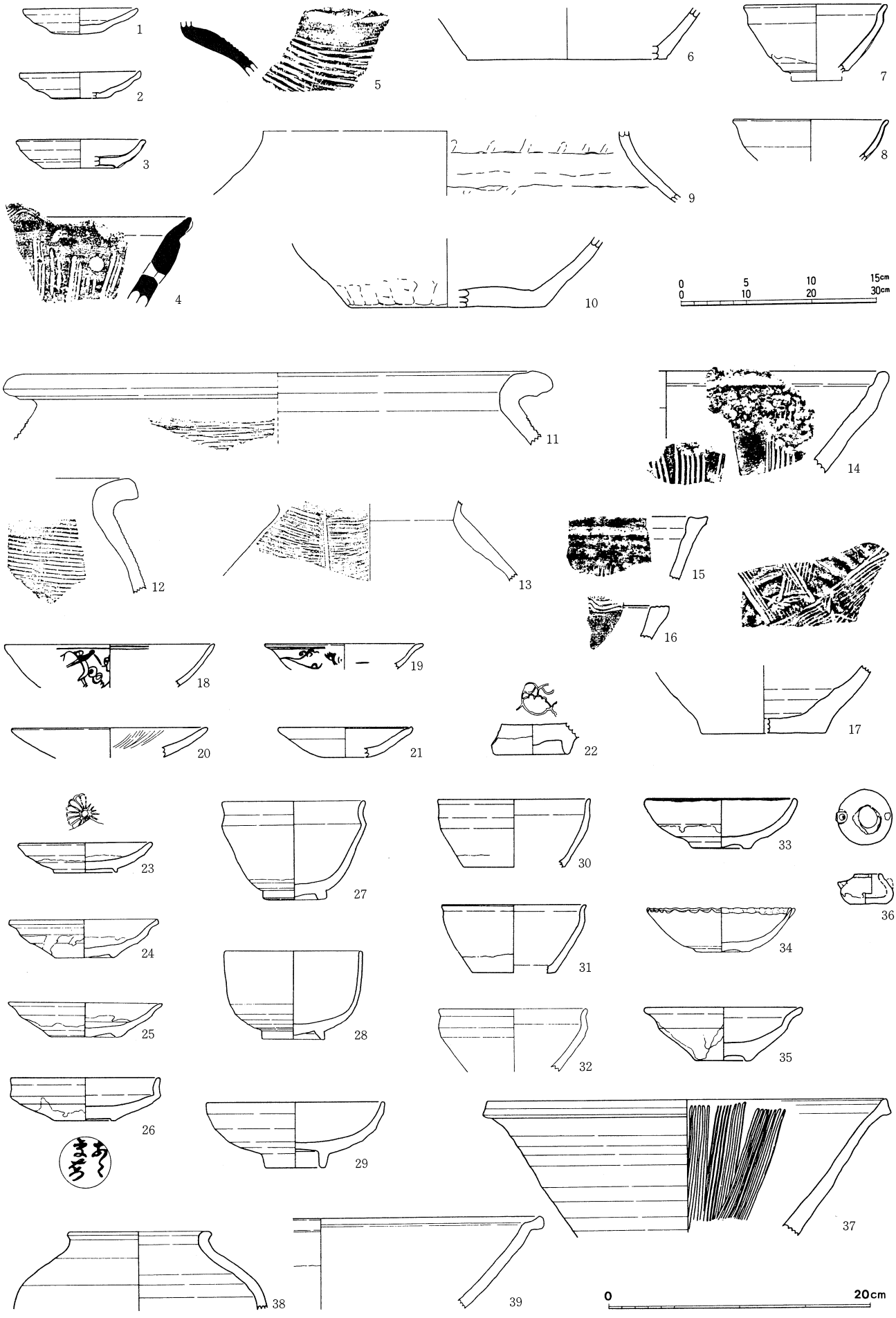
伝安楽寺跡近景







第12図　伝安楽寺跡実測図・石碑拓影(1)及び周辺出土遺物(2～4：正円寺蔵)



第13図　梅原安丸遺跡出土遺物(1～10)**と寺家新屋敷館跡出土遺物**(11～39)

には桑，周りには椿や欅が生え，青葉の季節にはこんもりとした様相を呈し，周囲の水田地帯からは区画されている。塚上には第12図の石碑や五輪塔の地輪，水輪のほか小礫が，西側斜面には人頭大から拳大ほどの礫，東側には長さ１ｍ前後の石，更に塚の周辺には２ｍ前後の石がある。安楽寺は北山田村梅原に所在し，廃寺となったと伝えられるが詳細については不明である。近世に梅原村となるこの地には，承元3（1209）年に創建されたと伝えられている以速寺が昭和初期まであったという。今回発掘調査対象地内となり，本調査に先立ち測量調査をおこなった。その結果，推定復元で東西約6.4m，南北約7.2m，比高約１ｍの方形の塚状を呈すことが明かとなった。

また伝安楽寺跡周辺出土と伝えられる磬と飯食器が福光町正円寺にある。磬は２個の鈕に組み紐を通して磬架に吊り，撞木で打って鳴らすもので，現在も使用している。黒深緑色の青銅製でへの字形を呈し，二羽の孔雀と花の文様が両面に鋳出されており，花が撞座になっている。文様は擦れてやや不鮮明であるが，片面の花は小さく，もう一面の花は大きく開いている。飯食器は杯部口径がほぼ同じで，器高が異なる。器形は鉄鉢形と支台形を一体とした形で，浅鉢形に腰が締まり，裾広がりの高脚に紐帯を巡らすだけの素文である。杯部と脚部は溶接しており，内面に熔接痕がみられる。これらは一般に使用されるものより大きいことから，寺院に関係したものと考えられる。

梅原安丸遺跡（地図No.184，第13図，文献24）

梅原胡摩堂遺跡の西側に近接して立地する梅原安丸遺跡群を構成している。東海北陸自動車道建設とほ場整備事業にともなう発掘調査が行われた。ここでは後者についてのみ取り上げる。

調査対象となったのは梅原安丸遺跡の中央部分にあたり，調査の結果竪穴状遺構，井戸，溝，池状遺構が検出された。出土した遺物は土師器，珠洲の鉢・瓶子，越前，瀬戸美濃，下駄，漆器椀，石臼，五輪塔，石鉢などで，その年代は15世紀～16世紀にかけてのものである。

当財団が発掘調査した梅原安丸遺跡からも中世から近世の川跡，溝，土坑が検出されている。

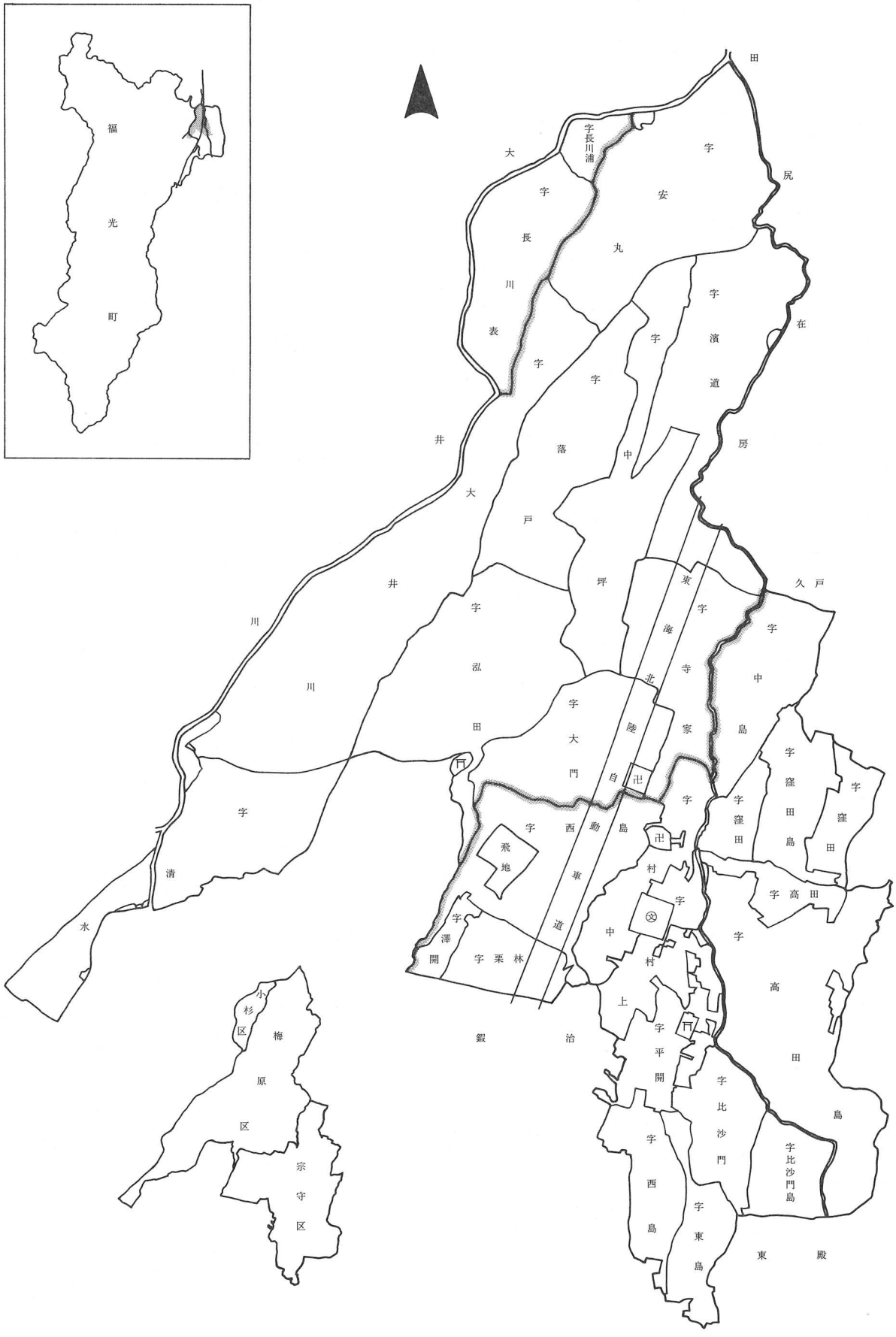
寺家新屋敷館跡（地図No.５，第13図，文献３・58）

寺家新屋敷館跡は砺波平野の扇央部に位置する福野町指定の史跡で，南北朝の平地城館としては県内初の面的調査がおこなわれた。調査の結果，土塁を巡らした単郭方形の館であることが確認された。館の規模は約68m×50mを測り，土塁の外側には幅５ｍ～７ｍの堀がある。また館の東西の土塁に出入口とみられる開口部を確認した。東側が中央部，西側は土塁を復元すれば郭の南西隅に設けられていることから，東が正面，西が裏の出入口に当たると考えられる。

遺物は土師器，珠洲，越前，瀬戸美濃，唐津，伊万里，中国製陶磁器，土師質火舎，木製品，石製品などがある。遺物全体からみれば15世紀以降のものが主体であり，館の出現もその頃と考える。

F　近世以降

砺波平野での開発は加賀藩の支配下でさらに進み，用水路等の灌漑の充実によって生産量は加賀百万石を支える要因ともなった。寛文11（1671）年には，加賀藩の御蔵が福光村に設けられ，近村からの米の集荷所として南砺地方における中心市街の一つとなった。旧福光町に御蔵と町蔵が３棟，宗守に御蔵１棟，下野村に御蔵１棟があり，米は舟運によって運搬され，福光御蔵は小矢部川，宗守御蔵は山田川，下野御蔵は大井川にそれぞれ舟着場をもっていた。また宗守は高岡から城端に至る巡見使道において，福光または井波へ分岐する交通の要衝として栄えた。現在も残る梅原・宗守一帯の明治時代の絵図では散居村の様相を呈するとともに，第14図に示すように「寺家」「大門」といった字名がみられる。また今も梅原地内には「胡摩堂」「加賀坊」「安楽寺」といった小字名が残っており，これらは中世まで遡った当地の様相を今に伝えるものであると考えられる。（田中道子）



第14図　富山県北山田村・梅原・宗守・小杉区の字界と字名（縮尺約12,800分の1）
（富山県北山田村梅原小杉區劃整理現形図・同宗守區劃整理現形図より）

第Ⅲ章　梅原胡摩堂遺跡

1　遺跡の概要

A　概　　要

遺跡の時期は，縄文時代，奈良・平安時代，中世，近世，近代に大きく分かれる。縄文時代，奈良・平安時代の遺構は散発的で，遺物量も少ない。主体の時期は中世から近世初頭で，規模を縮小しながら18世紀まで存続する。

縄文時代　遺構は土坑４基のみである。包含層が存在する遺跡北側に散在する。遺物は包含層出土のものがほとんどで，縄文土器，石斧がある。石斧は打製石斧が多い。

奈良・平安時代　溝１条，土坑１基を検出した。遺構検出面は中世面とほぼ同じ面である。遺物は，土坑から土師器甕と県内では珍しい暗文土器が出土しており，周辺からは緑釉陶器も出土している。

中世　遺構の時期は，大きく中世前期（12世紀中頃～14世紀）と中世後期（15・16世紀）に分けられる。その分布は中世前期の遺構は遺跡の北側，中世後期の遺構は遺跡の南側を中心とするいう状況が見られる。遺跡の中心が北から南に移って行った状況がわかる。

中世前期の遺構には，掘立柱建物，溝，井戸，土坑，土壙墓，石組遺構，集石遺構，供養関連の土坑，畝状遺構がある。掘立柱建物は，ほとんどが総柱建物で４間×９間といった大型総柱建物も見られる。これらの建物や土坑群は，幅が狭く浅い溝や，断面が逆台形状の深い溝，自然河川によって区画されている。井戸には，円形の素掘井戸と方形の木組井戸がある。土坑には方形，円形のものもあるが不定形のものが多く，遺構の性格がわかるものは少ない。方形のものには，建物に伴うと考える竪穴状土坑がある。特殊な遺構としては，火葬炉と推定される石組遺構，集石遺構，畝状遺構，土壙墓，板塔婆が出土した供養関連の土坑などがある。

中世後期になると，大規模な総柱建物はなくなり，桁行１間～４間×梁行１間の側柱建物が中心となる。溝は区画の性格を一層増し，大規模なものが掘られる。井戸の検出量は，この時期になると爆発的に増加する。ほとんどが素掘りの井戸で，曲物などの井戸枠が検出されるものは少ない。他遺構の数に比べて多すぎるため，あるいは井戸以外の遺構の可能性もあろうが，共同井戸から各戸別・使用別の井戸が掘られるようになったことが窺える。土坑は，方形の明瞭なプランをもち内部に石組列をもつものもあるが，不定形で浅い大きな落ち込みのような土坑も多い。

近世　中世後期の遺構の多くは近世初頭まで存続するが，明かに17世紀・18世紀の近世の遺構は散在するにとどまる。16世紀末から17世紀初頭の遺構は，旧以速寺跡西側一帯にまとまる様相を見せる。建物は，中世後期末になると梁行１間の楕円形柱穴建物が出現する。この建物は時期が下るに従って，柱穴が大型化，不整形化して方形竪穴状土坑とセットになるようになる。17世紀中頃以降になると石列と貼床をもつ方形竪穴状土坑を伴う土台建物が出現する。溝のうち，旧橋本川や旧以速寺跡周壕に相当する溝は，近代まで存続していたものと思われる。井戸はやはり素掘りの井戸がほとんどで中世のものに比べて規模が大きくなり，覆土も砂礫が混じった暗褐色土のものが多い。土坑には石列を伴う園池状遺構や，羽口や坩堝が出土した作業場の性格をもつ方形の土坑などがある。

B　土　　層

基本層序は，Ⅰ層；表土・耕作土，Ⅱ層；包含層，Ⅲ層；地山である。表土・耕作土は暗褐色土で厚さ20cm～60cm，包含層は厚さ10cm～１ｍである。包含層は，中世の包含層であるⅡab層と縄文時代の包含層であるⅡcd層に分けられる。遺跡が細長いので発掘した地区割りに従い概要を述べたい。

A・A１地区はⅡab層が黒褐色土で厚さが平均約30cm，Ⅱc層は褐色土，または暗黄褐色土で15cm～20cmである。A２・A３地区はⅡab層が褐色土で20cm～30cm，A２地区では黄褐色粘質土のⅡc層の下層に褐色粘質土のⅡd層が見られる。また，A３地区のⅡc層は厚さ平均約35cmの黒褐色粘質土となっている。A～A３地区は全体的に包含層の依存状況は良好である。地山は暗黄褐色粘質土で所によって粘質土層の下層の礫層が露呈する。

B１地区はⅡ層が15cm～30cmの褐色土，褐灰色土のⅡc層が見られる所もある。B・B２地区のⅡ層は褐色土・黒褐色土が見られ，黄褐色粘質土のⅡc層は部分的である。地山は，A３地区の南端からB１地区・B地区の北側にかけては砂礫に青灰色粘質土が混じる層となる。一帯は湧水面が高く，竹製・木製の筒・土管・石や粗朶などいろいろな種類の暗渠が縦横に走っている。B２・B３地区の地山は主に黄褐色粘質土であるが，所によって旧河道の堆積のなごりか，樹枝状に砂礫土が露呈するのが見られる。

CN・CS地区のⅡ層は平均約20cmの暗褐色土，C１・C２地区では約10cm～15cmの黒褐色土でC３地区にいたってはほとんど包含層はない。地山は黄褐色粘質土である。C２地区は，工場建設に伴う攪乱，及び圃場整備の削平を受けており包含層の依存状況は極めて悪い。特に南東部は黄褐色粘質土がほとんど残っておらず，遺構もほとんど検出されなかった。

C　遺構の記述について

初めに，各遺構の記載にあたり，用語・表現方法等について，あらかじめ述べておきたい。

遺構の記載は，まず遺構を時代別に分け，その中で種類別に遺構番号の若い順に記載している。時代区分，略語，遺構番号，地区割り，種類別の記載，遺構実測図については以下の通りである。

時代区分

時代は，縄文時代，奈良・平安時代，中世前期，中世後期，近世，近代に分けた。縄文時代，奈良・平安時代，近代については，遺構数が少ないので問題がないが，遺跡の中心の時期である中世前期，中世後期，近世の時期区分については下記の通りに分けている。

中世前期　　12世紀中頃から14世紀

中世の初めは，国制史，政治史，土地制度史，文化史などでそれぞれ意見が分かれているが，考古学的には11世紀後半から考えられる。東海北陸自動車道関連遺跡群は11世紀代は不明であり，12世紀中頃から始まるので，本書においては中世の初めを12世紀中頃とする。富山県内の中世遺跡は，12世紀後半から安定的に広がってくる。後期との境を14世紀とするのは一般的な様相である。

中世後期　　15世紀から16世紀末

中世の終わりは，県内においては16世紀の末，越中瀬戸の操業開始と考えている。これは，越中瀬戸が加わることによって，器種組成が近世的土器様相となってくるためである。

近世　　16世紀末から明治維新まで

なお，中世前期と後期にまたがるもの，または中世後期から近世にまたがるものについては，どちらかに分けるよう心掛けた。今回は遺構の内容を中心としており，遺物を絡めた細かな時期区分については遺物編に委ね，本編では大きな時期区分のなかで遺構を検討した。

略語・用語

遺構の種類は，掘立柱建物・土台建物・柵・溝・道路・井戸・土坑・土壙墓・特殊な土坑がある。これらの遺構については以下の略号を使用する。本文中・挿図・図版においては遺構番号の前にこの略号を付して記載する。

ＳＡ　柵・塀
ＳＢ　建物（掘立柱建物・土台建物）
ＳＤ　溝（旧河道を含む）
ＳＥ　井戸
ＳＦ　道路
ＳＫ　土坑（柱穴を含む）
ＳＺ　土壙墓
ＳＸ　その他（石組遺構・集石遺構・畝状遺構等）

遺構番号

遺構番号は，調査の際各地区毎に１から通し番号を付けている。このため，番号を新たに付けなおすと煩雑になるため，各地区の遺構番号にきりのいい数字を加算した遺構番号を利用した。各地区の調査で使用した遺構番号と本書で使用した遺構番号の対応は，以下の通りである。

地区名	各地区遺構番号	遺構番号	地区名	各地区遺構番号	遺構番号
Ａ	１～645	１～645	Ｂ２Ｎ	１～848	5001～5848
Ａ１	１～1401	701～2101	Ｂ２	１～1134	5901～7034
Ａ２	１～781	2201～2981	Ｂ３（Ｂ４含む）	１～1055	7101～8155
Ａ３Ｎ	１～361	3001～3361	Ｂ３Ｗ	１～611	8201～8811
Ａ３Ｓ	１～851	3401～4251	ＣＮ	１～114	8901～9014
Ｂ１（Ｈ２）	１～215	4301～4515	ＣＳ	１～196	9101～9296
Ｂ１（Ｈ３）	１～193	4601～4793	Ｃ１	１～620	9301～9920
Ｂ	１～137	4801～4937	Ｃ２	１～183	10101～10283
			Ｃ３	１～196	10301～10496

なお，掘立柱建物，柵・塀，道路については，他の遺構とは別に１から通し番号を付した。

地区割

遺跡が南北に長いため，大まかな位置を示すために，調査地区名とは別に遺跡をＡ，Ｂ，Ｃ地区の3地区に分けて記載を行うこととした。その地区割については以下のとおりである。

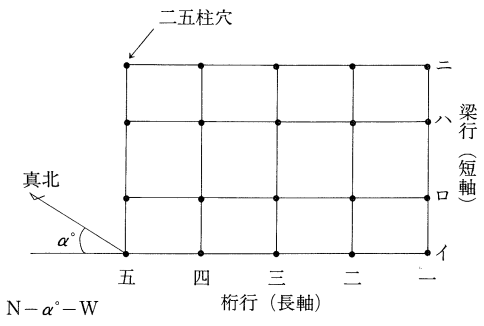
Ａ地区　Ｘ320Ｙ100とＸ320Ｙ90を結ぶ線より以北の地区（Ａ・Ａ１・Ａ２・Ａ３Ｎ・Ａ３Ｓ一部除く）
Ｂ地区　Ａ地区の南から県道金沢・井波線までの地区（Ａ３Ｓ一部・Ｂ１（Ｈ２）・Ｂ１（Ｈ３）・Ｂ・Ｂ２Ｎ・Ｂ２・Ｂ３・Ｂ４・Ｂ３Ｗ・ＣＮ）
Ｃ地区　県道金沢・井波線以南の地区（ＣＳ・Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３）

掘立柱建物の記載について

掘立柱建物は，『平成宮発掘調査報告Ⅶ』を参照にしながら以下の用語の定義付けをもとに記載をすすめている。

①柱間の数や棟方向にかかわらず建物の平面図の長軸を基本として，建物の長軸を「桁行」，建物の短軸を「梁間」とする。例えば桁行３間，梁間２間の建物は３間×２間と表す。

②建物の棟方位は，真北から建物の長軸の方位を測る。そ



の角度から建物を「東西棟」と「南北棟」に分ける。

③「柱穴」とは，柱位置に遺存する穴の総称とする。

④「柱掘形」とは，掘立柱を据えつけるための穴のことで，「掘形埋土」とは柱根を固定するために柱掘形にいれた土のことである。

⑤「柱根」とは，遺存している柱自体の下端部分のことであり，「柱痕跡」とは，柱掘形の中の柱根が立ったまま腐り消えて空洞になり，そこに土が流れ込んだもので，ここでは柱根が抜き取られたものも含む。

⑥柱穴の規模は，遺構確認面から測った数値である。

⑦建物の面積は，長軸に短軸をかけた数値である。

⑧柱間の呼称は，『平城宮発掘調査報告Ⅺ』にのっとり，桁行柱を漢数字とし，梁間柱を片仮名で表し，東と南から数え始めることとする。

井戸の記載について

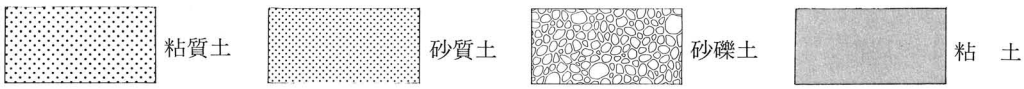
井戸の部分名称，および型式分類については，宇野隆夫氏の「井戸の分類」[注1]を援用している。

①各部の名称は地上の施設を「井桁」，地下壁面の施設を「井戸側」，底の施設を「水溜」とする。

②型式分類は井戸側の部位の構造で分類する。当遺跡には「素掘井戸」，「木組井戸」，「石組井戸」がある。

③井戸の断ち割り断面図において，地山の変化のわかるものについては，粘質土・砂質土・砂礫土・粘土にわけてスクリーントーンで明示した。

④断面図内における小さな矢印（←→）は現在の湧水面を表示する。



遺構実測図について

①全体図は，１／200に統一し，遺跡を北から重複させながら，35分割した。

②遺構の個別の実測図は，主に時期のわかる遺物が出土している遺構を抽出し，遺構別になるべく遺構番号の若い順に版組をした。遺構断面図は平面図に対応するようにし，断面図のポイントは小文字のアルファベットで示し，その上に標高を記入している。溝・柱穴は断面図のみ掲載し，溝の断面図のポイントは全体図・ブロック図に示す。個別遺構の挿図の縮尺は，以下のとおりである。

出土状況図等	１／20
溝・井戸・土坑・柱根断面図	１／40
大型土坑・土台立建物等	１／80
掘立柱建物	１／100
ブロック図	１／200

③覆土の注記については，土性は礫・砂・砂質土・粘質土・粘土に統一するようこころがけたが，土色については観察者が異なるため統一できず，観察者の記録に従った。

④各遺構の断面図において，炭化物層のような特徴のある覆土が見られるときは，スクリーントーンを用いて表示した。

（宮田進一　島田美佐子）

注１　宇野隆夫　1982　「井戸考」『史林第65巻第５号』

2　遺　　構

A　縄文時代

縄文時代の遺物が散在的に出土しているが，遺構は，皆無に等しい。遺構が確認できるのは，A2地区，A3地区，B1地区で，すべて土坑である。縄文時代後期～晩期に属する。なお，A2地区のX375～385Y100～110では，中世遺構確認面（黄褐色粘質土）の下に，黒褐色土の縄文土器の包含層があるが，遺構は確認できない。

土坑

A地区

2990号土坑（SK2990，第15図）

X330･331Y96に位置する。長軸60cm，短軸50cmの円形で，深さ30cmである。中世遺構確認面の下の灰褐色粘質土を掘り込んでいる。覆土は，黄褐色粘質土，灰褐色粘質土で，わずかに炭が混じる。出土遺物には，縄文土器がある。時期は，縄文時代後期～晩期である。なお，周辺を掘り広げても，遺構は他に確認できない。

B地区

4310号土坑（SK4310，第15図）

X302Y96･97で検出した円形の土坑である。東西方向のSD4306に切られる。直径195cm，深さ65cmで掘形は擂鉢形状である。覆土はしまった黒褐色粘質土が主体である。この中から縄文土器とクルミが約40個体出土しており縄文時代の貯蔵穴の可能性が高い。

4317号土坑（SK4317，第15図）

X300Y94で検出した円形の土坑である。南北185cm，東西160cmのやや南北に長く，深さ40cmで底は丸い。覆土はSK4310と同様にしまった黒褐色粘質土である。遺物の出土はないが，SK4310と形態が似ていることから，同様な性格の土坑と考える。

4650号土坑（SK4650，第15図）

X295Y98･99で検出した長方形の土坑である。南北215cm，東西155cmを測る。土坑の上面はSD4650bが重複する。北側はSD4602に削平され，南側に比べて肩が低い。床面はほぼ平坦で，深さは南側で34cmである。覆土は砂礫の混じる茶褐色粘質土の単層である。覆土中から縄文土器が出土したため当期の遺構としたが，遺物量が少ないためより新しい時期の遺構の可能性もある。

（宮田進一　島田美佐子）

B　奈良・平安時代

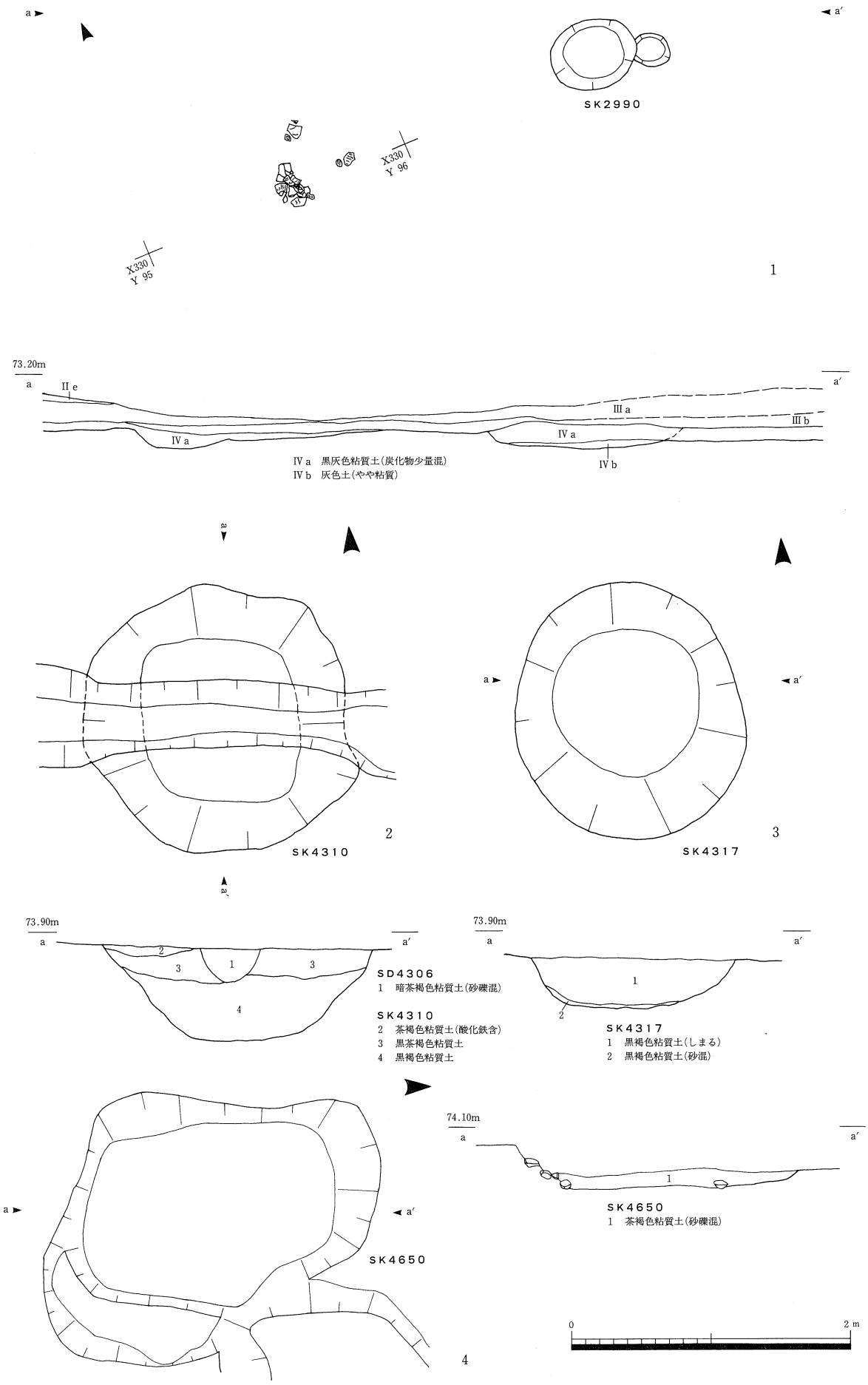
この時代の遺構は溝1条，土坑1基を検出したのみである。遺物は包含層，遺構の覆土に混入するが，量は少ない。

1　溝

B地区

3402号溝（SD3402，図版39）

X318～325，Y80～105付近で，東西方向に蛇行する溝。部分的にSD3401と重複する。両肩が確認された部分での幅は100cm～300cm，西端では広がっており推定幅は700cm，深さ16cm～30cmを測る。覆土は上・中・下層の3層に分かれ，上層は黒褐色で，やや粘質で炭化物・植物繊維を含み，中層は黄褐色砂層，下層は細かい砂利を含む暗灰色砂層である。遺物は縄文土器，土師器の椀・甕，須恵器の杯・蓋・壺・甕・横瓶，中世土師器，八尾の甕，珠洲の壺・甕・擂鉢，越前の甕，瀬戸の碗，瀬戸



第15図　遺構実測図(縄文時代)

1.SK2990　2.SK4310　3.SK4317　4.SK4650

美濃の皿，白磁の碗，青磁の碗，越中瀬戸の皿・擂鉢，唐津の碗，伊万里の碗，柱，宋銭（景徳元宝）が出土している。時期は８世紀後半～10世紀初頭，13世紀～18世紀と考えられ，新しい時期のものは切り合うＳＤ3401からの混入と考えられる。（田中道子）

なお，この溝の規模等については，第５表の溝（中世前期）一覧に掲載している。

２　土坑

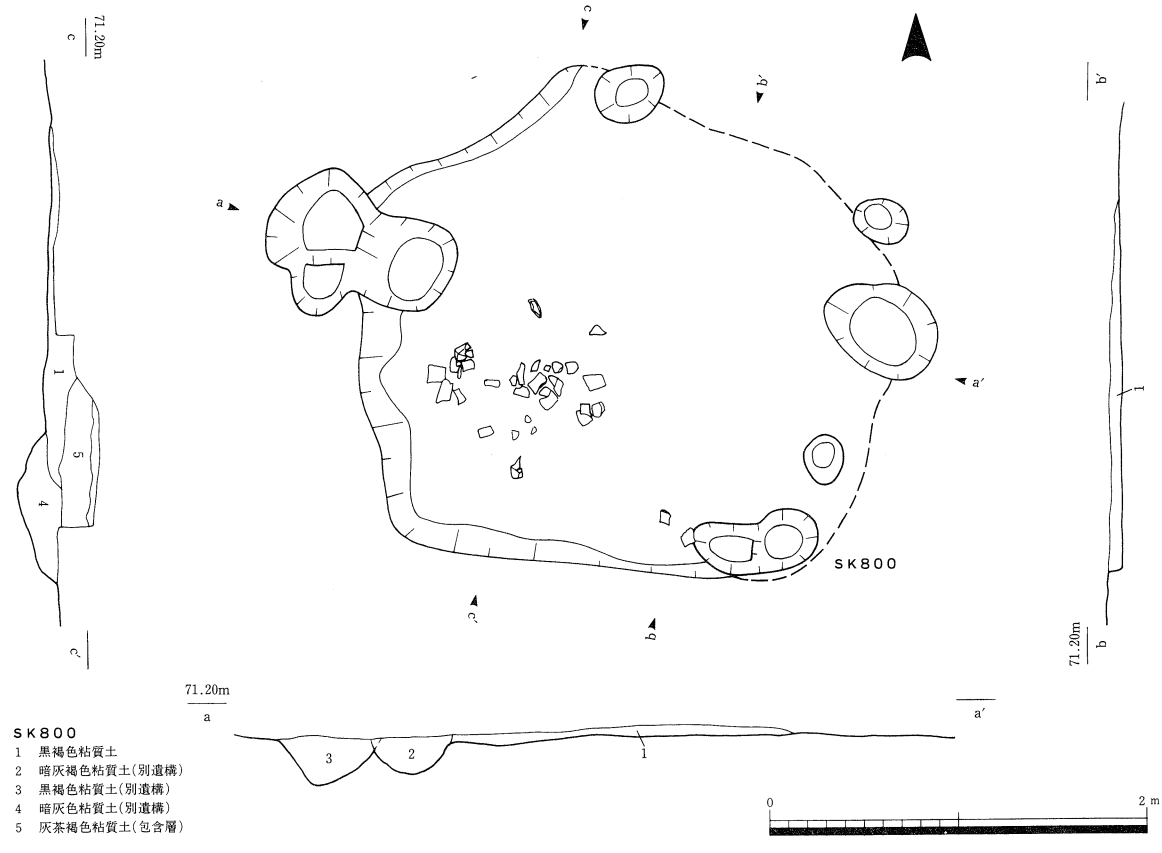
Ａ地区

800号土坑（ＳＫ800，第16図，図版39）

Ｘ473・474Ｙ111に位置し中世遺構検出面と同レベルで検出したため，所々中世の柱穴に切られる。平面形は，不整形で東壁の立ち上がりが不明瞭であるが，方形を呈するものと思われる。南北260cm，東西280cm，深さ５cm～15cmを測る。覆土は，黒褐色粘質土の単層である。遺物には，土師器・須恵器・白磁がある。土師器は，在地産のハケメ調整の甕と京都系の土師器杯Ａが出土している。甕は，内外面ハケメ調整で，体部下半ケズリ調整の個体がある。杯Ａは内面底部に粗略化したラセン暗文，体部に一段斜放射暗文を施すもので，県内での出土例は少ない。時期は共に８世紀半ば頃のものである。（島田美佐子）

遺構番号	整理番号	地　区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆　　土	出　土　遺　物	備　　考	時　　期
ＳＫ2990	ＳＫ790	Ａ３Ｓ	円形	60	50	30	黒褐色粘質土	縄文土器		縄文
ＳＫ4310	ＳＫ10	Ｂ１	円形	195		65	黒褐色粘質土	縄文土器・クルミ		縄文
ＳＫ4317	ＳＫ17	Ｂ１	楕円形	185	160	40	黒褐色粘質土			縄文
ＳＫ4650	ＳＫ50	Ｂ１－３		215	155	34	茶褐色粘質土			縄文？
ＳＫ800	ＳＫ100	Ａ１	方形	280	260	15	黒褐色粘質土	土師器・須恵器・白磁・珠洲	土師器杯に暗文あり	８世紀前半

第３表　土坑（縄文、奈良・平安時代）一覧



第16図　遺構実測図（奈良・平安時代）
ＳＫ８００

C　中世前期

中世前期の遺構には，掘立柱建物・溝・井戸・竪穴状土坑を含む土坑・土壙墓・集石遺構・石組遺構・畝状遺構・板塔婆の出土した供養関連の遺構がある。南北約400mの範囲で，A地区に遺構が集中している。時期は12世紀後半～13世紀・13世紀～14世紀・14世紀～15世紀である。

1　掘立柱建物

中世前期の掘立柱建物は125棟が復元できた。しかし建物に復元できない柱穴が多数あり，建物の棟数が増えると考える。建物は総柱のものと側柱のものがあるが，前者が多い。分布はA地区に集中している。建物は自然河川や区画溝の区域内に立地する。A2地区以北では12世紀後半～14世紀が多く，A3地区では14世紀～15世紀のものが多い。なお，塀・柵は近接する建物の記述の所で述べている。

A地区

1号掘立柱建物（SB01，第17・18図，図版40・50）

A地区北側，X495～502Y96～102に位置する，5間×4間の南北棟総柱建物である。桁行12.54m×梁行9.0m，平面積113m²である。水田の段によって削られているため，桁行が北に延びるかは不明である。主軸はN－12°－Eである。柱掘形は長軸39cm～56cm×短軸35cm～50cm，平均47cm×42cmの円形である。深さは32cm～56cm，平均40cmである。掘形埋土は茶褐色（粘質）土である。イ六柱穴はSB03の柱穴と重なっているが，切り合い関係は不明である。ハ二柱穴・ニ三柱穴はSB04，ロ二柱穴はSK08に切られる。柱痕跡は，イ一二・ロ五・ハ五・ホ六柱穴から確認でき，直径15cm前後である。イ三柱穴・ハ二柱穴から中世土師器が出土したことから，時期は12世紀後半～13世紀前半である。なお，建物の西側に柱穴が4基並ぶ柵SA01がある。全長6.54mで，東から210cm・225cm・219cmの間隔である。

2号掘立柱建物（SB02，第17・19図，図版40）

SB01に重なるように位置する，3間×3間の南北棟総柱建物である。桁行7.92m×梁行6.90m，平面積55m²である。SB01と同様，北側は水田の段で削られている。主軸はN－8°－Eである。イ柱列の柱穴は2基確認できなかった。柱掘形は長軸35cm～54cm×短軸30cm～43cm，平均42cm×36cmの円形である。深さは15cm～35cm，平均22cmである。掘形埋土は茶褐色（粘質）土である。柱痕跡は，イ三・ロ三・ハ四・ニ三柱穴で確認でき，直径10cm～15cmである。遺物は出土しなかったが，周辺の建物配置から建物の時期は13世紀であろう。

3号掘立柱建物（SB03，第17・19図，図版40）

SB01・02と重なるように位置する，4間×2間の総柱建物である。桁行8.58m×梁行4.80m，平面積41m²である。主軸はN－17°－Eで南北に向く。ロ柱列が少しずれる。柱掘形は長軸25cm～48cm×短軸24cm～46cm，平均42cm×36cmの円形である。深さは平均40cmである。掘形埋土は茶褐色（粘質）土である。柱痕跡は，イ一二・ロ一四・ハ一二柱穴で確認でき，直径約15cmである。ロ四柱穴から中世土師器が出土したことから，建物の時期は12世紀後半～13世紀初めである。なお，建物の北側には全長5.79m（東から315cm・264cmの間隔）の柵SA02があり，建物の東側は空地となっている。

4号掘立柱建物（SB04，第17・20図，図版40）

X493～499Y93～98に位置する，3間（8.10m）×2間（4.65m）の総柱建物である。SB01・SB05より新しい。平面積38m²である。主軸はN－12°－Eで南北を向く。柱掘形は長軸32cm～51cm×短軸31cm～47cm，平均41cm×38cmの円形である。深さは17cm～33cm，平均22cmである。掘形埋土は茶褐色（粘質）土である。柱痕跡は確認できなかった。遺物は出土しなかったが，時期はその他の

建物配置から13世紀であろう。

5号掘立柱建物（ＳＢ05，第17・20・21図，図版40）

ＳＢ04より古い東西棟総柱建物である。桁行４間(9.06m)×梁行３間(7.50m)，平面積68m²である。主軸はＮ－78°－Ｗである。柱掘形は長軸33cm～54cm×短軸23cm～48cm，平均38cm×34cmの円形である。深さは11cm～28cm，平均20cmである。掘形埋土は主に茶褐色（粘質）土で，地山土・灰褐色土がわずかに混じるものもある。柱痕跡は確認できなかった。遺物は出土しなかったが，ＳＢ04と同様，時期は13世紀であろう。

6号掘立柱建物（ＳＢ06，第20・21図）

Ａ地区北西端，Ｘ495～499Ｙ491～493にある，３間×２間の総柱建物である。桁行7.80m×梁行4.92m，平面積38m²である。主軸はＮ－11°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸40cm×短軸36cmの円形である。ロ四柱穴は23cm×20cm，それ以外は37cm～44cm×35cm～40cmである。深さは20cm～46cm，平均34cmである。イ四柱穴の掘形は明確に把握できなかった。掘形埋土は茶褐色（粘質）土である。柱痕跡は，ロ二柱穴だけに確認でき，直径約20cmである。遺物は出土しなかったが，その他の建物配置から建物の時期は13世紀であろう。

7号掘立柱建物（ＳＢ07，第22・23図）

Ｘ479～491Ｙ101～109にある，９間×４間の総柱建物である。桁行21.96m×梁行9.48m，平面積208m²の最大級の建物である。ＳＢ08より古い。主軸はＮ－12°－Ｅで南北に向く。北側が水田の段のため，桁行がもう１間延びるのかどうかは不明である。柱掘形は平均長軸48cm×短軸43cmの円形である。イ三六・ロ三柱穴は83cm×74cm，それ以外は33cm～58cm×24cm～54cmである。深さは18cm～54cm，平均36cmである。北梁行の柱穴と南梁行のそれでは遺構確認面で30cmの高低差がある。さらに，柱穴の底は北側では８cm～18cmと浅くなっている。ハ六・ニ六柱穴は溝状でつながっていると考える。掘形埋土は黒褐色（粘質）土か茶褐色（粘質）土であるが，ロ二～ハ四・ニ三四七柱穴のそれは赤褐色土が僅かに混じる。柱痕跡は確認できなかった。イ一三～八・ロ一三四七・ハ一四～六・ニ四五・ホ二～五九十柱穴から中世土師器が出土したことから，建物の時期は12世紀後半～13世紀初めである。なお，桁行・梁行の各柱間は約240cm（８尺）に近い。

8号掘立柱建物（ＳＢ08，第22・24図，図版41）

Ｘ480～486Ｙ99～105にある，４間×４間の総柱建物である。長軸10.62m×短軸9.42m，平面積100m²である。主軸はＮ－12°－Ｅ南北に向く。柱掘形は長軸32cm～58cm×短軸20cm～46cm，平均39cm×38cmの円形である。深さはハ三の9cm以外，18cm～41cmで，平均28cmである。掘形埋土は黒褐色粘質土・茶褐色粘質土である。イ二・ロ二三・ハ一柱穴から中世土師器が出土していることから，建物の時期は13世紀である。イ二柱穴とＳＫ305との切り合いは不明であるが，柱穴の方が新しいと考える。ＳＢ07と重なっているが，柱穴出土の遺物からＳＢ08の方が新しいと考える。建物の西側はＳＤ302で区画される。建物の南側1.5mにはＳＡ03（全長4.68m）がある。建物の柱列上に乗るため，塀になると考えられる。

9号掘立柱建物（ＳＢ09，第22図，図版41）

ＳＢ08の南側にある，２間×２間の総柱建物である。長軸5.34m×短軸4.68m，平面積25m²である。長軸の柱間は南から3.12m・2.22mで，１間が３ｍを越えている。主軸はＮ－11°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸38cm～49cm×短軸30cm～39cmで，平均40cm×35cmの円形である。深さは17cm～30cmで，平均25cmである。掘形覆土は黒褐色土か茶褐色土の単層である。柱穴から遺物が出土しなか

ったが，周辺の遺構から建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

10号掘立柱建物（ＳＢ10，第22・24図，図版41）

ＳＢ08の東側にある，４間×３間の東西棟総柱建物である。桁行9.66m×梁行4.92m，張出を含めて平面積60m²である。北桁行のニ柱列は西から222cm・276cm・240cm・228cmの柱間，南桁行のイ柱列は222cm・252cm・252cm・240cmの柱間である。桁行の南北が同じ柱間でない。東側の梁行は柱穴が確認できなく，北側に張出をもつ。主軸はＮ－78°－Ｗで，ＳＢ07～ＳＢ09に直交する。柱掘形は平均長軸41cm×短軸34cmの円形である。ニ三柱穴は28cm×22cm，それ以外は長軸33cm～56cm×短軸30cm～44cmである。深さは11cm～40cm，平均26cmである。イ～ハ一二柱穴はそれ以外の柱穴に較べてわずかに小さい。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土の単層で，柱痕跡は確認できなかった。遺物は出土しなかったが，周辺の建物配置から，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

11号掘立柱建物（ＳＢ11，第22・25図，図版42）

Ｘ486～491Ｙ94～100にある，４間×４間の総柱建物である。ＳＢ12より古い。北桁行の柱列は東から240cm・234cm・270cm・204cm，南桁行の柱列は228cm・228cm・240cm・252cmの柱間である。東梁行の柱列は南から216cm・192cm・258cm・252cm，西梁行の柱列は252cm・240cm・228cm・228cmである。北・南・西の三方の柱列は長さ9.48mであるが，各々の柱間は相違う。東柱列の長さだけが9.18mと短い。平面積は88m²である。東西方向を主軸と考えれば，Ｎ－83°－Ｗである。柱掘形は平均長軸43cm×短軸39cmの円形である。ロ一・ニ五柱穴は28cm・29cm×26cm・29cm，それ以外は38cm～60cm×28cm～45cmで，深さは13cm～32cm，平均25cmである。掘形埋土は黒褐色粘質土や茶褐色粘質土で，地山土がわずかに混じる。ハ二三五柱穴から中世土師器・白磁が出土したことから，建物の時期は13世紀である。

12号掘立柱建物（ＳＢ12，第22・25図，図版42）

ＳＢ11の西側にある，５間×４間の南北棟総柱建物である。ＳＢ11より新しい。主軸は真北に向く。桁行12.78m×梁行9.30m，平面積119m²である。主軸は真北に向く。柱掘形は平均長軸53cm×短軸44cmの円形である。イ一・ハ～ホ一・ロ～ハ六柱穴は32cm～42cm×24cm～35cm，それ以外は45cm～72cm×44cm～61cmである。深さは23cm～53cmで，平均36cmである。イ四・ロ二三・ニ四柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は12世紀後半～13世紀初めである。建物の南側と西側は広い空間が見られ，東側に建物を区画する溝（SD305）が伴う。

13号掘立柱建物（ＳＢ13，第26・27図）

Ａ１地区の北東隅，Ｘ480～485Ｙ110～113に位置する，３間×３間の総柱建物である。イ四柱穴からＳＢ14より新しい。長軸7.98m×短軸7.58m，平面積58m²である。主軸はＮ－82°－Ｗで南北に向く。柱掘形は長軸42cm～66cm×短軸32cm～43cm，平均50cm×40cmの円形である。深さは平均30cmである。イ一・ロ一・ハ一三柱穴は36cm～44cm，その他は22cm～30cmである。掘形埋土は黒褐色粘質土か茶褐色粘質土で，僅かに暗黄褐色粘質土が混じる。イ一・ロ一柱穴から直径約17cmの柱痕跡が確認できる。イ三・ロ二・ハ三柱穴から中世土師器が出土したことから，建物の時期は12世紀後半～13世紀初めである。

14号掘立柱建物（ＳＢ14，第26・27図）

ＳＢ13より古い総柱建物である。３間（8.85m）×３間（7.26m）で，平面積64m²である。長軸の東列は南から2.79m・3.39m・2.67m，西列は2.79m・2.79m・3.27mである。二列と三列の柱間に60cmの筋違いがあり，間仕切りになるのか。主軸はＮ－８°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸30cm～44cm×

短軸33cm～44cm，平均42cm×33cmの円形である。深さは16cm～42cm，平均29cmである。間仕切りの柱穴は他の柱穴と同じ大きさである。掘形埋土は黒褐色粘質土や茶褐色粘質土で，黄色褐色粘質土が混じる。ＳＫ1003が建物に伴うことから，建物の時期は12世紀後半～13世紀前半であろう。

15号掘立柱建物（ＳＢ15，第26・28図）

Ｘ478～481Ｙ107～112に位置する，４間×３間の東西棟総柱建物である。ＳＢ16と重複しているが切り合い関係は不明である。桁行8.76m×梁行6.78m，平面積は59m²である。主軸はＮ－76°－Ｗである。四と五柱列の，ハとニ柱列の各柱間が，198cmと他の柱間より少し狭い。廂になる可能性がある。柱掘形は長軸40cm～66cm×短軸30cm～50cm，平均48cm×43cmの円形である。深さは21cm～49cmで，平均30cmである。南柱列の柱穴の深さは北柱列より約10cm深い。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，黄褐色土が僅かに混じる。ハ二柱穴から中世土師器・珠洲，ニ二柱穴から白磁・青磁，ハ三・ニ三柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀後半～14世紀初めであろう。

16号掘立柱建物（ＳＢ16，第26・28図）

３間×３間の総柱建物で，ＳＢ15と重複する。長軸7.32m×短軸6.78m，平面積50m²である。ハとニ柱列の柱間は198cmと他の柱間より狭い。廂になる可能性がある。主軸はＮ－79°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸52cm×短軸44cmの円形である。ハ四・ニ四柱穴は77cm・70cm×64cm・40cm，それ以外は35cm～50cm×20cm～49cmである。深さは平均29cmで，南柱列の柱穴だけ約10cmで浅い。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，黄褐色土が僅かに混じる。柱痕跡は確認できなかった。ロ三柱穴から中世土師器が出土したが，この建物かＳＢ15のどちらに所属するのか不明である。また，ＳＢ13・ＳＢ15との切り合い関係も不明である。建物の時期は明確でないが，13世紀～14世紀であろう。

17号掘立柱建物（ＳＢ17，第29・30図）

Ｘ471～480Ｙ109～113に位置する，７間×４間の南北棟総柱建物である。桁行16.68m×梁行9.60m，平面積160m²である。ＳＢ14・16・17・19・20と重複する。主軸はＮ－８°－Ｅである。桁行の柱間は240cmの等間隔である。柱掘形は長軸48cm～75cm×短軸34cm～60cm，平均54cm×48cmの円形である。深さは28cm～47cm，平均35cmである。北・南柱列の地山面は20cmの高低差があるが，柱穴の深さは約10cmである。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，黄褐色土が僅かに混じる。イ六・イ七・ホ一～三柱穴の柱痕跡は直径15cm～20cmである。イ八柱穴の柱痕跡は一辺20cmの四角形である。ハ二・ニ四柱穴はＳＫ784（13世紀）・ＳＫ785（13世紀）を切る。イ五六・イ八・ハ一・ニ一五・ホ五柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀である。なお，建物の東側に３基の柱穴が並ぶＳＡ04がある。南から249cm・231cmである。東側が未調査なので，建物の一部とも考えられる。

18号掘立柱建物（ＳＢ18，第29図）

Ｘ470～475Ｙ110～112に位置する，５間×２間の南北棟側柱建物である。桁行10.20m×梁行4.44m，平面積は45m²である。主軸はＮ－２°－Ｅと真北に近い。ロ一柱穴はＳＤ786の覆土（13世紀）の上面でプランが確認できる。ニ五柱穴はＳＫ800（８世紀中頃）を切り，ハ三柱穴はＳＢ17の柱穴を切る。柱掘形は平均長軸51cm×短軸45cmの円形である。イ三・ハ三五六柱穴は60cm～70cm×52cm～54cm，その他は38cm～50cm×38cm～46cmである。深さは平均29cmである。ハ六柱穴は55cm，その他は19cm～40cmである。掘形埋土は黒褐色粘質土・茶褐色粘質土である。柱穴から遺物は出土しなかったが，ＳＢ17との切り合い関係から時期は13世紀～14世紀であろう。

19号掘立柱建物（ＳＢ19，第29・31図）

Ｘ473～477Ｙ103～110に位置し，西側が大きな攪乱穴で切られる。４間(9.72m)×３間(7.20m)の総

柱建物で，平面積70m²である。一柱列と二柱列の柱間だけ，300cmと広い。四方以外の柱穴は並びがやや不揃いである。主軸は，N－81°－Wで東西に向く。柱掘形は平均長軸38cm×短軸37cmの円形である。ニ二柱穴は76cm×68cm，その他は34cm～56cm×28cm～46cmである。深さは平均30cmである。イ三柱穴は9 cm，イ四柱穴は63cm，それ以外は26cm～35cmである。遺物は出土しなかったが，建物の時期は周辺の遺構から13世紀～14世紀であろう。

20号掘立柱建物（ＳＢ20，第31図，図版43）

ＳＢ19に重なるように位置する，2間×2間の総柱建物である。長軸5.10m×短軸4.20m，平面積21m²である。主軸はＮ－12°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸28cm～40cm×短軸24cm～38cmで，平均34cm×30cmの円形である。深さは17cm～35cm，平均22cmである。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，黄褐色粘質土が僅かに混じる。遺物が出土しなかったが，建物の時期は，ＳＢ19と同じく13世紀～14世紀であろう。

21号掘立柱建物（ＳＢ21，第31・32図，図版43）

Ｘ466～477Ｙ101～107にある，8間×4間の南北棟総柱建物である。北西端を攪乱で大きく抉り取られている。桁行19.92m×梁行9.30m，平面積185m²である。主軸はＮ－12°－Ｅで，ＳＢ18と同じ向きである。イ二三四柱穴との切り合いからＳＢ22より新しい。地山面は建物の南・北で20cmの高低差がある。柱掘形は平均長軸47cm×短軸42cmの円形である。ロ六・ホ七柱穴は72cm×48cm・58cm，ホ一柱穴は30cm×30cm，その他は38cm～60cm×34cm～50cmである。深さは平均35cmである。イ・ロ・ホ一柱穴は13cm～21cm，その他は22cm～46cmである。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，赤褐色土がわずかに混じる。柱痕跡はイ七・ロ三八・ニ五七・ホ二三柱穴から確認でき，直径18cm～22cmである。イ八・ハ六七柱穴から縄文土器，ハ五柱穴から土師器甕（8世紀），イ五柱穴から中世土師器，ハ六～七・ホ四柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は12世紀後半～13世紀前半である。

22号掘立柱建物（ＳＢ22，第31図，図版43）

ＳＢ21より古い，4間×3間の南北棟総柱建物である。桁行10.14m×梁行6.66m，平面積68m²である。主軸は，Ｎ－8°－ＥでＳＢ21よりやや北に向く。柱掘形は長軸39cm～50cm×短軸27cm～45cm，平均43cm×36cmの円形である。深さは10cm～33cm，平均21cmである。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，赤褐色土がわずかに混じる。柱痕跡はイ五・ロ二四・ハ四・ニ二柱穴から確認でき，直径15cm～20cmである。遺物は出土しなかったが，時期はＳＢ21との切り合い関係から12世紀後半～13世紀前半である。

23号掘立柱建物（ＳＢ23，第33図，図版43）

ＳＢ21に重なる位置にある，5間×5間の総柱建物である。主軸はＮ－19°－Ｅで南北に向く。桁行11.52m×梁行10.80m，平面積124m²である。短軸の一柱列は東から210cm・198cm・204cm・204cm・264cm，短軸の六柱列は210cm・216cm・216cm・186cm・252cmで，各々の柱間が相違する。短軸の西端の柱間は264cmでその他の200cm前後より広い。廂になると考えられる。北東隅にあるＳＫ773は建物に伴う。柱掘形は平均長軸41cm×短軸33cmの円形である。深さは平均28cmである。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，赤褐色土がわずかに混じる。柱痕跡はホ二三柱穴から確認でき，直径約15cmである。ニ四柱穴はＳＤ782（14世紀）より古く，ロ二柱穴はＳＤ785より新しい。イ三柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀後半である。なお，ヘ四～六柱穴が確認できないので，5間（11.52m）×4間（8.16m）に2間（4.38m）×1間（2.64m）の張出が付く建物とも考えれる。しかし，張出が広いので，5間×5間の建物と考えたい。

24号掘立柱建物（ＳＢ24，第33・34図，図版43）

Ｘ465～469Ｙ104～109に位置する。４間（8.88m）×２間（4.50m）の総柱建物で，１間（1.80m）×１間（1.80m）の張出がある。平面積は張出を含めて43m²である。張出には直径80cm・深さ10cmの浅い円形土坑がある。柱掘形は長軸28cm～55cm×短軸25cm～40cm，平均35cm×30cmの円形である。深さは９cm～30cm，平均21cmである。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，赤褐色土がわずかに混じる。柱痕跡は確認できなかった。主軸はＮ－73°－Ｗで，ＳＢ23と直交し，東西に向く。遺物は出土しなかったが，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

25号掘立柱建物（ＳＢ25，第34・37図）

Ａ１地区のＳＤ701の東側に位置する，３間×２間の総柱建物である。桁行7.14m×梁行5.28m，平面積38m²である。主軸はＮ－77°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸65cm～38cm×短軸34cm～46cm，平均47cm×41cmの円形である。イ一二・ロ一二四・ハ一柱穴は深さ17cm～26cm，それ以外は30cm～41cmである。深さは平均27cmである。掘形埋土は茶褐色土か黒褐色土で，地山土が混じる。柱痕跡が確認できなかった。イ三柱穴がＳＫ760の埋土上面で確認できたこと，ロ二柱穴から13世紀末～14世紀初めの中世土師器が出土したことから，建物の時期は14世紀であろう。

26号掘立柱建物（ＳＢ26，第34・35図）

Ｘ470～474Ｙ98～102，ＳＤ774に接するように位置する，３間×３間の総柱建物である。長軸7.26m×短軸6.30m，平面積46m²である。主軸はＮ－７°－Ｅで南北に向く。長軸・短軸の各平均柱間は242cm・210cmで，８尺・７尺に近い数値を示している。柱掘形は長軸30cm～50cm×短軸23cm～50cm，平均42cm×34cmの円形である。深さは25cm～50cm，平均35cmである。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土である。ハ一柱穴の柱痕跡は直径18cmである。ハ四柱穴はＳＤ302の埋土の上面から検出できた。ハ三柱穴は，遺構確認面の上面で確認できたが，深さが浅いため輪郭をたどれる程度である。イ一二・ハ一柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀前半である。なお，ＳＫ760（12世紀後半～13世紀）は建物に伴う。

27号掘立柱建物（ＳＢ27，第34・35図）

ＳＤ701の北側，Ｘ476～479Ｙ96～100に位置する総柱建物である。３間（6.72m）×２間（4.80m），平面積32m²である。主軸はＮ－83°－Ｗで東西に向く。イ三柱穴はＳＤ302を切る。柱掘形は平均長軸49cm×短軸42cmの円形である。イ四柱穴は60cm×30cmの長円形，その他は36cm～55cm×34cm～48cmである。深さは平均47cmである。ロ三・ハ二柱穴は67cm・74cm，その他は32cm～58cmである。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，黄褐色粘質土がわずかに混じる。建物の時期はＳＤ302との関係から，13世紀後半～14世紀であろう。

28号掘立柱建物（ＳＢ28，第36・37図）

Ａ１地区のＳＤ701の北側，Ｘ462～465Ｙ103～107に位置する，３間×２間の総柱建物である。桁行6.54m×梁行4.80m，平面積31m²である。東桁行の柱間は180cmと他の柱間に比べて狭い。主軸はＮ－78°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸33cm～58cm×短軸27cm～38cm，平均43cm×35cmの円形である。深さは14cm～28cm，平均23cmである。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土である。遺物は出土しなかったが，イ二柱穴はＳＤ785（13世紀）より新しいことから，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

29号掘立柱建物（ＳＢ29，第36・37図）

ＳＤ701の北側，Ｘ458～462Ｙ100～105に位置する。３間（7.92m）×２間（4.68m）の総柱建物で，平面積37m²である。柱掘形は長軸34cm～50cm×短軸29cm～42cm，平均41cm×37cmの円形である。

深さは31cm～57cm，平均48cmである。主軸はN－65°－Wと，大きく東に向く。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，黄褐色粘質土がわずかに混じる。柱痕跡は確認できなかった。ロ三柱穴はＳＤ302覆土上面で確認できるが，イ四柱穴とＳＤ701との切り合い関係は不明である。遺物は出土しなかったが，建物の時期はＳＤ302との切り合い関係から，13世紀～14世紀であろう。

30号掘立柱建物（ＳＢ30，第36・37図）

ＳＢ29と重複する，2間×2間の総柱建物である。東側の長軸を南側に1間延ばすと柱穴があるが，その他の柱穴がＳＤ701で確認できないので，2間×2間と考えて置く。長軸4.86m×短軸4.56mで，平面積22m²である。主軸はN－22°－Eで，ＳＢ29と同様東西に大きく向く。柱掘形は長軸37cm～52cm×短軸28cm～42cm，平均44cm×35cmの円形である。深さは39cm～59cm，平均46cmである。遺物が出土しなかったが，周辺の遺構配置から，時期は14世紀代であろう。

33号掘立柱建物（ＳＢ33，第38・39図）

X482～485Y87～90，ＳＤ701西の一隅に位置する。3間（5.64m）×3間（4.92m）の側柱建物に，1間(192cm)×1間(120cm)の張出部がある。平面積は30m²，主軸はN－86°－Wである。柱掘形は長軸28cm～42cm×短軸25cm～40cm，平均37cm×33cmの円形である。深さは平均22cmである。張出部の柱穴やイ二柱穴は4 cm～5 cmと浅く，その他は20cm～35cmである。張出にはＳＫ703を伴う。遺物が出土しなかったが，建物の時期は他の遺物配置から13世紀～14世紀であろう。また，近世のＳＫ709が建物の西から南へと入り込んでいる。

34号掘立柱建物（ＳＢ34，第38・39図，図版44）

ＳＢ33の南側，X463～468Y87～93に位置する。南北に流れる用水路でニ二～五柱穴が確認できない。4間（9.72m）×4間（8.88m）の側柱建物で，平面積86m²である。主軸はN－14°－Eで南北に向く。柱掘形は長軸33cm～46cm×短軸28cm～43cm，平均41cm×36cmの円形である。深さは平均26cmである。ハ一二・ホ五柱穴は38cm～41cm，イ三四・ホ一柱穴は9 cm～13cm，それ以外は19cm～33cmである。掘形埋土は黒褐色粘質土か茶褐色粘質土で，黄褐色粘質土がわずかに混じる。柱痕跡は，イ一・ハ五柱穴で確認でき，直径15cm～18cmである。ロ一柱穴はＳＢ37の柱穴に切られる。遺物は出土しなかったが，時期は13世紀～14世紀であろう。

35号掘立柱建物（ＳＢ35，第38・39図，図版44・50）

ＳＢ34に重なる位置にある，3間×2間の総柱建物である。桁行7.98m×梁行4.44m，平面積35m²である。ハ三四柱穴は用水路のため確認できない。ロ一・ハ一柱穴はＳＢ36の柱穴を切る。用水路とＳＫ704などのため，西側にもう1間延びる可能性があるが，柱穴は確認できない。主軸はN－6°－Eで南北に向く。柱掘形は長軸28cm～44cm×短軸25cm～42cm，平均40cm×34cmの円形である。深さは平均30cmである。イ一柱穴は9 cm，それ以外は21cm～42cmである。ロ一柱穴には直径約18cmの柱痕跡が確認できる。ロ三四・ハ一柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀である。

36号掘立柱建物（ＳＢ36，第38図，図版44・50）

ＳＢ35に切られている，2間×2間の総柱建物である。長軸4.41m×短軸4.02m，平面積18m²である。主軸はN－85°－Wで東西に向く。柱掘形は長軸32cm～50cm×短軸26cm～46cm，平均42cm×36cmの円形である。深さは9 cm～42cmで，平均21cmである。ロ一とハ一柱穴の地山面は33cmの高低差がある。ロ一三・ハ三柱穴から直径約15cmの柱痕跡が確認できた。遺物が出土しなかったが，ＳＢ35との切り合いから，時期は13世紀前半と考える。

37号掘立柱建物（ＳＢ37，第38図，図版44）

ＳＢ34の南隅，Ｘ461～464Ｙ91・92に位置する，２間×１間の側柱建物である。梁行は228cmである。東桁行は南から270cm・291cmの柱間，西桁行は南から291cm・306cmの柱間である。東西の桁行の長さが異なる。平面積は13m²である。主軸はＮ－９°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸32cm～40cm×短軸26cm～38cm，平均35cm×30cmの円形である。深さは平均15cmである。イ一三・ロ一柱穴は深さ７cm～11cm，その他は17cm～21cmである。遺物が出土しなかったが，ＳＢ34より新しいので，時期は13世紀～14世紀であろう。

38号掘立柱建物（ＳＢ38，第38図，図版44）

ＳＢ34に重複する位置にある。用水路によって柱穴は確認できなかったが，４間(推定)×１間の南北に長い側柱建物になる。主軸はＮ－84°－Ｗで東西に向く。桁行の二柱列と三柱列の柱間が459cmと長く，他の柱間は222cm・210cmと短いので，前者の間に柱穴１基を想定できる。そうすれば，４間×１間の建物となる。梁行は330cm，平面積は29m²である。柱掘形は長軸40cm～50cm×短軸34cm～44cm，平均46cm×41cmの円形である。深さは平均28cmである。ロ四柱穴はイ一柱穴より25cm深い。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土で，柱痕跡は確認できなかった。遺物は出土しなかったが，その他の遺構配置から，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

40号掘立柱建物（ＳＢ40，第40図，図版50）

Ｘ447～452Ｙ90～98，ＳＢ701の南際に位置する。６間×４間の総柱建物で，桁行14.70m×梁行9.30m，平面積137m²である。桁行が西側に延びる可能性がある。ＳＫ873など近世土坑によって攪乱を受けているため，柱穴の平面形が不明確であるものもある。主軸はＮ－81°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸34cm～60cm×短軸32cm～48cm，平均46cm×39cmの円形である。深さは平均25cmである。ハ一・ホ一二五柱穴は41cm～48cmと深く，その他は14cm～36cmである。掘形埋土は茶褐色土や黒褐色土で，黄褐色粘質土が混じる。イ二・ロ六・ハ五柱穴から幅15cm～20cmの柱痕跡が確認できた。イ三・ロ四・ニ三六・ホ三柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀である。

41号掘立柱建物（ＳＢ41，第40図，図版44）

ＳＢ40と重複するが，切り合い関係は不明である。４間×３間の総柱建物で，桁行9.60m×梁行7.50m，平面積72m²である。柱間は210cm・240cmで，北の梁行１間だけが300cmと広く，広廂の可能性がある。主軸はＮ－82°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸48cm×短軸37cmの円形である。深さは平均27cmである。イ一・ニ二柱穴は10cm～13cm，その他は26cm～40cmである。掘形埋土は暗茶褐色土や黒褐色土で黄褐色粘質土が混じる。ハ三柱穴から柱痕跡が確認できた。ロ一柱穴は近世のＳＫ824によって切られる。ハ二～四・ニ三五柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀である。なお，建物は未調査区に近いため，梁行がもう１間西に延びる可能性がある。

42号掘立柱建物（ＳＢ42，第40図，図版44）

Ｘ499～451Ｙ91～96に位置する，４間×３間の総柱建物である。桁行9.45m×梁行7.56m，平面積71m²である。主軸はＮ－７°－Ｅで南北に向く。ＳＢ40・ＳＢ41と同じく，Ａ１地区の西端に位置するので，梁行がもう１間西側に延びる可能性がある。近世のＳＫ871・ＳＫ872によって，四・五柱列の柱穴は攪乱をうけている。柱掘形は平均長軸46cm×短軸40cmの円形である。深さは平均42cmである。ハ三・ニ一五柱穴は60cm～70cm×50cm～60cmの円形で大きく，深さも40cm～63cmと深いことから，別の土坑の重複と考える。掘形埋土は茶褐色土か黒褐色土で，黄褐色粘質土がわずかに混じる。ハ一柱穴の掘形には，最下層（黄褐色土に茶褐色土が混じる）の上に，茶褐色土に黄褐色土が霜降り状に混じる埋土（幅15cm程）が確認でた。それは柱抜き取り痕跡とも考えられる。イ一・ハ一二柱穴から

中世土師器，ロ一柱穴から中世土師器・珠洲が出土した。建物の時期は13世紀である。

47号掘立柱建物（ＳＢ47，第42図，図版45）

Ｘ433～438Ｙ90～100に位置する，５間×４間の総柱建物である。桁行11.40m×梁行9.00m，平面積103m²である。西側の未調査区に建物が延びる可能性がある。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。北側の地山面は南側より約30cm低い。柱掘形は長軸34cm～56cm×短軸30cm～44cm，平均42cm×36cmの円形である。深さは平均36cmである。ロ一四・ハ一二・ニ一柱穴は13cm～25cm，その他は35cm～51cmである。ＳＤ1404（13世紀～14世紀），ＳＤ1304（近現代），ＳＤ1321（近世），ＳＤ1405（近世），現代の暗渠によって柱穴が切られている。掘形埋土は黒褐色土か茶褐色土である。柱痕跡は，イ六・ニ一六柱穴から確認でき，直径16cm～20cmの円形である。遺物は柱穴から出土しなかったが，ホ列柱穴はＳＤ1406に切られていることから，建物の時期は12世紀後半～13世紀初めである。なお，ハ一柱穴の切り合い関係から，建物はＳＢ48より古い。

48号掘立柱建物（ＳＢ48，第41・42図，図版45）

ＳＢ47より新しい，５間×２間の総柱建物である。桁行12.30m×梁行4.62m，平面積57m²である。西側は未発掘区のため建物は延びる可能性がある。主軸はＮ－14°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸41cm×短軸32cmの円形である。深さは平均23cmである。イ四・ロ三柱穴には暗黄褐色土の埋土中に暗灰褐色粘質土(径10cm～20cm)の柱痕跡が確認できる。北梁行の柱穴は暗渠で削平を受けている。柱穴の切り合い関係から，建物はＳＢ49より古く，ＳＢ50より新しい。柱穴から遺物が出土しなかったが，ＳＢ47・ＳＢ49・ＳＢ50との関係から考えて，建物の時期は13世紀であろう。

49号掘立柱建物（ＳＢ49，第42図）

ＳＢ48の南側に位置する，３間×２間の側柱建物である。桁行6.78m×梁行5.70m，平面積39m²である。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸32cm～42cm×短軸30cm～36cm，平均38cm×33cmの円形である。深さは25cm～39cm，平均32cmである。掘形埋土には少量の黄褐色粘質土混じりの茶褐色土が多い。ロ一・ハ一柱穴は確認できないが，ロ二柱穴との間は廂になるのであろう。柱穴から遺物は出土しなかったが，ＳＢ48より新しいことから，時期は13世紀後半～14世紀であろう。

50号掘立柱建物（ＳＢ50，第41図，図版45）

ＳＢ48より古い，４間×２間の総柱建物である。西側が未調査区のため，建物が延びるかどうか不明である。桁行10.38m×梁行4.62m，平面積48m²である。主軸はＮ－86°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸41cm×短軸35cmの円形である。ロ一柱穴は２つの柱穴が重なっているため，60cm×43cmの長円形になっている。深さは平均36cmであるが，イ二・ロ二四柱穴は深さ10cm～14cmと浅い。ハ一柱穴の掘形には，径25cmの円形の柱痕跡と考えられる暗褐色粘質土が確認でき，その土の周辺に地山土混じりの暗褐色粘質土が入る。イ二柱穴から12世紀後半～13世紀初めの中世土師器が出土した。建物の時期はＳＢ48との切り合い関係から考えて，建物は13世紀であろう。

51号掘立柱建物（ＳＢ51，第41図，図版45）

Ｘ423～427Ｙ90～100，ＳＤ1250の北側に位置する，５間（11.01m）×２間（4.50m）の総柱建物である。西側が未調査区のため建物が西に延びる可能性があるが，北梁行の二柱列が西側で確認できないので，梁行２間と考える。また，ＳＤ1252とＳＫ1267のため，南側にも柱穴が確認できないが，棟持ち柱の延長線上に柱穴ＳＫ1533（長軸28cm×短軸28cmの方形で，深さ27cm）が確認できるため，もう１間南に延びる可能性がある。主軸はＮ－14°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸38cm×短軸34cmの円形である。深さは平均31cmである。北梁行の地山面は南梁行のそれより27cm高いため，北側

の柱穴の底は南側のそれより10cm～20cm高い。掘形埋土は地山土（黄褐色土）混じりの暗茶褐色粘質土か黒色粘質土で，柱痕跡は確認できなかった。ハ二柱穴から中世土師器（12世紀後半）が出土したことやＳＢ52より新しいことから，建物の時期は13世紀であろう。

52号掘立柱建物（ＳＢ52，第41・44図，図版45・50）

ＳＢ51より古い，５間×３間の総柱建物である。桁行11.40m×梁行7.20m，平面積82m²である。主軸はＮ－75°－Ｗと東西に向き，ＳＤ1352に並行する。イ一とロ一柱穴・ロ一とハ一柱穴との柱間は219cmである。ハ一とニ一柱穴との柱間は282cmと広いことから，廂になる可能性がある。柱掘形は平均長軸40cm×短軸36cmの円形である。イ二四・ロ二～五・ハ二四六・ニ一三柱穴は深さ５cm～10cmと浅いが，平均の深さは20cmである。イ六柱穴には，径10cmの円形の，黒茶褐色土の柱痕跡が確認できる。ハ六柱穴は13世紀後半～14世紀初めのＳＫ1305に切られ，建物がＳＢ51より古いことから，建物の時期は13世紀前半であろう。なお，ハ五・ニ四柱穴から中世土師器が出土したが，小破片のため時期不明である。

53号掘立柱建物（ＳＢ53，第41・43図）

Ｘ429～433Ｙ92～100に位置する，５間×３間の側柱建物である。桁行12.44m×梁行6.54m，平面積80m²である。主軸はＮ－74°－Ｗで東西に向く。東梁行の柱間は南から240cm・234cm・180cm，西梁行のそれは204cm・228cm・222cm，各々柱間が異なる。ハ六柱穴は確認できないので，各々の柱穴を結んで，柱間の距離を推定した。柱掘形は平均長軸38cm×短軸33cmの円形である。イ六・ロ一・ニ五柱穴は深さ６cm～10cmと浅く，ハ一・五柱穴は深さ28cm・30cmと少し深いが，平均の深さは22cmである。ロ五・ハ五柱穴の埋土には，暗灰褐色粘質土がある。それは15cm～20cmの円形で柱痕跡と考えられる。その他の柱穴埋土は地山土混じりの茶褐色粘質土か黒褐色粘質土である。遺物が出土しなかったが，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。建物の内にＳＫ1302（13世紀）があるが共伴関係は不明である。ＳＢ55・ＳＢ56との切り合い関係も不明である。

55号掘立柱建物（ＳＢ55，第43図）

ＳＢ53の西側，Ｘ428～432Ｙ97～100に位置する，３間×２間の総柱建物である。桁行8.04m×梁行4.74m，平面積38m²である。主軸はＮ－２°－Ｗでその他の建物と違って真北より西に振っている。柱掘形は平均長軸36cm×短軸32cmの円形である。イ二～四・ハ四柱穴は深さ８cm～12cmで浅いが，平均の深さは22cmである。ロ一・四柱穴はＳＢ56と重複していて明確でない。イ五柱穴とＳＫ1953との切り合い関係は不明である。ロ四柱穴から14世紀の珠洲が出土したことから，建物の時期は14世紀であろう。

56号掘立柱建物（ＳＢ56，第43図）

Ｘ428～431Ｙ97～100に位置する，２間×２間の総柱建物である。主軸はＮ－１°－Ｅで東西に向く。長軸5.40m×短軸4.44m，平面積24m²である。東の長軸は南から252cm・288cm，西のそれは270cm・270cmと各々の柱間が相違する。柱掘形は平均長軸38cm×短軸34cmの円形である。深さの平均は23cmである。掘形埋土は暗茶褐色粘質土か黒褐色粘質土で，柱痕跡は確認できなかった。イ一柱穴から13～14世紀の中世土師器が出土した。建物はＳＢ55と重複しているため，ＳＢ55の建替えとも考えられる。建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

59号掘立柱建物（ＳＢ59，第44図）

Ｘ419～425Ｙ95～100に位置する，４間×４間の総柱建物である。ＳＤ1352のため，二列目の柱穴は確認できず，溝との新旧関係も不明である。長軸10.98m×短軸9.12m，平面積100m²である。主軸はＮ－

12°－Eで南北に向く。柱掘形は平均長軸42cm×短軸37cmの円形である。ハ一三・ニ一柱穴は深さ9cm～12cm，イ五・ホ一三柱穴は深さ46cm～53cmで，平均の深さは27cmである。地山面が茶褐色礫層のため，イ一，ロ一柱穴のプランは明確にできなかった。ホ一柱穴埋土は茶黒褐色土と黄茶褐色土（地山土を混じる）である。前者の土は径25cmの円形の柱痕跡である。ホ一柱穴は14世紀前半のＳＫ1300に切られているので，建物の時期は13世紀であろう。また，12世紀後半～13世紀初めのＳＤ1252を挟む配置関係から，建物はＳＤ1252より新しいと考える。なお，イ三・ニ五柱穴から中世土師器が出土したが，小破片のため時期不明である。

60号掘立柱建物（ＳＢ60，第45図）

Ａ１地区の南東隅，Ｘ426～432Ｙ107～111に位置する，５間×３間の側柱建物である。桁行10.92m×梁行7.20m，平面積79m²である。梁行の柱間は各々240cmの等間隔である。主軸はＮ－14°－Ｅで，ＳＤ1350と並行し，南北に向く。このようなＳＤ1350との位置関係から，建物は西側の溝まで延びないと考える。柱掘形は平均長軸41cm×短軸35cmの円形である。深さは平均29cmである。北梁行の地山面は南梁行のそれより20cm高いが，各々の柱穴の深さには影響していない。イ～ロ一柱穴の深さは39cm・16cm，イ～ハ六柱穴のそれは33cm・24cm・17cmである。掘形埋土は地山土混じりの茶褐色土か黒褐色土であるが，柱痕跡は確認できなかった。上記の溝との切り合い関係と，ＳＫ1392（13世紀）・ＳＫ1395（13世紀）に柱穴が切られていることから，建物の時期は13世紀前半である。

61号掘立柱建物（ＳＢ61，第45図）

ＳＢ60に重複するように位置する，４間×３間の総柱建物である。桁行8.40m×梁行6.51m，平面積55m²である。主軸はＮ－20°－Ｅで，北東に向き，ＳＤ1350と並行する。ＳＢ60と同様に，建物は西側に延びないと考える。柱掘形は平均長軸41cm×短軸32cmの偏平な円形であるが，イ一・ニ五柱穴は56cm・60cm×26cm・42cmの楕円形に近い。深さは平均35cmである。イ五柱穴は９cm，ニ五柱穴は44cmで，南梁行の柱穴の深さが一定していない。掘形埋土は地山土混じりの茶褐色土か黒褐色土で，柱痕跡は確認できなかった。イ一二四・ロ二五・ハ二・ニ五柱穴から13世紀の中世土師器，ハ五柱穴から13世紀の珠洲が出土した。柱穴が13世紀のＳＫ1292・ＳＫ1295に切られていることから，建物の時代は13世紀前半である。

63号掘立柱建物（ＳＢ63，第46図，図版45・50）

Ａ１地区の南西隅，Ｘ418～427Ｙ101～112，ＳＤ1350を挟むように位置する。８間×６間の総柱建物である。桁行18.60m×梁行14.70m，平面積273m²の最大規模の建物である。柱掘形は平均長軸42cm×短軸35cmの円形である。北側の地山面の高さは南側のそれより10cm程高いため，柱穴の底も北側の方が10cm程高い。深さは平均31cmである。掘形埋土は，地山土混じりの茶褐色土か黒褐色土で，柱痕跡は確認できなかった。ＳＤ1350との切り合い関係が不明である。主軸はＮ－76°－Ｗで，東西に向き，ＳＤ1252に並行する。ト九柱穴から12世紀後半の中世土師器，ニ九・ホ八・ヘ四五・ト七八柱穴から13世紀前半の中世土師器が出土したので，建物の時期は13世紀であろう。なお，建物内に土坑が多数あるため，建物に土坑が伴うのかは不明である。

65号掘立柱建物（ＳＢ65，第47・48図，図版46）

Ａ２地区の北側，Ｘ409～413Ｙ96～102，ＳＤ2453の南側に位置する。４間×３間の総柱建物で，桁行9.36m×梁行7.68m，平面積72m²である。主軸はＮ－76°－Ｗで東西に向き，ＳＤ2453に並行する。柱掘形は長軸35cm～54cm×短軸28cm～48cm，平均48cm×42cmの円形である。深さは16cm～47cm，平均35cmである。掘形埋土は地山土が僅かに混じる茶褐色土か黒褐色土である。柱痕跡は確認できな

かった。ロ二～四柱穴はＳＫ2486（13世紀～14世紀）・ＳＫ2972に切られている。イ三・ロ一・ハ一二四・ニ四五柱穴から13世紀の中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀であろう。

66号掘立柱建物（ＳＢ66，第47・48図，図版46）

ＳＢ65に重なるような位置にある，４間×３間の側柱建物である。桁行9.09m×梁行7.32m，平面積67m²である。桁行は東から159cm・300cm・240cm・210cmで，第１列目が狭く，廂になるのであろう。イ・ロ柱列の西側270cmに柱穴が確認できるが，ロ・ハ柱列が未確認のため，ここまで含めて考えない。主軸はＮ－77°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸25cm～60cm×短軸28cm～48cm，平均40cm×37cmの円形である。深さは平均32cmである。イ二柱穴は４cm，その他は14cm～36cmである。掘形埋土は茶褐色土か黒褐色土で，所々に地山土が混じる。柱痕跡は確認できなかった。柱穴の切り合いから，ＳＢ65より新しく，ＳＫ2485・ＳＫ2486（13世紀～14世紀）より古い。ニ五柱穴から12世紀末の中世土師器が出土した。これらのことから，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

67号掘立柱建物（ＳＢ67，第47・48図，図版46）

ＳＤ2453の南側，ＳＢ65・ＳＢ66に重複する位置にある，５間×２間の総柱建物である。桁行12.36m×梁行4.26m，平面積53m²である。主軸はＮ－78°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸26cm～50cm×短軸28cm～42cm，平均37cm×34cmの円形である。イ一六柱穴の深さは10cm～14cm，他の柱穴は23cm～37cmで，平均の深さ26cmである。柱痕跡が掘形埋土から確認できなかった。柱穴の切り合いから，ＳＢ73より新しく，ＳＫ2486（13世紀～14世紀）・ＳＥ2658（13世紀末～14世紀）・集石遺構ＳＸ2972より古い。65・66号建物との切り合い関係は不明である。建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

68号掘立柱建物（ＳＢ68，第47・49図，図版46）

Ｘ410～413Ｙ94～98，ＳＤ2453に接するように位置する，３間×３間の総柱建物である。長軸7.92m×短軸7.11m，平面積56m²である。主軸はＮ－12°－Ｅで南北に長い。北梁行のハ四・ニ四柱穴は溝のために確認できないが，建物が北側に延びる可能性がある。柱掘形は長軸30cm～44cm×短軸28cm～40cm，平均38cm×35cmの円形である。イ三四・ハ二柱穴の深さは17cm～23cm，それ以外の柱穴は28cm～42cmである。深さの平均は30cmである。柱痕跡は掘形埋土から確認できなかった。イ三柱穴から13世紀前半の中世土師器が出土したことや，ＳＤ2453との関係から，建物の時期は13世紀であろう。

69号掘立柱建物（ＳＢ69，第47・49図，図版46）

Ｘ410～413Ｙ93～98に位置する，３間×２間の総柱建物である。桁行6.48m×梁行5.40m，平面積35m²である。主軸はＮ－77°－Ｗで東西に向く。ＳＤ2453で切られているが，ＳＢ68と同様，北側に建物が延びる可能性がある。柱掘形は長軸30cm～48cm×短軸26cm～38cm，平均38cm×33cmの円形である。深さは平均26cmである。ロ三柱穴は12cm，それ以外は22cm～35cmである。イ四柱穴の掘形埋土には，茶褐色土（柱痕跡と考える）・地山土混じりの茶褐色土がある。イ一・ハ一柱穴から13世紀の中世土師器が出土したこと，ＳＤ2453ｂより新しいことから，建物の時期は13世紀前半である。

70号掘立柱建物（ＳＢ70，第47・49図，図版46）

ＳＢ69の南側，５間×４間の総柱建物である。桁行12.00m×梁行9.30m，平面積112m²である。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。ホ四柱穴は長軸54cm×短軸34cmの楕円形，それ以外の柱掘形は長軸45cm×短軸40cmの円形である。深さは，19cm～25cmと少し浅いもの（ロ二・ロ五・ハ一～三・ホ二～三柱穴），41cm～52cmの深いもの（イ二・ロ三・ハ六・ニ一六・ホ六柱穴）があるが，平均32cmである。掘形埋土からは柱痕跡が確認できない。イ一・イ三・ロ二五・ハ一～六・ニ一～三・ホ二三五柱穴から13世紀の中世土師器が出土した。出土遺物とＳＤ2453の配置関係から，建物の時期は13世紀

であろう。また，イ一柱穴の掘形埋土から建物はＳＢ71より新しい。

71号掘立柱建物（ＳＢ71，第47図，図版46）

ＳＤ2203の西側，Ｘ404～411Ｙ98～102に位置する，４間×４間の総柱建物である。長軸10.74m×短軸9.00m，平面積97m²である。主軸はＮ－12°－Ｅで南北に向き，ＳＤ2453，ＳＤ2203の各々に並行する。イ五柱穴は少し楕円形に近いが，その他の柱穴は円形で，平均長軸37cm×短軸34cmである。イ一柱穴の深さは17cm，ニ一・ホ二柱穴は49cm・51cm，それ以外は23cm～42cmである。平均の深さは34cmである。柱穴の切り合い関係から，ＳＢ70・ＳＢ76より新しく，ＳＫ2972より古い。イ五・ロ四柱穴から12世紀後半～13世紀後半の中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀後半であろう。

72号掘立柱建物（ＳＢ72，第47図，図版46）

ＳＢ66より古く，ＳＢ67・ＳＢ76より新しい，５間×４間の総柱建物である。桁行11.58m×梁行10.20m，平面積118m²である。主軸はＮ－74°－Ｗで，その他の建物より南北に向く。ハ六・ニ三柱穴は長軸48cm～58cm×短軸35cm～36cmで楕円形に近いが，その他は35cm×30cmの円形である。深さは平均25cmである。ロ二・ハ六柱穴は11cm・54cm，それ以外は15cm～38cmである。ホ一柱穴の掘形埋土は，地山土が僅かに混じる黒褐色土，灰褐色土である。後者の土は柱痕跡と考えられ，径12cmの円形である。ハ五柱穴出土の中世土師器は13世紀前半である。ＳＢ66・ＳＢ67・ＳＢ73との切り合いから，建物の時期は13世紀である。

73号掘立柱建物（ＳＢ73，第47図，図版46）

Ｘ408～411Ｙ97～101，ＳＢ67に重なるように位置する，４間×２間の総柱建物である。主軸はＮ－13°－Ｅで南北に向く。桁行7.38m×梁行4.08m，平面積30m²である。桁行と梁行の柱間は各々平均184cm・平均204cmで狭い。柱掘形は平均長軸32cm×短軸29cmの円形である。深さは20cm～46cm，平均34cmである。ハ一柱穴は炭が多く混じる茶褐色土の掘形埋土である。その柱穴の底から，14世紀前半の石鍋の口縁部が出土している。ロ柱列は近世のＳＤ2481・ＳＤ2985に切られていて明確でない。柱穴の切り合いから，建物はＳＢ67・ＳＢ73・ＳＫ2972より古い。ハ五柱穴出土の中世土師器は13世紀後半～14世紀初めである。建物の時期は14世紀前半頃であろう。

74号掘立柱建物（ＳＢ74，第47図，図版46）

ＳＢ73の南側に位置する，４間×３間の総柱建物である。桁行9.12m×梁行8.16m，平面積74m²である。主軸はＮ－73°－Ｗで南北に向く。柱掘形は長軸36cm～50cm×短軸32cm～46cm，平均43cm×37cmの円形である。深さは平均35cmである。ハ三・ニ二柱穴は18cm・20cm，それ以外は25cm～44cmである。イ三柱穴の掘形埋土には，柱痕跡（茶褐色土）が底まで達し，その外側に地山土混じりの茶褐色土がある。その痕跡は径15cmで約70°東に傾いている。ロ二柱穴の底には，径約15cmの柱を据えつけるための穴があり，柱底と15cmの落差がある。ロ五・ニ五・ハ二四柱穴から13世紀の中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀である。

75号掘立柱建物（ＳＢ75，第47・50図，図版46・50）

Ａ２地区のＳＤ2453とＳＤ2451との中に位置する，６間×５間の総柱建物である。桁行13.80m×梁行11.82m，平面積163m²である。主軸はＮ－89°－Ｗで東西に向く。イ柱列は平均長軸31cm×短軸26cmで深さ22cm，それ以外は平均43cm×39cmで深さ34cmである。規模は平均41cm×37cmの円形で，深さ32cmである。イ列柱穴は浅くて小さく，廂になるのであろう。ロ四～六・ハ六・ニ二・ホ七・ヘ四柱穴から径15cm～20cmの円形柱痕跡が確認できた。ヘ七柱穴は一辺15cmの方形柱痕跡がある。前者の土は茶褐色土で，後者は黒褐色土である。ハ一柱穴から玉縁の白磁碗（13世紀），ハ七・ホ六・ヘ

四六柱穴から13世紀の中世土師器，イ二四・ロ二・ニ二柱穴から中世土師器が出土した。全ての遺物は小破片である。出土遺物から，建物の時期は13世紀である。建物の東側に方形土坑ＳＫ2457があるが，建物との関係は不明である。なお，イ一～五柱穴に接するように柱穴が５基一列に並ぶ。長さは９ｍで，建物の塀になるのであろうか。

76号・77号掘立柱建物（ＳＢ76・77，第47・51図，図版46・51）

Ｘ396～405Ｙ88～95，ＳＢ75に重なる位置にある，８間×４間の総柱建物である。主軸はＮ－９°－Ｅで南北に向く。南桁行は南から234cm・285cm・69cm・180cm・210cm・228cm・258cm・258cm，北桁行は234cm・285cm・69cm・210cm・210cm・228cm・258cm・258cmである。桁行の長さが，17.22ｍと17.52mで，南北で少し異なる。三列と四列の間に69cmの間仕切りが確認できる。梁行9.06mで，平面積157m²である。柱掘形は長軸22cm～44cm×短軸20cm～40cm，平均34cm×31cmの円形である。深さは８cm～32cm，平均22cmである。間仕切りと考える柱穴は，上記の数値に類似する。ニ一・二柱穴には僅かに柱痕跡が確認できた。柱穴の切り合い関係から，ＳＢ71，ＳＫ2456，ＳＫ2951より古い。ロ三・ハ八・ホ一七九柱穴から小破片の中世土師器が出土した。ロ九柱穴の中世土師器は13世紀中頃，ロ七柱穴のものは13世紀後半である。建物の時期も13世紀後半と考えるが，ＳＢ75との新旧関係は不明である。なお，建物の南70cmに並行して，４間×１間以上の建物ＳＢ77が確認できる。桁行は東から198cm・240cm・240cm・198cmの総長8.76mである。梁行は180cmで，ＳＤ2451に切られていて，全長は不明である。主軸はＮ－80°－Ｗである。柱掘形は平均長軸31cm×短軸27cmである。深さは平均25cmである。東列の柱穴がＳＢ76の並びとずれるので，ＳＢ76の柱穴でないと考える。

78号掘立柱建物（ＳＢ78，第52図，図版46）

Ａ２地区の北西隅，Ｘ408～410Ｙ88～92に位置する，２間×２間の側柱建物である。長軸4.20m×短軸3.96m，平面積17m²である。主軸はＮ－７°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸31cm×短軸29cmの円形である。イ一柱穴の深さが17cmと浅いが，深さは平均31cmである。イ二三柱穴は柱穴が重複していて，規模が明確でない。掘形埋土は茶褐色土の単層である。イ二三・ロ一三・ハ三柱穴から13世紀の中世土師器が出土した。13世紀のＳＥ2497の上屋になるため，建物の時期は13世紀であろう。

80号掘立柱建物（ＳＢ80，第41・52図，図版46）

ＳＢ78の南側，ＳＤ2451の北側に位置する。２間×２間の総柱建物である。長軸4.80m×短軸4.68m，平面積22m²である。西側が未発掘区のため，建物は西側に延びる可能性がある。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸35cm～50cm×短軸32cm～41cm，平均40cm×36cmの円形である。イ三・ロ二柱穴の深さは18cm・19cmで，ハ二三柱穴は40cm・42cmで，深さの平均は30cmである。掘形埋土には黒褐色土か茶褐色土の単層が多い。ＳＫ2460や，建物に接するＳＢ81との切り合いは不明である。ハ三柱穴出土の中世土師器は13世紀後半～14世紀初めである。建物の時期は13世紀後半～14世紀初めである。

81号掘立柱建物（ＳＢ81，第52図，図版46）

76号建物の西側に位置する，３間×２間の総柱建物である。桁行6.00m×梁行4.92m，平面積30m²である。北梁行の柱穴は並びが少しずれる。主軸はＮ－８°－Ｅで，ＳＢ76と同じ南北に向く。ハ一三柱穴は確認できない。柱掘形は長軸24cm～33cm×短軸19cm～29cm，平均29cm×25cmの円形である。イ三柱穴の深さ６cm以外は12cm～32cmで，深さの平均は21cmである。柱痕跡は確認できなかった。柱穴から遺物は出土しなかった。建物の時期はＳＢ76との並びから13世紀後半であろう。なお，石組土坑ＳＸ2458は建物に伴うと考えられる。

82号掘立柱建物（ＳＢ82）

Ｘ398～408Ｙ107～111，Ａ２地区のＳＤ2203の東側，ＳＤ2451に接するように位置する。２間×２間の総柱建物である。桁行4.80m×梁行4.80m，平面積23m²である。東側が未調査区のため，桁行は延びる可能性がある。南北を主軸と考えれば，Ｎ－８°－Ｅである。柱掘形は平均長軸29cm×短軸24cmの円形である。深さの平均は20cmである。ロ柱列並びの西189cmに，19cm×16cmの円形の土坑がある。それを柱穴と考えれば３間×２間の建物になる。しかし，梁行の北と南に対応する柱穴が確認できなかったので，ここまで建物の範囲として考えない。柱穴から遺物が出土しなかったが，周辺の遺構配置から，建物は13世紀～14世紀であろう。

83号掘立柱建物（ＳＢ83，第53図）

Ｘ386～391Ｙ87～93，Ａ２地区の東側，ＳＤ2451とＳＤ2201に囲まれた地区に位置する。５間×３間の側柱建物で，桁行10.20m×梁行7.08mである。梁行は東から222cm・174cm・312cmで柱間に散つきがあり，１間が３ｍを越えるものがある。建物の北東隅に１間（234cm）×１間（168cm）の張出がある。平面積は張出部を入れると，76m²になる。イ六・ロ一～三・ニ四六柱穴は確認できず，建物は柱が中抜けする形態である。柱掘形は長軸28cm～50cm×短軸24cm～40cm，平均35cm×27cmの円形である。深さは平均31cmである。ロ一四柱穴は17cm，それ以外は22cm～40cmである。張出部の柱穴は32cm・34cm×26cm・30cmの円形，深さ26cm・30cmであり，建物本体の柱穴の規模に近い。イ五柱穴の柱痕跡は，地山土が僅かに混じる暗茶褐色土（幅14cm）で，東に約70°傾いている。イ三・ロ二柱穴から時期不明の中世土師器が出土した。建物は２間×５間の身舎に幅広の廂を持つと考えられる。建物にＳＫ2220が伴うとすれば，時期は13世紀～14世紀であろう。

86号掘立柱建物（ＳＢ86，第54図）

ＳＢ83の南側に位置する，３間×２間の総柱建物である。桁行7.56m×梁行4.68m，平面積35m²である。桁行・梁行が歪む。主軸はＮ－14°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸22cm～42cm×短軸18cm～40cm，平均31cm×28cmの円形である。深さは５cmのロ一柱穴以外の平均26cmである。北梁行の地山面は南梁行のそれに較べて約20cm程低いが，柱穴の底では北梁行の方が約10cm深い。イ二柱穴とロ二柱穴の南60cmに柱穴２基がある。その柱掘形は32cm・35cm×32cm・35cmの円形で，深さ19cmである。間仕切りのためであろう。イ二柱穴から12世紀後半の中世土師器，イ二柱穴から13世紀後半の中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀後半～14世紀初めであろう。

87号掘立柱建物（ＳＢ87，第53・54図，図版51）

Ｘ374～378Ｙ86～92，ＳＤ2201とＳＤ2207に囲まれている，４間×３間の総柱建物である。桁行9.42m×梁行7.80m，平面積73m²である。主軸はＮ－76°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸30cm～44cm×短軸23cm～42cm，平均38cm×35cmの円形である。深さは15cm～38cm，平均25cmである。イ二・ハ一三柱穴から柱痕跡が確認できる。平面形は不明だが，幅10cm～20cmである。ハ一柱穴の柱痕跡は50°東側に傾いている。ロ五柱穴埋土の中程から完形の土師器が出土している。柱根を抜き取った後に埋置したものであろう。ハ二柱穴から13世紀の白磁碗の体部片が出土している。建物の時期は13世紀であろう。なお，建物の東辺と南辺に，「Ｌ」字状に塀ＳＡ05がある。ＳＡ05は，東西の長さ4.59m（東から159cm・138cm・162cmの間隔），南北の長さ6.24m（南から129cm・225cm・270cmの間隔）である。柱穴の掘形は，31cm×25cmの円形，深さ12cmであり，建物の柱穴より少し小さい。また，建物の南側にＳＡ06がある。長さ6.72m（東から294cm・222cm・156cmの間隔）である。これはＳＫ2208に伴う可能性がある。

88号掘立柱建物（ＳＢ88，第54図，図版51）

ＳＢ87の西側に位置する，3間×3間の総柱建物である。長軸7.02m×短軸6.78m，平面積48m²である。西側が未調査区のため，建物が延びる可能性がある。主軸はＮ－20°－Ｅで，その他の建物と方向を異にする。柱掘形は長軸30cm～40cm×短軸26cm～35cm，平均36cm×30cmの円形である。深さは，ハ二柱穴の8 cm以外，平均28cmである。ハ四・ニ四柱穴には幅14cm～20cmの柱痕跡（平面形は不明）が確認できた。前者の痕跡は炭粒が多く混じっており，柱根自体が炭化したものとも考えられる。イ一・ロ一柱穴はＳＫ2208の埋土の下から確認できる。イ三柱穴から中世土師器が出土したが，小破片のため時期不明である。イ一・ロ一柱穴はＳＫ2208（13世紀後半）に切られていることから，建物の時期は13世紀前半であろう。

92号掘立柱建物（ＳＢ92，第55図，図版46・51）

Ｘ379～386Ｙ102～110，ＳＤ2203の西側に位置する，5間×5間の側柱建物である。桁行12.00m×梁行11.40m，平面積137m²である。主軸はＮ－18°－Ｅで南北に向く。西側が未発掘区のため，建物が延びる可能性がある。地山面が北西に大きく傾斜するため，イ一柱穴の地山面はホ一柱穴のそれに較べて，34cm高い。イ一とロ六柱穴とは46cm，イ一とヘ六柱穴とは71cmの差がある。イ一柱穴の底はホ一柱穴の地山面と同じである。このような地形で，さらに，地山土の上に黒褐色土が堆積しているため，ホ・ヘ柱列柱穴が検出できない。柱穴が元来あったのが，確認できなかったとも考えられるが，このあたりは地山面がそれほど低くないので柱が中抜ける形態をとると考えておく。ロ六・ヘ六柱穴の底はイ一柱穴の底より17cm・47cm低い。すなわち，イ一柱穴の底はホ一・ロ六・ヘ六柱穴の地山面より高いことになる。柱掘形は平均長軸43cm×短軸37cmの不整円形である。深さは平均46cmである。ロ五・ハ四・ニ四柱穴から茶褐色土の柱痕跡が確認できる。その痕跡は15cm～20cmの円形である。ロ五・ハ一柱穴から小破片の中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀であろう。

94号掘立柱建物（ＳＢ94，第55図）

ＳＢ92の南側に位置する，5間×3間の総柱建物である。桁行11.34m×梁行8.10m，平面積92m²である。主軸はＮ－68°－Ｗで南北に向く。柱掘形は長軸36cm～54cm×短軸32cm～42cm，平均45cm×39cmの円形である。深さは平均40cmである。ニ一柱穴は22cm，それ以外は27cm～51cmである。柱痕跡はイ三柱穴で確認できる。地山土が僅かに混じる茶褐色土で，16cmの円形である。イ二三五・ロ二三柱穴から中世土師器の破片が出土したが，各々の時期は不明である。ＳＫ2239（15世紀）・ＳＫ2241・ＳＫ2243・ＳＫ2244・ＳＫ2250・ＳＤ2256（15世紀）が柱穴を切り，ＳＤ2203と並走していることから，建物の時期は13世紀である。

95号掘立柱建物（ＳＢ95，第56図，図版47・51）

Ａ3地区の北西隅，Ｘ359～366Ｙ85～92，ＳＤ2207の南側に位置する。5間×4間の総柱建物で，桁行13.32m×梁行9.84m，平面積131m²である。主軸はＮ－16°－Ｅで南北に向く。柱掘形は，別の柱穴と重複しているロ・ニ三柱穴以外が長軸32cm～56cm×短軸28cm～50cmで，平均44cm×40cmの円形である。深さは平均30cmである。イ一五・ホ四五柱穴の深さは4 cm～13cm，その他は22cm～41cmである。イ三・ロ三五・ハ三・ニ一四五・ホ三四柱穴には柱痕跡が確認できる。ロ三の柱痕跡は一辺18cmの四角形で，それ以外は12cm～16cmの円形である。イ・ロ・ハ三柱穴の柱痕跡には炭が混じっている。柱穴の切り合いから，建物はＳＢ96・ＳＫ3008より古い。ニ四柱穴から中世土師器，ホ四柱穴から縄文土器が出土した。建物の時期は12世紀後半～13世紀前半である。

96号掘立柱建物（ＳＢ96，第56図，図版47・51）

ＳＢ95に重複する位置にある，５間×４間の総柱建物である。桁行12.90m×梁行9.60m，平面積124㎡である。主軸はＮ－18°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸44cm×短軸41cmの円形である。深さは平均26cmである。イ一六・ホ三～六柱穴は平均36cm×28cm・深さ12cmで，その他の柱穴に較べて小さくて浅い。柱痕跡がハ三・ニ三四柱穴から確認できる。前者の柱痕跡は14cmの円形である。後２者のそれは一辺18cm～20cmの方形で，柱根が炭化したと考えられる炭が混じる。イ一二・ロ五・ハ五・ニ三四柱穴から12世紀後半～13世紀後半の中世土師器，ホ五柱穴からは13世紀後半の珠洲擂鉢が出土した。柱穴の切り合いから，建物はＳＢ95・ＳＢ97・ＳＢ98より新しい。建物の時期は13世紀後半である。

97号掘立柱建物（ＳＢ97，第56図，図版47）

ＳＢ95・ＳＢ96に重複している，４間×４間の総柱建物である。桁行11.10m×梁行9.36m，平面積104㎡である。主軸はＮ－15°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸42cm×短軸37cmの円形である。深さは平均22cmである。イ～ホ一柱穴は平均32cm×30cm・深さ21cmである。ロ五・ニ三・ホ一三柱穴は深さ35cm～44cmである。柱痕跡は確認できなかった。ニ・ホ四柱穴から中世土師器が出土したが，小破片のため時期不明である。柱穴の切り合いから，建物はＳＢ96・ＳＢ98より古い。建物の時期は13世紀である。

98号掘立柱建物（ＳＢ98，図版47）

Ｘ357～362Ｙ94～100，ＳＢ95～ＳＢ97の西側に位置する，４間×３間の総柱建物である。桁行9.54m×梁行8.04m，平面積77㎡である。主軸はＮ－65°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸38cm～50cm×短軸30cm～46cm，平均41cm×38cmの円形である。深さは17cm～45cm，平均26cmである。柱痕跡がイ一・ロ一柱穴に確認できた。その痕跡は直径16cmの円形の，黒茶褐色土か褐色土である。ニ一柱穴から中世土師器が出土した。柱穴の切り合い関係から，建物はＳＢ96・ＳＫ3011より古く，ＳＢ97より新しい。建物の時期は13世紀である。

101号掘立柱建物（ＳＢ101，第57・58図，図版47）

Ｘ357～360Ｙ95～99，ＳＢ97の東側に位置する，３間×２間の総柱建物である。主軸はＮ－27°－Ｅで，その他の建物よりも東西に向く。桁行8.40m×梁行4.38m，平面積37㎡である。桁行は南から300cm・270cm・270cmで南の柱間が広い。柱掘形は平均長軸37cm×短軸32cmの円形である。深さは平均23cmである。イ四・ハ四柱穴は22cm～28cm×20cm～22cmで少し小さい。イ一柱穴は54cm×48cmで大きく，深さ３cmと浅い。掘形埋土は黒褐色土の単層が多く，柱痕跡は確認できなかった。遺物が出土しなかったが，周辺の遺構配置から，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

102号掘立柱建物（ＳＢ102，第57・58図，図版47）

ＳＢ101に重複するように位置する，２間×２間の総柱建物である。桁行6.60m×梁行4.50m，平面積30㎡である。桁行は330cm・330cmで，柱間が広い。梁行は東から180cm・270cmである。後者の柱間に126cmと144cmに分かれる柱穴ＳＫ3107（長軸28cm×短軸25cmで深さ24cm），ＳＫ3128（長軸30cm×短軸24cmで深さ８cm）が確認できたので，３間の可能性がある。柱掘形は平均長軸34cm×短軸29cmの円形である。深さは平均33cmである。イ三柱穴は深さ56cmと深い。掘形埋土は黒褐色土の単層が多いが，柱痕跡が確認できなかった。ＳＫ3019は建物に伴う。イ一～三・ロ一～三・ハ二三柱穴から中世土師器が出土した。ロ三柱穴のそれは14世紀である。建物の時期は14世紀であろう。

103号掘立柱建物（ＳＢ103，第58・59図，図版49）

Ａ３Ｎの北中央部，Ｘ349～355Ｙ92～98，ＳＤ3006の南側に位置する。５間×４間の総柱建物で，

桁行12.90m×梁行8.46m，張出をもつ平面積123m²である。主軸はN－12°－Eで南北に向く。柱掘形は長軸30cm～50cm×短軸28cm～50cm，平均42cm×38cmの円形である。イ六・ロ六・ホ六柱穴の深さは8 cm～13cmと浅く，ロ三・ニ四五・ホ五柱穴のそれは50cm～56cmと深い。深さの平均は34cmである。柱痕跡はイ四・ロ二・ハ五・ニ二四柱穴で確認できた。ロ二柱穴の痕跡は直径12cmの円形である。ハ五・ニ四柱穴のそれは西に約80°傾く。柱穴の切り合い関係から，建物はＳＢ104・ＳＢ105より新しい。ロ三四・ハ三・ニ一三五・ホ三～五柱穴から12世紀後半～13世紀の中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀である。

104号掘立柱建物（ＳＢ104，第58・59図，図版49）

ＳＢ103に重複するように位置する。4間×3間の総柱建物で，梁行6.54mである。北桁行は東から240cm・210cm・210cm・210cm，南桁行は210cm・216cm・204cm・210cmである。平面積56m²である。柱掘形は平均33cm×31cmの円形である。ニ一柱穴の柱掘形は22cm×16cmと小さいが，その他は28cm～54cm×24cm～42cmである。深さは，イ一～五・ニ一柱穴の2 cm～9 cmと浅いが，平均18cmである。柱痕跡はニ四柱穴で確認できる。それは15cmの円形で，黒褐色の土が入っている。ハ四柱穴から時期不明の中世土師器が出土した。柱穴の切り合いから，ＳＢ103・ＳＢ105より古いので，建物の時期は12世紀後半～13世紀である。

105号掘立柱建物（ＳＢ105，第58図，図版49）

ＳＢ104より古く，ＳＢ103より新しい，3間×2間の総柱建物である。桁行6.30m×梁行5.52m，平面積35m²である。主軸はN－74°－Wで東西に向く。柱掘形は平均長軸26cm×短軸26cmの円形である。深さは平均24cmである。掘形埋土には茶褐色土か黒褐色土の単層が多く，柱痕跡は確認できなかった。ロ四・ハ二柱穴から13世紀の中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀であろう。

106号掘立柱建物（ＳＢ106，第58図，図版49）

ＳＢ105に重複するように位置する，2間×2間の総柱建物である。長軸4.74m×短軸4.44m，平面積21m²である。主軸はN－68°－Wで，東西に向く。柱掘形は平均長軸30cm×短軸24cmの円形である。深さは平均26cmである。ロ一柱穴に柱痕跡が確認できた。それは直径12cmの円形で，地山土混じりの褐色土が入っている。ハ三柱穴から13世紀後半の中世土師器が出土した。ＳＢ105との切り合い関係は不明だが，建物の時期は13世紀後半～14世紀であろう。

108号掘立柱建物（ＳＢ108，第58・60図，図版49）

X348～351Y94～97，Ａ3地区のＳＢ103～ＳＢ107に重複するように位置する，3間×2間の側柱建物である。桁行7.62m×梁行4.44m，平面積34m²である。建物はロ三柱穴が確認できなく，柱が中抜ける形態である。主軸はN－18°－Eで南北に向く。柱掘形は長軸26cm～34cm×短軸24cm～32cm，平均29cm×26cmの円形である。深さは14cm～31cm，平均21cmである。ロ二柱穴は36cm×32cm・深さ29cmで，他より僅かに大きく，深い。掘形埋土の大部分は僅かに地山土が混じる（暗）茶褐色土の単層である。イ三・ロ一四・ハ三四柱穴から13～14世紀の中世土師器が出土したことから，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

109号掘立柱建物（ＳＢ109，第58図）

ＳＢ108の北側に位置する，2間×2間の総柱建物である。長軸4.62m×短軸4.14m，平面積19m²である。主軸はN－29°－Eで，大きく東西に振れる。柱掘形は平均長軸29cm×短軸26cmの円形である。深さは平均26cmである。掘形埋土は少量の地山土混じりの（茶）褐色土の単層である。建物が重複しているが，他の建物との切り合い関係は不明である。イ二・ロ一二・ハ一柱穴から13世紀の中世土師

器が出土した。建物の時期は13世紀である。

110号掘立柱建物（ＳＢ110　第58・60・61図）

ＳＢ103の東側に位置する，３間×２間の側柱建物である。ＳＢ108と同じ柱が中抜ける形態である。桁行7.08m×梁行4.20m，平面積30m²である。主軸はＮ－15°－Ｅで南北に向く。ＳＫ3021を伴う。柱掘形は長軸22cm～40cm×短軸26cm～36cm，平均33cm×28cmの円形である。深さは18cm～40cm，平均27cmである。ロ三柱穴は34cm×28cmの円形，深さ23cmで，その他の柱穴と規模が似る。柱穴はＳＫ3045を切っていることから，建物の時期は14世紀以降と考える。

111号掘立柱建物（ＳＢ111，第61・62図）

Ａ３地区の北東隅，Ｘ354～355Ｙ100～106，ＳＤ3007の南側に位置する，４間×２間の側柱建物である。桁行は東から240cm・168cm・240cm・210cm，梁行は南から150cm・204cmで，200cm以下の柱間が目立つ。平面積30m²である。主軸はＮ－61°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸31cm×短軸27cmの円形である。深さは平均12cmと浅い。掘形埋土は茶褐色土か黒褐色土の単層である。イ三・ロ五・ハ五柱穴から13世紀～14世紀の中世土師器が出土した。柱穴はＳＤ3007に切られているから，建物の時期は14世紀と考える。なお，ＳＫ3049との切り合いは不明である。

112号掘立柱建物（ＳＢ112　第61図）

ＳＢ111に重なるように位置する，５間×４間の総柱建物である。桁行は南から150cm・210cm・222cm・216cm・162cm，梁行は東から150cm・210cm・201cm・159cmである。200cm以下の柱間が四方に巡るが，柱穴の規模は他のものと変わらない。平面積は69m²である。主軸はＮ－31°－Ｅで，東西に大きく振れる。イ五柱穴は深さ68cm・長軸60cm×短軸58cmの円形で，大きく深い。柱掘形は平均長軸34cm×短軸30cmの円形である。深さは平均19cmである。掘形埋土は少量の地山土混じりの茶褐色土か黒褐色土の単層で，柱痕跡は確認できなかった。ロ四・ハ三四・ニ三～六・ホ五柱穴から13世紀～14世紀の中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

113号掘立柱建物（ＳＢ113，第61図）

ＳＢ112の内に位置する，２間×２間の総柱建物である。長軸4.50m×短軸4.20m，平面積19m²である。主軸はＮ－29°－Ｅで，東西に大きく振れる。イ三柱穴は長軸58cm×短軸30cmの楕円形に近い。柱掘形は平均長軸27cm×短軸26cmの円形で，少し小さい。深さは平均16cmである。柱痕跡はイ二柱穴で確認できる。それは12cmの円形で，僅かに地山土混じりの黒褐色土である。イ二・ロ二柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀～14世紀であろう。なお，建物の南側50cmに塀ＳＡ07がある。長さは4.80mで東から270cm・210cmの間隔である。

114号掘立柱建物（ＳＢ114，第61図）

Ａ３地区の北東隅，ＳＢ113の東側に位置する総柱建物である。３間（7.08m）×３間（6.72m），平面積48m²である。西側が未調査区のため，建物が延びる可能性がある。主軸はＮ－19°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸26cm～40cm×短軸22cm～40cm，平均31cm×27cmの円形である。ニ一柱穴の7cm以外，深さは10cm～30cm，平均20cmである。掘形埋土は地山土混じりの茶褐色土の単層が多い。ニ二柱穴には，18cmの円形の柱痕跡（地山土が霜降り状に混じる茶褐色粘質土）がある。その痕跡の中程で，完形の中世土師器が出土した。イ四・ロ一四・ハ一二柱穴からも中世土師器が出土した。これらの中世土師器は13世紀のもので，建物の時期も13世紀である。

115号掘立柱建物（ＳＢ115，第62図）

ＳＢ114の南側に位置する，４間×４間の側柱建物である。桁行10.80m×梁行9.12m，平面積98m²で

ある。ハ列柱穴はハ三四柱穴があるだけで，それ以外の柱穴は確認できない。主軸はＮ－19°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸26cm～40cm×短軸22cm～38cm，平均34cm×30cmの円形である。４cmのニ四柱穴・39cmのロ四柱穴以外は深さ９cm～32cm，平均21cmである。柱痕跡はイ五・ハ四柱穴で確認できる。イ五柱穴では茶褐色土の中に暗茶褐色土（柱痕跡）である。イ二・ロ四・ニ五柱穴から13世紀～14世紀の中世土師器，ロ一柱穴から14世紀の珠洲が出土した。建物の時期は14世紀である。

116号掘立柱建物（ＳＢ116，第61図）

Ｘ344～346Ｙ102～105位置する２間×１間の建物である。北桁行は東から210cm・156cm，南桁行は186cm・186cmである。東梁行は240cm，西梁行は258cmである。各々の柱間は異なっている。平面積は６m²である。主軸はＮ－68°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸27cm×短軸23cmの円形である。深さは平均18cmである。掘形埋土には地山土混じりの黒褐色土か茶褐色土の単層が多い。ロ三柱穴から時期不明の中世土師器が出土した。周辺の遺構配置から，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

117号掘立柱建物（ＳＢ117，第61図）

Ｘ339～342Ｙ99～103，ＳＤ3425を挟んでいる，４間×２間の総柱建物である。桁行8.70m×梁行6.00m，平面積52m²である。主軸はＮ－76°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸44cm×短軸39cmの円形である。ロ一柱穴は28cm×28cm，それ以外は34cm～56cm×30cm～50cmである。深さは平均35cmである。ロ二柱穴の８cm，ロ三柱穴の51cm，それ以外の深さは24cm～43cmである。柱痕跡はハ五柱穴で確認できる。ロ五柱穴から中世土師器が出土した。柱穴が14世紀～15世紀のＳＤ3770・ＳＤ3425に切られていることから，建物の時期は13世紀～14世紀であろう。

121号掘立柱建物（ＳＢ121，第64図）

Ａ３地区の西側，Ｘ337～347Ｙ86～93，ＳＤ3425を挟む位置にある，３間×２間の総柱建物である。桁行6.90m×梁行4.68m，平面積32m²である。主軸はＮ－69°－Ｗで東西に大きく向く。柱掘形は，イ一三柱穴の以外平均長軸34cm×短軸30cmの円形で，深さ21cmである。イ一三柱穴は54cm・44cm×44cm・32cmの不整円形，深さ32cm・20cmである。掘形埋土は茶褐色土の単層である。ロ一二柱穴はＳＤ3425で切られているので，建物の時期は13世紀～14世紀初めであろう。

122号掘立柱建物（ＳＢ122，第64図，図版48）

ＳＢ121と同様，ＳＤ3425を跨いでいる，６間×４間の総柱建物である。桁行16.80m×梁行10.20m，平面積171m²である。主軸はＮ－16°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸38cm×短軸35cmの円形である。ロ二・ニ二・ホ七柱穴は20cm～30cm×18cm～26cmと小さいが，その他は36cm～52cm×34cm～44cmである。深さは14cm～32cm，平均21cmである。三列柱穴はＳＤ3425に切られ，ニ三四柱穴は溝・風倒木痕のため確認できなかった。柱痕跡はイ四・ロ一柱穴から確認できる。ハ一・ホ二柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀であろう。ＳＢ121との切り合い関係は不明だが，ＳＢ125より古い。

123号掘立柱建物（ＳＢ123，第65図，図版48）

ＳＢ125に重複するように位置する，５間×４間の総柱建物である。東桁行は12.60m，西桁行は12.90mで，桁行の東列は柱間が少し狭い。梁行9.24mで，平面積118m²である。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸34cm～66cm×短軸30cm～60cm，平均50cm×43cmの円形である。深さは19cm～54cm，平均34cmである。柱痕跡はホ六柱穴で確認できなかった。それは上面が直径14cmの円形で，底になるほど逆円錐状になり黒褐色土が入っている。ロ三五・ハ二・ニ五・ホ三柱穴から13世紀の中世土師器，ホ一柱穴から鍛冶滓が出土した。柱穴の切り合いから，建物はＳＢ125より古く，15世紀の

柱穴ＳＫ3585に切られている。建物の時期は13世紀～14世紀である。

125号掘立柱建物（ＳＢ125，第65図，図版48）

ＳＤ3425で囲まれた区域の西側に位置する，５間×４間の総柱建物である。ＳＢ122・ＳＢ123より新しい。桁行13.20m×梁行9.60m，平面積127m²である。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。イ二・ニ一二・ホ三柱穴は長軸58cm～66cm×短軸42cm～56cmで大きいが，柱掘形の平均は47cm×39cmの円形である。イ一・ハ一柱穴の深さは10cm・16cm，イ四・ロ六・ニ五柱穴は47cm～68cmである。深さの平均は32cmである。柱痕跡はイ二・三柱穴で確認できた。中世土師器はイ五・ロ三四・ハ三五・ニ二四～六柱穴，白磁はニ四柱穴，鍛冶滓はロ四・ニ三柱穴から出土している。各々の時期は12世紀後半～13世紀のものである。建物の時期は13世紀と考える。

128号掘立柱建物（ＳＢ128，第63図，図版48・49）

Ｘ330～336Ｙ99～103，ＳＤ3425で囲まれた区域の北西側に位置する。４間(9.60m)×３間(6.90m)の総柱建物で，平面積66m²である。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸35cm～50cm×短軸30cm～44cm，平均44cm×36cmの円形である。深さは，ニ二柱穴の８cm以外，19cm～39cmである。深さの平均は28cmである。柱抜き取り痕跡がハ二柱穴で確認できた。それは直径18cmの円形で，地山土混じりの灰黒褐色土が入っている。イ四・ロ三・ハ一～三柱穴から13世紀の中世土師器，イ四柱穴から13世紀の珠洲が出土した。ＳＫ3750・ＳＫ3751によって柱穴が切られていることから，建物の時期は13世紀～14世紀である。

129号掘立柱建物（ＳＢ129，第63図，図版48・49）

128号建物の南側に位置する，４間×３間の総柱建物である。桁行8.82m×梁行7.08m，平面積62m²である。主軸はＮ－86°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸32cm～60cm×短軸30cm～46cm，平均46cm×39cmの円形である。イ四五・ハ二柱穴の深さは８cm～10cmと浅く，イ三・ニ二柱穴のそれは35cm～37cmと深い。平均の深さは22cmである。ハ四柱穴から柱抜き取り痕跡が確認できる。上面で直径20cm，下面で直径12cmの円形で，地山土・炭粒混じりの黒褐色土が入る。イ一三～五・ロ一三四・ハ三～五・ニ二四柱穴から13世紀～14世紀の中世土師器・珠洲が出土した。ハ五柱穴がＳＫ3570に切られている。建物の時期は14世紀である。

130号掘立柱建物（ＳＢ130，第63図，図版48）

ＳＢ128に重複するように位置する，３間×２間の側柱建物である。桁行6.72m×梁行4.50m，平面積30m²である。主軸はＮ－13°－Ｅで南北に向く。柱掘形は平均長軸35cm×短軸29cmの円形である。イ一柱穴は26cm×24cmと小さいが，その他は30cm～48cm×28cm～32cmである。深さは平均26cmである。イ四・ハ二三柱穴は12cm～15cmと浅く，ハ四柱穴は55cmと深いが，その他は18cm～33cmである。掘形埋土は地山土混じりの茶褐色土か黒褐色土の単層が多い。ロ一柱穴から13世紀の中世土師器が出土した。建物の時期は13世紀である。

131号掘立柱建物（ＳＢ131，第66図，図版48）

Ｘ344～346Ｙ102～105，ＳＤ3425の東南隅に位置する，３間×１間の建物である。桁行は東から168cm・222cm・168cmで，両端が少し狭い。梁行は240cm・252cmで，長さが東・西で違う。平面積は14m²である。主軸はＮ－73°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸27cm×短軸25cmの円形である。深さは平均27cmである。ロ四柱穴は14世紀のＳＫ3488に切られている。イ・ロ四柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は14世紀～15世紀であろう。

132号掘立柱建物（ＳＢ132，第66図，図版48）

ＳＢ131の南側に位置し，ＳＤ3425に並行する。3間×3間の側柱建物である。長軸5.88m×短軸5.40m，平面積32m²である。ハ一～三・ニ二三柱穴は確認できないが，それらを入れて建物を復元した。主軸はＮ－78°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸28cm～44cm×短軸24cm～36cm，平均33cm×29cmの円形である。深さは16cm～39cm，平均21cmである。掘形埋土は茶褐色土か黒褐色土の単層が多い。イ一柱穴から中世土師器（13世紀）・八尾（13世紀後半），イ四柱穴から中世土師器（15世紀），ロ～ニ四柱穴から中世土師器（13世紀～14世紀）が出土した。建物の時期は14世紀～15世紀であろう。

133号掘立柱建物（ＳＢ133，第66図，図版48）

ＳＢ132の南側に位置する，2間×1間の側柱建物である。桁行4.80m×梁行2.79m，平面積13m²である。主軸はＮ－76°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸30cm～31cm×短軸25cm～30cm，平均30cm×27cmの円形である。深さは28cm～45cm，平均29cmである。ロ二柱穴から柱痕跡が確認できる。それは，炭化した木片が多く入る茶褐色土で，直径10cmの円形である。イ三柱穴から中世土師器，ロ二柱穴から14世紀の珠洲が出土した。建物の時期はＳＤ3425との関連から，14世紀～15世紀であろう。

134号掘立柱建物（ＳＢ134，第67図，図版97）

Ｘ322～327Ｙ87～92，ＳＤ3425の南西側に位置する，3間×3間の側柱建物である。長軸7.20m，短軸7.14mで，北西隅に1間（240cm）×1間（198cm）の張出する。張出部を含めて，平面積は56m²である。主軸はＮ－80°－Ｗで東西に向く。ロ・ハ三柱穴は確認できなかった。柱掘形は長軸24cm～46cm×短軸26cm～40cm，平均35cm×28cmの円形である。深さは平均11cmである。ハ四・五柱穴は23cm～25cm，それ以外は4 cm～13cmである。柱痕跡は確認できなかった。柱穴から出土しなかったが，柱穴の並びがＳＢ132と同じなので，建物の時期は14世紀～15世紀であろう。なお，イ一・ニ一柱穴の東側に柱穴があるが，建物に伴うものかは不明である。

135号掘立柱建物（ＳＢ135，図面12，図版97）

ＳＢ134の北側に位置する，2間×2間の総柱建物である。長軸4.50m×短軸4.20m，平面積19m²である。主軸はＮ－75°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸32cm×短軸28cmの円形である。深さは平均16cmである。柱穴から遺物が出土しなかったが，ＳＢ134との関係から，建物の時期は14世紀～15世紀であろう。

Ｂ地区

142号掘立柱建物（ＳＢ142，第153図，図版91）

Ｘ275～278Ｙ87～89に位置する，2間×2間の側柱建物である。長軸5.10m×短軸4.50m，平面積23m²である。主軸はＮ－2°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸34cm～54cm×短軸22cm～50cm，平均44cm×34cmの円形である。深さは平均29cmである。ハ二柱穴の深さは7 cmと浅いが，その他は18cm～46cmである。ハ三柱穴から青磁が出土した。建物は13世紀～14世紀のＳＫ4807を取り込んでいる。しかし，周辺の遺構との関連から，建物の時期は14世紀～15世紀と考える。（宮田進一）

遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長 cm	桁行長 尺	桁行長 平均 cm	梁行長 cm	梁行長 尺	梁行長 平均 cm	平面積 (m²)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm 長軸	柱穴 cm 短軸	柱穴 cm 深さ	柱穴 cm 長軸÷短軸	時代	柱形式	備考
1	A	5	4	1254	41.8	250	900	30	225	113	216(7.2),258(8.6),240(8),300(10),240(8)	210(7),240(8),240(8),210(7)	南北棟	N12E	47	42	40	1.12	12後～13世紀	総柱	SB04より古い，柱穴から中世土師器(12c後半～13c前半)出土，SB03の柱穴が重複する
2	A	3	3	792	26.4	264	690	23	230	55	216(7.2),288(9.6),288(9.6)	225(7.5),225(7.5),240(8)	南北棟	N 8 E	42	36	22	1.17	13世紀	総柱	
3	A	4	2	858	28.6	214	480	16	240	41	192(6.4),228(7.6),210(7),228(7.6)	240(8),240(8)	南北棟	N17E	42	36	40	1.17	12後～13世紀	総柱	SB03の柱穴と重複する，柱穴から中世土師器(ロクロ)出土
4	A	3	2	810	27	270	465	15.5	232	38	258(8.6),300(10),252(8.4)	225(7.5),240(8)	南北棟	N12E	41	38	22	1.08	13世紀	総柱	SB01･05より新しい
5	A	4	3	906	30.2	226	750	25	250	68	210(7),240(8),228(7.6),228(7.6)	270(9),270(9),210(7)	東西棟	N78W	38	34	20	1.12	13世紀	総柱	SB04より古い
6	A	3	2	780	26	260	492	16.4	246	38	282(9.4)300(10),300(10)282(9.4),198(6.6)	240(8),252(8.4)	南北棟	N11E	40	36	34	1.11	13世紀	総柱	
7	A	9	4	2196	73.2	244	948	31.6	237	208	228(7.6),252(8.4),240(8),240(8),252(8.4),246(8.2),240(8),258(8.6),240(8)	234(7.8),246(8.2),234(7.8),234(7.8)	南北棟	N12E	48	43	36	1.12	12後～13世紀初	総柱	柱穴から中世土師器出土
8	A	4	4	1062	35.4	265	942	31.4	235	100	288(9.6),270(9),282(9.4),222(7.4)	228(7.6),246(8.2),228(7.6),240(8)	南北棟	N12E	39	38	28	1.03	13世紀	総柱	SA03が付く，柱穴から中世土師器出土
9	A	2	2	534	17.8	267	468	15.6	234	25	324(10.8),210(7)	234(7.8),234(7.8)	南北棟	N11E	40	35	25	1.14	13～14世紀	総柱	
10	A	4	2	966	32.2	241	492	16.4	246	60	222(7.4),252(8.4)276(9.2),252(8.4)240(8),240(8)228(7.6)	240(8),252(8.4)	東西棟	N78W	41	34	26	1.21	13～14世紀か	総柱	柱間不揃い，張出ある
11	A	4	4	948	31.6	237	918(948)	30.6(31.6)	229(237)	88	228(7.6)240(8),228(7.6)234(7.8),240(8)270(9),252(8.4)204(6.8)	216(7.2)252(8.4),192(6.4)240(8),258(8.6)228(7.6),252(8.4)228(7.6)	東西棟	N83W	43	39	25	1.10	13世紀	総柱	正方形だが，東柱列が少し短い，柱穴から中世土師器（13c)・白磁出土，SB12より古い
12	A	5	4	1278	42.6	255	930	31	232	119	222(7.4),270(9),288(9.6),258(8.6),240(8)	240(8),240(8),204(6.8)186(6.2),246(8.2)264(8.8)	南北棟	N0E	53	44	36	1.20	12後～13世紀初	総柱	柱穴から中世土師器出土，SB11より新しい
13	A 1	3	3	798	26.6	266	726	24.2	242	58	330(11),240(8),228(7.6)	246(8.2),228(7.6),252(8.4)	東西棟	N82W	50	40	30	1.25	12後～13世紀初	総柱	柱穴から中世土師器(13c)出土，SK303を切る，SB14より新しい
14	A 1	3	3	885	29.5	295	726	24.2	242	64	279(9.3),339(11.3)279(9.3),267(8.9)327(10.9)	258(8.6),234(7.8),234(7.8)	南北棟	N 8 E	42	33	29	1.27	12後～13世紀前半	総柱	柱間60cmは間仕切り，SK1003を内に伴う，SB13より古い
15	A 1	4	3	876	29.2	219	678	22.6	226	59	216(7.2),228(7.6),234(7.8),198(6.6)	240(8),240(8),198(6.6)	東西棟	N76W	48	43	30	1.12	13後～14世紀初	総柱	柱穴から中世土師器・珠洲・白磁・青磁出土
16	A 1	3	3	732	24.4	244	678	22.6	226	50	237(7.9),255(8.5),240(8)	240(8),240(8),198(6.6)	東西棟	N79W	52	44	29	1.18	13～14世紀初か	総柱	柱穴から中世土師器出土
17	A 1	7	4	1668	55.6	238	960	32	240	160	222(7.4),246(8.2),240(8),240(8),240(8),240(8),240(8)	240(8),240(8),240(8),240(8)	南北棟	N 8 E	54	48	35	1.13	13世紀	総柱	SK784,SK785,SK800を切る，柱穴から中世土師器(13c)出土
18	A 1	5	2	1020	34	204	444	14.8	222	45	180(6),180(6),222(7.4),216(7.2),222(7.4)	222(7.4),222(7.4)	南北棟	N 2 E	51	45	29	1.13	13～14世紀	側柱	SD786(13c)･SD800を切る，SB17より新しい

注，桁行・梁行の柱間は南・東から数え左・右で違う場合は( )で示した。

第４表　掘立柱建物(中世前期)一覧(1)

遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長			梁行長			平面積(㎡)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm				時代	柱形式	備考
				cm	尺	平均 cm	cm	尺	平均 cm						長軸	短軸	深さ	長軸÷短軸			
19	A1	4	3	972	32.4	243	720	24	240	70	300(10),216(7.2),240(8),216(7.2)	240(8),258(8.6),222(7.4)	東西棟	N81W	38	37	30	1.03	13～14世紀か	総柱	柱間不揃い
20	A1S	2	2	510	17	255	420	14	210	21	270(9),240(8)	210(7),210(7)	南北棟	N12E	34	30	22	1.13	13～14世紀か	総柱	
21	A1	8	4	1992	66.4	249	930	31	232	185	276(9.2),216(7.2),246(8.2),246(8.2),282(9.4),252(8.4),246(8.2),228(7.6)	234(7.8),228(7.6),234(7.8),234(7.8)	南北棟	N12E	47	42	35	1.12	12後～13世紀前半	総柱	SB22より新しい，柱穴から縄紋土器，土師器甕，中世土師器が出土
22	A1	4	3	1014	33.8	253	666	22.2	222	68	258(8.6),240(8),270(9),246(8.2)	228(7.6),210(7),228(7.6)	南北棟	N8E	43	36	21	1.19	12後～13世紀前半	総柱	SB21より古い
23	A1	5	5	1152	38.4	230	1080	36	216	124	198(6.6),240(8),258(8.6),234(7.8),222(7.4)	210(7),198(6.6)216(7.2),204(6.8)216(7.2),204(6.8)186(6.2),264(8.8)252(8.4)	南北棟	N19E	41	33	28	1.24	13世紀後半	総柱	SK773(12c後半～13c)を伴う，柱穴はSD782(14c)に切られSD785を切る，柱穴から中世土師器出土
24	A1	4	2	888	29.6	222	450	15	225	43	180(6),180(6),258(8.6),270(9)	222(7.4),228(7.6)	東西棟	N73W	35	30	21	1.17	13～14世紀か	総柱	南側に張出部が付く(1間180cm×1間180cmで内に土坑あり)
25	A1	3	2	714	23.8	238	528	17.6	264	38	258(8.6),228(7.6),228(7.6)	264(8.8),264(8.8)	東西棟	N77W	47	41	27	1.15	14世紀か	総柱	SK760(12･13c)を切る，柱穴から中世土師器(14c初)出土
26	A1	3	3	726	24.2	242	630	21	210	46	270(9),240(8),216(7.2)	210(7),210(7),210(7)	南北棟	N7E	42	34	35	1.24	13世紀	総柱	SK760(12c後半～13c)を伴う，SD302より新しい，柱穴から中世土師器出土
27	A1	3	2	672	22.4	224	480	16	240	32	210(7),228(7.6),234(7.8)	240(8),240(8)	東西棟	N83W	49	42	47	1.17	13後～14世紀か	総柱	SD302(13c)より新しい
28	A1	3	2	654	21.8	218	480	16	240	31	180(6),240(8),234(7.8)	210(7),270(9)	東西棟	N78W	43	35	23	1.23	13～14世紀か	総柱	SD785(12c後半～13c)より新しい
29	A1	3	2	792	26.4	264	468	15.6	234	37	264(8.8),264(8.8),264(8.8)	234(7.8),234(7.8)	東西棟	N65W	41	37	48	1.11	13～14世紀	総柱	SD302(13c)より新しい
30	A1	2	2	486	16.2	243	456	15.2	228	22	258(8.6),228(7.6)	228(7.6),228(7.6)	南北棟	N22E	44	35	46	1.26	14世紀	総柱	
33	A1	3	2	564	18.8	188	492	16.4	246	30	120(4),174(5.8),270(9)	246(8.2),246(8.2)	東西棟	N86W	37	33	22	1.12	13～14世紀か	側柱	南側に張出があり，内にSK703を伴う
34	A1	4	4	972	32.4	243	888	29.6	222	86	204(6.8),294(9.8),270(9),204(6.8)	216(7.2),234(7.8),210(7),228(7.6)	南北棟	N14E	41	36	26	1.14	13～14世紀か	側柱	
35	A1	3	2	798	26.6	266	444	14.8	222	35	258(8.6),285(9.5),255(8.5)	228(7.6),216(7.2)	南北棟	N6E	40	34	30	1.18	13世紀	総柱	SB36より新しい，柱穴から中世土師器出土
36	A1	2	2	441	14.7	220	402	13.4	201	18	213(7.1),228(7.6)	192(6.4),210(7)	東西棟	N85W	42	36	21	1.17	13世紀前半	総柱	SB35より古い
37	A1	2	1	561(597)	18.7(19.9)	280(298)	228	7.6	228	13	270(9)291(9.7),291(9.7)306(10.2)	228(7.6)	南北棟	N9E	35	30	15	1.17	13～14世紀か	側柱	SB34より新しい，柱間が広く，桁行の長さが違う
38	A1	4	1	891	29.7	297	330	11	330	29	222(7.4),459(15.3),210(7)	330(11)	東西棟	N84W	46	41	28	1.12	13～14世紀か	側柱	SK704(近世)より古い，SB34と重複する，桁行は4間と推定
39	A1	2	1	576	19.2	288	324	10.8	324	19	288(9.6),288(9.6)	324(10.8)	南北棟	N6E	30	21	24	1.43	13～14世紀か	側柱	西側に延びる可能性あり
40	A1	6	4	1470	49	245	930	31	232	137	270(9),240(8),240(8),240(8),240(8),240(8)	210(7),240(8),240(8),240(8)	東西棟	N81W	46	39	25	1.18	13世紀	総柱	SB41との切り合い不明，柱穴から中世土師器出土

第4表　掘立柱建物(中世前期)一覧(2)

遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長 cm	桁行長 尺	桁行長 平均 cm	梁行長 cm	梁行長 尺	梁行長 平均 cm	平面積 (m²)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm 長軸	柱穴 cm 短軸	柱穴 cm 深さ	柱穴 cm 長軸÷短軸	時代	柱形式	備考
41	A 1	4	3	960	32	240	750	25	250	72	240(8), 240(8), 240(8), 240(8)	210(7), 240(8), 300(10)	東西棟	N82W	48	37	27	1.30	13世紀	総柱	SB40との切り合い不明, 柱穴から中世土師器(13c)出土, 梁行が1間西に延びるのか
42	A 1	4	3	945	31.5	236	756	25.2	252	71	225(7.5), 255(8.5), 225(7.5), 240(8)	222(7.4), 258(8.6), 276(9.2)	南北棟	N 7 E	46	40	42	1.15	13世紀	総柱	北側は近世土坑で柱穴不明, 柱穴から中世土師器(13c)・珠洲出土
47	A 1	5	4	1140	38	228	900	30	225	103	222(7.4), 228(7.6), 240(8), 240(8), 210(7)	210(7), 240(8), 225(7.5), 225(7.5)	南北棟	N10E	42	36	36	1.17	12後～13世紀初	総柱	SB48より古い, 西側に延びるのか
48	A 1	5	2	1230	41	246	462	15.4	231	57	249(8.3), 246(8.2), 255(8.5), 240(8), 240(8)	231(7.7), 231(7.7)	南北棟	N14E	41	32	23	1.28	13世紀か	総柱	SB49より古く, SB47・SB50より新しい
49	A 1	3	2	678	22.6	226	570	19	285	39	210(7), 240(8), 228(7.6)	279(9.3), 291(9.7)	南北棟	N10E	38	33	32	1.15	13後～14世紀	側柱	SB48より新しい
50	A 1	4	2	1038	34.6	259	462	15.4	231	48	246(8.2), 276(9.2), 276(9.2), 240(8)	231(7.7), 231(7.7)	東西棟	N86W	41	35	36	1.17	13世紀	総柱	SB48より古い, 柱穴から中世土師器(13c)出土
51	A 1	5	2	1101	36.7	220	450	15	225	50	201(6.7), 240(8), 240(8), 210(7), 210(7)	225(7.5), 225(7.5)	南北棟	N14E	38	34	31	1.12	13世紀か	総柱	SB52より新しい, 西側に延びるのか, 柱穴から中世土師器(ロクロ)出土
52	A 1	5	3	1140	38	228	720	24	240	82	219(7.3), 231(7.7), 228(7.6), 252(8.4), 210(7)	219(7.3), 219(7.3), 282(9.4)	東西棟	N75W	40	36	20	1.11	13世紀前半か	総柱	SB51より古い, SK1305(13c後半～14c初)に柱穴が切られる, 柱穴から中世土師器出土
53	A 1	5	3	1224	40.8	244	654	21.8	218	80	222(7.4), 240(8), 270(9), 240(8), 252(8.4)	240(8)204(6.8), 234(7.8)228(7.6), 180(6)222(7.4)	東西棟	N74W	38	33	22	1.15	13～14世紀	側柱	SK1302との共伴関係不明
54	A 1	4	2	924	30.8	231	540	18	270	50	240(8), 216(7.2), 240(8), 228(7.6)	258(8.6), 282(9.4)	南北棟	N14E	42	37	35	1.14		総柱	
55	A 1	3	2	804	26.8	268	474	15.8	237	38	228(7.6)252(8.4), 300(10)276(9.2), 276(9.2)	234(7.8), 240(8)	南北棟	N2W	36	32	22	1.13	14世紀	総柱	柱穴がSB56と重複, 柱穴から珠洲(14c)出土
56	A 1	2	2	540	18	270	444	14.8	222	24	252(8.4)270(9), 288(9.6)270(9)	213(7.1), 231(7.7)	南北棟	N 1 E	38	34	23	1.12	13～14世紀	総柱	柱穴がSB57と重複, SB55の建替えか
57	A 1	3	3	750	25	250	660	22	220	50	240(8), 270(9), 240(8)	210(7), 225(7.5), 225(7.5)	南北棟	N14E	41	36	36	1.14		総柱	
58	A 1	2	2	495	16.5	247	480	16	240	24	210(7), 285(9.5)	210(7), 270(9)	東西棟	N80W	52	38	30	1.37		総柱	
59	A 1	4	4	1098	36.6	274	912	30.4	228	100	270(9), 270(9), 258(8.6), 300(10)	234(7.8), 228(7.6), 228(7.6), 222(7.4)	南北棟	N12E	42	37	27	1.14	13世紀	総柱	SB52より新しい, 柱穴がSK1300(14c前半)に切られる
60	A 1	5	3	1092	36.4	218	720	24	240	79	228(7.6), 210(7), 204(6.8), 204(6.8), 246(8.2)	240(8), 240(8), 240(8)	南北棟	N14E	41	35	29	1.17	13世紀前半	側柱	SK1392(13c)・SK1395(13c)より古い
61	A 1	4	3	840	28	210	651	21.7	217	55	210(7), 210(7), 210(7), 210(7)	201(6.7), 210(7), 240(8)	南北棟	N20E	41	32	35	1.28	13世紀前半	総柱	SK1292(13c)・SK1295(13c)より古い, 柱穴から中世土師器(13c)・珠洲出土
62	A 1	4	1	948	31.6	237	210(234)	7(7.8)	210(234)	21	216(7.2), 234(7.8) 252(8.4), 234(7.8) 240(8), 264(8.8)240(8)	210(7)234(7.8)	南北棟	N16E	39	34	38	1.15	14世紀以降	側柱	柱穴から中世土師器(13c)・珠洲出土, SK1294(13-14c)より新しい

第4表　掘立柱建物(中世前期)一覧(3)

遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長 cm	桁行長 尺	桁行長 平均 cm	梁行長 cm	梁行長 尺	梁行長 平均 cm	平面積 (㎡)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm 長軸	柱穴 cm 短軸	柱穴 cm 深さ	柱穴 cm 長軸÷短軸	時代	柱形式	備考
63	A 1	8	6	1860	62	232	1470	49	245	273	255(8.5)240(8),240(8),240(8),210(7)240(8),225(7.5)210(7),225(7.5),270(9),195(6.5)	270(9)240(8),270(9),225(7.5)240(8),240(8),255(8.5)240(8),210(7)240(8)	東西棟	N76W	42	35	31	1.20	13世紀	総柱	最大規模, SD1350より新しい, SD1252に並行する, 柱穴から中世土師器(12c後-13c前)出土
64	A 1	3	2	708	23.6	236	450	15	225	32	258(8.6),255(8.5),195(6.5)	225(7.5),225(7.5)	東西棟	N78W	45	39	27	1.15		総柱	
65	A 2	4	3	936	31.2	234	768	25.6	256	72	228(7.6),240(8),228(7.6),240(8)	222(7.4),264(8.8),282(9.4)	東西棟	N76W	48	42	35	1.14	13世紀	総柱	SK2486(13-14c),SK2972に切られる, 柱穴から中世土師器(13c)出土
66	A 2	4	3	909	30.3	227	732	24.4	244	67	159(5.3),300(10),240(8),210(7)	252(8.4),210(7),270(9)	東西棟	N77W	40	37	32	1.08	13～14世紀	側柱	SB65より新しい, SD2485, SK2486(13-14c)より古い, 柱穴から中世土師器(12c末)出土
67	A 2	5	2	1236	41.2	247	426	14.2	213	53	240(8),240(8),282(9.4),258(8.6),216(7.2)	216(7.2),210(7)	東西棟	N78W	37	34	26	1.09	13～14世紀	総柱	SB73より新しい, SK2486(13c-14c) SE2658(13末-14c), SX2972 (13—14c) より古い
68	A 2	3	3	792	26.4	264	711	23.7	237	56	270(9)252(8.4),270(9)288(9.6),252(8.4)	240(8),231(7.7),240(8)	南北棟	N12E	38	35	30	1.09	13世紀	総柱	柱穴から中世土師器(13c前半)出土
69	A 2	3	2	648	21.6	216	540	18	270	35	219(7.3),219(7.3),210(7)	285(9.5),255(8.5)	東西棟	N77W	38	33	26	1.15	13世紀前半	総柱	柱穴から中世土師器(13c)出土, SD2453b(13-14c)より古い
70	A 2	5	4	1200	40	240	930	31	232	112	228(7.6),264(8.8),258(8.6),240(8),210(7)	240(8),225(7.5),225(7.5),240(8)	南北棟	N10E	45	40	32	1.13	13世紀	総柱	SB71より新しい, 柱穴から中世土師器(13c)出土
71	A 2	4	4	1074	35.8	268	900	30	225	97	222(7.4),300(10),300(10),252(8.4)	222(7.4),228(7.6),240(8),210(7)	南北棟	N12E	37	34	34	1.09	13世紀後半	総柱	SB70・SB76より新しい, SK2972より古い, 柱穴から中世土師器出土
72	A 2	5	4	1158	38.6	231	1020	34	255	118	210(7),228(7.6),240(8),240(8),240(8)	228(7.6),270(9),270(9),252(8.4)	東西棟	N74W	35	30	25	1.17	13世紀	総柱	SB66より古い, SB67・76より新しい, 柱穴より中世土師器(13c前半)
73	A 2	4	2	738	24.6	184	408	13.6	204	30	180(6),180(6),198(6.6),180(6)	198(6.6),210(7)	南北棟	N13E	32	29	34	1.10	14世紀前半	総柱	SB67・SB72・SK2972より古い, 柱穴から中世土師器(13c-14c)・石鍋(14c前半)出土
74	A 2	4	3	912	30.4	228	816	27.2	272	74	222(7.4),228(7.6),240(8),222(7.4)	258(8.6),300(10),258(8.6)	東西棟	N73W	43	37	35	1.16	13世紀	総柱	柱穴から中世土師器出土
75	A 2	6	5	1380	46	230	1182	39.4	236	163	210(7),240(8),240(8),228(7.6),222(7.4),240(8)	225(7.5),231(7.7),231(7.7),225(7.5),270(9)	東西棟	N89W	41	37	32	1.11	13世紀	総柱	柱穴から中世土師器(13c)・白磁(13c)出土
76	A 2	8	4	1722(1752)	57.4(58.4)	215(219)	906	30.2	226	157	234(7.8),285(9.5),69(2.3),180(6)210(7),210(7),228(7.6),258(8.6),258(8.6)	228(7.6),228(7.6),240(8),210(7)	南北棟	N 9 E	34	31	22	1.10	13世紀後半	総柱	SB71・SK2951(13c末-14c初)・SK2456(13c末—14c初)より古い, 間仕切り有り, 柱穴から中世土師器(13c後半)出土
77	A 2	4	1	876	29.2	219	180	6	180	16	198(6.6),240(8),240(8),198(6.6)	180(6)	南北棟	N80W	31	27	25	1.15	13世紀後半	側柱	SB76の南側, SD2451に切られる
78	A 2	2	2	420	14	210	396	13.2	198	17	180(6),240(8)	198(6.6),198(6.6)	南北棟	N 7 E	31	29	31	1.07	13世紀	側柱	SE2497(13c)を伴う, 柱穴から中世土師器(13c)出土

第４表　掘立柱建物(中世前期)一覧(4)

遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長 cm	桁行長 尺	桁行長 平均 cm	梁行長 cm	梁行長 尺	梁行長 平均 cm	平面積 (m²)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm 長軸	柱穴 cm 短軸	柱穴 cm 深さ	柱穴 cm 長軸÷短軸	時代	柱形式	備考
79	A 2	6	2	1386	46.2	231	474	15.8	237	66	204(6.8), 192(6.4), 222(7.4), 246(8.2), 228(7.6), 294(9.8)	204(6.8), 270(9)	南北棟	N11E	37	31	23	1.19	13～14世紀	総柱	東桁行の並び不揃い，東に延びるのか，SK2461(13c)に切られる
80	A 2	2	2	480	16	240	468	15.6	234	22	240(8), 240(8)	210(7), 258(8.6)	南北棟	N10E	40	36	30	1.11	13後～14世紀初	総柱	柱穴から中世土師器(13後半-14c初)出土
81	A 2	3	2	600	20	200	492	16.4	246	30	210(7), 210(7), 180(6)	246(8.2), 246(8.2)	南北棟	N 8 E	29	25	21	1.16	13世紀後半	総柱	SX2458(13c後半—14c初)を伴うのか
82	A 2	2	2	480	16	240	480	16	240	23	240(8), 240(8)	240(8), 240(8)	南北棟	N 8 E	29	24	20	1.21	13～14世紀	総柱	
83	A 2	5	3	1020	34	204	708	23.6	236	76	252(8.4), 150(5), 192(6.4), 192(6.4), 234(7.8)	222(7.4), 174(5.8), 312(10.4)	南北棟	N 7 E	35	27	31	1.30	13～14世紀	側柱	北東隅に張出部(1間×1間)が付く，柱穴から中世土師器出土
84	A 2	5	2	1020	34	204	348	11.6	174	35	300(10), 180(6), 198(6.6), 210(7), 132(4.4)	168(5.6), 180(6)	南北棟	N18E	31	25	14	1.24	13～14世紀か	側柱	南端が広い
85	A 2	3	2	708	23.6	236	489	16.3	244	35	228(7.6), 240(8), 240(8)	240(8), 249(8.3)	東西棟	N72W	29	24	10	1.21		総柱	
86	A 2	3	2	756	25.2	252	468	15.6	234	35	252(8.4), 252(8.4), 252(8.4)	216(7.2), 252(8.4)	南北棟	N14E	31	28	22	1.11	13後～14世紀初	側柱	間仕切り(60cm)有り，柱穴から中世土師器(ロクロ)出土
87	A 2	4	3	942	31.4	235	780	26	260	73	222(7.4), 240(8), 246(8.2), 234(7.8)	228(7.6), 276(9.2), 276(9.2)	東西棟	N76W	38	35	25	1.09	13世紀	総柱	柱穴から白磁(13c)出土，建物の東・南側に塀SA05・06がある
88	A 2	3	3	702	23.4	234	678	22.6	226	48	210(7), 252(8.4), 240(8)	222(7.4), 222(7.4), 234(7.8)	南北棟	N20E	36	30	26	1.20	13世紀前半	総柱	柱穴から中世土師器出土，SK2208(13c後)に切られる
89	A 2	2	2	414	13.8	207	402	13.4	201	17	186(6.2), 228(7.6)	192(6.4), 210(7)	東西棟	N28E	30	26	26	1.15		総柱	柱穴は小さい
90	A 2	2	2	510	17	255	420	14	210	21	270(9), 240(8)	228(7.6), 192(6.4)	南北棟	N26E	29	26	24	1.12		側柱	建物としては不確実
91	A 2	2	1	528	17.6	264	240	8	240	13	252(8.4), 276(9.2)	240(8)	南北棟	N19E	36	32	17	1.13		側柱	建物としては不確実，柱穴は小さい
92	A 2	5	5	1200	40	240	1140	38	228	137	210(7), 240(8), 240(8), 240(8), 270(9)	222(7.4), 234(7.8), 234(7.8), 240(8), 210(7)	南北棟	N18E	43	37	46	1.16	13世紀か	側柱	西側に延びる可能性大，柱穴から中世土師器出土
93	A 2	2	1	468	15.6	234	222	7.4	222	10	252(8.4), 216(7.2)	222(7.4)	南北棟	N17E	31	27	17	1.15		側柱	柱穴は小さい
94	A 2	5	3	1134	37.8	226	810	27	270	92	192(6.4), 210(7), 264(8.8), 264(8.8), 204(6.8)	300(10), 300(10), 210(7)	東西棟	N68W	45	39	40	1.15	13世紀	総柱	SK2239(15c)・SK2241・SK2243・SK2244・SK2250・SD2256(15c)に切られる
95	A 3 N	5	4	1332	44.4	266	984	32.8	246	131	222(7.4), 300(10), 300(10), 270(9), 240(8)	240(8), 240(8), 288(9.6), 216(7.2)	南北棟	N16E	44	40	30	1.10	12後～13世紀	総柱	SB96より古い，柱穴から中世土師器(12c後半-13c前半)出土
96	A 3 N	5	4	1290	43	258	960	32	240	124	246(8.2), 246(8.2), 276(9.2), 276(9.2), 246(8.2)	240(8), 240(8), 240(8), 240(8)	南北棟	N18E	44	41	26	1.07	13世紀後半	総柱	SB95・SB97・SB98より新しい，柱穴から中世土師器(13c)・珠洲(13c後半)出土
97	A 3 N	4	4	1110	37	277	936	31.2	234	104	240(8), 282(9.4), 300(10), 288(9.6)	228(7.6), 240(8), 240(8), 228(7.6)	南北棟	N15E	42	37	22	1.14	13世紀	総柱	SB96・SB98より古い，柱穴から中世土師器
98	A 3 N	4	3	954	31.8	238	804	26.8	268	77	234(7.8), 234(7.8), 252(8.4), 234(7.8)	240(8), 258(8.6), 306(10.2)	東西棟	N65W	41	38	26	1.08	13世紀	総柱	SB96・SK3011(13-14c)より古い，柱穴から中世土師器(ロクロ)

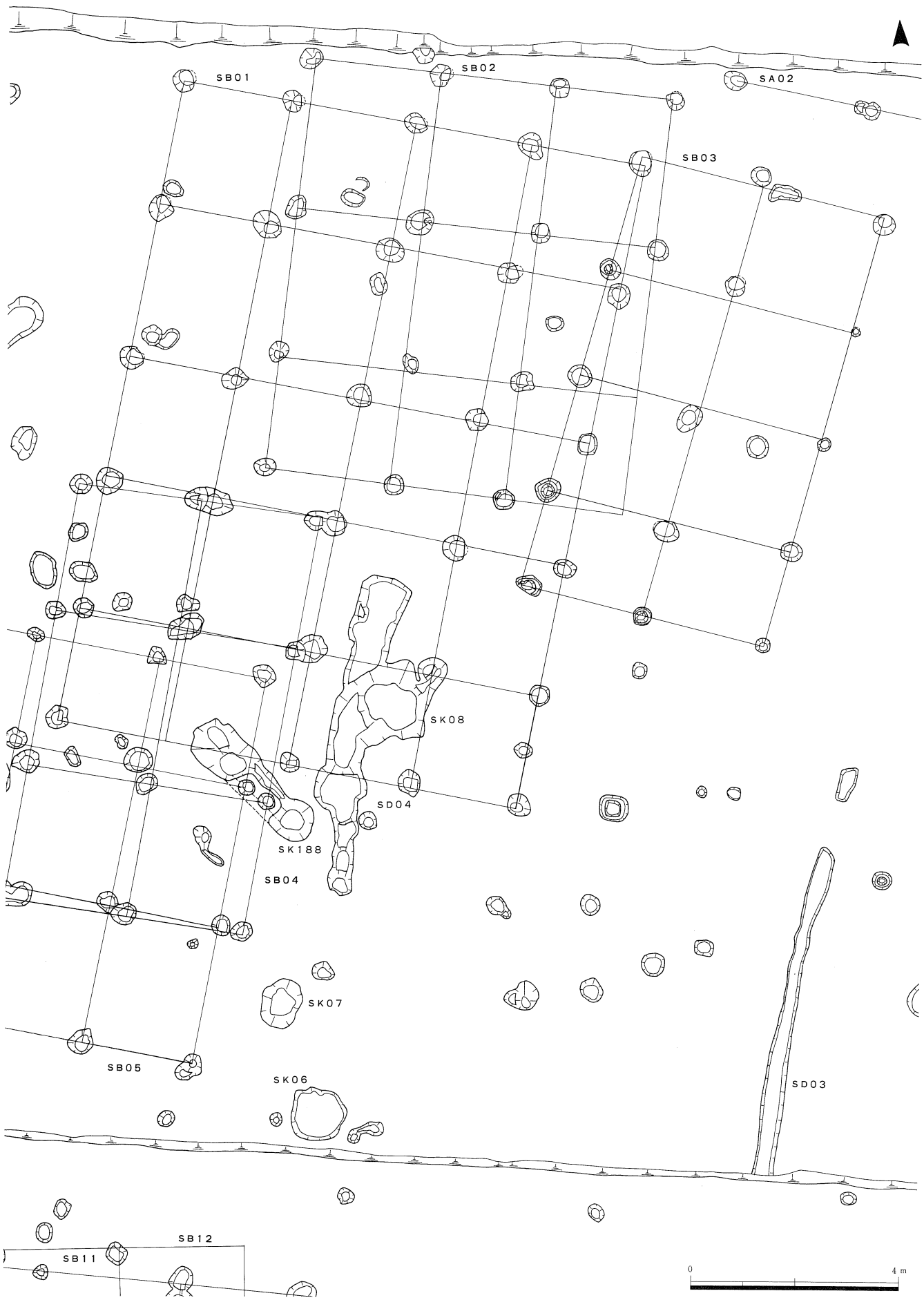
第４表　掘立柱建物(中世前期)一覧(5)

遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長			梁行長			平面積 (m²)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm				時代	柱形式	備考
				cm	尺	平均 cm	cm	尺	平均 cm						長軸	短軸	深さ	長軸÷短軸			
99	A 3 N	3	2	798	26.6	266	480	16	240	38	210(7), 300(10), 288(9.6)	240(8), 240(8)	東西棟	N66W	38	37	15	1.03		総柱	
100	A 3 N	2	2	468	15.6	234	462	15.4	231	22	213(7.1), 255(8.5)	162(5.4), 300(10)	東西棟	N71W	39	35	25	1.11		総柱	建物が少し歪む
101	A 3 N	3	2	840	28	280	438	14.6	219	37	300(10), 270(9), 270(9)	228(7.6), 210(7)	南北棟	N27 E	37	32	23	1.16	13～14世紀	総柱	南側の梁間の間隔が少し広い
102	A 3 N	2	2	660	22	330	450	15	225	30	330(11), 330(11)	180(6), 270(9)	南北棟	N26 E	33	29	33	1.14	14世紀	総柱	SK3019(14c)を含む, 柱穴から中世土師器(14c)出土
103	A 3 N	5	4	1290	43	258	846	28.2	216	123	222(7.4), 270(9), 300(10), 288(9.6), 210(7)	198(6.6), 228(7.6), 222(7.4), 198(6.6)	南北棟	N12 E	42	38	34	1.11	13世紀	総柱	SB104·SB105より新しい, 張出ある
104	A 3 N	4	3	840(870)	28(29)	210(217)	654	21.8	218	56	210(7)240(8), 216(7.2) 210(7), 204(6.8)210(7), 210(7)	216(7.2), 210(7), 228(7.6)	東西棟	N80W	33	31	18	1.06	12後～13世紀	総柱	SB103·SB105より古い, 柱穴から中世土師器出土
105	A 3 N	3	2	630	21	210	552	18.4	276	35	210(7), 240(8), 180(6)	291(9.7), 261(8.7)	東西棟	N74W	26	26	24	1.00	13世紀	総柱	SB104より古く, SB103より新しい, 柱穴から中世土師器(13c)出土
106	A 3 N	2	2	474	15.8	237	444	14.8	222	21	234(7.8), 240(8)	234(7.8), 210(7)	東西棟	N68W	30	24	26	1.25	13後～14世紀	総柱	SB105との切り合い不明, 柱穴より中世土師器(13c)出土
107	A 3 N	2	2	456	15.2	228	444	14.8	222	20	228(7.6), 228(7.6)	222(7.4), 222(7.4)	南北棟	N16 E	29	27	22	1.07	13世紀	総柱	柱穴から中世土師器出土, SK3377(13c?)より古い, 柱間不揃い
108	A 3 N	3	2	762	25.4	254	444	14.8	222	34	252(8.4), 252(8.4), 258(8.6)	216(7.2), 228(7.6)	南北棟	N18 E	29	26	21	1.12	13～14世紀	側柱	柱穴から中世土師器(13c-14c)出土
109	A 3 N	2	2	462	15.4	231	414	13.8	207	19	231(7.7), 231(7.7)	198(6.6), 216(7.2)	南北棟	N29 E	29	26	26	1.12	13世紀	総柱	柱穴から中世土師器(13c)出土
110	A 3 N	3	2	708	23.6	236	420	14	210	30	264(8.8), 252(8.4), 192(6.4)	210(7), 210(7)	南北棟	N15 E	33	28	27	1.18	14世紀以降	側柱	SK3025を切る, SK3021を伴う
111	A 3 N	4	2	858	28.6	214	354	11.8	177	30	240(8), 168(5.6), 240(8), 210(7)	150(5), 204(6.8)	南北棟	N61W	31	27	12	1.15	14世紀	側柱	柱穴から中世土師器(13c-14c)出土, SK3007に切られる
112	A 3 N	5	4	960	32	192	720	24	180	69	150(5), 210(7), 222(7.4), 216(7.2), 162(5.4)	150(5), 210(7), 201(6.7), 159(5.3)	南北棟	N31 E	34	30	19	1.13	13～14世紀	総柱	柱穴から中世土師器(13c-14c)出土
113	A 3 N	2	2	450	15	225	420	14	210	19	210(7), 240(8)	210(7), 210(7)	南北棟	N29 E	27	26	16	1.04	13～14世紀	総柱	南側に柵SA07が付く, 柱穴が小さい
114	A 3 N	3	3	708	23.6	236	672	22.4	224	48	228(7.6), 240(8), 240(8)	204(6.8), 234(7.8), 234(7.8)	南北棟	N19 E	31	27	20	1.15	13世紀	総柱	東に延びる可能性大, 柱穴から中世土師器(13c)出土
115	A 3 S	4	4	1080	36	270	912	30.4	228	98	210(7), 282(9.4), 288(9.6), 300(10)	228(7.6), 234(7.8), 222(7.4), 228(7.6)	南北棟	N19 E	34	30	21	1.13	14世紀	側柱	柱穴から中世土師器(13c)·珠洲擂鉢(14c)出土
116	A 3 S	2	1	372(366)	12.4(12.2)	186(183)	240(258)	8(8.6)	240(258)	9	186(6.2)210(7), 186(6.2)156(5.2)	240(8)258(8.6)	東西棟	N68W	27	23	18	1.17	13～14世紀か	側柱	柱穴から中世土師器出土
117	A 3 S	4	2	870	29	217	600	20	300	52	180(6), 222(7.4), 234(7.8), 234(7.8)	300(10), 300(10)	東西棟	N76W	44	39	35	1.13	13～14世紀か	総柱	SD3425·SD3770(14c－15c)に切られる, 柱穴から中世土師器出土

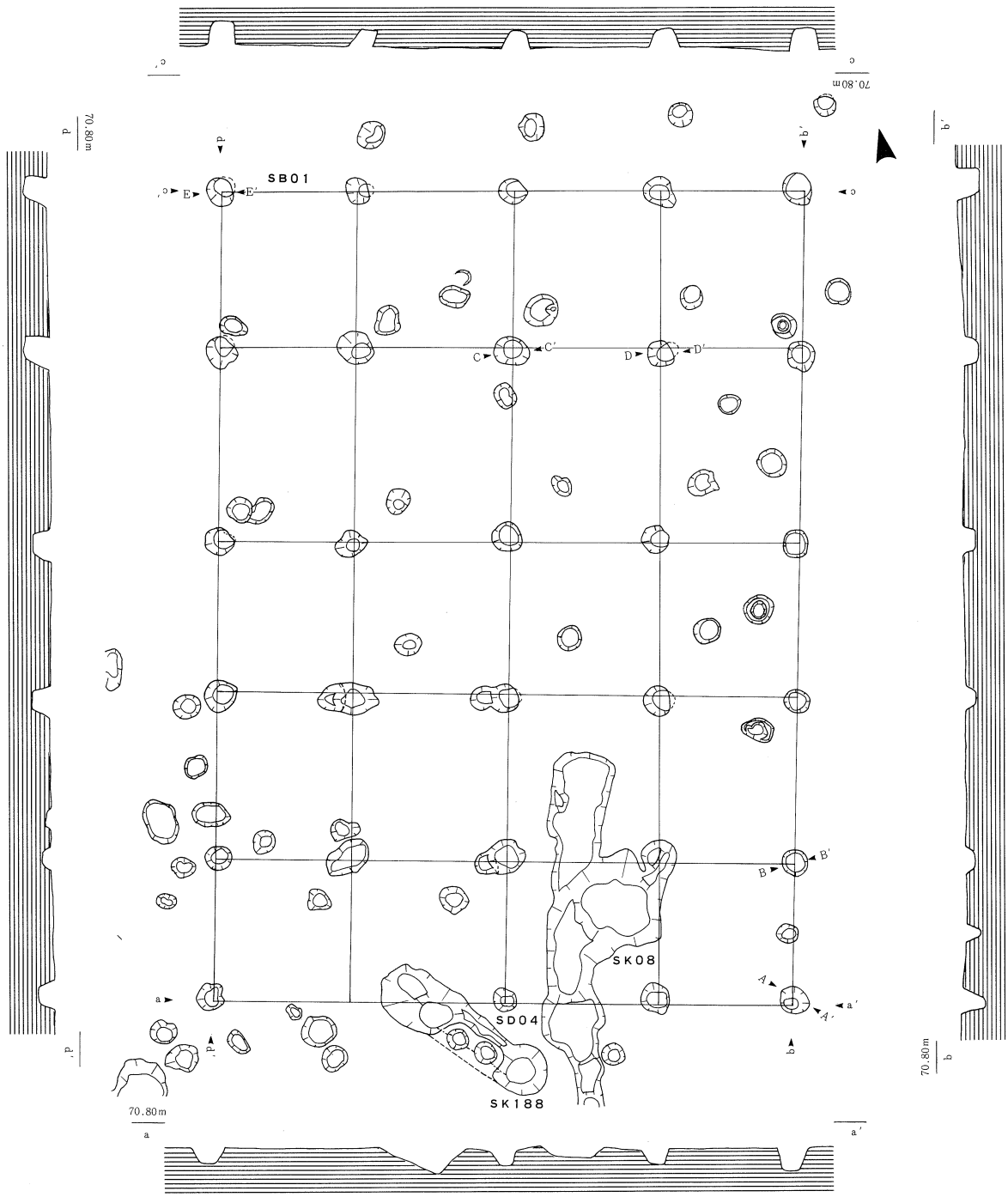
第４表　掘立柱建物(中世前期)一覧 (6)

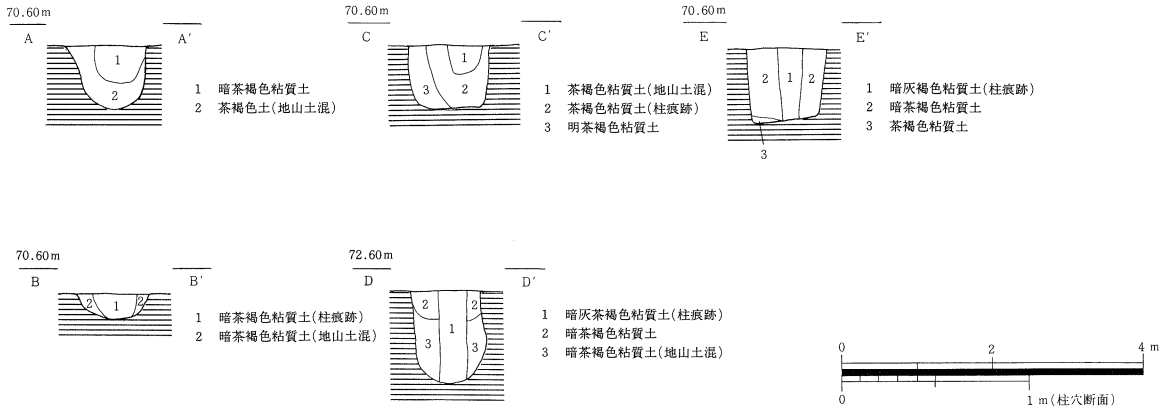
遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長 cm	桁行長 尺	桁行長 平均 cm	梁行長 cm	梁行長 尺	梁行長 平均 cm	平面積 (㎡)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm 長軸	柱穴 cm 短軸	柱穴 cm 深さ	柱穴 cm 長軸÷短軸	時代	柱形式	備考
121	A3S	3	2	690	23	230	468	15.6	234	32	210(7),180(6),300(10)	234(7.8),234(7.8)	東西棟	N69W	34	30	21	1.13	13～14世紀初	総柱か	SD3425に切られる
122	A3S	6	4	1680	56	280	1020	34	255	171	270(9),270(9),300(10),300(10),270(9),270(9)	270(9),240(8),240(8),270(9)	南北棟	N16E	38	35	21	1.09	13世紀	総柱	SB125・SD3425に切られる,柱穴から中世土師器出土
123	A3S	5	4	1260(1290)	42(43)	252(258)	924	30.8	231	118	210(7),270(9),300(10),270(9)300(10),210(7)	210(7),240(8),240(8),234(7.8)	南北棟	N10E	50	43	34	1.16	13～14世紀	総柱	SB125より古い,SK3588(15c)に切られる,柱穴から中世土師器(13c)・鍛冶滓出土
124	A3S	4	2	954	31.8	238	396	13.2	198	38	240(8),234(7.8),240(8),240(8)	168(5.6),228(7.6)	東西棟	N80W	38	33	20	1.15	13～14世紀	総柱	SB123より古い,北列の2つの柱穴やや不十分,建物としては検討必要
125	A3S	5	4	1320	44	264	960	32	240	127	240(8),270(9),288(9.6),270(9),252(8.4)	240(8),240(8),240(8),240(8)	南北棟	N10E	47	39	32	1.21	13世紀	総柱	SB122より新しい,柱穴から中世土師器(13c)・白磁(12後-13c)・鍛冶滓出土
128	A3S	4	3	960	32	240	690	23	230	66	240(8),240(8),240(8),240(8)	240(8),210(7),240(8)	南北棟	N10E	44	36	28	1.22	13～14世紀	総柱	SK3750(14-15c)に切られる,柱穴から中世土師器(13c)・珠洲出土
129	A3S	4	3	882	29.4	220	708	23.6	236	62	222(7.4),222(7.4),228(7.6),210(7)	210(7),258(8.6),240(8)	東西棟	N86W	46	39	22	1.18	14世紀	総柱	SK3570(14c)より古い,柱穴から中世土師器(13c—14c)・珠洲(13c-14c)出土
130	A3S	3	2	672	22.4	224	450	15	225	30	228(7.6),222(7.4),222(7.4)	240(8),210(7)	南北棟	N13E	35	29	26	1.21	13世紀～	側柱	柱穴から中世土師器(13c)出土
131	A3S	3	1	558	18.6	186	240(252)	8(8.4)	240(252)	14	168(5.6),222(7.4),168(5.6)	240(8)252(8.4)	東西棟	N73W	27	25	27	1.08	14～15世紀	側柱	梁間は東西で違う,柱穴から中世土師器(ロクロ)出土,SK3488(14c)を切られる
132	A3S	3	3	588	19.6	196	540	18	180	32	216(7.2),210(7),162(5.4)	216(7.2),162(5.4),162(5.4)	東西棟	N78W	33	29	21	1.14	14～15世紀か	側柱	間仕切の柱2本有り,柱穴から中世土師器(13c-15c)・八尾(13c後半)出土
133	A3S	2	1	480	16	240	279	9.3	279	13	240(8),240(8)	279(9.3)	東西棟	N76W	30	27	29	1.11	14～15世紀か	側柱	柱穴から中世土師器・珠洲(13c)出土
134	A3S	3	3	720	24	240	714	23.8	238	56	228(7.6),240(8),252(8.4)	288(9.6),228(7.6),198(6.6)	東西棟	N80W	35	28	11	1.25	14～15世紀	側柱	北西隅に1間(240cm)×1間(198cm)の張出部ある
135	A3S	2	2	450	15	225	420	14	210	19	225(7.5),225(7.5)	210(7),210(7)	東西棟	N75W	32	28	16	1.14	14～15世紀	総柱	
142	B	2	2	510	17	255	450	15	225	23	270(9),240(8)	240(8),210(7)	南北棟	N2E	44	34	29	1.29	14～15世紀	側柱	SK4807(13c-14c)を伴う,柱穴から青磁出土

第4表　掘立柱建物(中世前期)一覧(7)

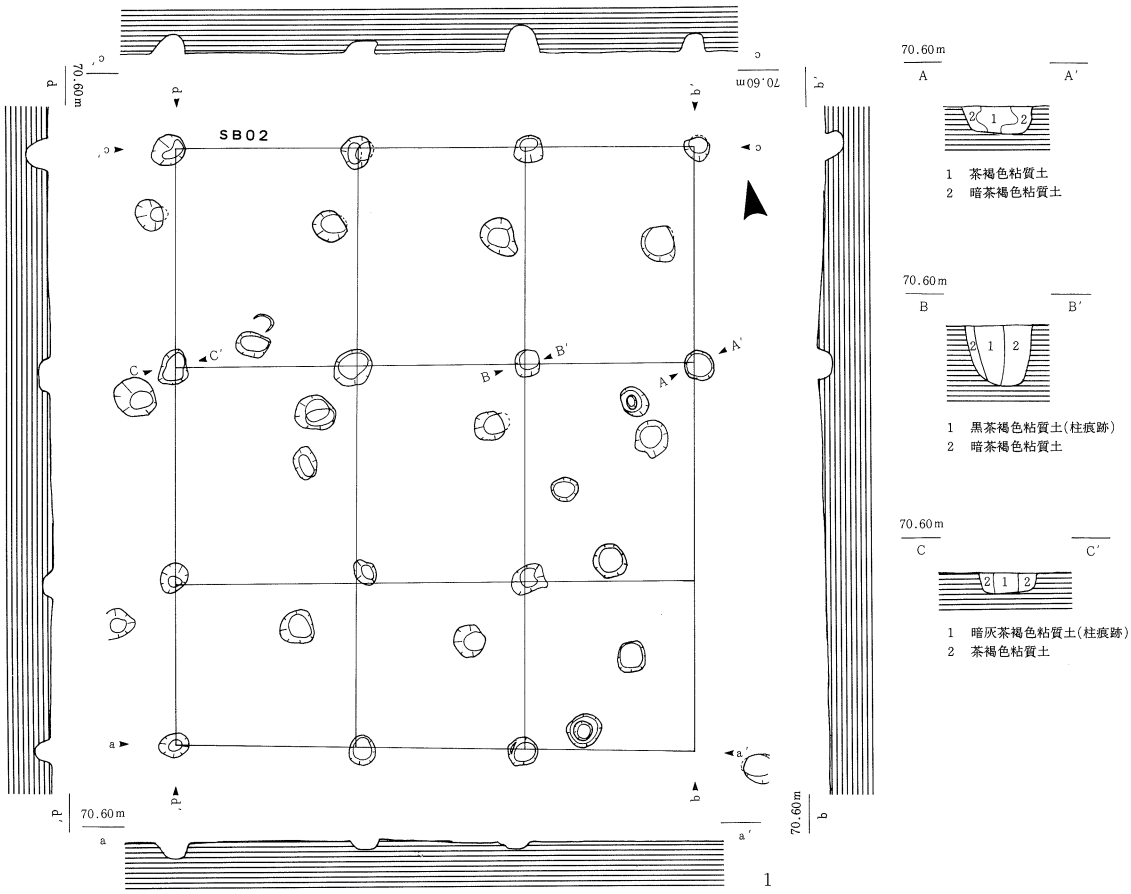


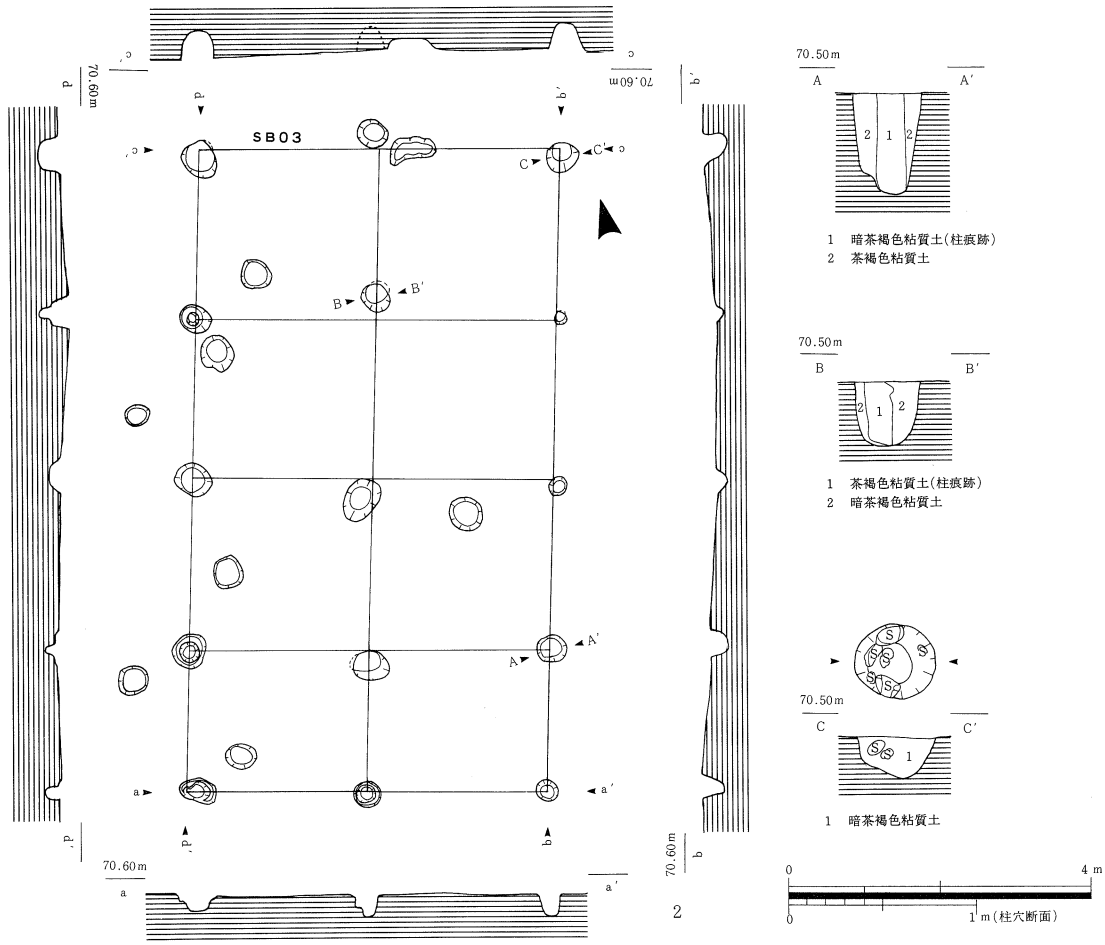
第17図　遺構実測図（中世前期）
SB01～SB05



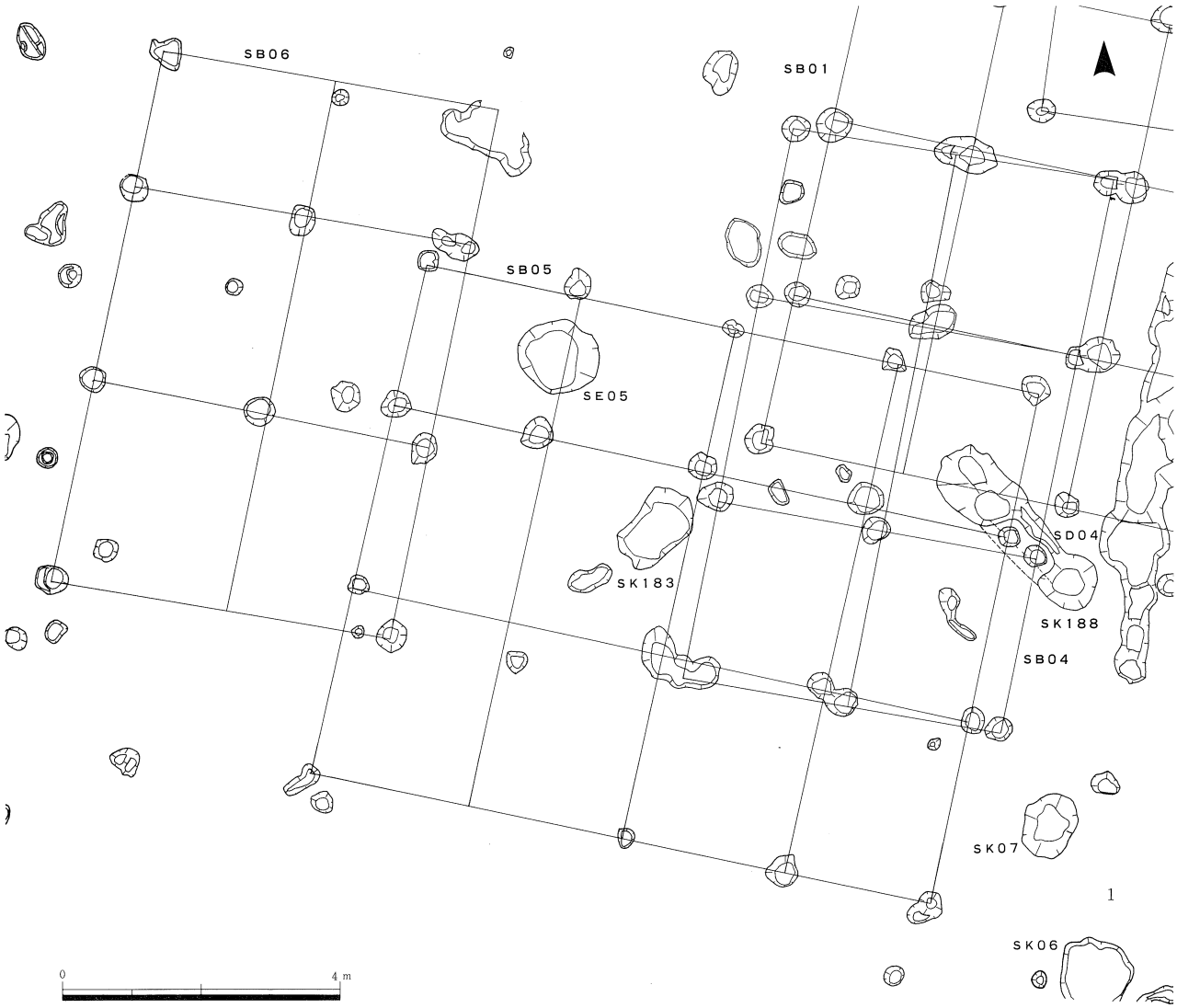


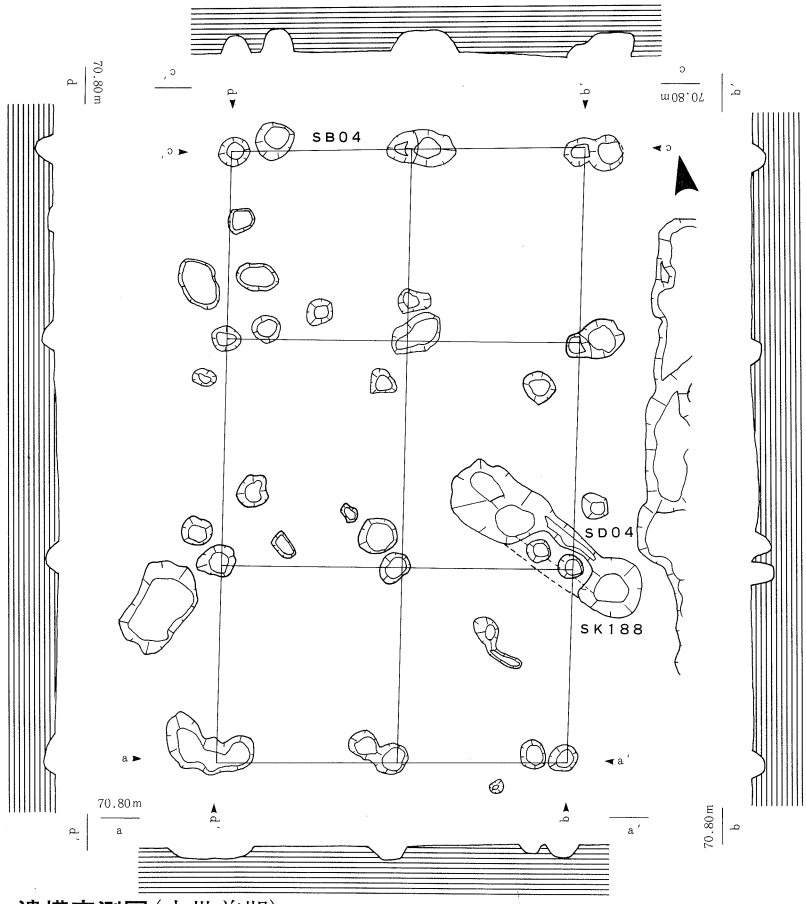
第18図　遺構実測図(中世前期)
SB01





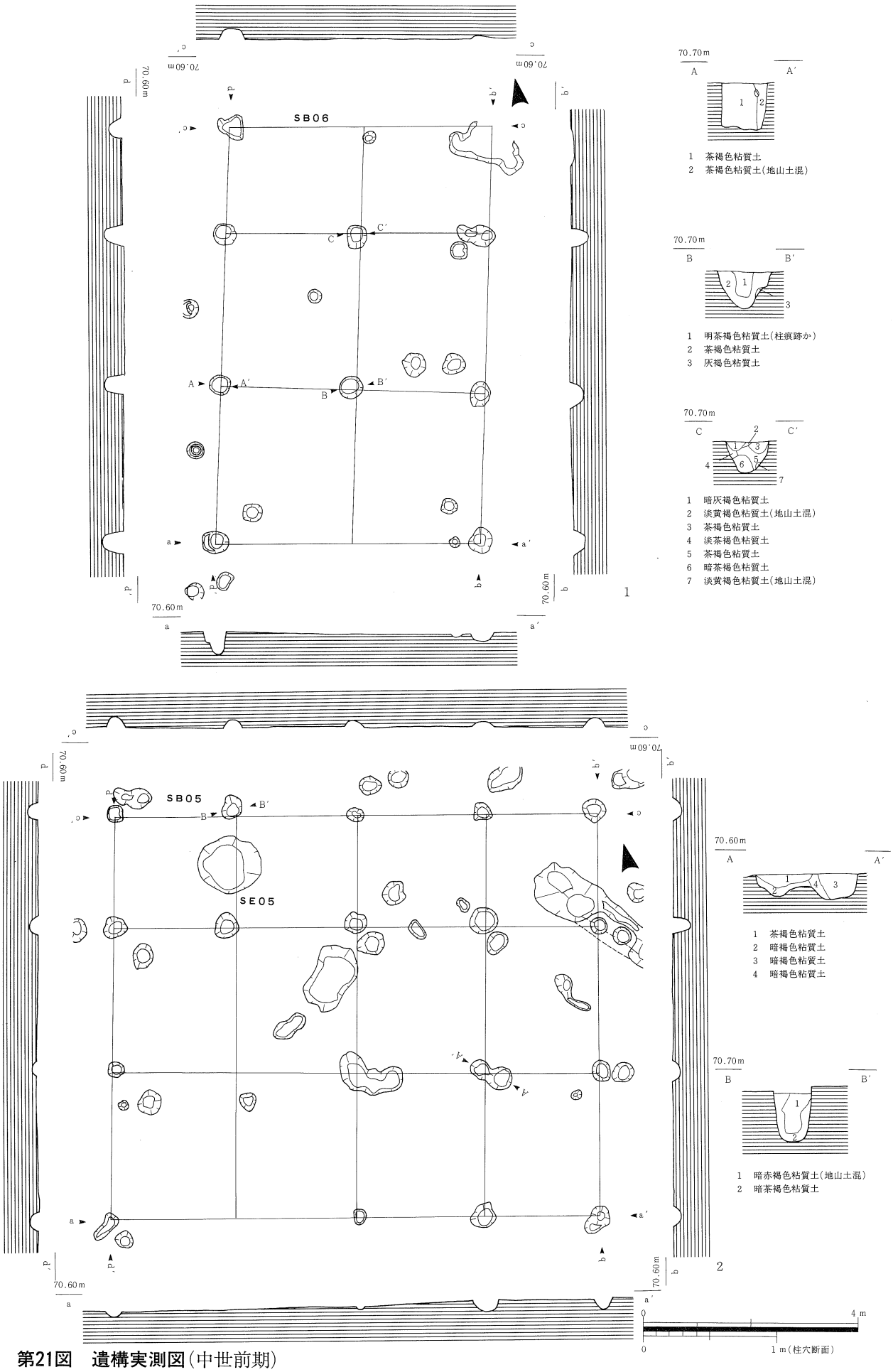
第19図　遺構実測図(中世前期)
1.SB02　2.SB03



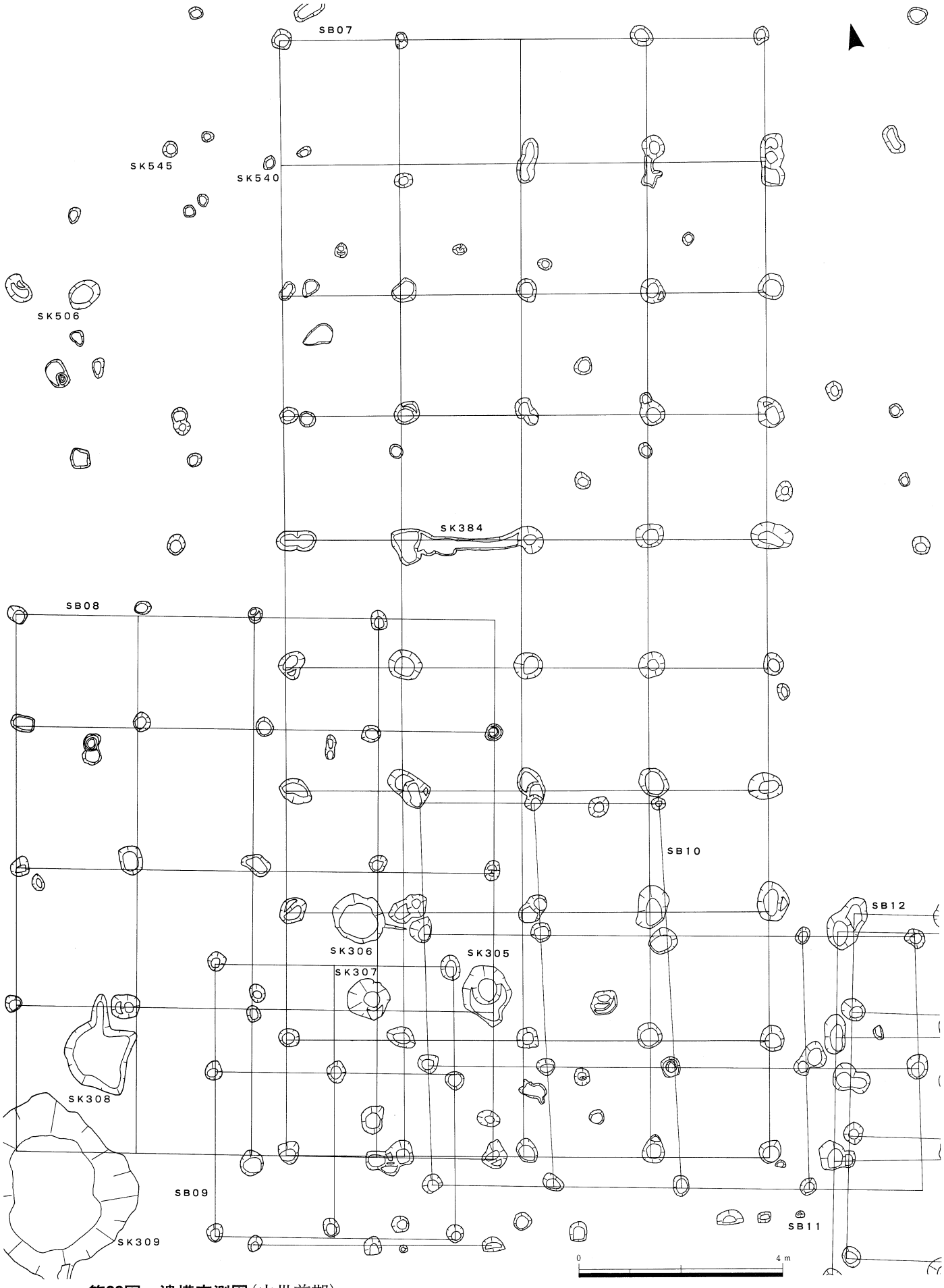


第20図　遺構実測図（中世前期）

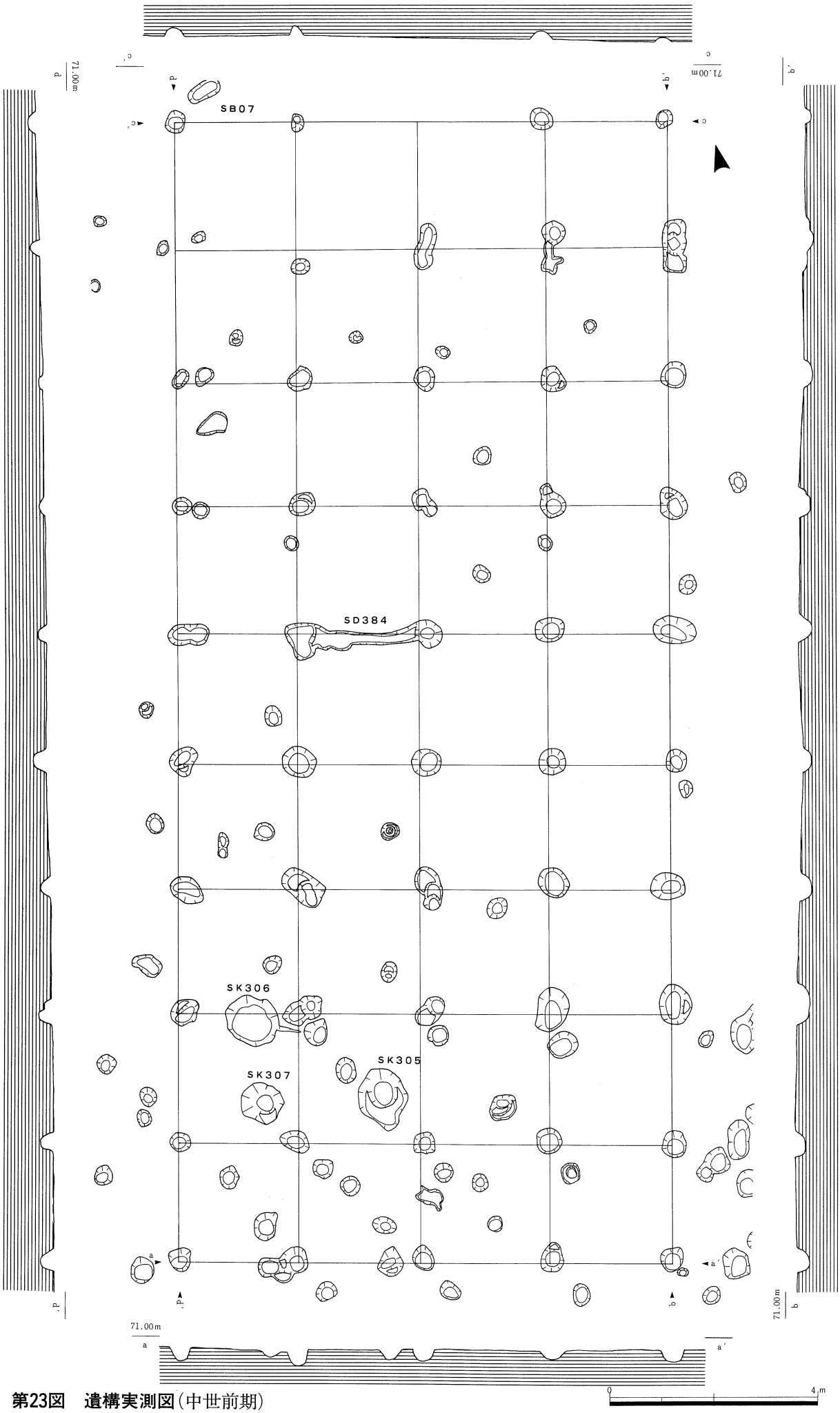
1.SB04・SB05・SB06　2.SB04



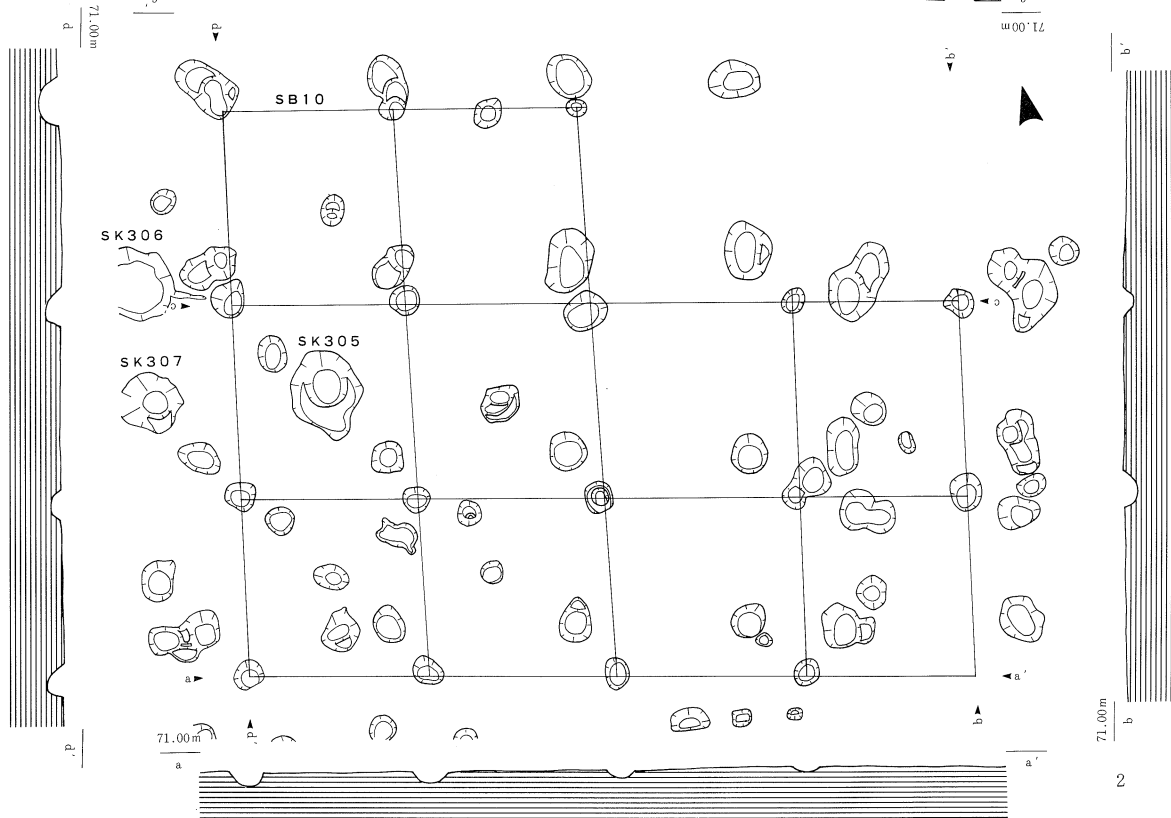
第21図　遺構実測図(中世前期)
1.SB06　2.SB05



第22図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ０７～ＳＢ１２

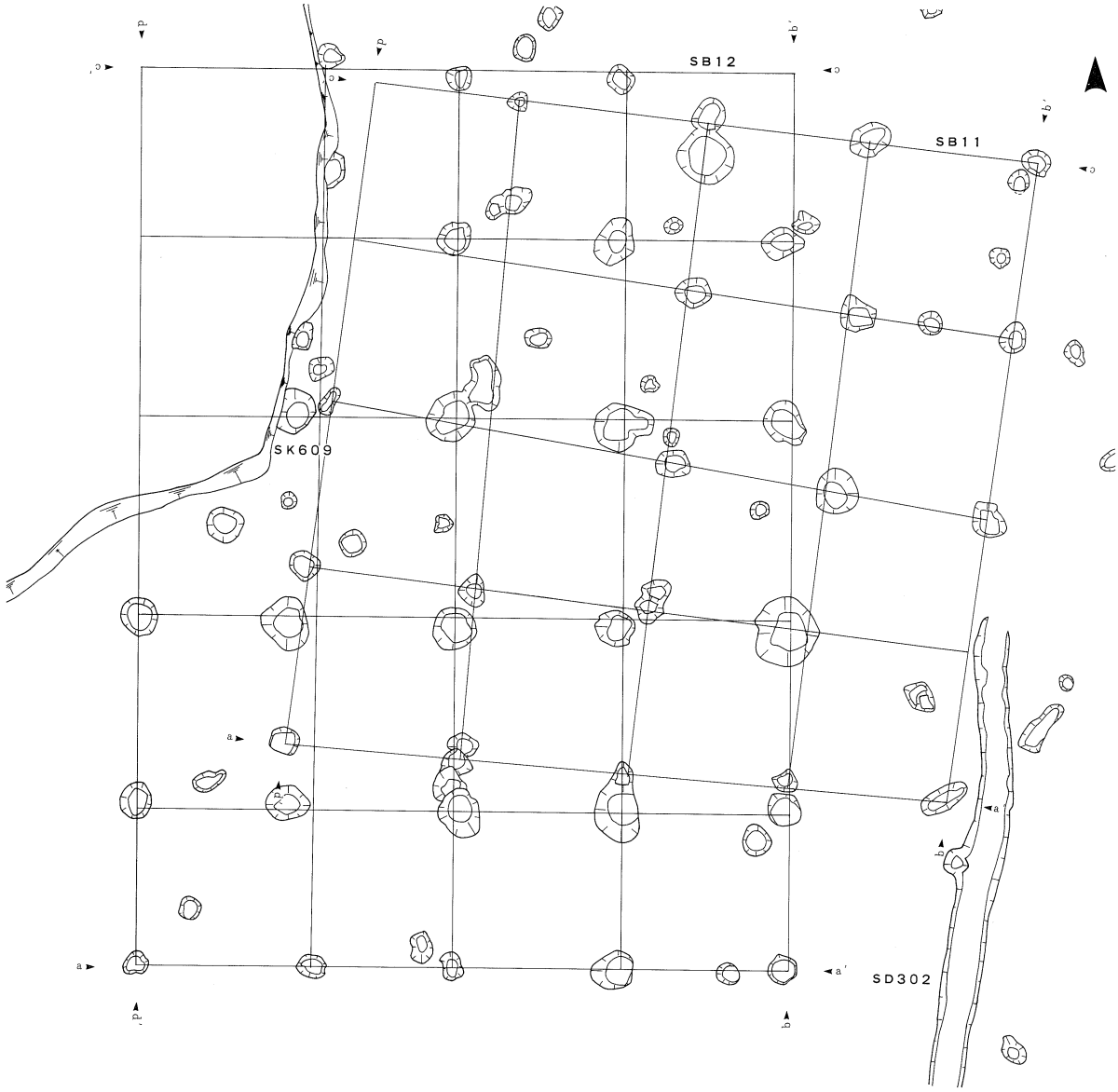


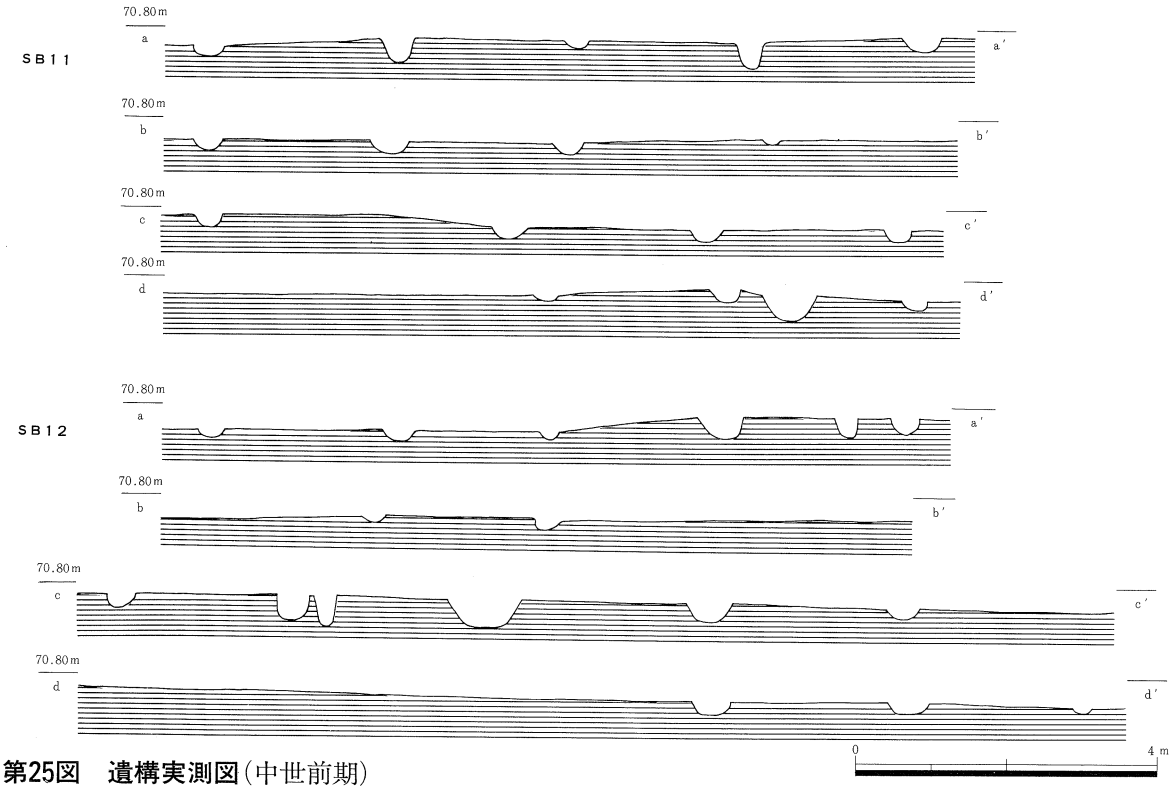
第23図　遺構実測図（中世前期）
SB07



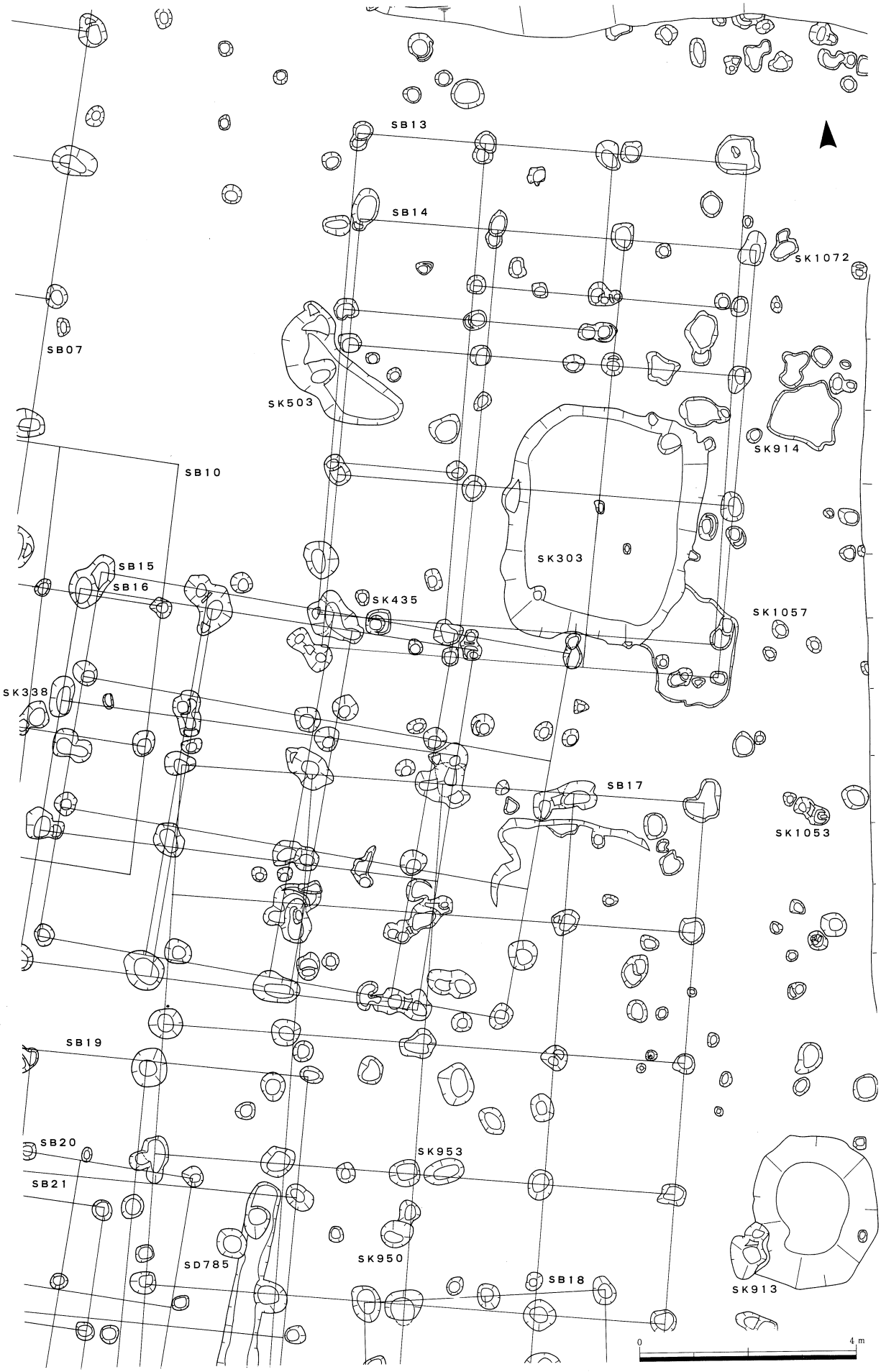
第24図　遺構実測図（中世前期）

1.ＳＢ０８　2.ＳＢ１０

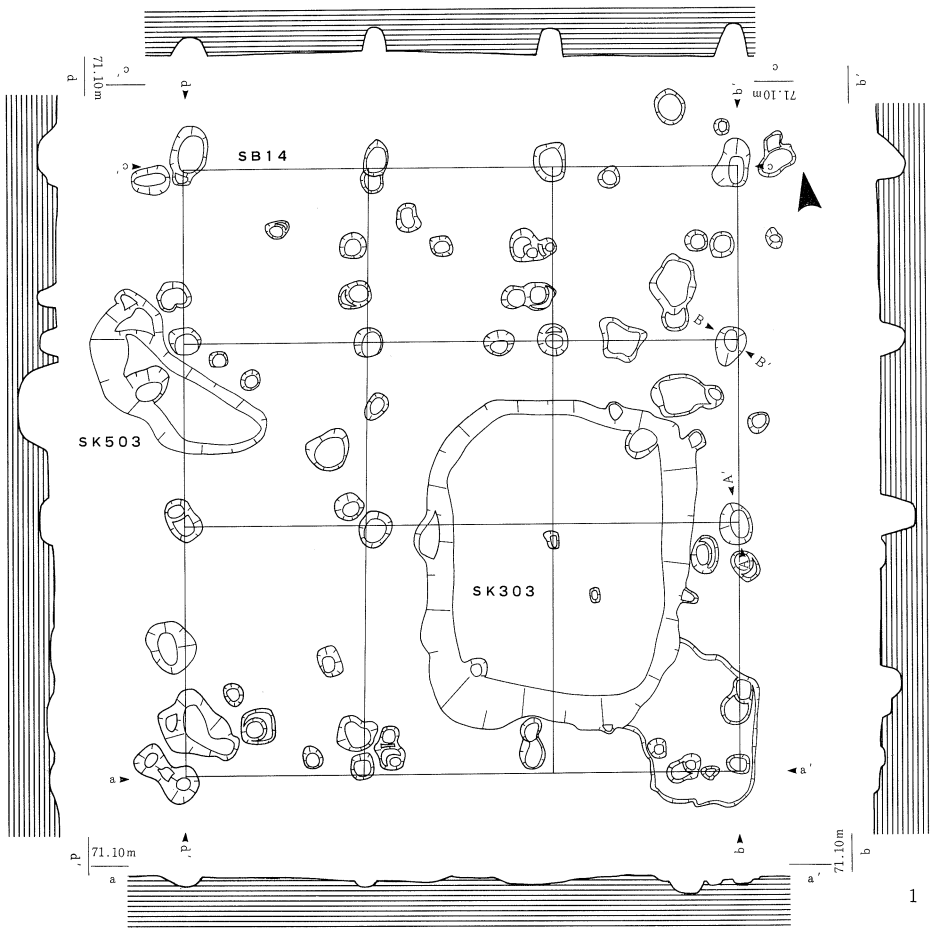


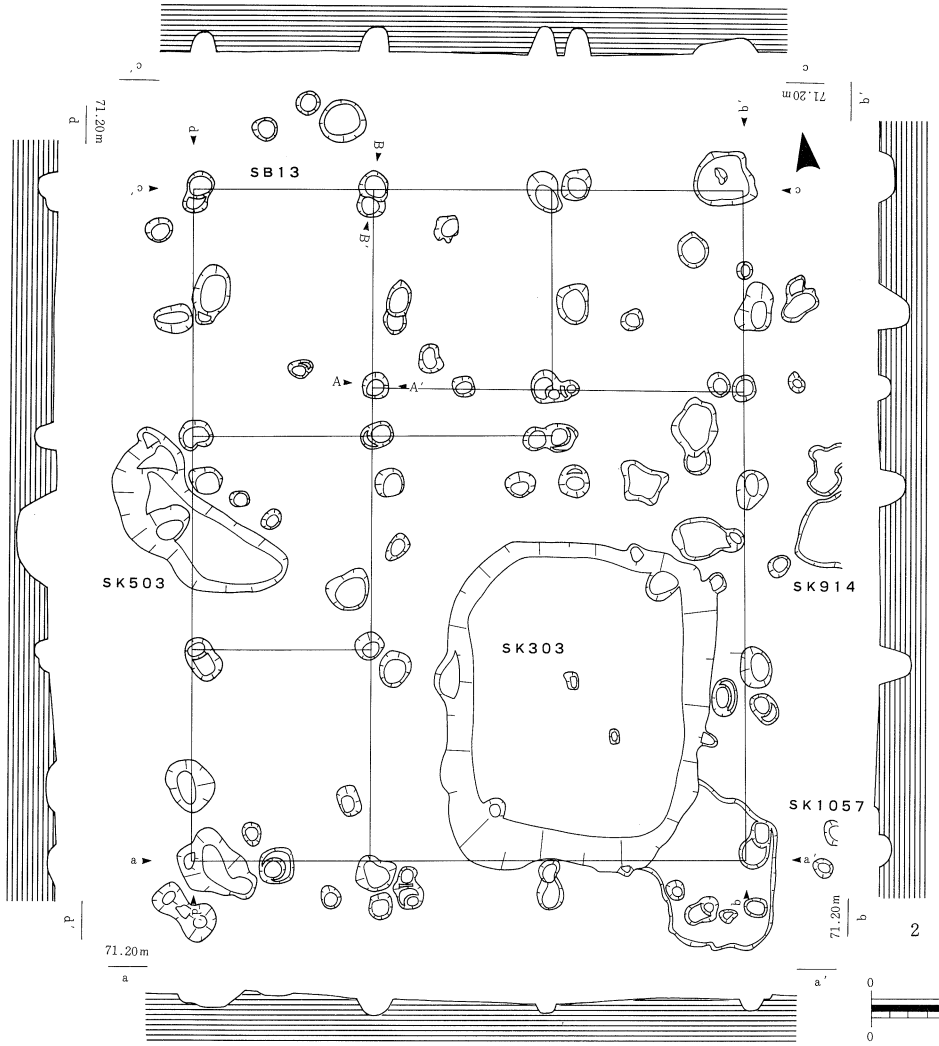


第25図　遺構実測図(中世前期)
SB11・SB12

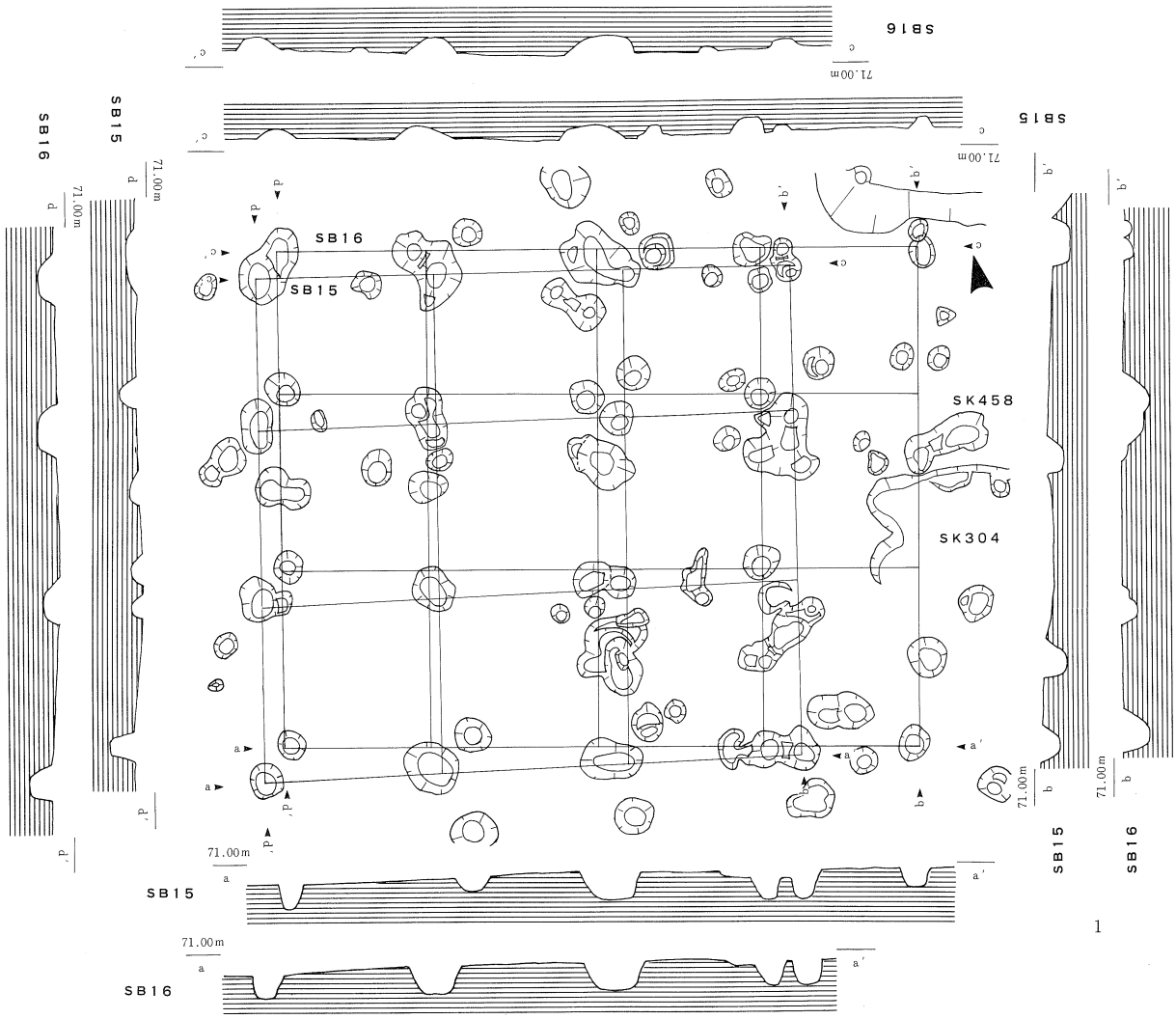


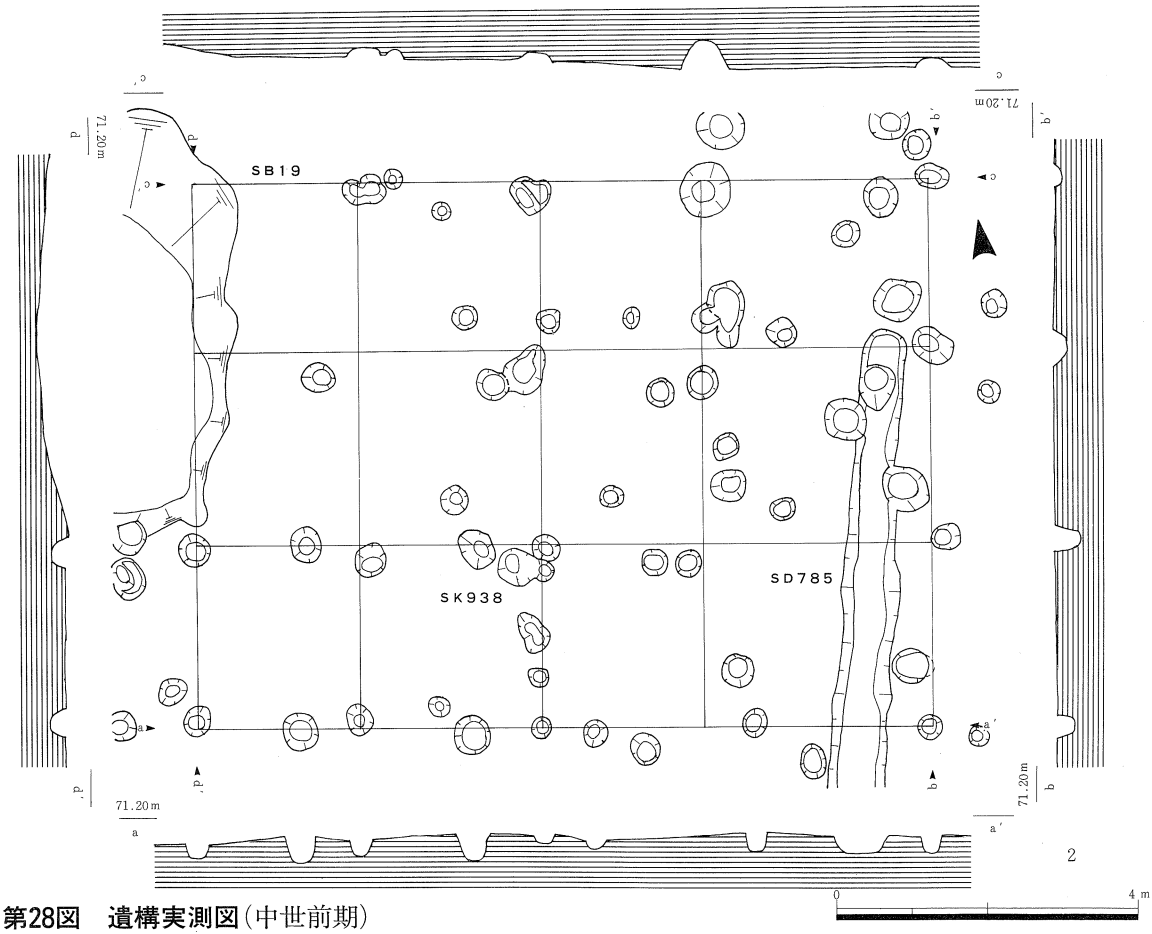
第26図　遺構実測図(中世前期)
SB13・SB14・SB15・SB16



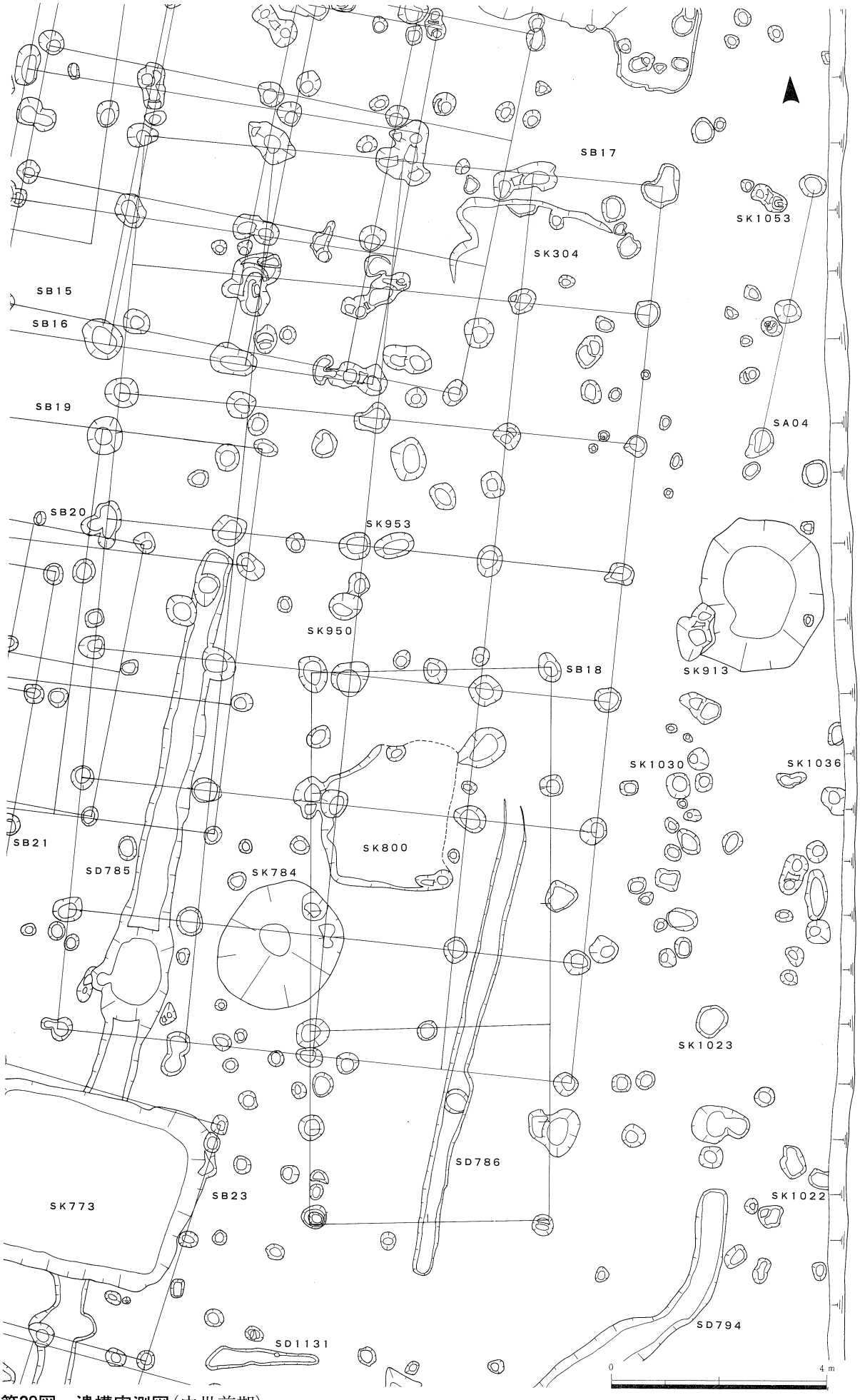


第27図　遺構実測図(中世前期)
1.SB13　2.SB14

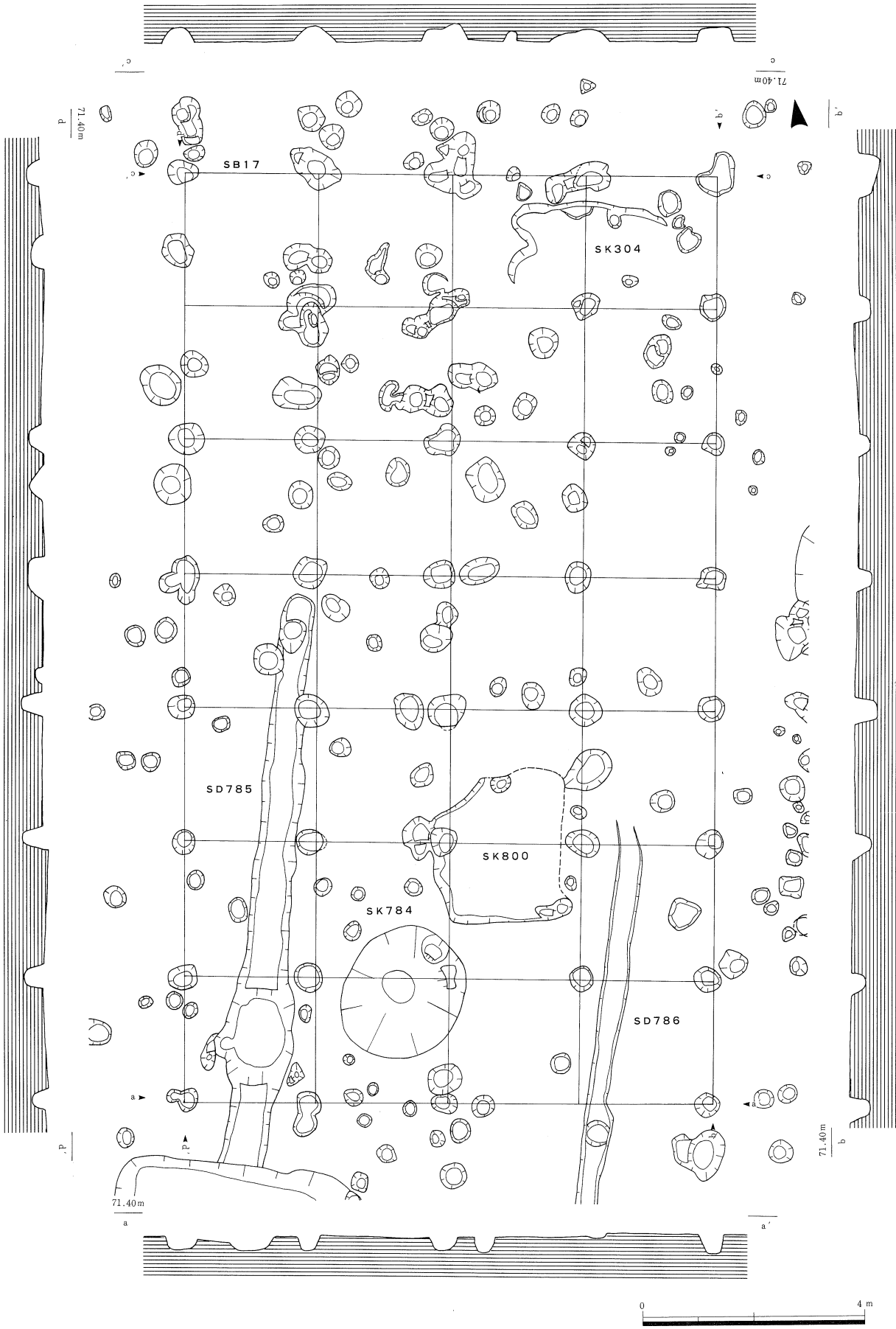




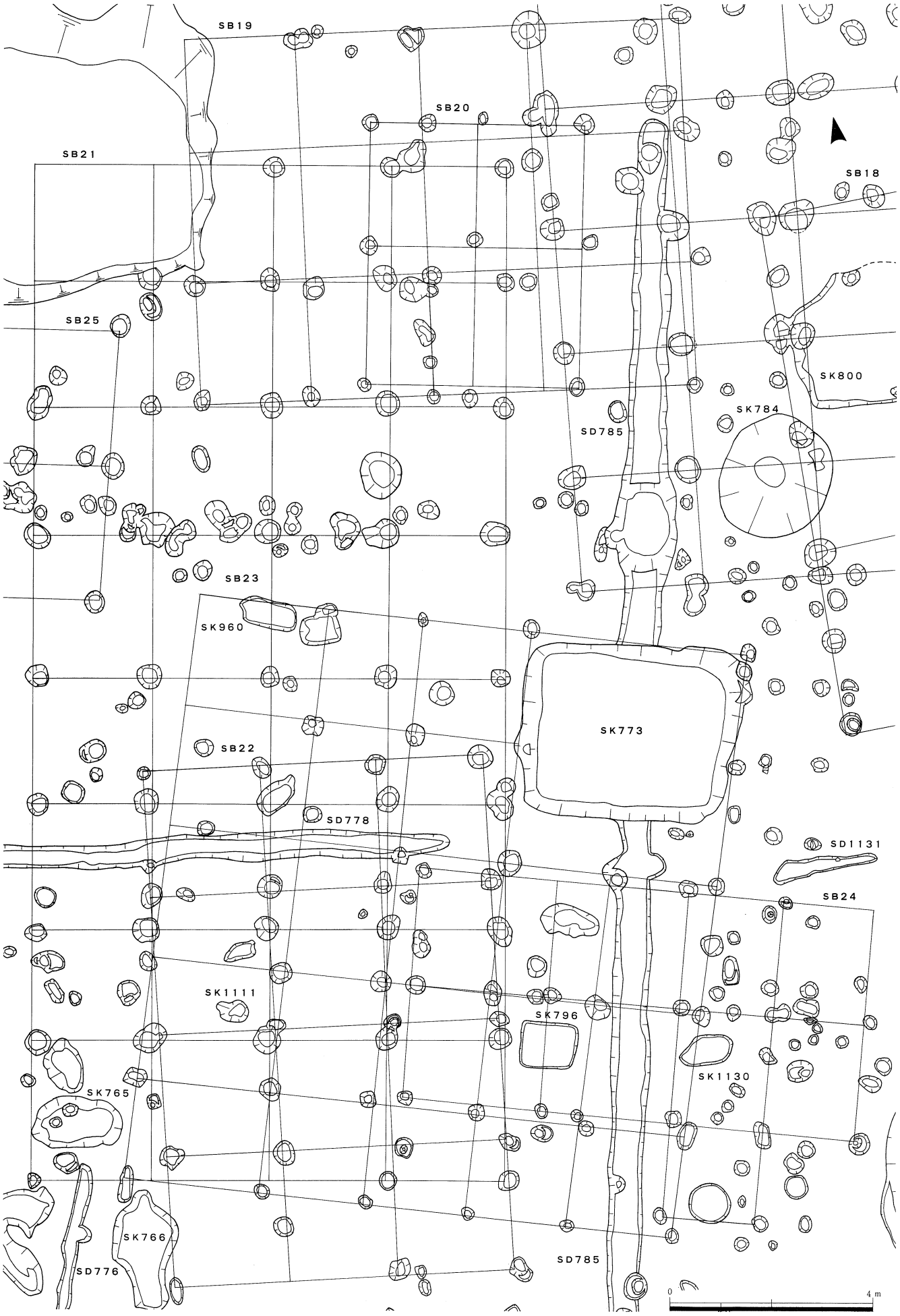
第28図　遺構実測図(中世前期)
1.SB15・SB16　2.SB19



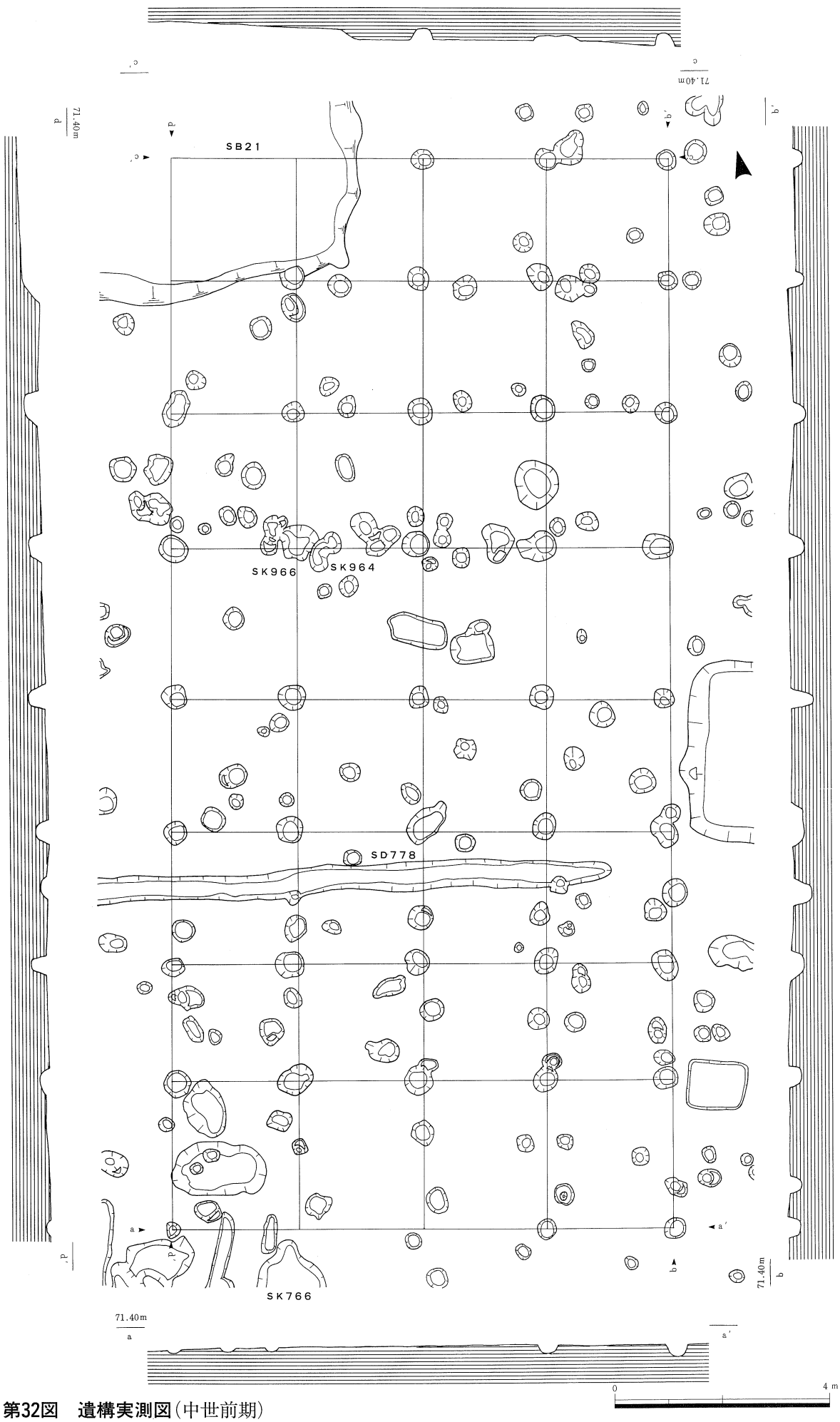
第29図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ１７・ＳＢ１８



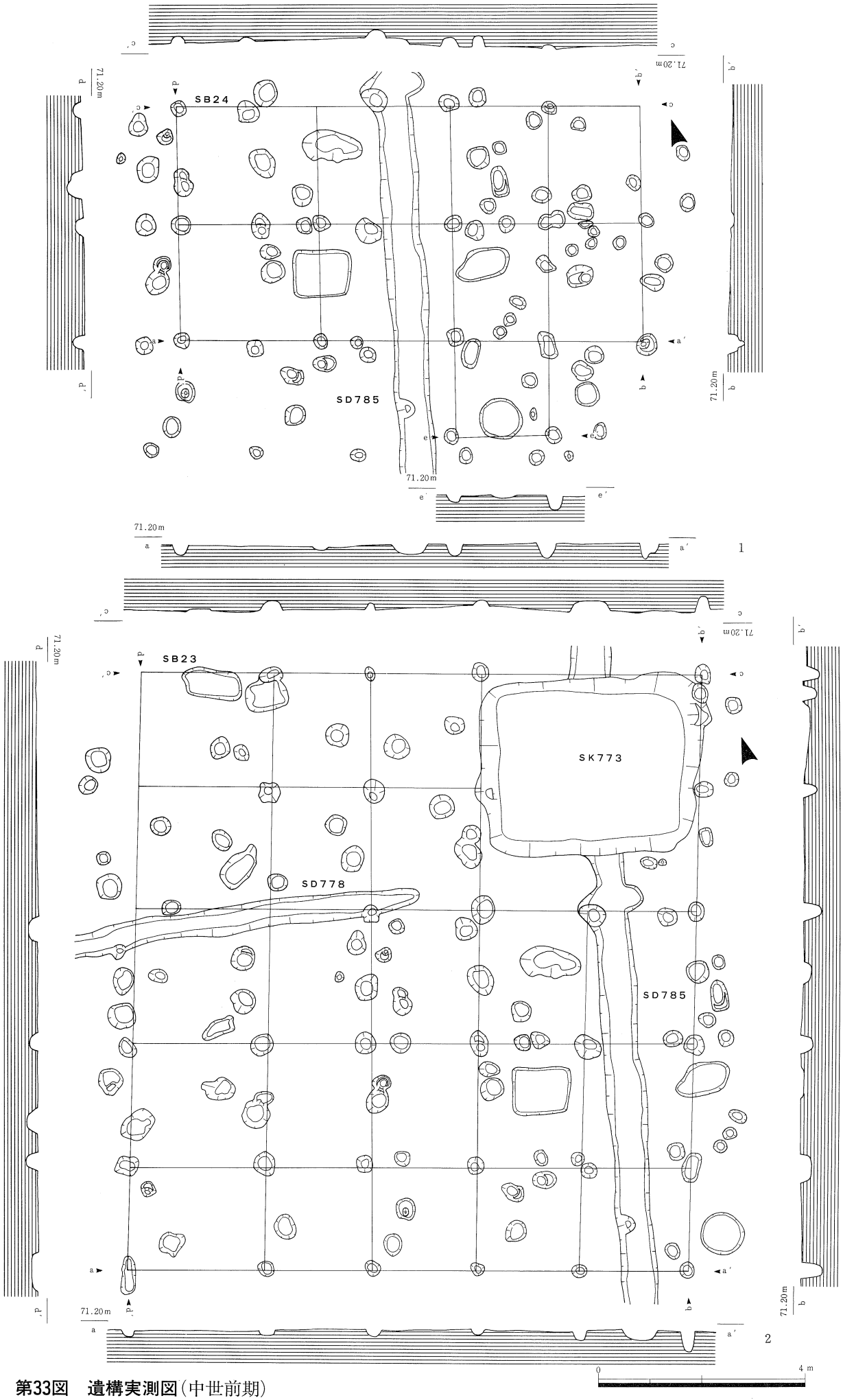
第30図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ１７



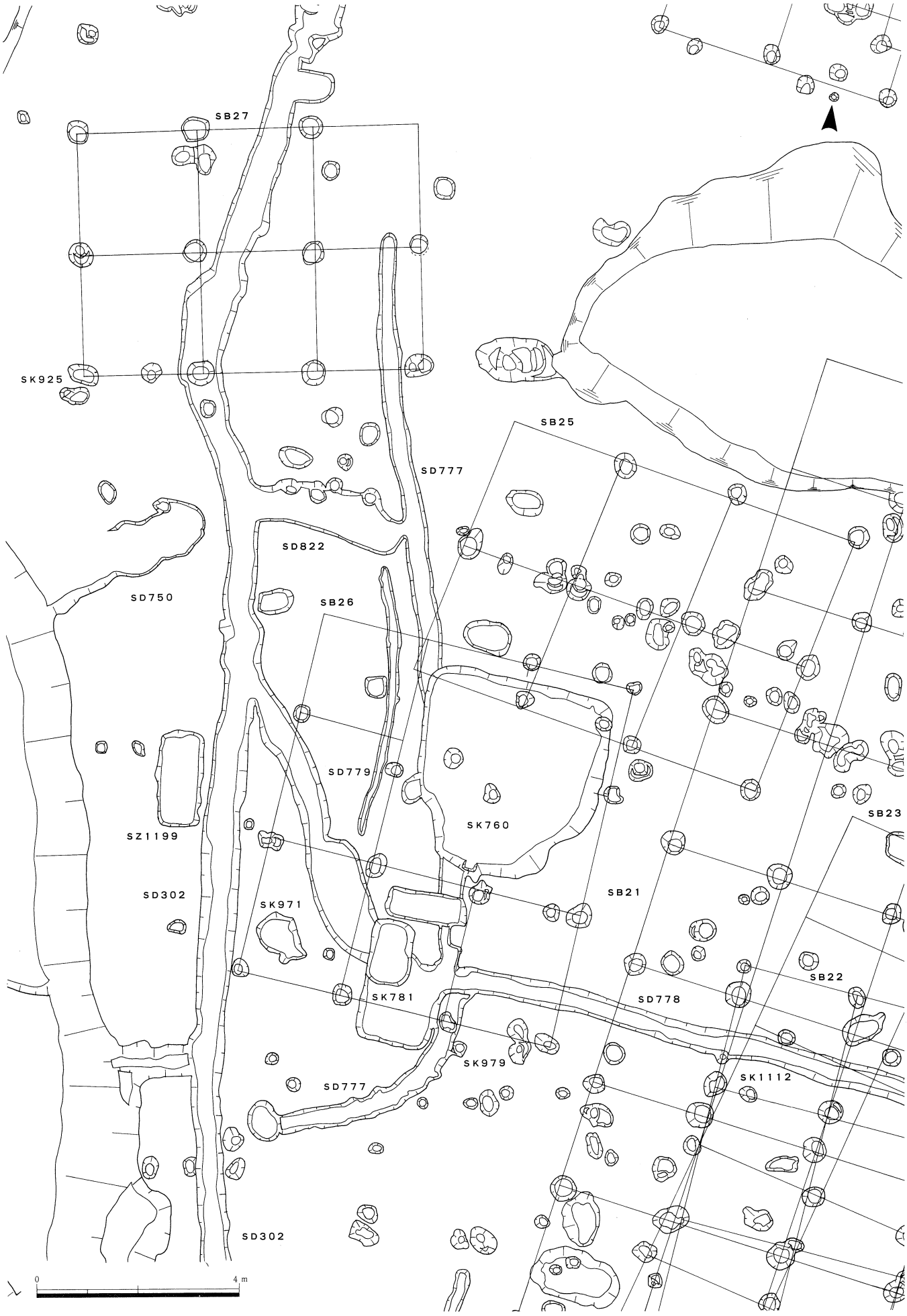
第31図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ１９～ＳＢ２４



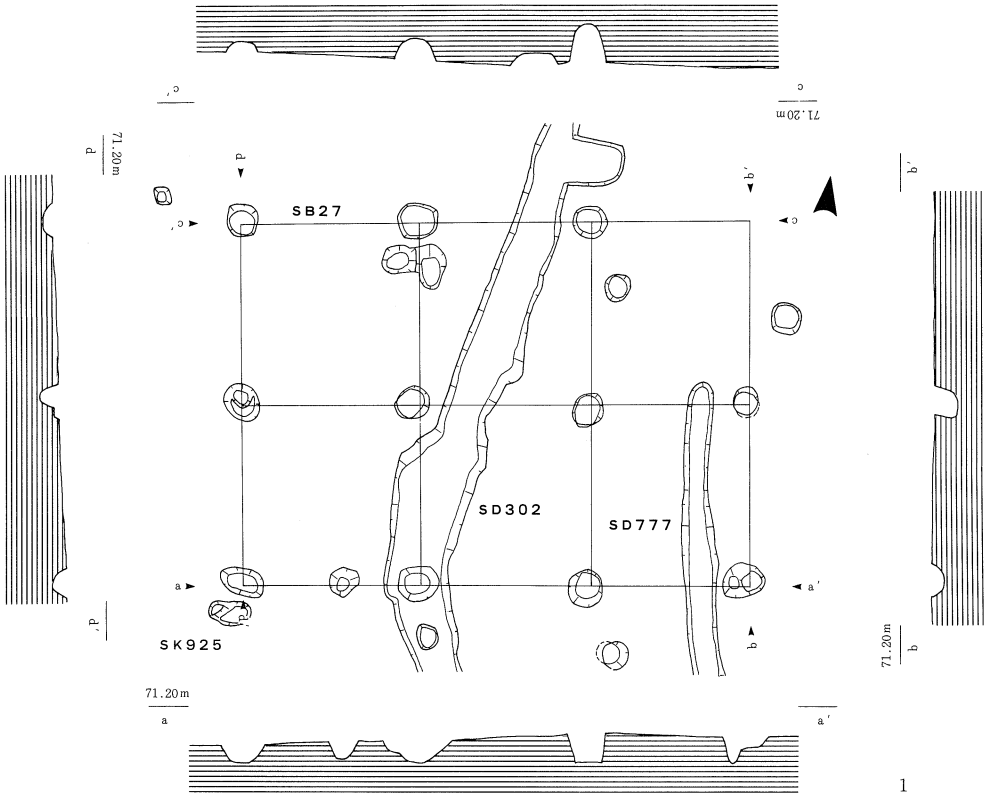
第32図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ２１

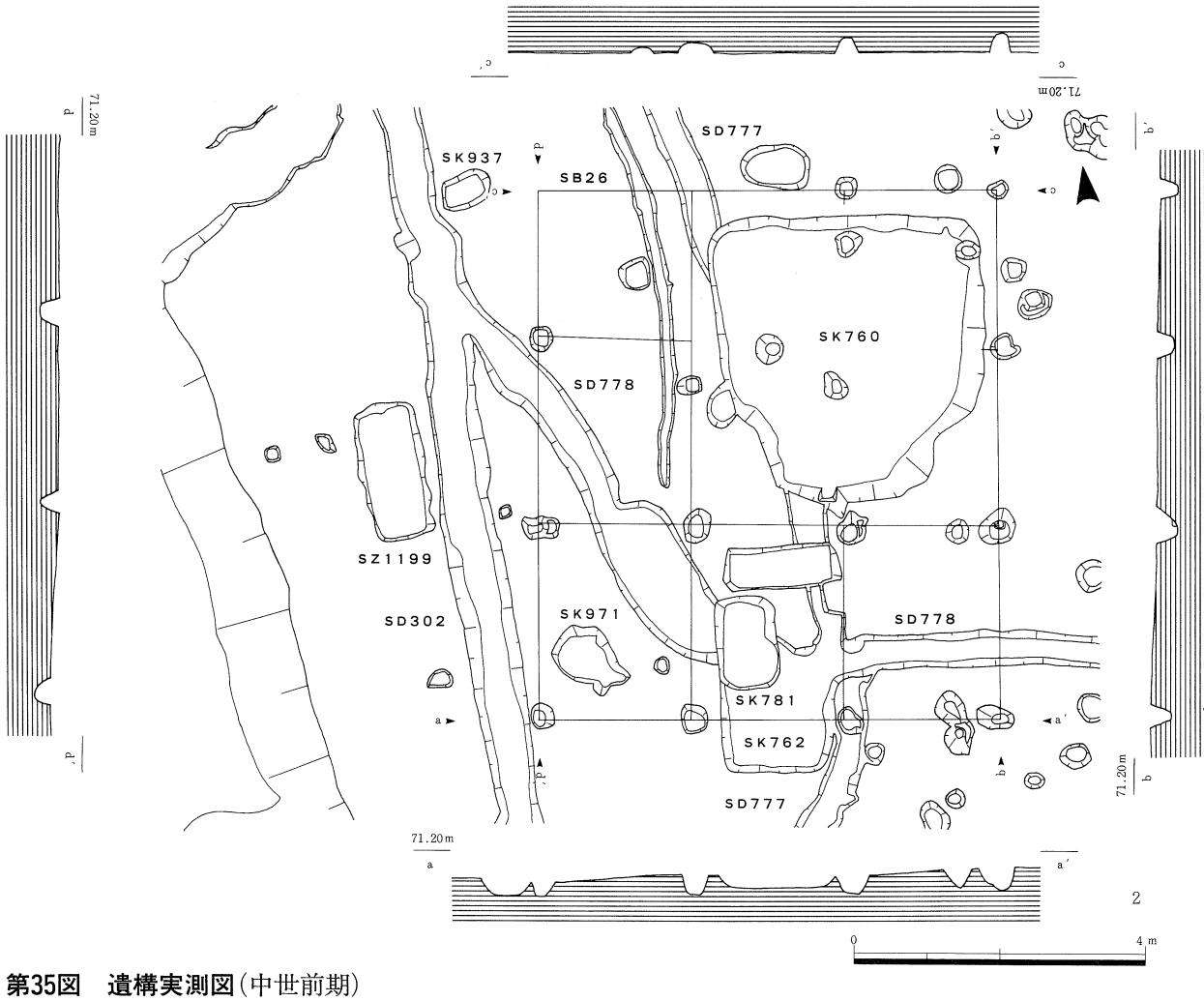


第33図　遺構実測図(中世前期)
1.SB24　2.SB23

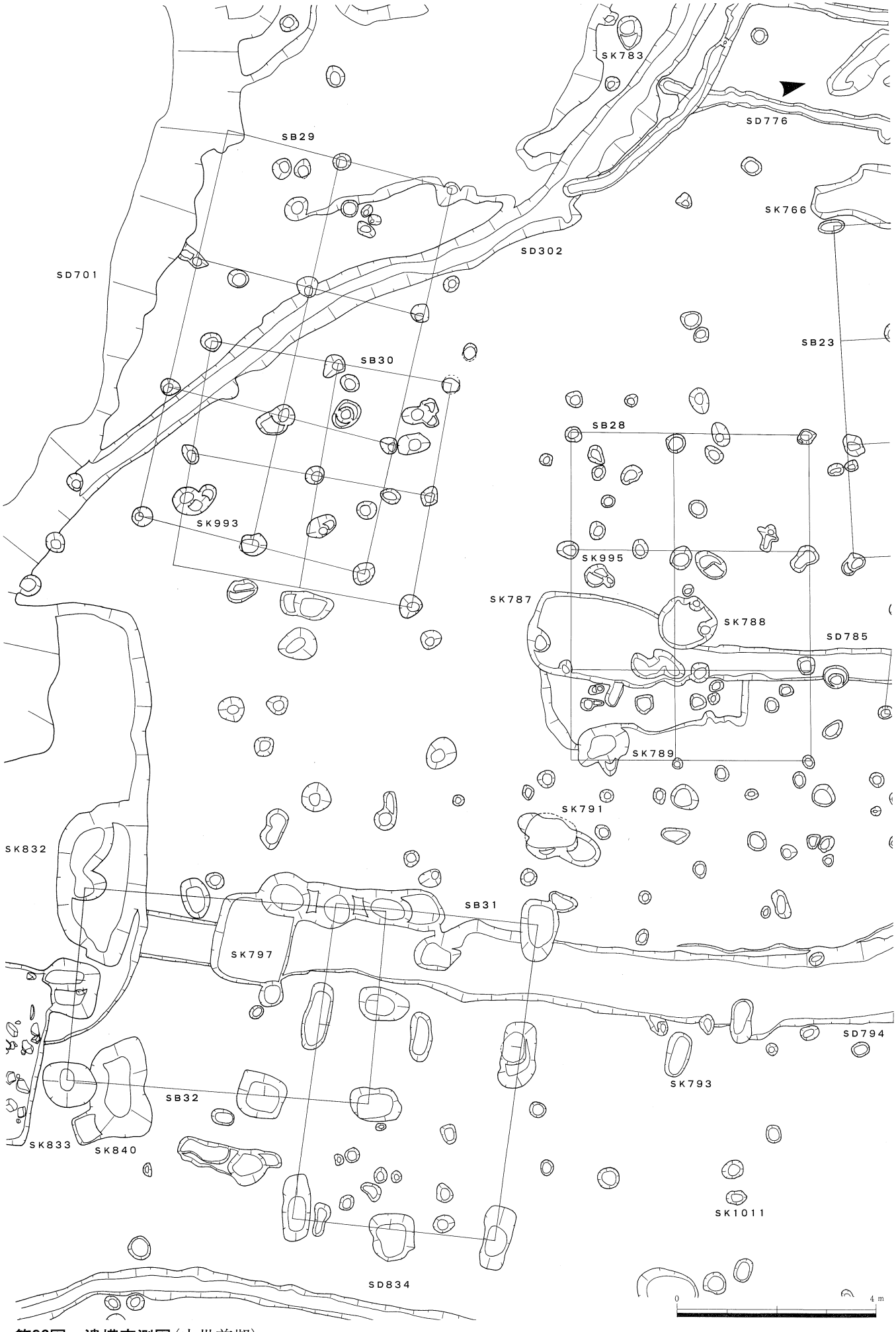


第34図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ２４～ＳＢ２７

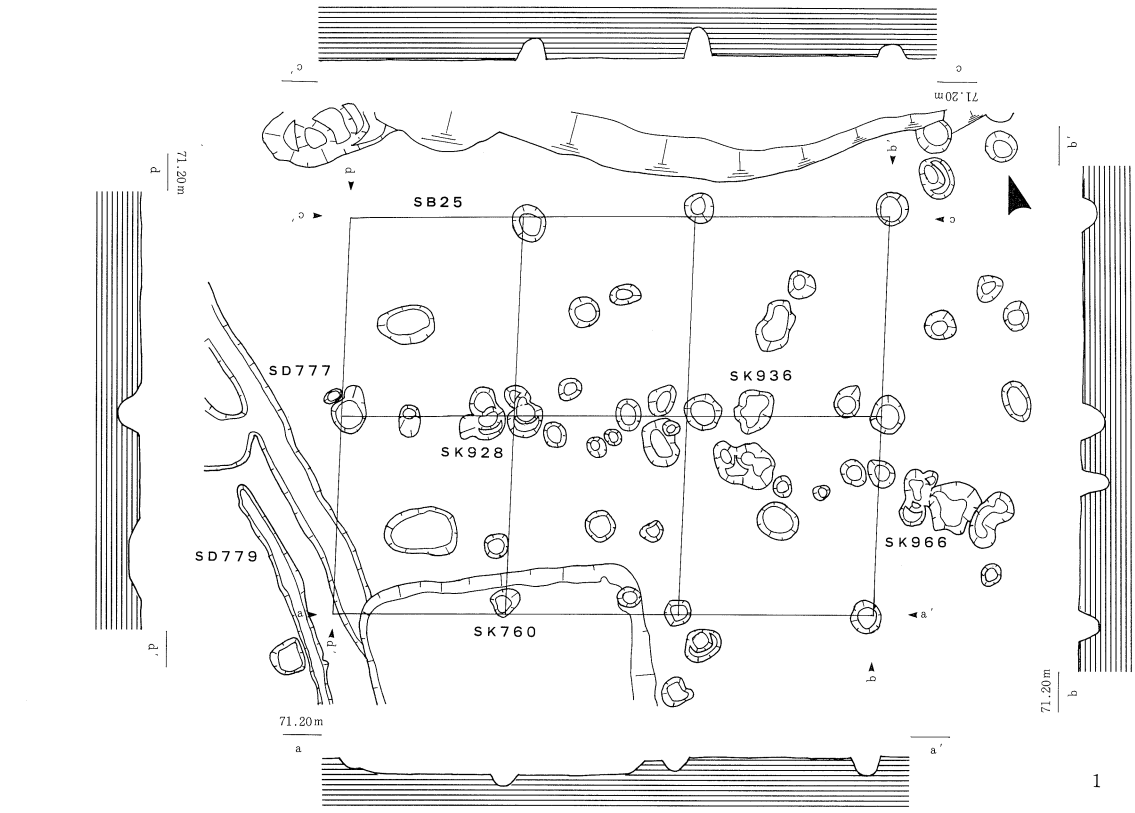


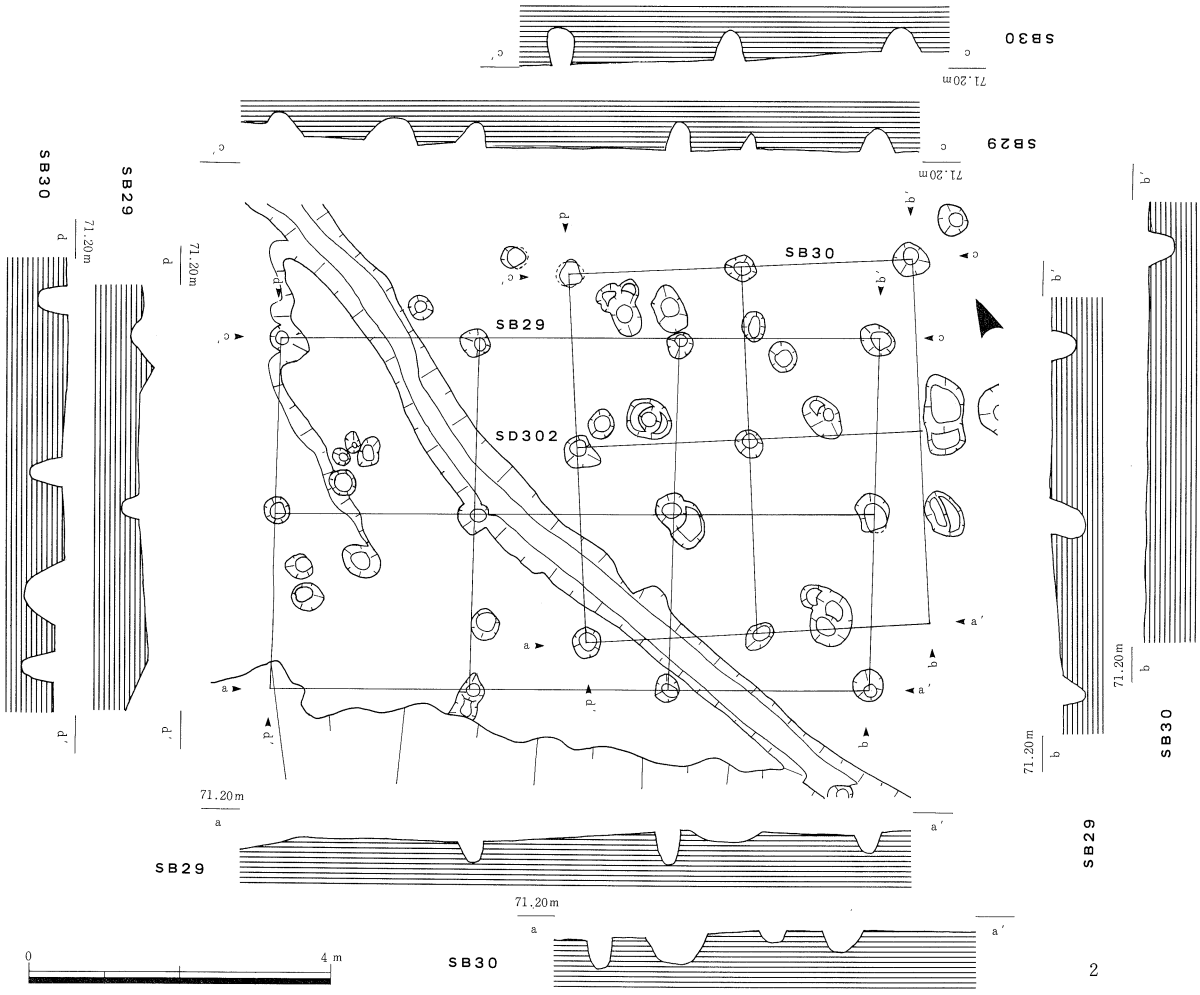


第35図　遺構実測図（中世前期）
1.ＳＢ２７　2.ＳＢ２６

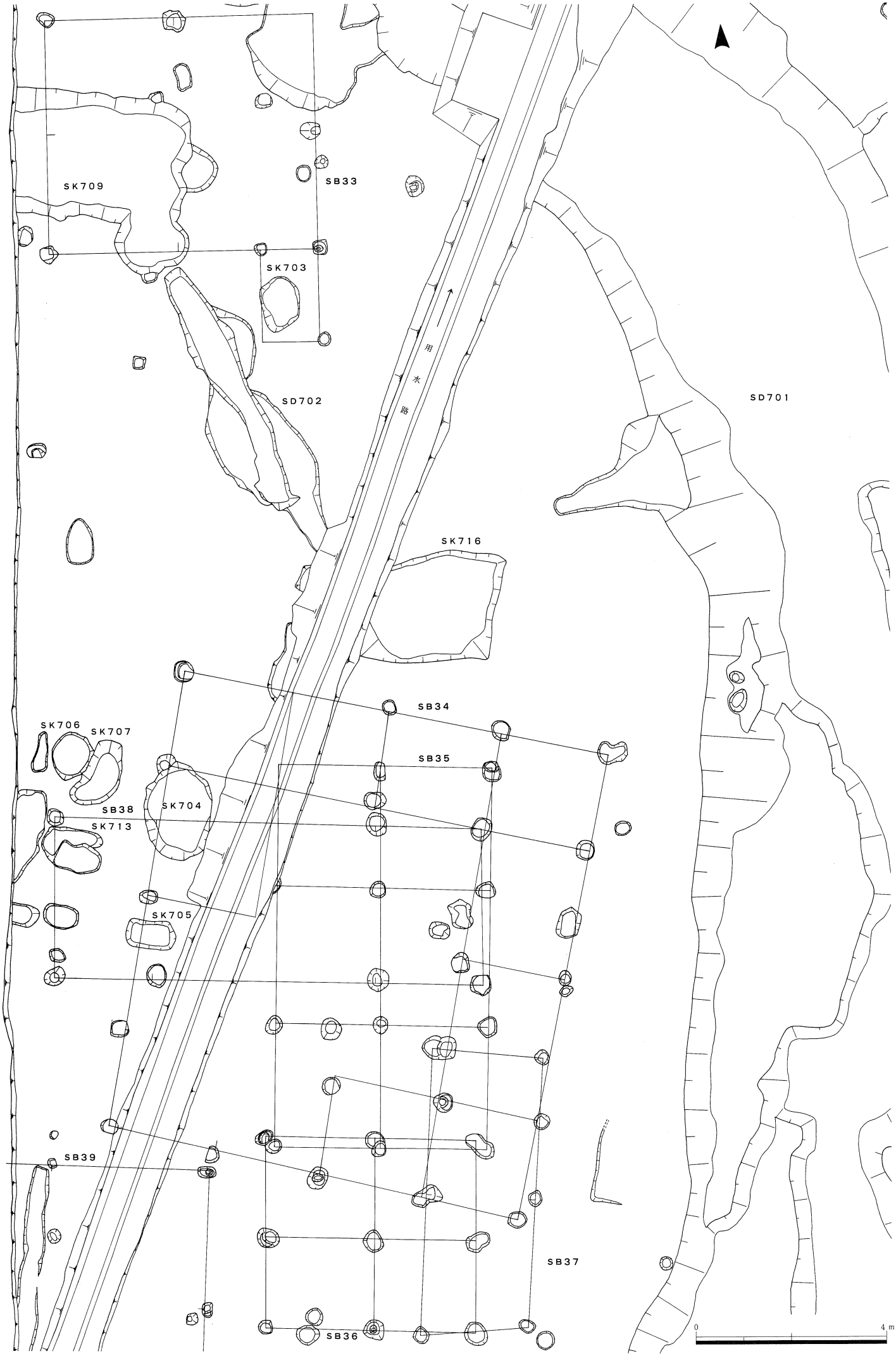


第36図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ２８～ＳＢ３０

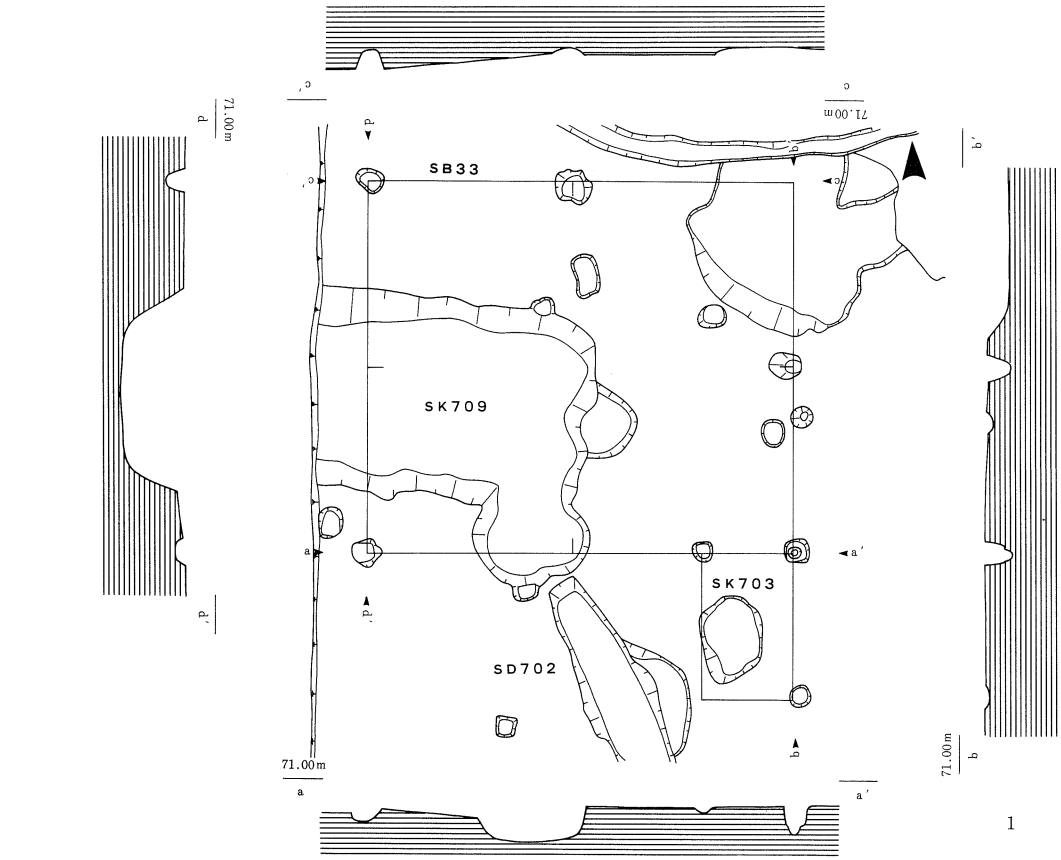


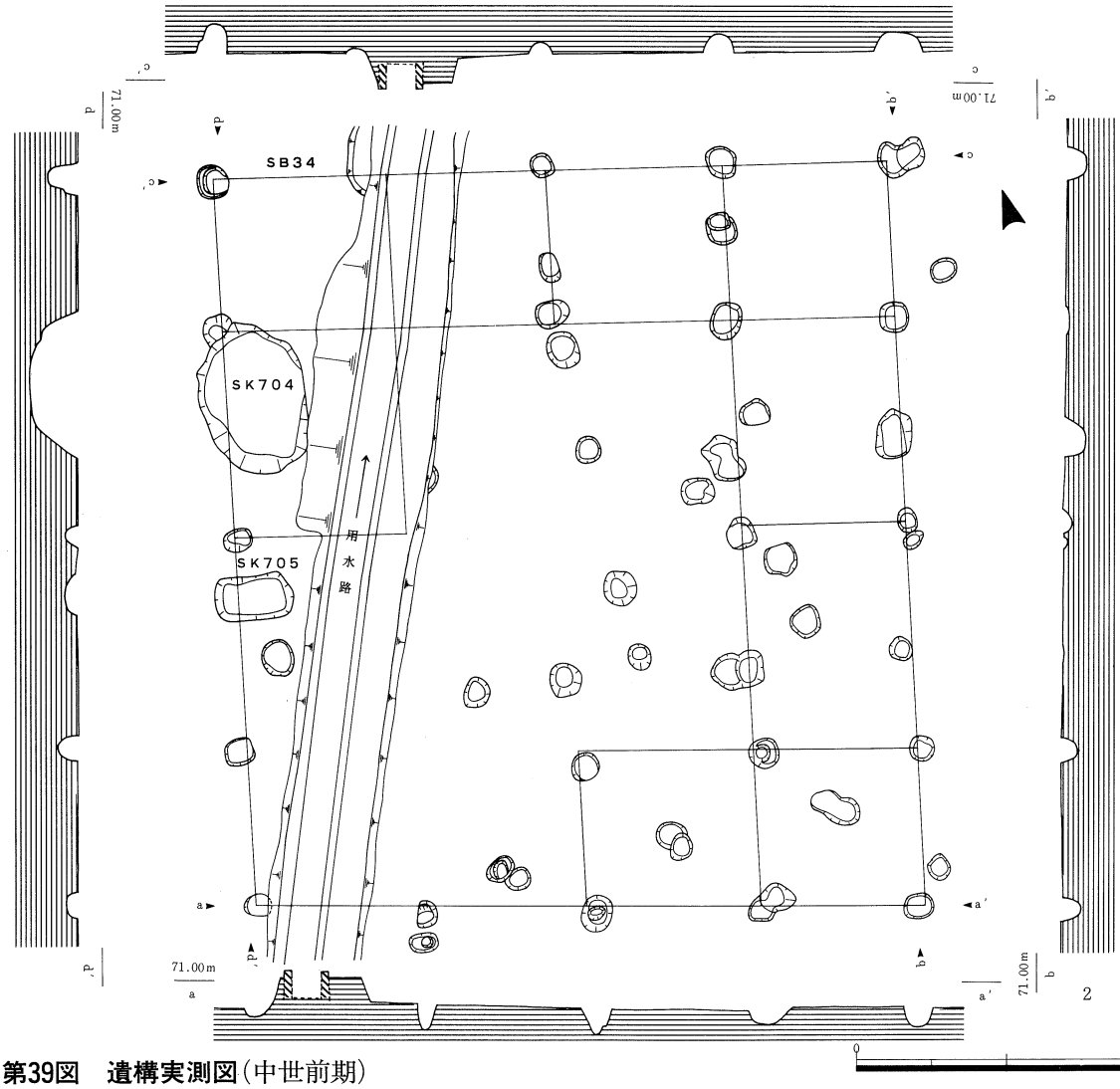


第37図　遺構実測図(中世前期)
1.SB25　2.SB29・SB30

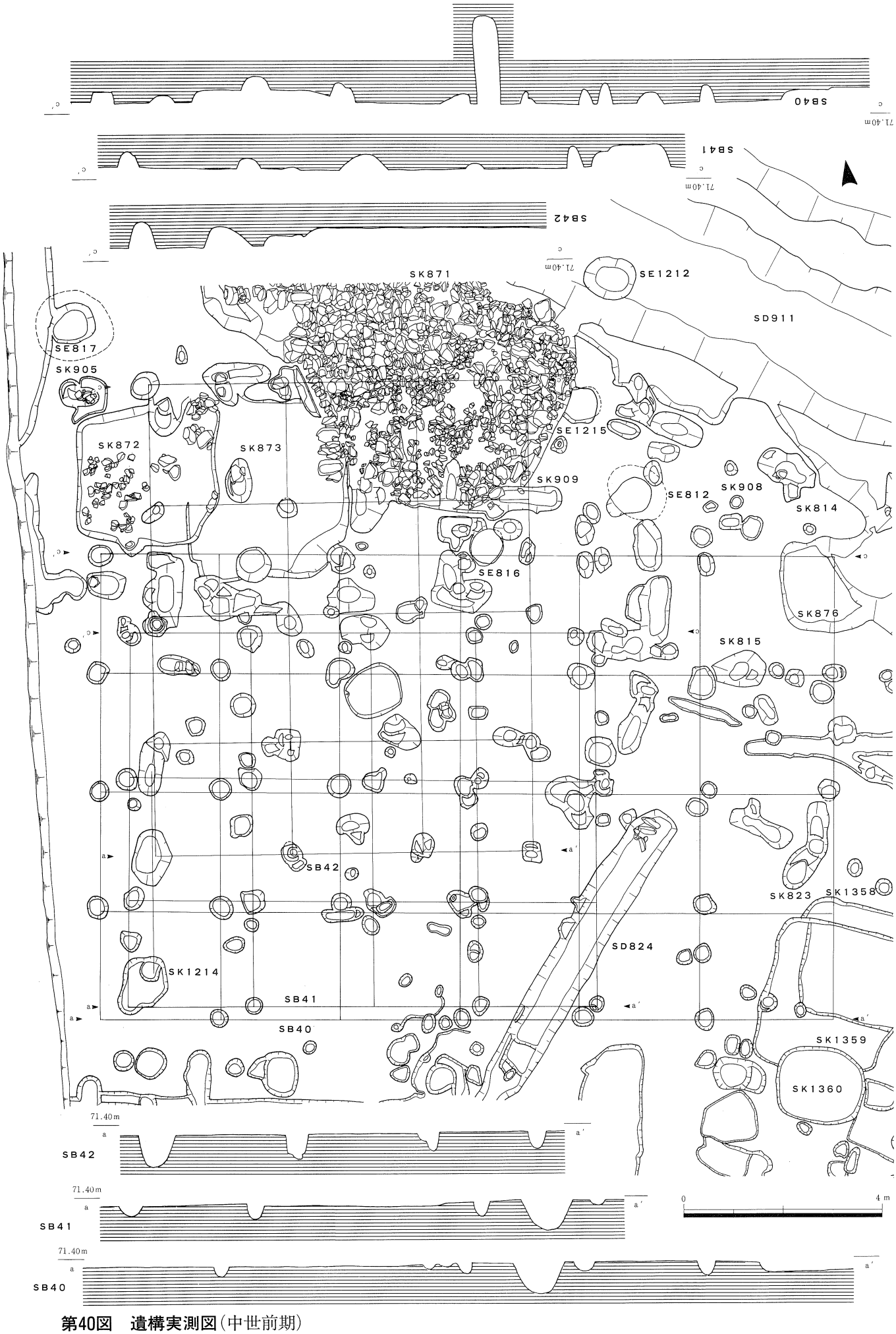


第38図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ３３～ＳＢ３９

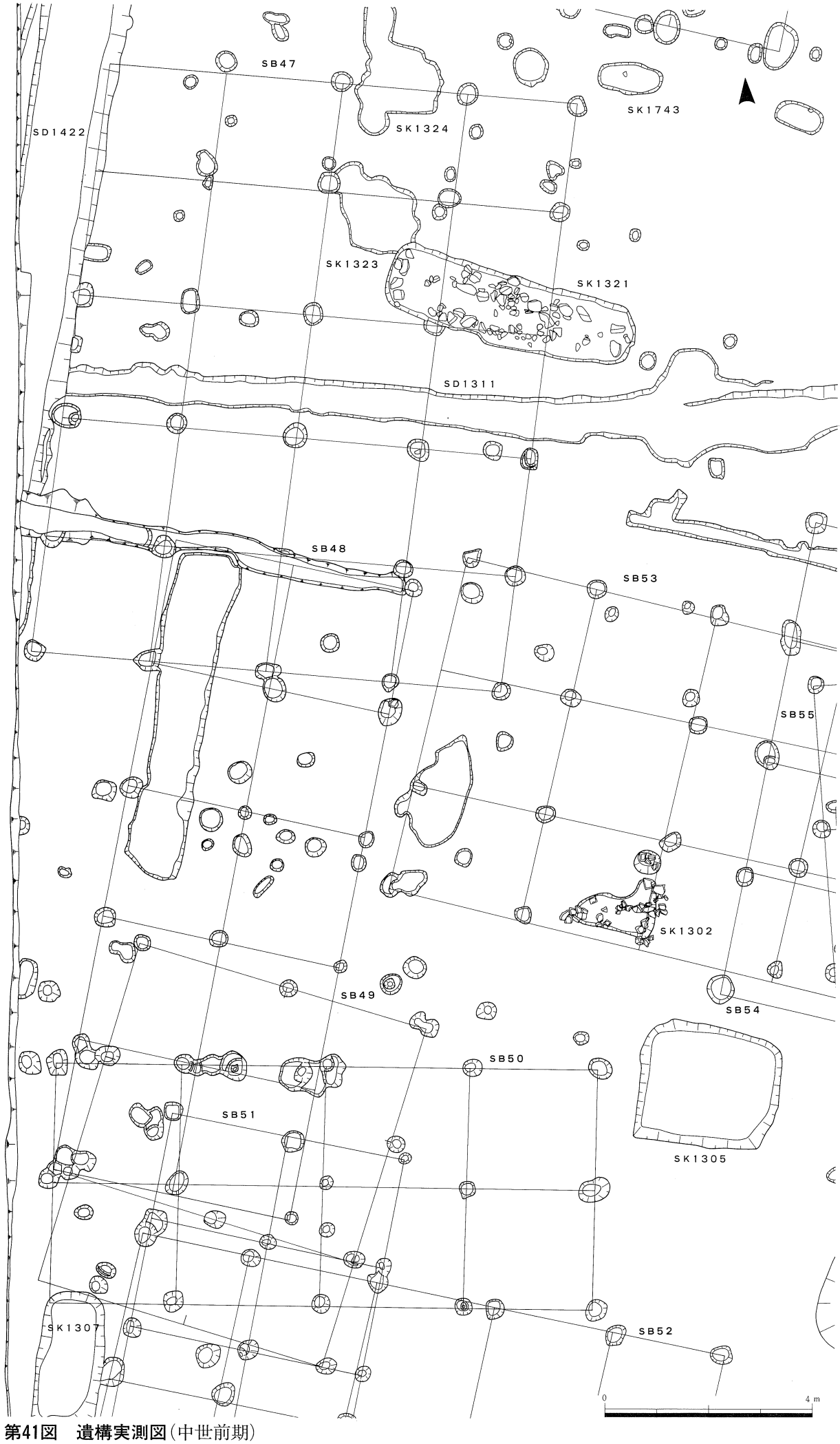




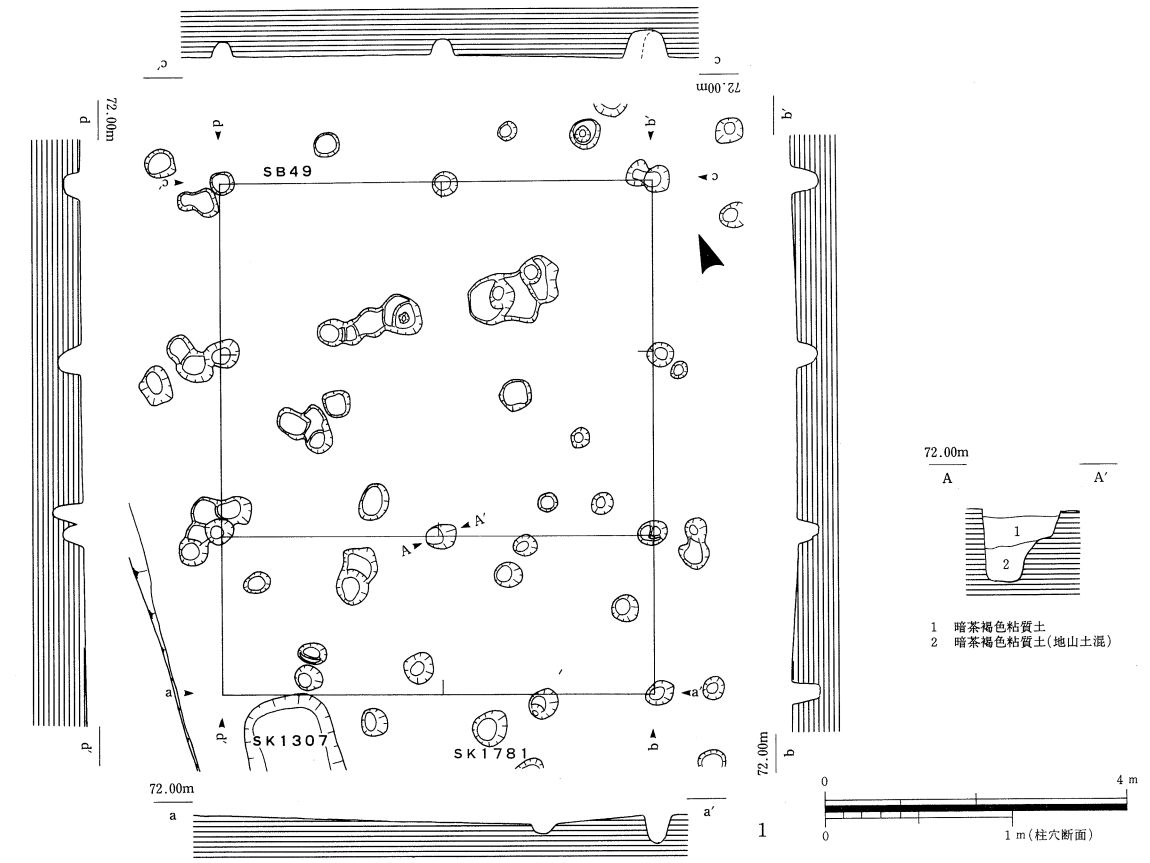
第39図　遺構実測図(中世前期)
1.ＳＢ３３　2.ＳＢ３４

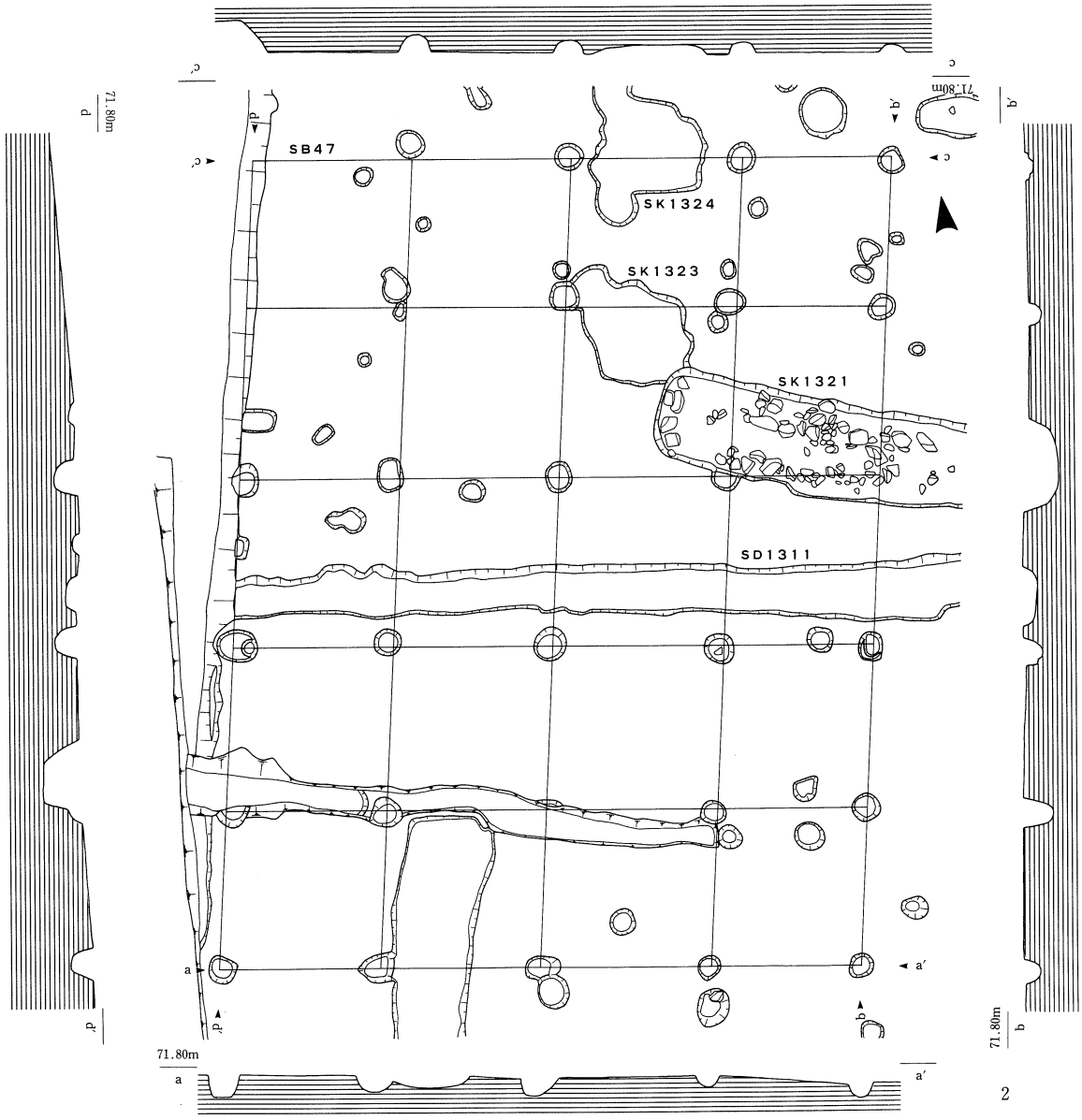


第40図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ４０～ＳＢ４２

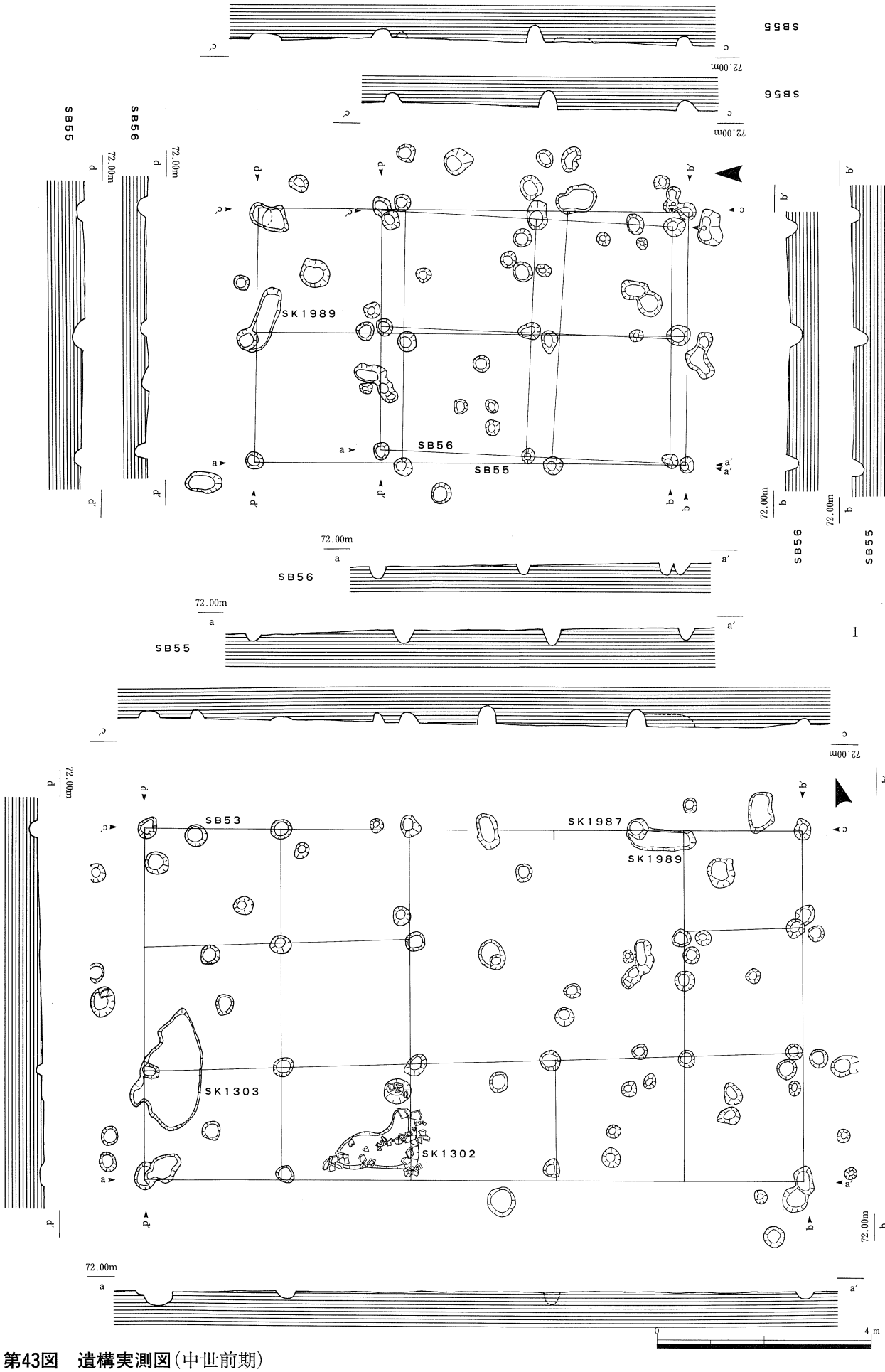


第41図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ４７～ＳＢ５３

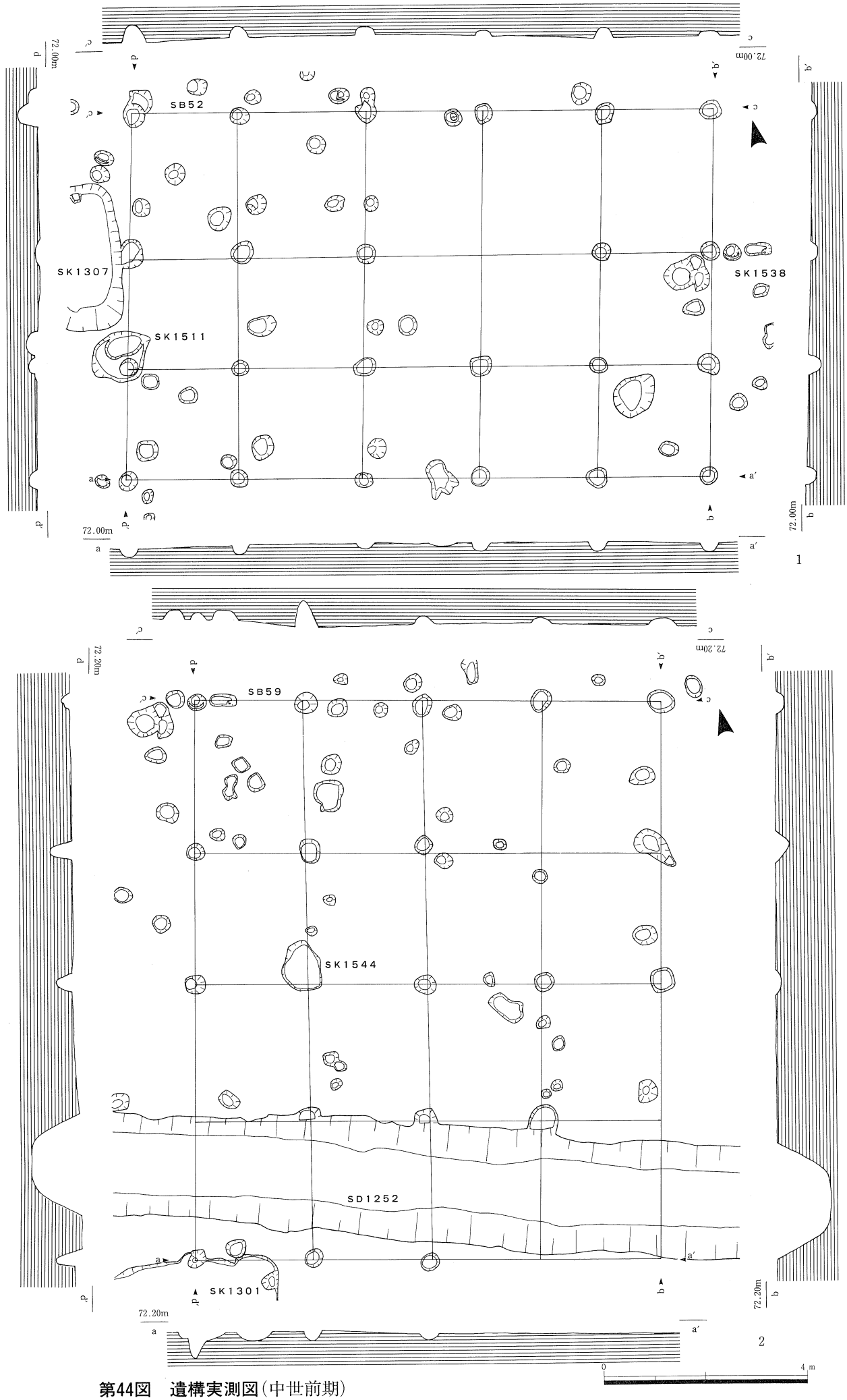




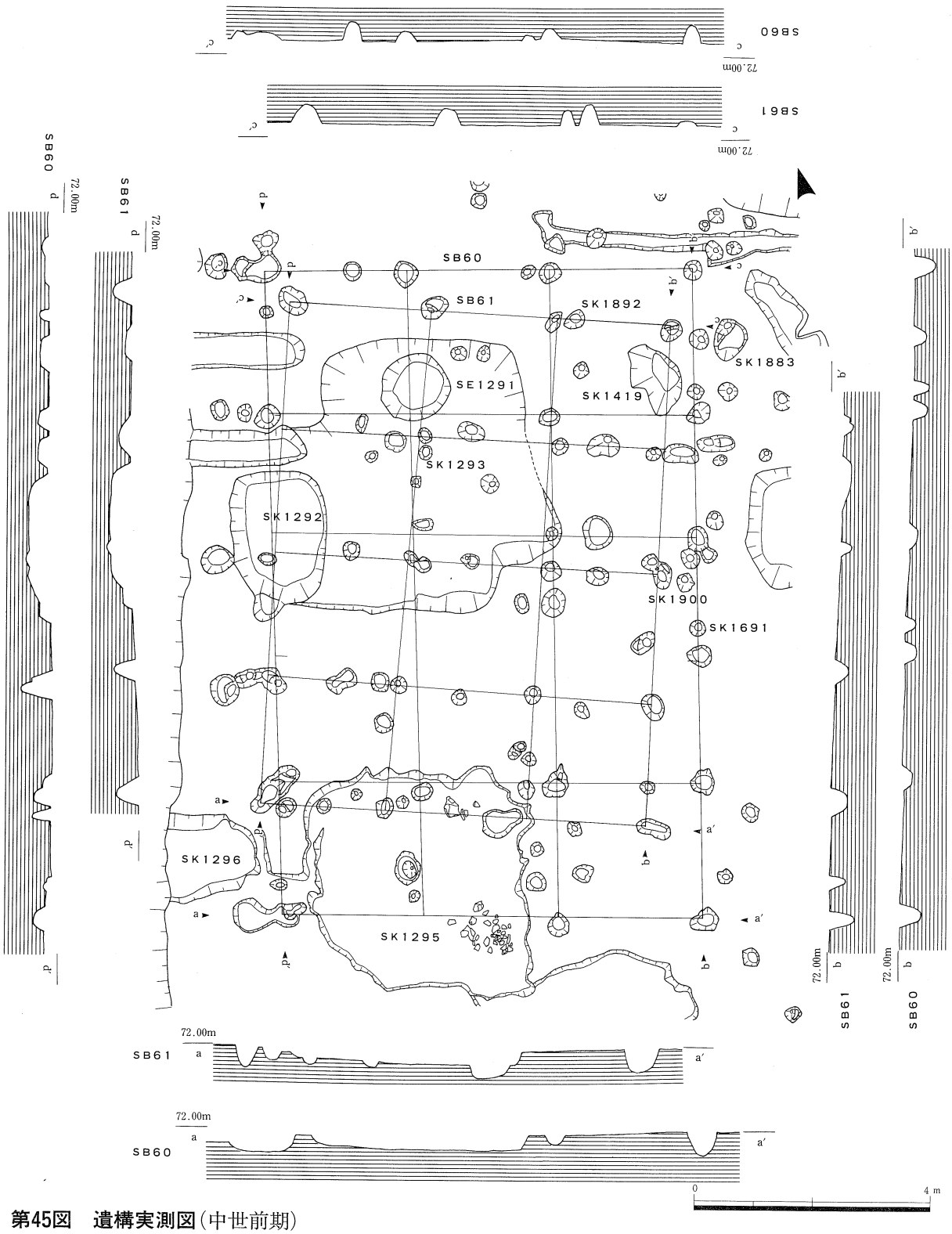
第42図　遺構実測図(中世前期)
1.ＳＢ４９　2.ＳＢ４７



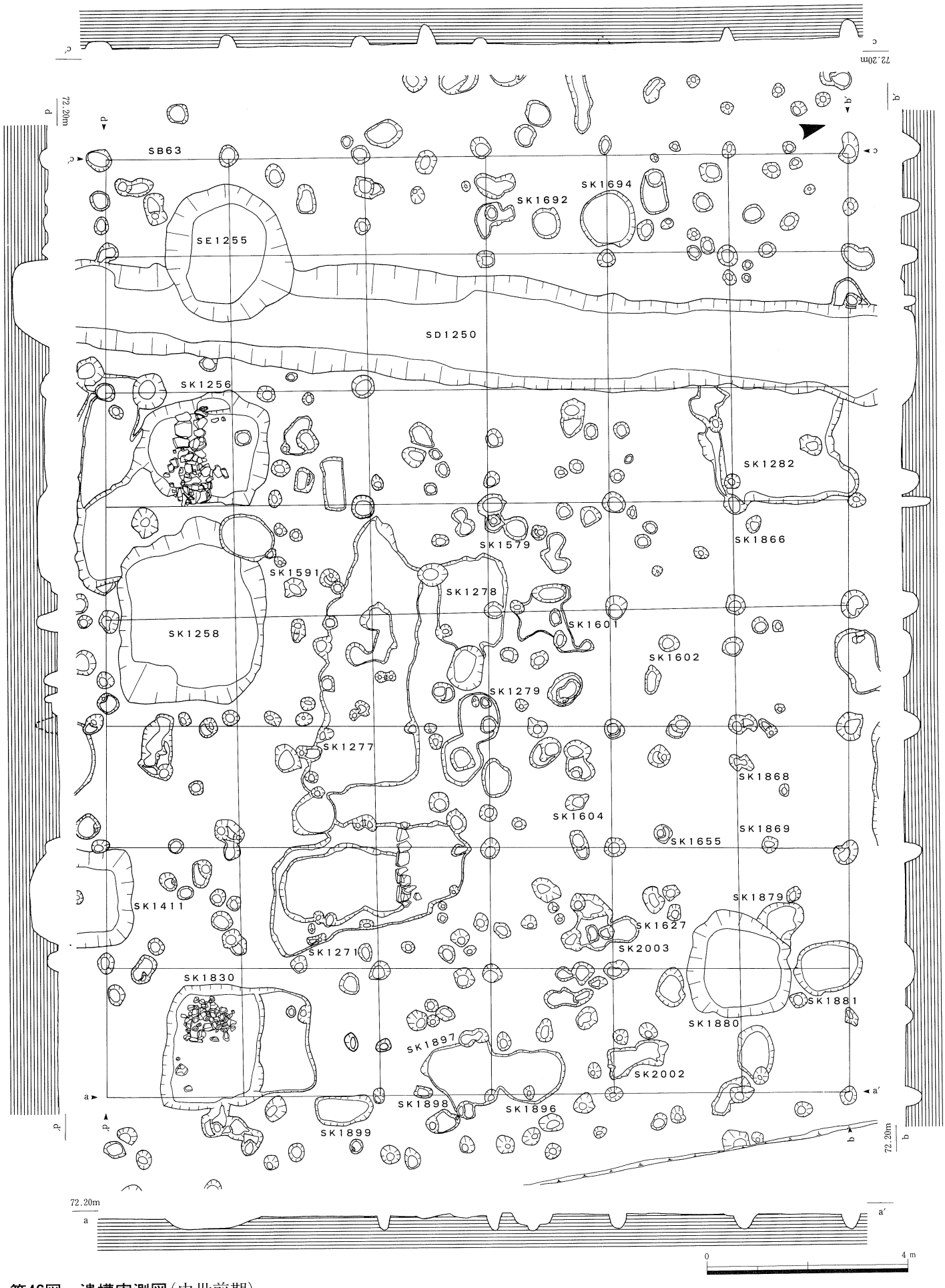
第43図　遺構実測図(中世前期)
1.SB55・SB56　2.SB53



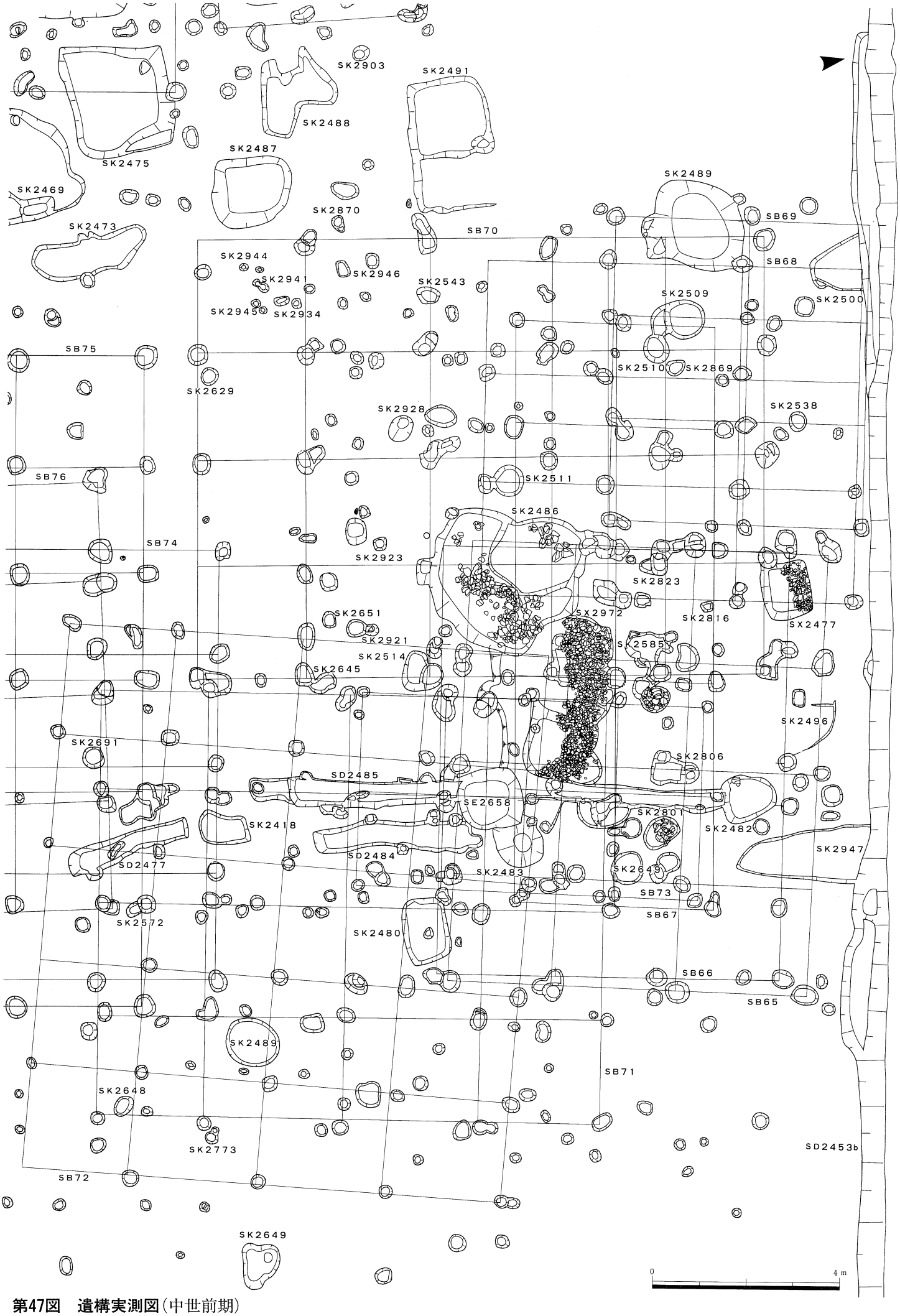
第44図　遺構実測図(中世前期)
1.SB52　2.SB59



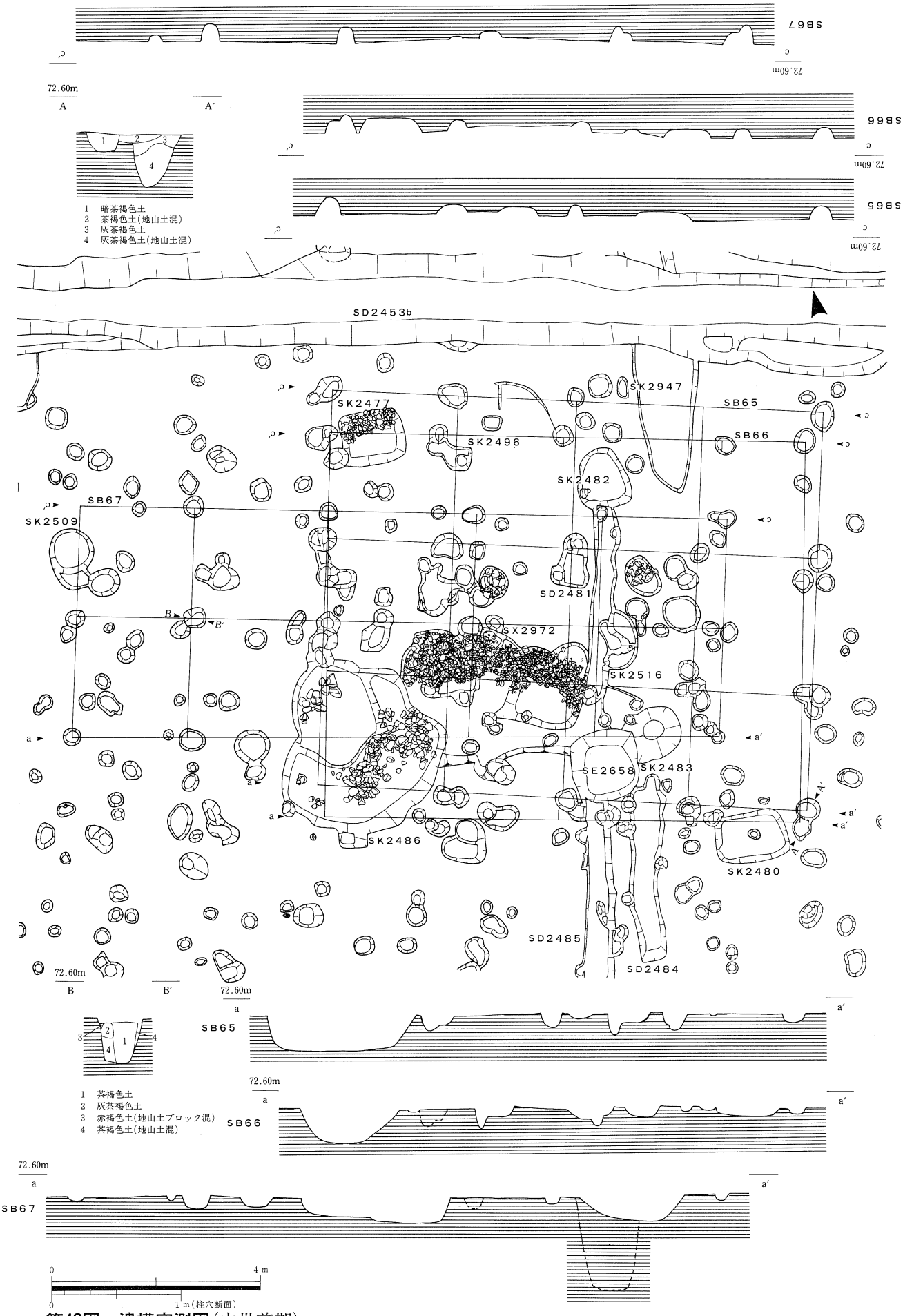
第45図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ６０・ＳＢ６１



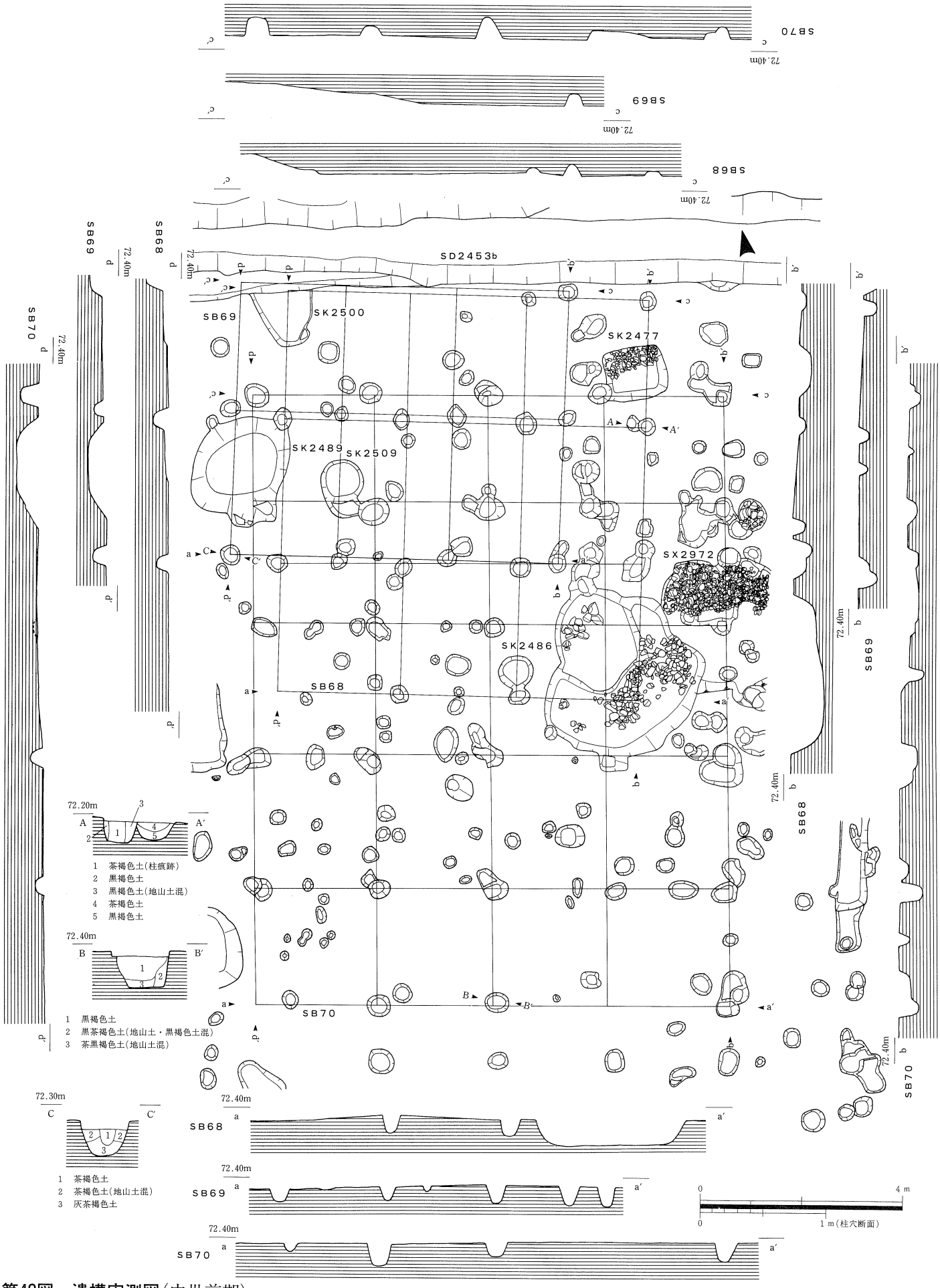
第46図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ６３



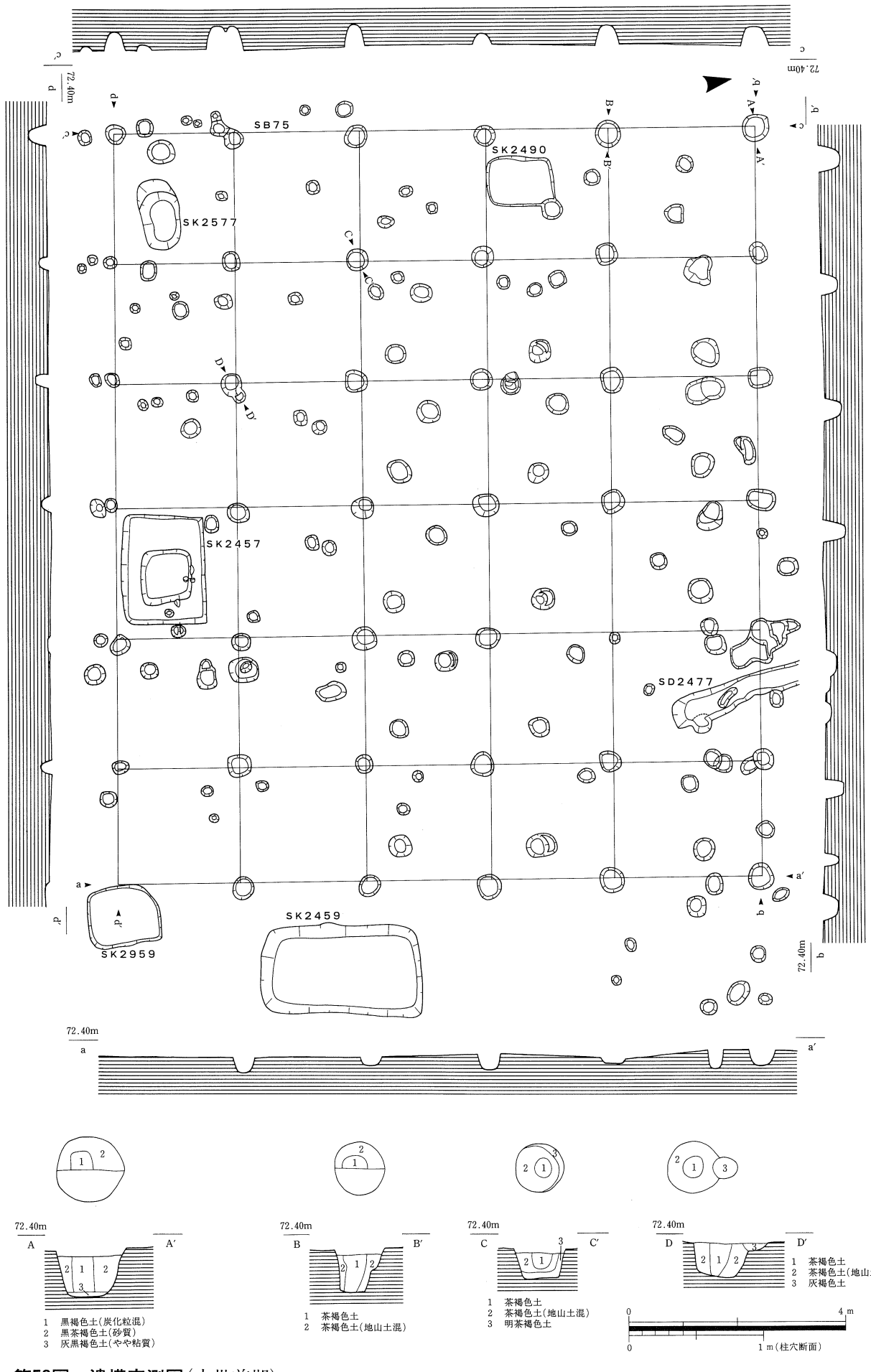
第47図　遺構実測図（中世前期）
SB65~SB76



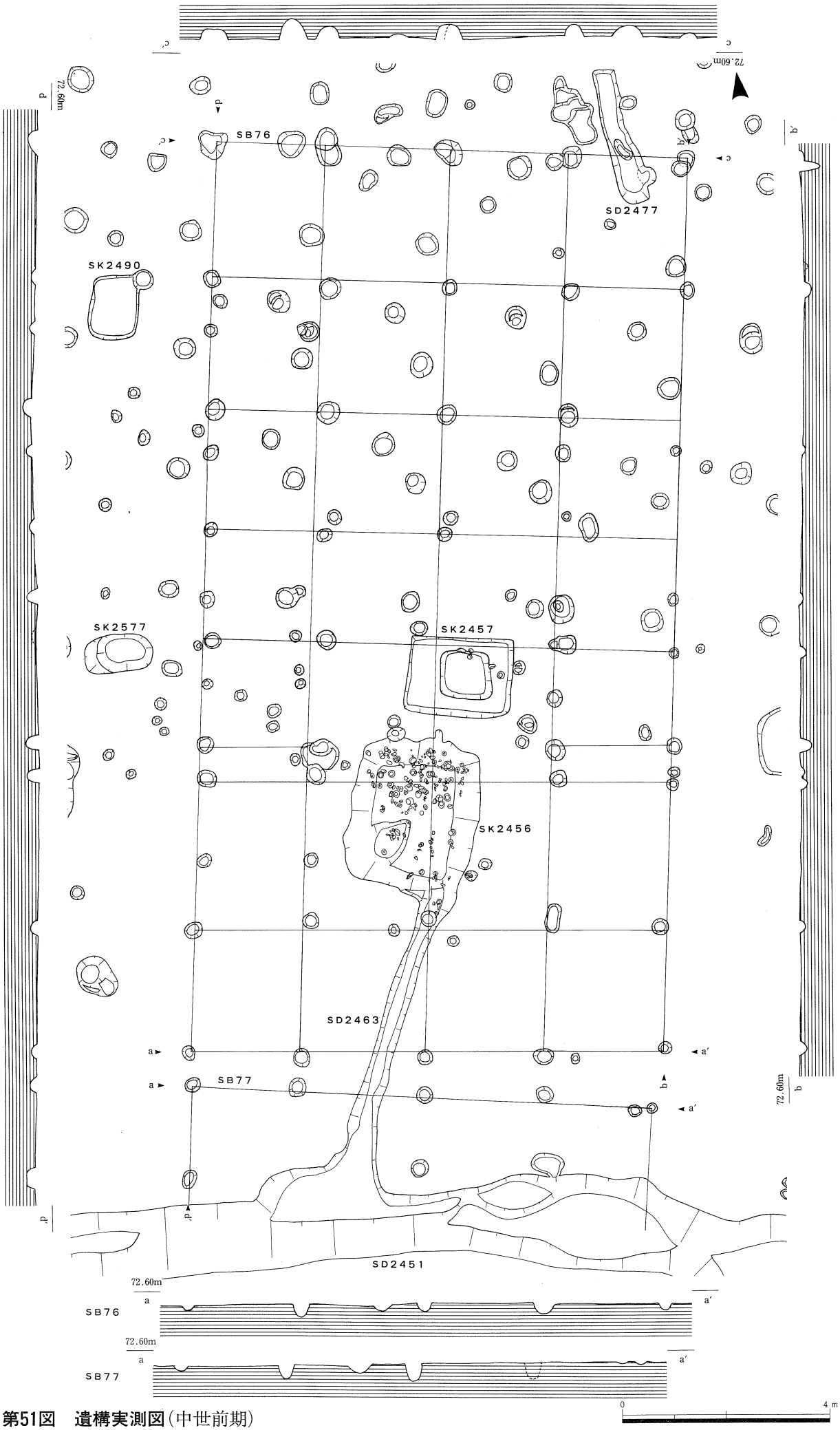
第48図　遺構実測図(中世前期)
ＳＢ６５～ＳＢ６７



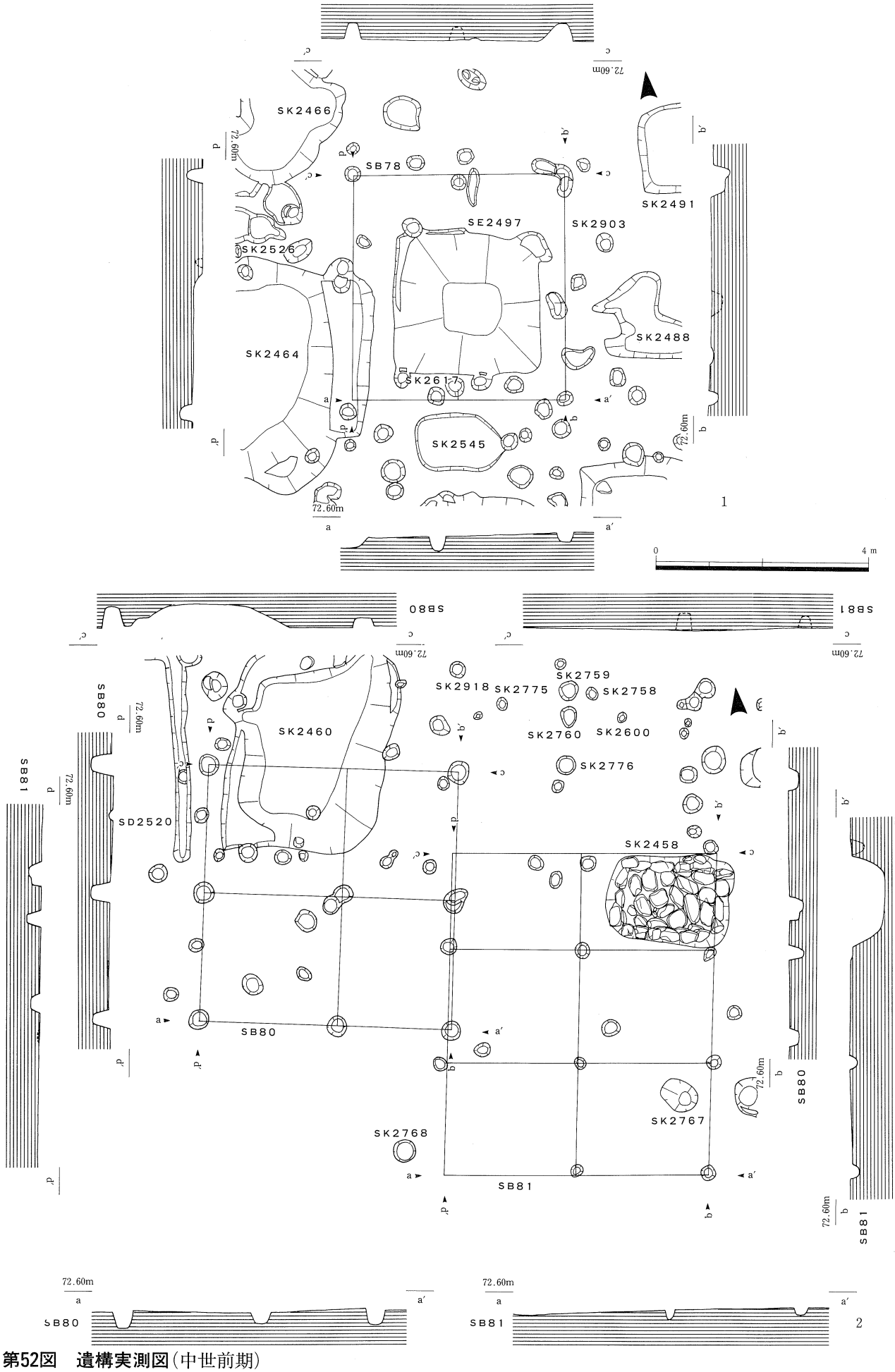
第49図　遺構実測図(中世前期)
SB68～SB70



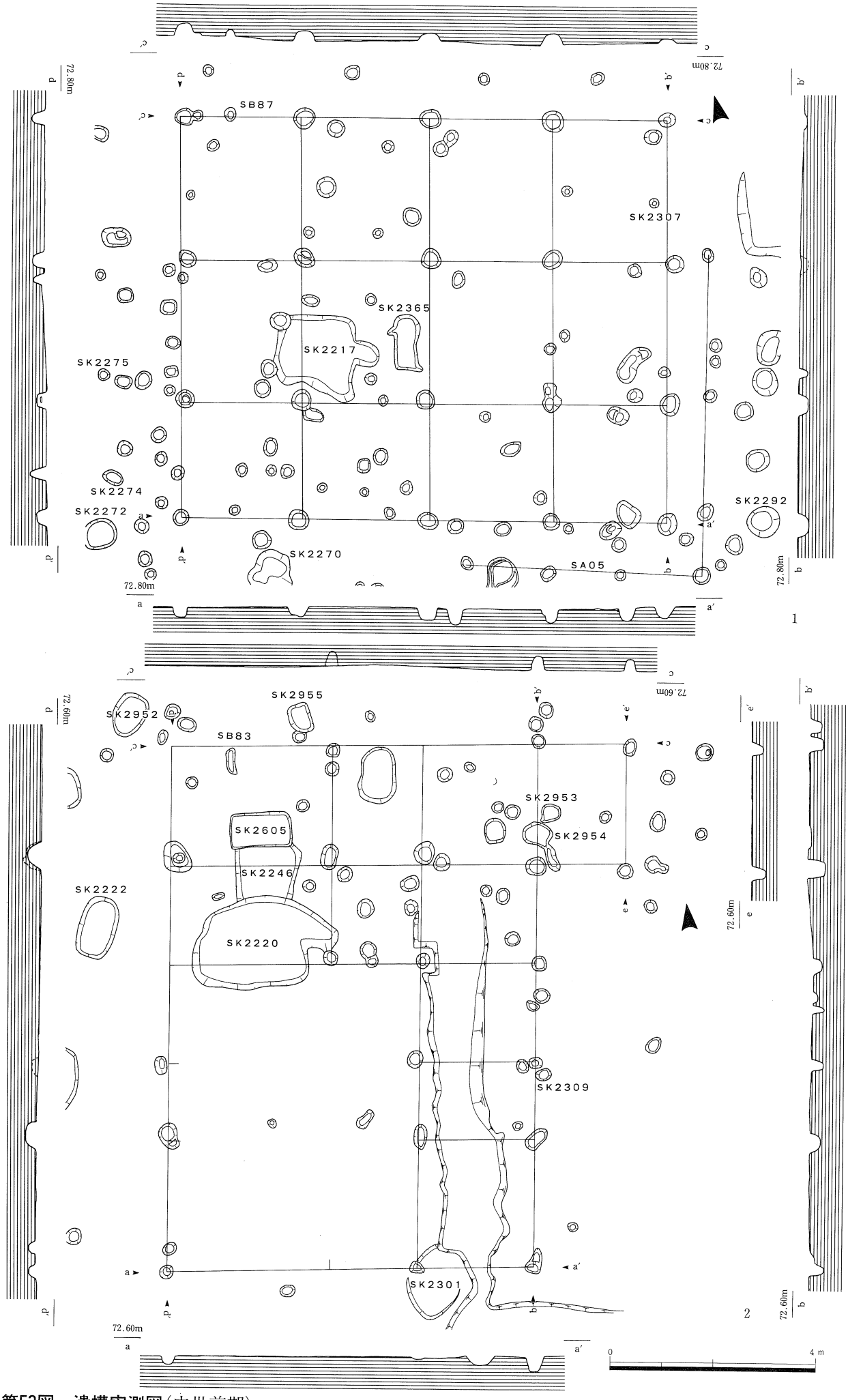
第50図　遺構実測図(中世前期)
SB75



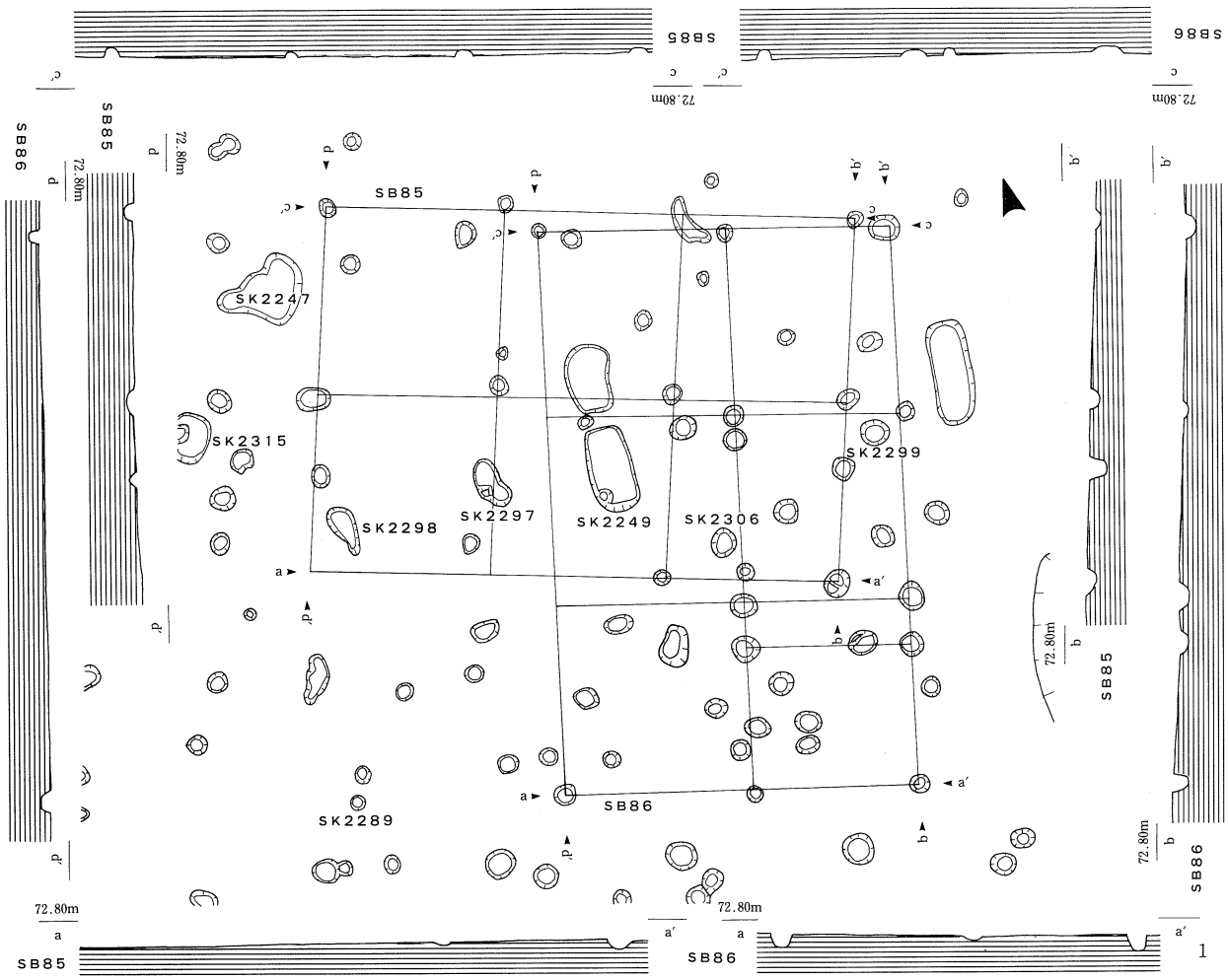
第51図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ７６・ＳＢ７７

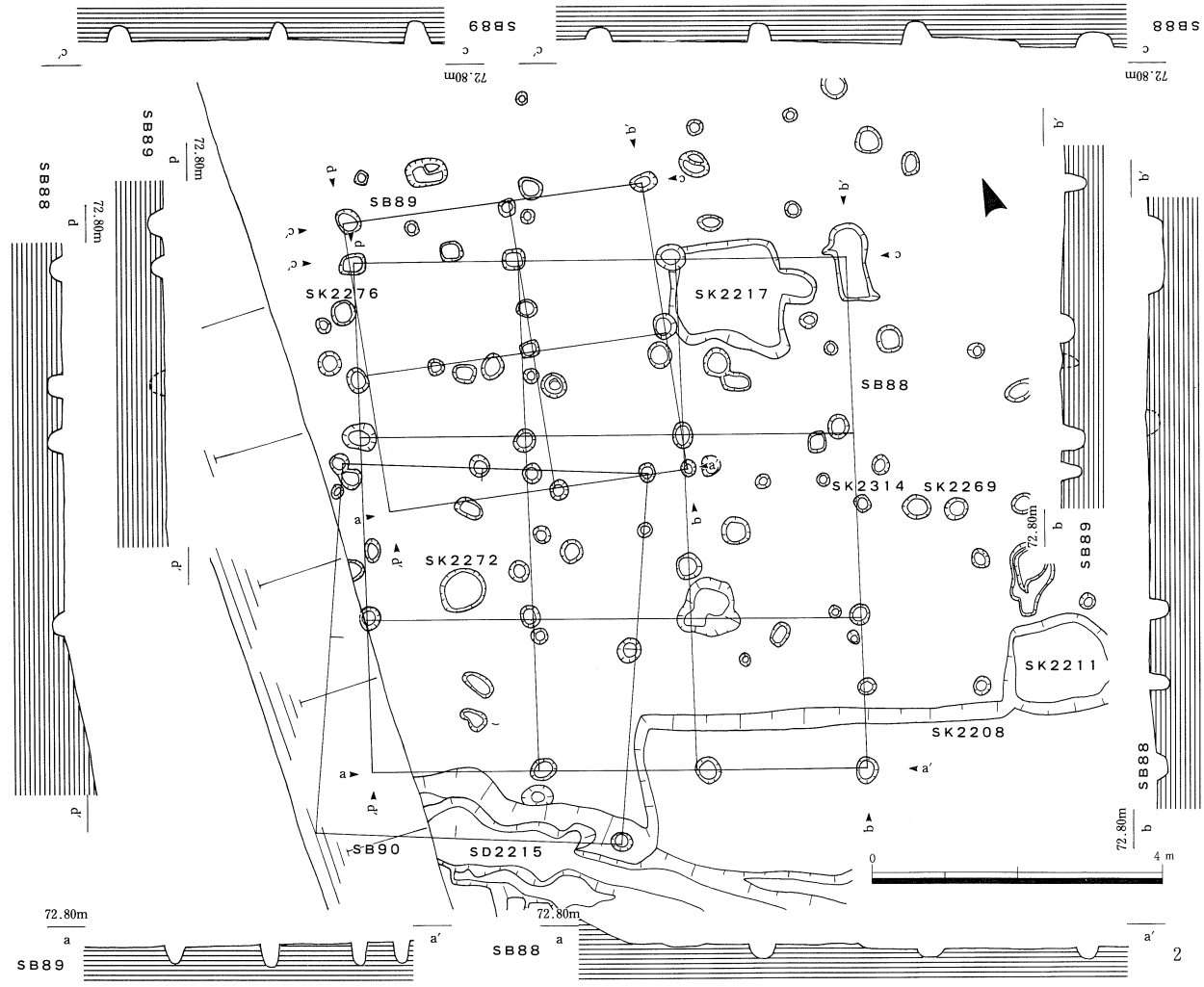


第52図　遺構実測図(中世前期)
1.SB78　2.SB80・SB81

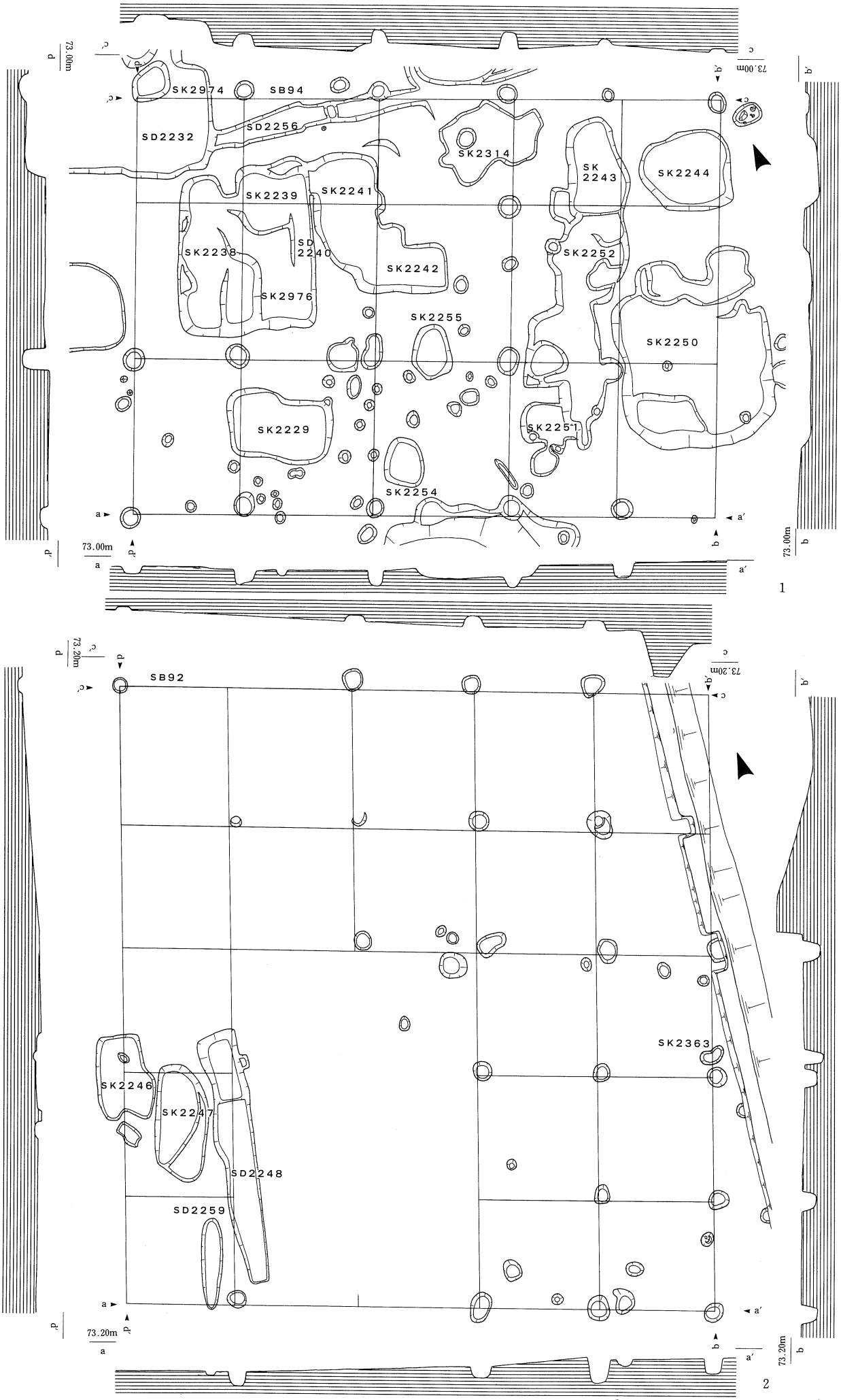


第53図　遺構実測図(中世前期)
1.SB87　2.SB83





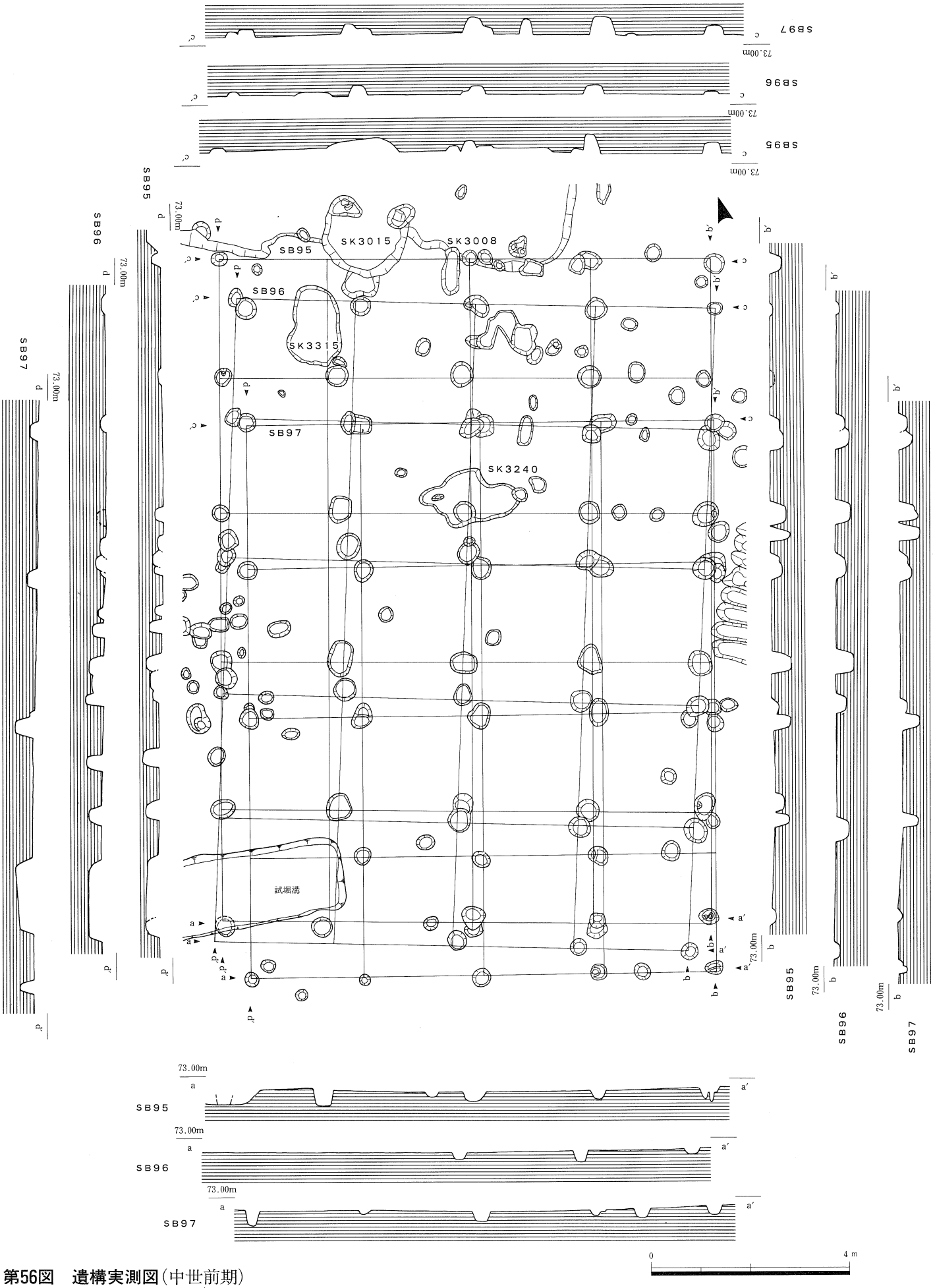
第54図　遺構実測図(中世前期)
1.SB85・SB86　2.SB88～SB90



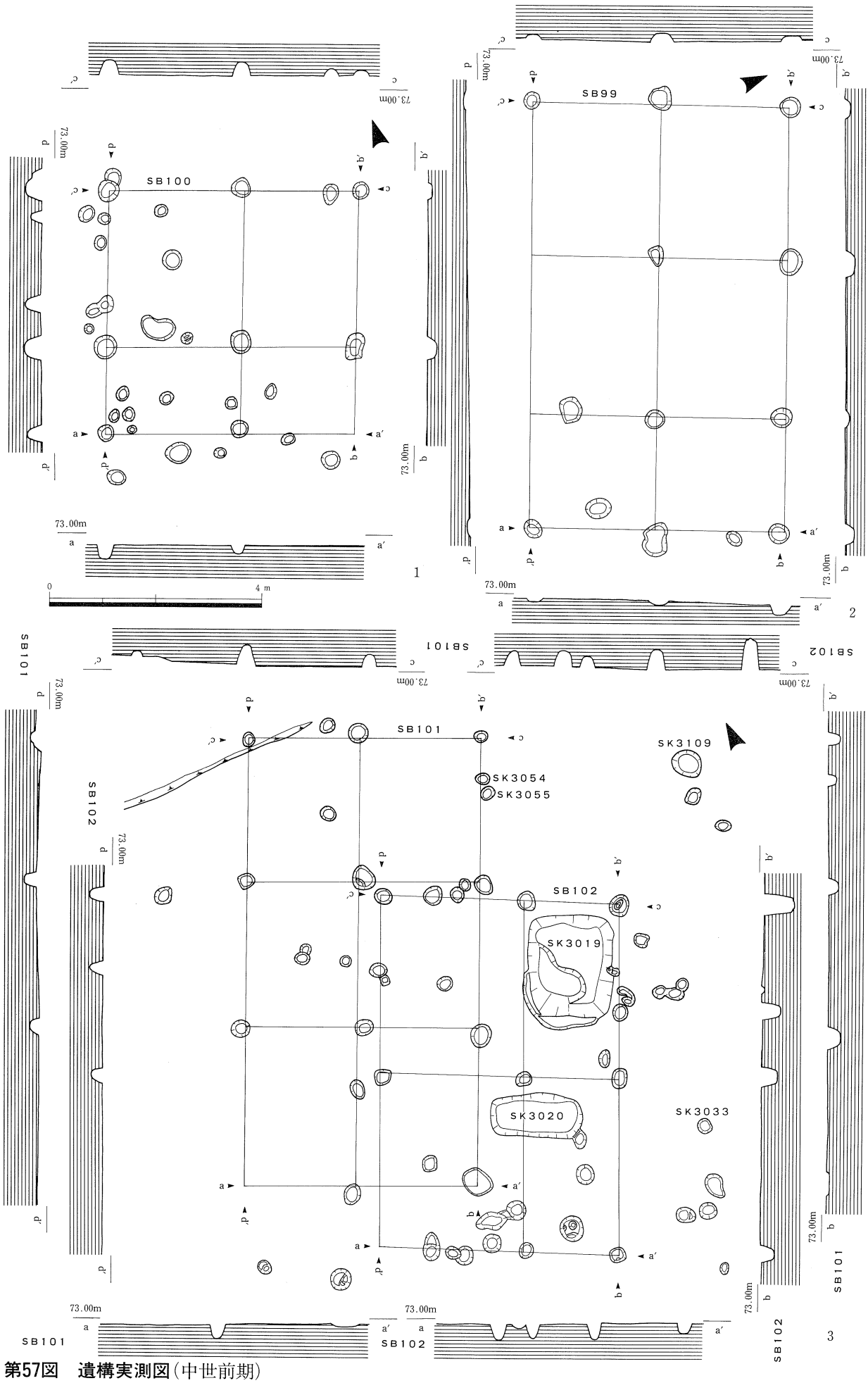
第55図　遺構実測図(中世前期)

1.SB94　2.SB92

0　4m

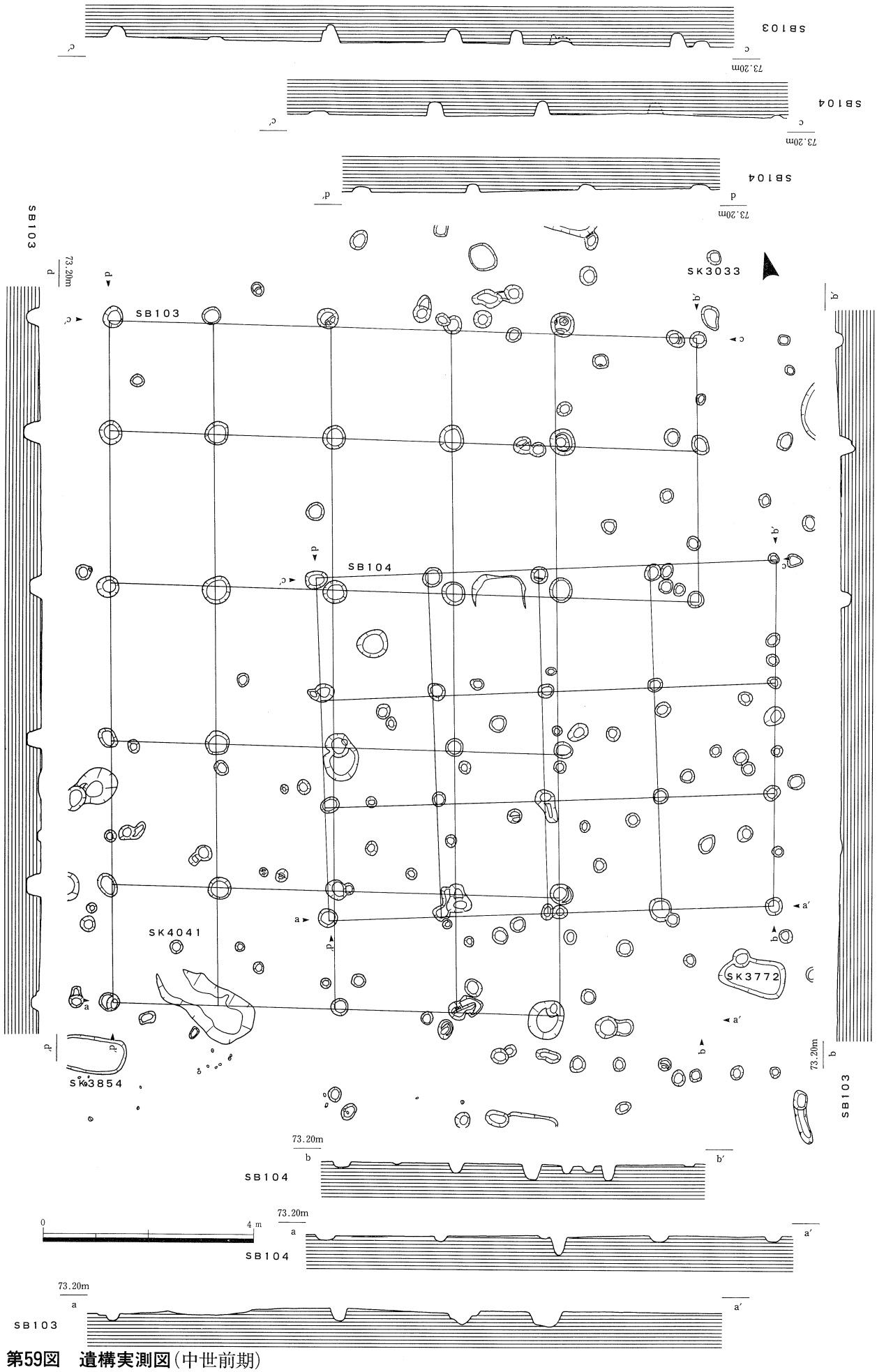


第56図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ９５～ＳＢ９７

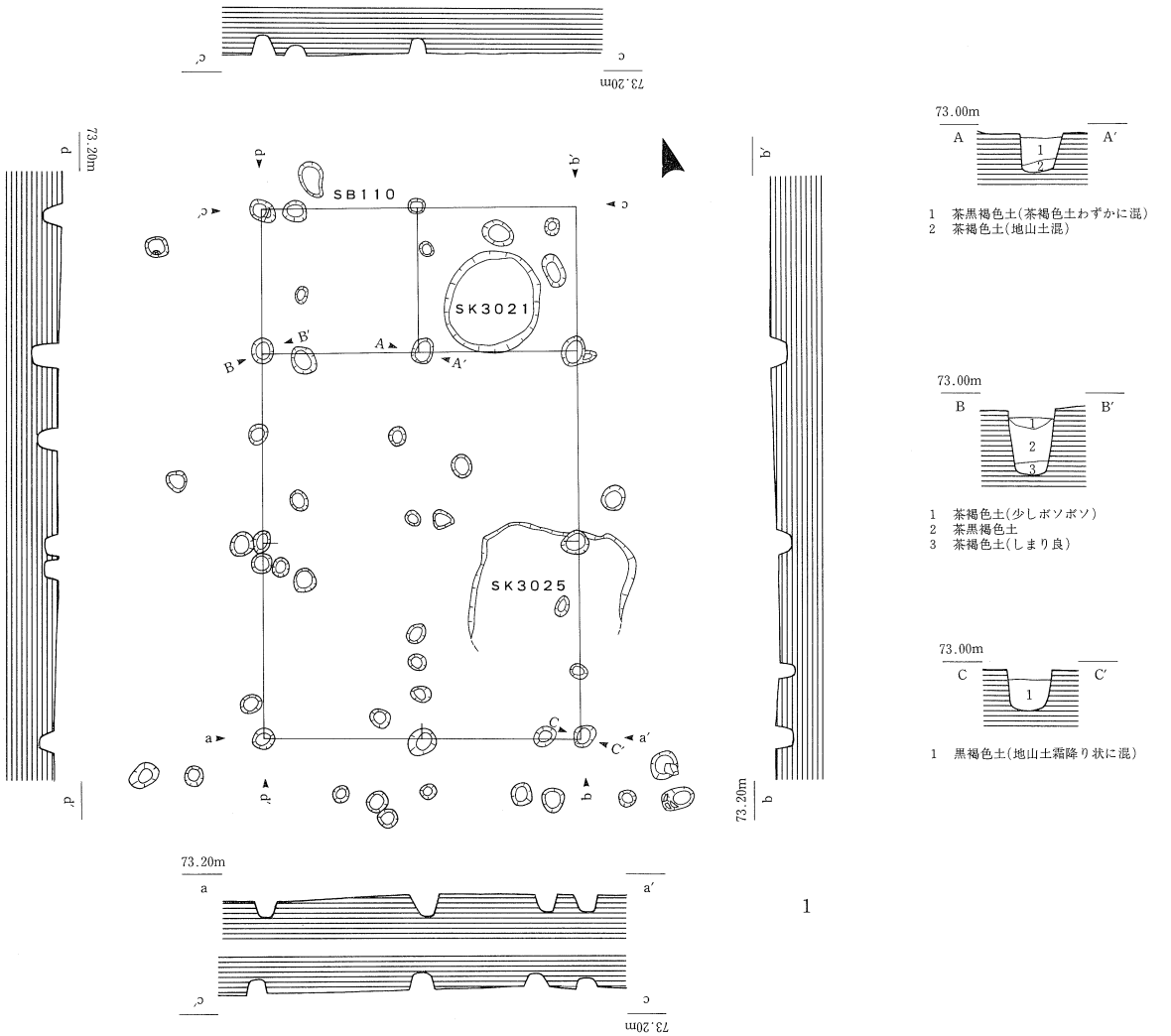


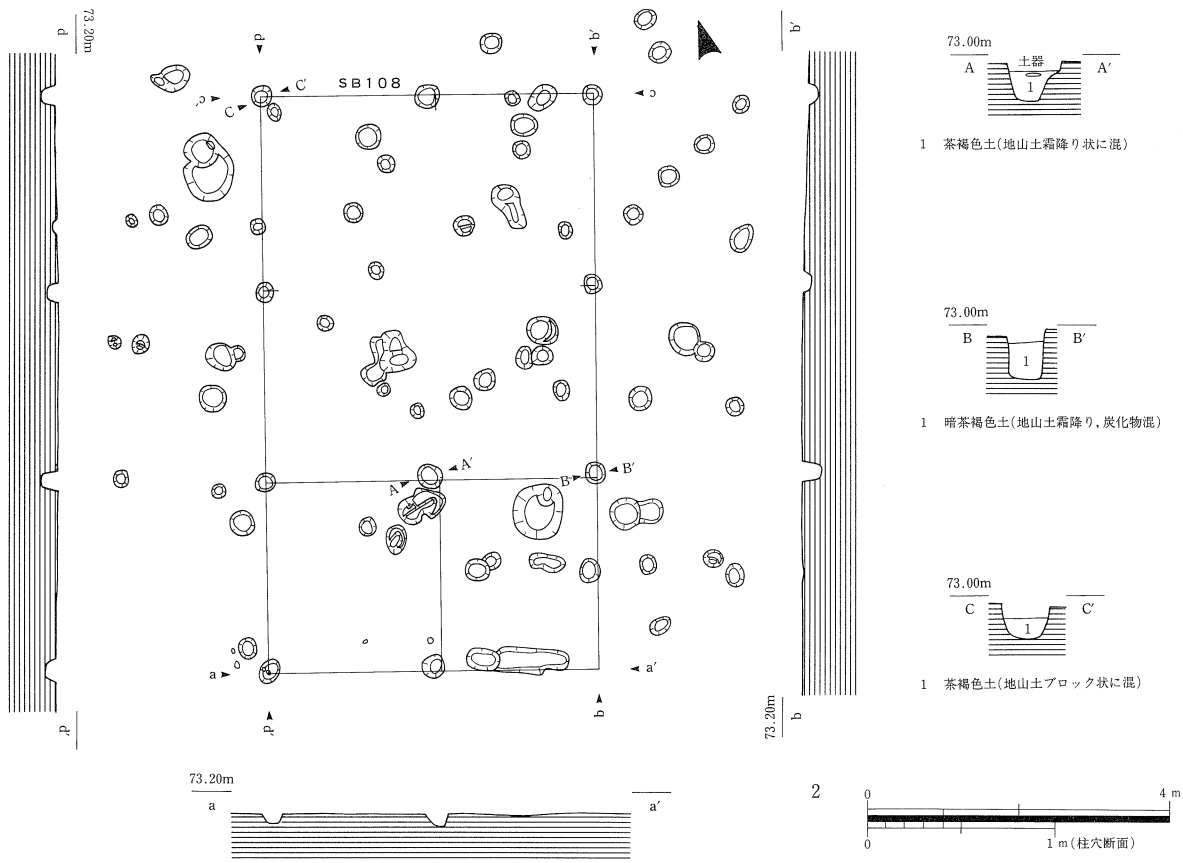
第57図　遺構実測図(中世前期)
1.SB100　2.SB99　3.SB101・SB102

第58図　遺構実測図(中世前期)
SB101～SB110

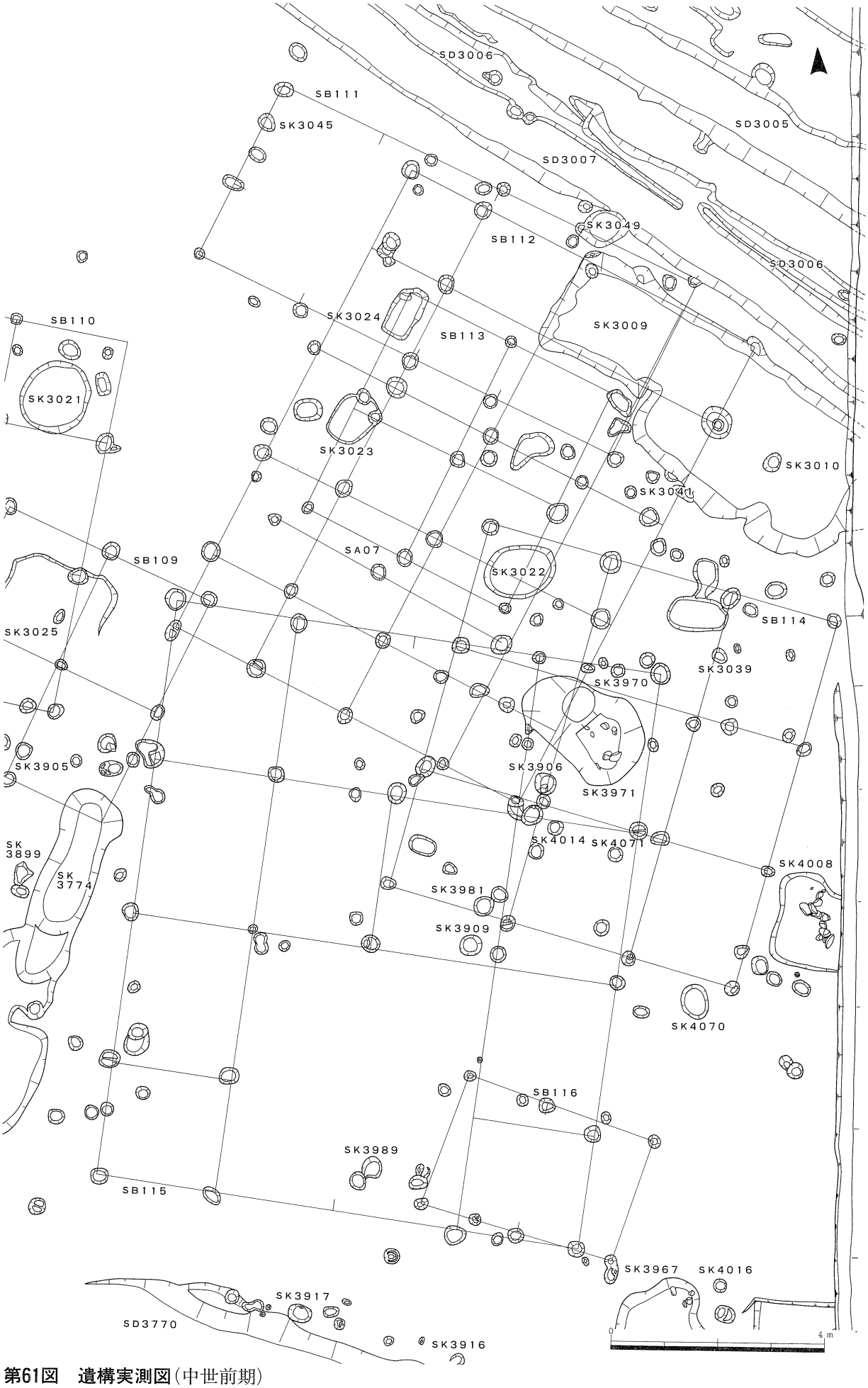


第59図　遺構実測図(中世前期)
SB103・SB104

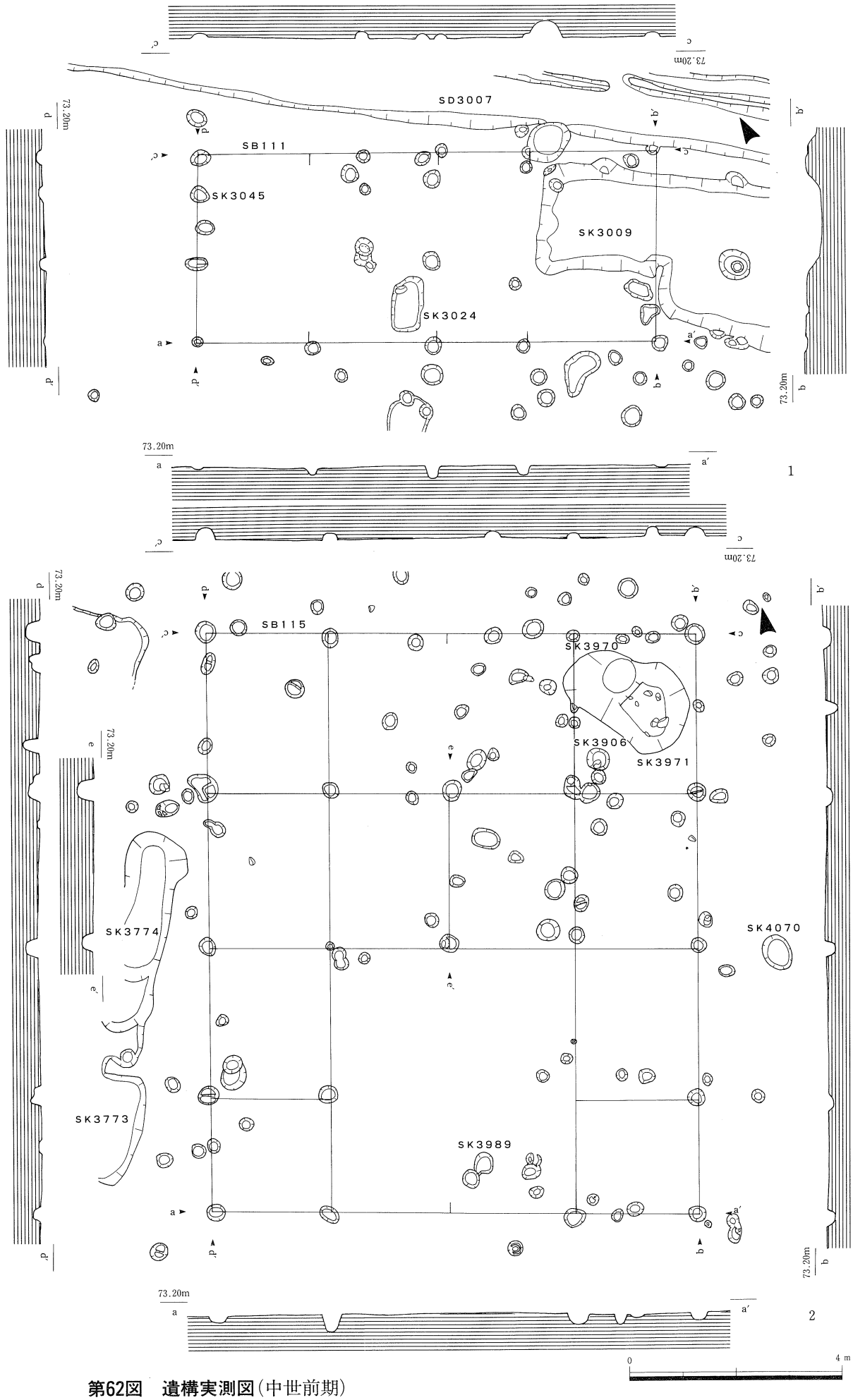




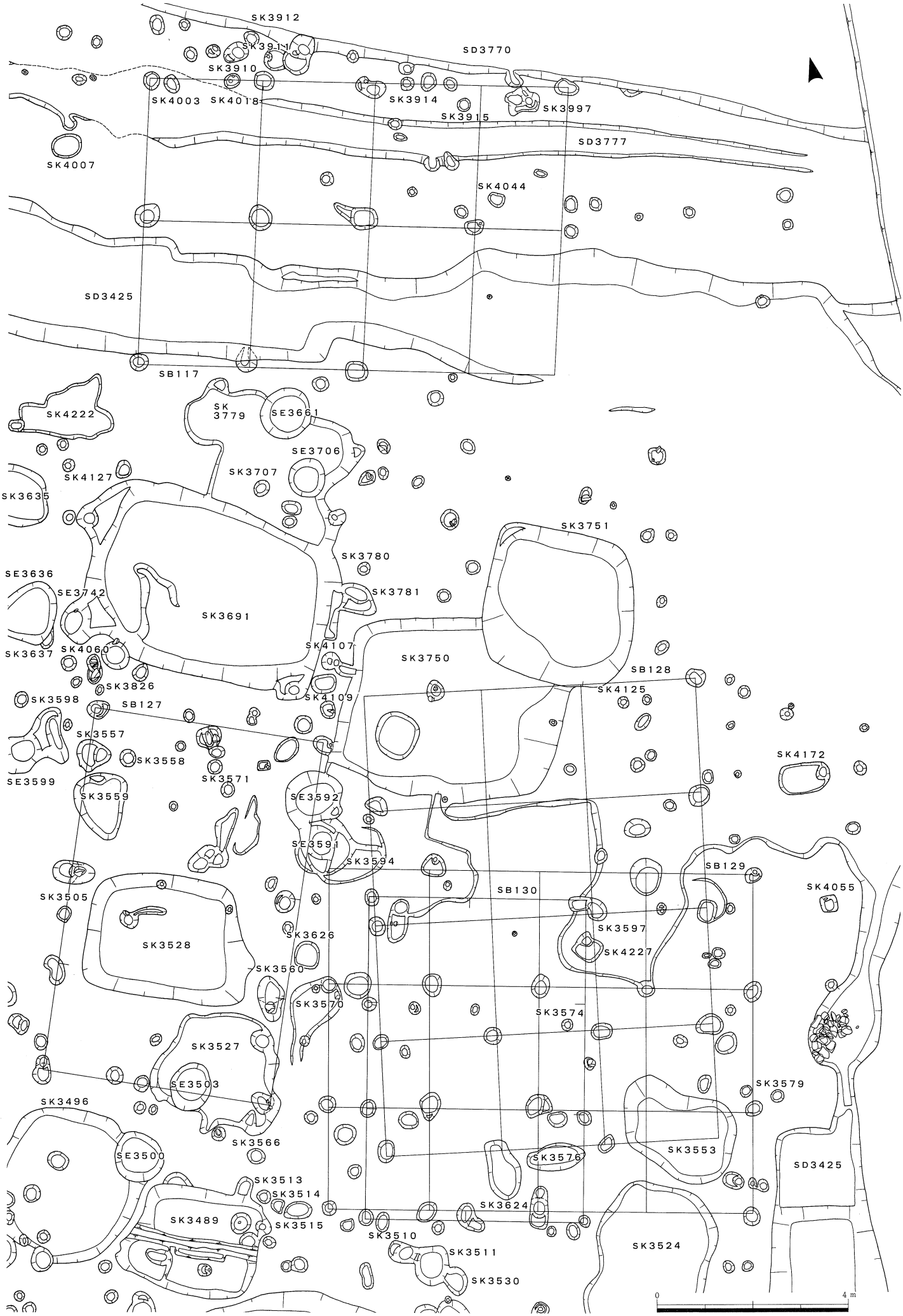
第60図　遺構実測図(中世前期)
1.SB110　2.SB108



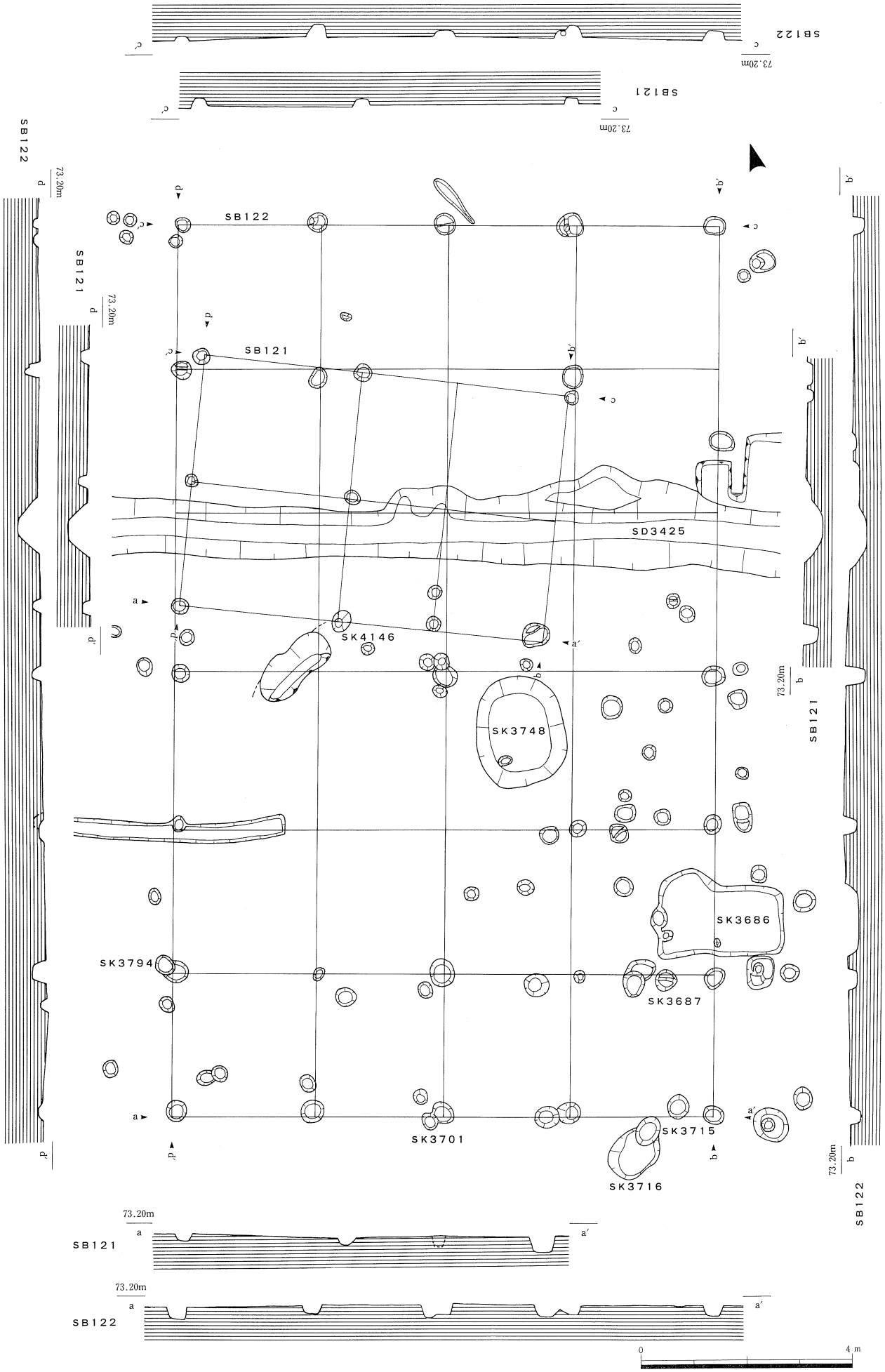
第61図　遺構実測図(中世前期)
SB110～SB116



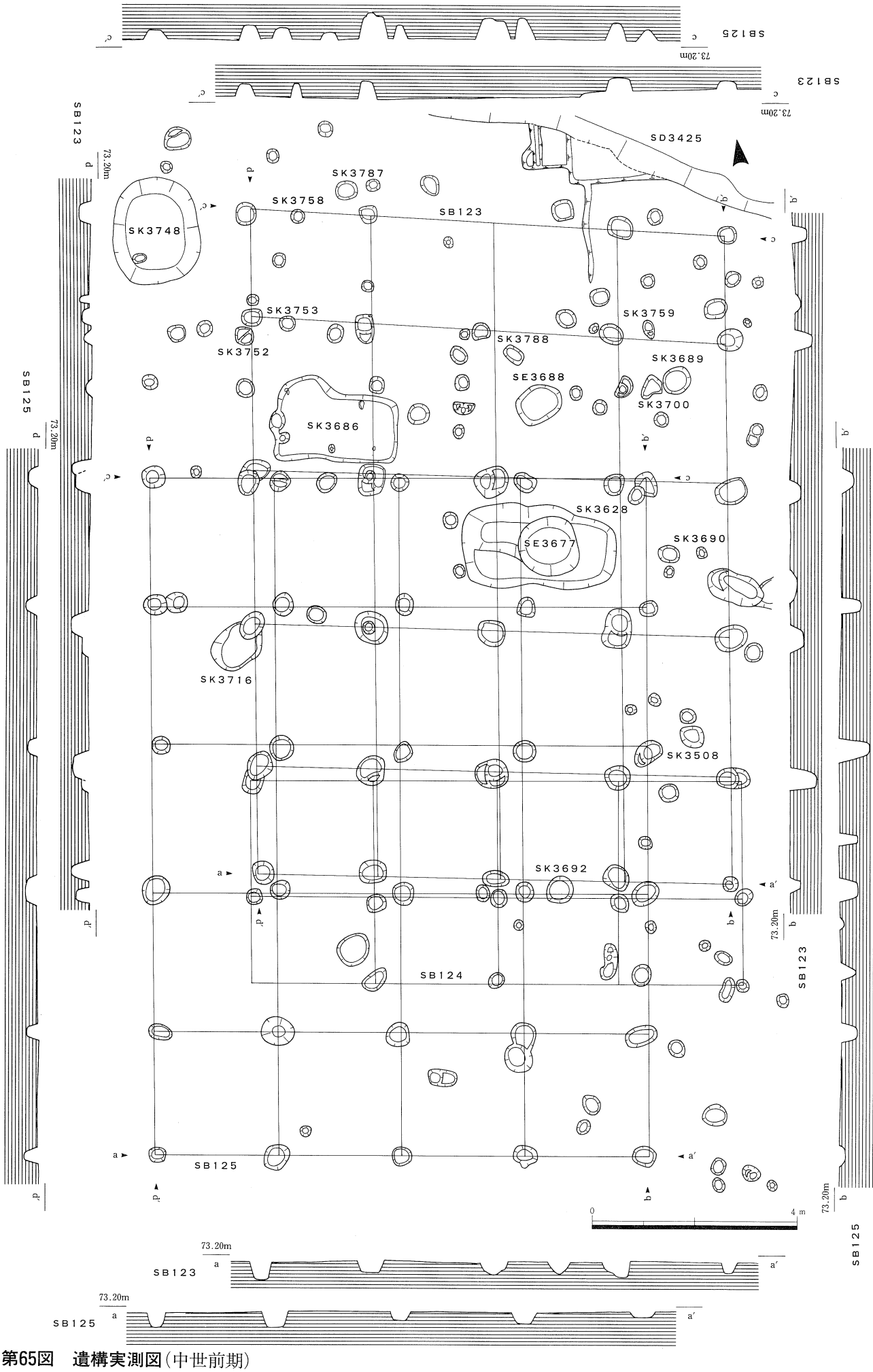
第62図　遺構実測図（中世前期）
1.SB111　2.SB115



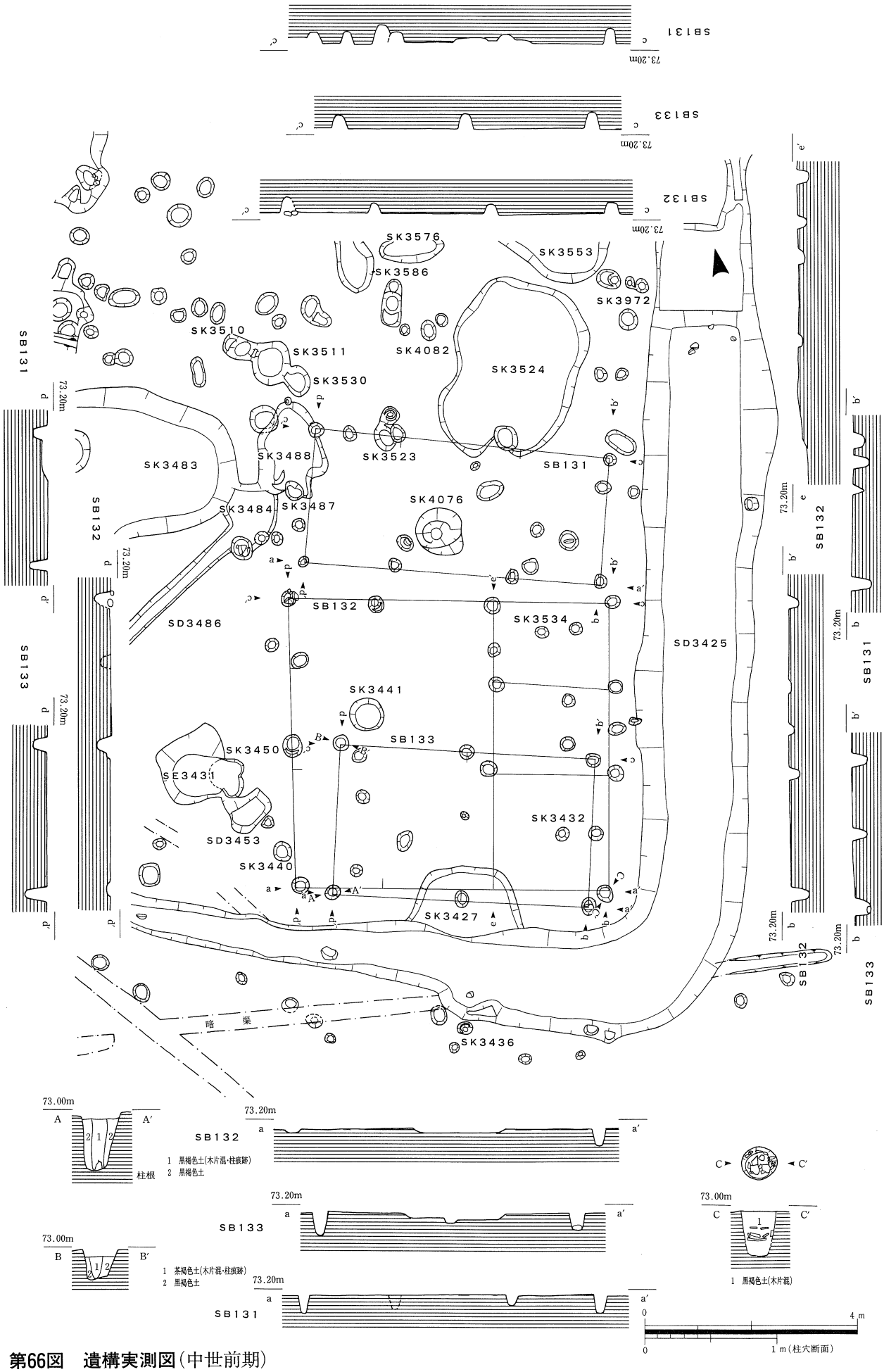
第63図　遺構実測図（中世前期）
SB117・SB127～SB130



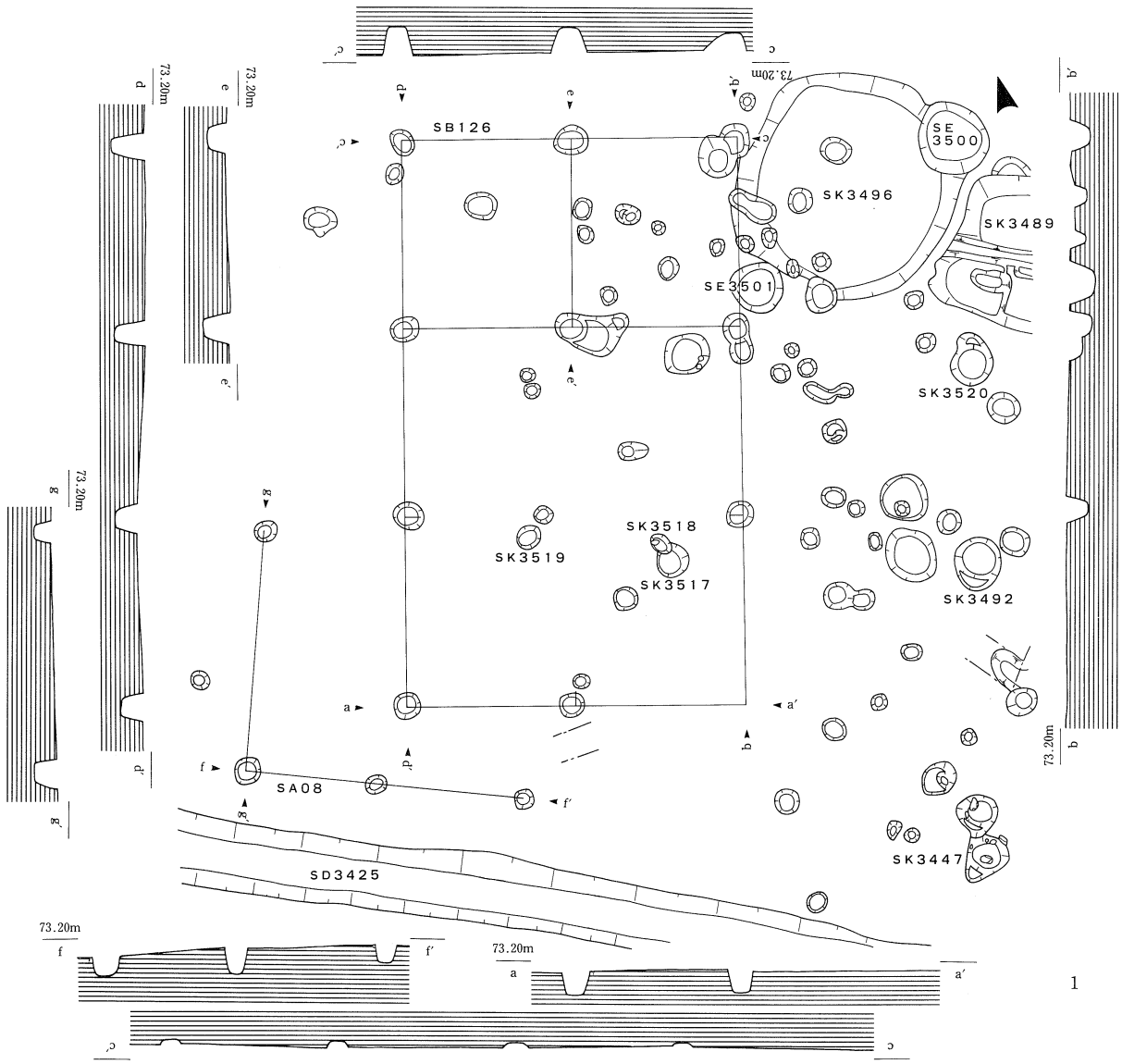
第64図　遺構実測図（中世前期）
ＳＢ１２１・ＳＢ１２２

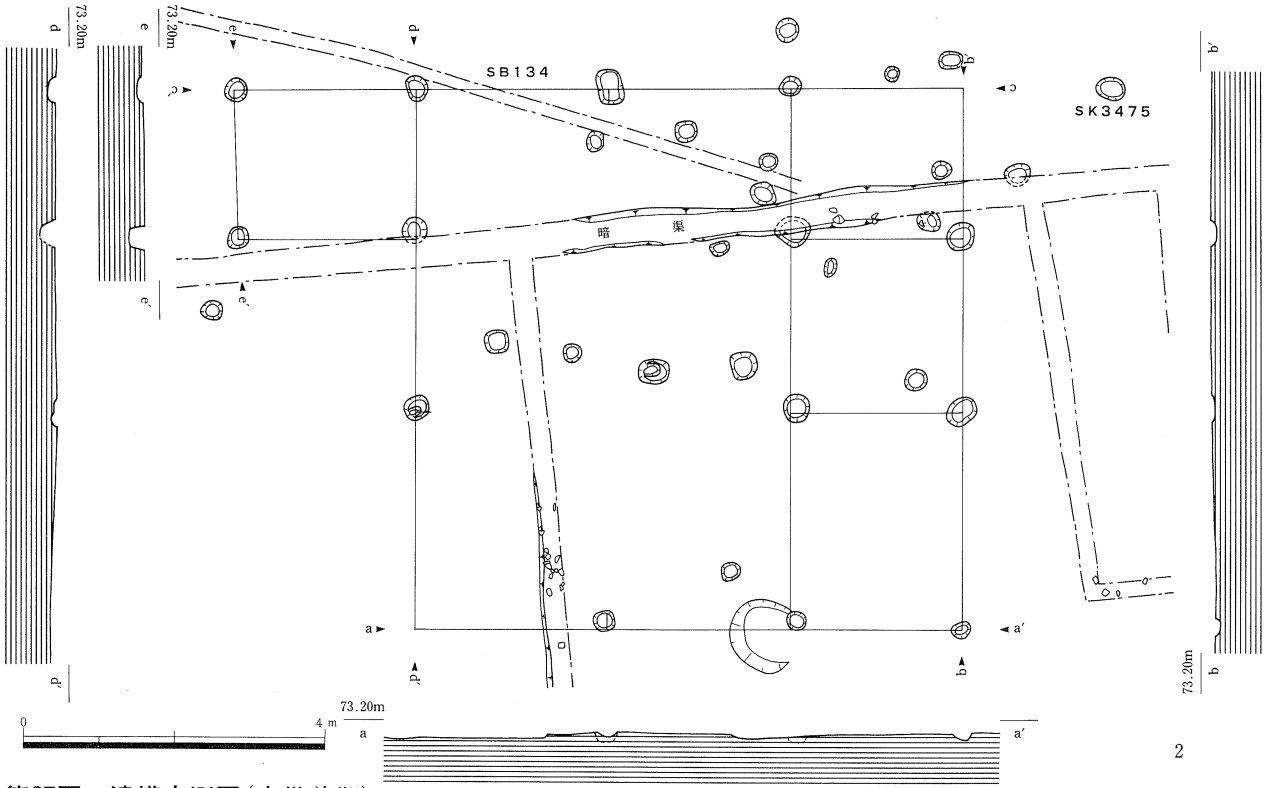


第65図　遺構実測図(中世前期)
SB123～SB125



第66図　遺構実測図(中世前期)
SB131~SB133





第67図　遺構実測図(中世前期)
1.SB126　2.SB134

2　溝

中世前期と推定される溝は51条確認された。分布はA地区が中心である。形状は大別して，旧川跡，細い雨落ち溝的なもの，断面が逆台形状の規格の大規模な溝に分けられる。時期は大まかに12世紀半ば～13世紀のもの，13世紀･14世紀のもの，14世紀のものに分けられるようである。「L」字形状，「コ」字形状，「ロ」字形状などの方形の区画を目的とした溝は12世紀後半から見られる。

A地区

1号溝（SD01，第68図，図版52）

X495～491Y109～114に位置し，幅30cm～80cm，深さ7 cm～15cmの南北溝である。溝の方向は建物の主軸方向と違って，発掘区を斜めに横切っている。溝底は少し凸凹でわずかな高低差があり，水流は北に向く。溝は一箇所途切れて，北側では溝肩が確認できなくなる。覆土は黒褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器があり，時期は12世紀後半～13世紀初めである。

3号溝（SD03，第68図，図版52）

X493Y490～493に位置し，幅20cm～40cm，深さ3 cm～5 cmの南北溝である。溝底の高低差はわずかで，水流は北に向くが，北側では溝肩が確認できない。覆土は褐色砂質土である。遺物は出土していないが，建物との配置関係から12世紀後半～13世紀であろう。溝の東側は遺構がなく，空地になっている。

161号溝（SD161，第68図，図版52）

X498～501Y107に位置し，幅15cm～25cm，深さ4 cm～6 cmの南北溝である。溝の断面は少し丸くなり，南・北で溝肩が確認できなくなる。溝底の高低差はほとんどないが，水流は北に向く。遺物は出土していないが，中世前期と考える。

302号溝（SD302，第68図，図版52）

南端をSD701に発する南北方向の溝である。X458Y103からSK783を迂回するように北西に走り，一部SD701と並走しながら北に延びる。北端でSB08と平行することから同時期に存在していたと推定される。SD778と切り合い，これより新しい。断面形は南側では「U」字形状であるが，北に行くに従って皿状に浅くなって行く。幅は60cm～80cm，深さは5 cm～45cmである。覆土は主に暗茶褐色砂質土の単層である。SD302とSD701の間では同時期の土壙墓が1基検出されており，SD302が屋敷地との境の一種の結界の役割を果たしていた可能性もある。遺物には中世土師器・珠洲・白磁がある。時期は13世紀である。

701号溝（川跡）（SD701，第69～72図，図版53）

調査区の東から蛇行しながら北流する中世前期の自然河川の跡である。包含層を除去すると赤味を帯びた暗茶褐色粘質土が遺構上面にやや厚く堆積していた。これは近世遺構の検出面でもあり，調査区中央で特に顕著であった。規模は最大幅10.40m，最小幅5.60mで，調査区を横切るX450～455Y105からX455～460Y95にかけてが一番幅が広くなり，X460Y95付近で北流すると約6 m～7 mの幅となる。深さは85cm～140cmで，北で一番浅く，壁の立ち上がりが他に比べてやや急なX470Y90付近が深い。覆土の基本層は暗茶褐色土，灰褐色粘質土，砂質土，礫層で各セクション毎に色の違いが見られる。遺物は灰褐色粘質土層に多いが，礫層の中にも混じる。従って，礫層も最初の頃の川が運んだ堆積層であることがわかる。川は次第に堆積物で埋まり，最終的には川幅は3分の2から3分の1となり，深さは30cm～75cmとなる。これは断面観察で砂礫層の堆積の仕方，及び暗黄褐色土の混じり方で把握することができる。遺物の垂直分布は前述したが，平面分布はX455Y100付近の北側に集

中する。記録もれを考慮しても，この地区が顕著である。これはこの付近の北側の遺構の肩の立ち上がりが緩やかなこともあるが，溝が北に屈曲する角に位置する，ＳＫ783・ＳＫ839の位置が問題であるのではなかろうか。同じ時期と考えるＳＤ302がＳＫ783を避けるように屈曲していることも関係があるように考えられる。遺物には縄文土器，土師器・須恵器，中世土師器・八尾・珠洲（Ⅰ期）・越前・瀬戸・常滑・白磁・青磁・青花がある。常滑の鉢はＸ501Ｙ105出土の破片と接合できた。瀬戸には12世紀中頃の山茶碗がある。石製品には打製石斧・磨製石斧，砥石・滑石製石鍋片があるが，木製品の出土はない。時期は12世紀後半～13世紀前半のものがほとんどで，わずかに14世紀のものが混じる。このことから13世紀中頃～14世紀にかけて，ＳＤ701は人為的または自然に埋まったと推定される。そして，南に平行して南東から北西に流れるＳＤ911に改修されたと考える。ＳＤ911の時期は14世紀を中心としており，問題はない。そして近世の18世紀になると，ちょうどＳＤ701とＳＤ911の境付近の上面をＳＤ1441が東西に流れるようになる。

777号溝（ＳＤ777，第68図）

ＳＤ302の３ｍ東で検出した南北方向の溝である。全長20mで北側３分の２がＳＤ302に平行するが，南端はＳＤ778に交差した後，西にカーブしてＳＫ974にぶつかる。切り合いはＳＫ760・ＳＫ761・ＳＤ778より古い。ＳＤ302とＳＤ777をつなぐＳＤ822との関係は不明である。幅は30cm～47cm，深さ13cm～17cmで，断面形は逆台形状である。覆土は主に暗茶褐色粘質土の単層である。溝に伴うと考えられる建物はなく，遺物の出土もないが，切り合い関係から12世紀後半～13世紀前半の時期となる。

778号溝（ＳＤ778，第68図）

北端をＳＤ302に切られる「Ｌ」字形状の溝である。検出した全長は19m，東西方向の流路からＳＫ762・ＳＫ781と切り合った後，北流する。切り合いはＳＫ781には負けるが，ＳＫ761には勝っている。幅は32cm～53cm，深さは17cm～31cmである。断面形は逆台形状で，覆土は暗茶褐色土の単層である。溝に伴う建物は確認できない。遺物には14世紀の中世土師器がある。

785号溝（ＳＤ785，第68図）

調査区中央で検出した南北方向の溝である。検出した全長は26m，中央でＳＫ773に南端でＳＫ787に切られる。幅は53cm～108cm，深さは15cm～43cmで，断面形は逆台形状である。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。建物との関係は，溝の西の８間×４間の大型建物のＳＢ21の棟方位に平行する位置関係にある。ＳＢ21の１番東側の柱列と溝との間隔は約2.5mである。遺物には須恵器，中世土師器・珠洲があり，13世紀後半のＳＢ23に伴うＳＫ773に切られることから，時期は13世紀後半以前となる。

786号溝（ＳＤ786，第68図）

ＳＤ785に平行する浅い南北方向の溝である。全長は９ｍ，南のＳＤ795につながる可能性もある。幅は34cm～51cm，深さは６cm～８cmである。覆土は暗黄褐色粘質土が混じる茶褐色粘質土の単層である。建物との関係は棟方位から約４ｍ西にあるＳＢ23と関連がある可能性がある。遺物には中世土師器と珠洲があり，時期は13世紀である。

794号溝（ＳＤ794，第68図）

ＳＤ785の５ｍ東で検出した南北方向の溝である。検出した全長は29mで，南はＳＤ785にほぼ平行するが，北は先細りになって東に緩くカーブして行く。南端では近世の土坑ＳＫ797・ＳＫ832に切られる。途中から流路を同じくするＳＤ795には切り合いで勝つ。幅は50cm～170cm，深さは５cm～38cmである。断面形は底が平坦な逆台形状である。覆土は上から暗茶褐色土，茶褐色土と黄褐色砂質土の互層，茶灰色粘質土の堆積状況で，所によって茶灰色土の下層に再び茶褐色土と黄褐色砂質土の互

層が堆積している。砂質土の堆積状況からある程度の流れをもつ溝であったことが窺われる。建物との関係はあまりはっきりしない。遺物には土師器，中世土師器・珠洲・白磁がある。

795号溝（ＳＤ795，第68図）

ＳＤ794と大部分が重複する南北方向の溝である。ＳＤ794に切り合いで負けているため全長は不明である。幅は60cm～68cm，深さは30cm～41cm である。覆土は上層が黒褐色土，下層が黒褐色土ブロックが混じる黄褐色土である。ＳＤ786の所で前述したが，ＳＤ786に続く可能性があり，ＳＢ23またはＳＢ24の棟方位に並行する位置にある。遺物には中世土師器がある。

834号溝（ＳＤ834，第68図）

調査区の東寄りで検出した南北方向の溝である。Ｘ460Ｙ113に位置するＳＫ922との切り合いは溝が勝つ。東に並行するＳＤ924とはＳＤ1210によってつながっている。全長31m，南端が東に曲がる。幅は34cm～65cm，深さは８cm～30cm である。覆土は暗茶褐色粘質土の単層で，所により小砂礫も混じる暗黄褐色土が堆積する。遺物の出土はないが，周囲は中世前期の遺構がほとんどであることから，とりあえずここで述べた。

911号溝（ＳＤ911，第71・72図，図版53）

一部ＳＤ701に平行しながら南東から北西方向に走る溝である。ＳＤ701には切り合いで勝っている。Ｘ450Ｙ105付近でＳＤ701との切り合いで肩が不明確となる他は，比較的壁の立ち上がりがしっかりした断面形が逆台形状の溝である。西壁手前ではやや流路方向が変わっており，幅が広くなることから断面観察によって北側に別の溝が１本存在することが確認できた。この溝が全く新しい溝か，ＳＤ701が分岐したものであるかはわからなかった。ＳＤ911の規模は上面幅305cm～370cm，底面幅120cm～190cm で，深さ45cm～93cm である。覆土は主に上から暗茶褐色粘質土，暗茶褐色粘質土と砂質土の混土，暗茶褐色粘質土，茶褐色土と礫の混土となっている。東側は暗茶褐色粘質土，砂礫の混じる暗茶褐色粘質土が主体で，礫に混じって大量の中世土師器の小破片が出土している。建物との関係はＳＢ29の棟方位が流路と並行している。遺物には中世土師器・八尾・珠洲・越前・白磁・青磁がある。時期は13・14世紀のものである。

924号溝（ＳＤ924，第68図）

ＳＤ834の東に並行して走る南北方向の溝である。ＳＤ834とは1.5m～３m の間隔で並走し，調査区外へ延びる。幅は52cm～112cm で，深さ12cm～23cm である。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。遺物の出土はないが，ＳＤ834と同時期の遺構と考える。

1250号溝（ＳＤ1250，第73・74・77図，図版54）

東から北に屈曲する「Ｌ」字形状の溝である。東西方向に走る範囲ではＳＤ1252と重複し，これに切り合いで勝つ。北端は次第に幅広く，浅くなり，ＳＤ911の手前で消える。東西方向の5本の溝と交差するが，ＳＤ1284・ＳＤ1290・ＳＤ1422より古く，ＳＤ1285・ＳＤ1422よりは新しい。また，中世前期にしては規模の大きい井戸ＳＥ1253・ＳＥ1255・ＳＥ1284，ＳＫ1296・ＳＫ1411・ＳＫ1412とも切り合うが，井戸・土坑のほうが新しい。断面形は逆台形状，上面幅170cm～260cm，底面幅は100cm～130cm，深さ30cm～95cm である。覆土は東西方向のセクションでは，暗茶褐色土に黄褐色土・小砂礫の混じる土が主体であるが，南北方向のセクションでは，第１層しまった暗茶褐色土，第２層暗茶褐色土に黄褐色土・黒褐色土が混じる土，第３層暗茶褐色土，第４層暗茶褐色砂礫土，第５層黒褐色あるいは暗茶褐色砂質土である。Ｘ431・432の範囲では深さ約10cm～20cm 以下で集中的に礫の堆積が見られた。Ｘ426～Ｘ431にかけては第２層と第３層との間に炭化物と焼土の層が見られる。Ｘ427Ｙ110

にあるセクションでは炭化物と焼土の層が最上面にレンズ状に堆積し，その下層の第2層にあたる層から束になった銅銭が出土している。遺物には須恵器，中世土師器・珠洲・八尾・白磁・青磁・青花がある。出土量は遺構の規模の割には少なく，その分布はＳＤ1252との重複部分，Ｘ431･432の範囲，ＳＤ1422との交差する周辺で顕著であった。時期は13・14世紀である。建物との関係はＳＢ61が伴うと考える。

1252号溝（ＳＤ1252，第74・75・77図，図版54・55）

Ｘ415～421にかけて調査区を東西に横切る溝である。東側はＳＤ1250と重複し，東壁際でＳＤ1418に切られ，西ではＳＫ1267に切られる。断面形は逆台形状，上面幅200cm～220cm，底面幅70cm～125cm，深さ90cm～125cmである。覆土はＳＤ1252重複部分とその西では様相が異なる。重複部分では，大きく5層に分けられる。第1層は黄褐色土小ブロックが混じる暗茶褐色土である。ＳＤ1250の覆土には小砂礫が混じるのに対し，この溝の層には混じらない。第2層橙褐色砂層と暗茶灰粘質土の互層，第3層炭化物層，第4層暗茶褐色粘質土，または暗茶灰色粘質土と砂層の互層，第5層茶褐色砂礫土である。第5層は底の両壁際に見られるものである。遺物は主に第3層を中心とした上下約50cmの深さの範囲に特に多く，中世土師器・白磁・青磁が出土する。中には12世紀後半の中世土師器が混じり，遺構の上限を示すものである。重複部分より西になると，覆土は大きく2時期に分けられる。上面にレンズ状あるいはＶ字状に堆積する黒灰褐色粘質土が混じる暗茶褐色粘質土，炭化物の混じる黒灰褐色粘質土，黒灰褐色粘質土に暗茶褐色粘質土・焼土が混じる土の3層が上層となる。この範囲の遺物の大半がこの層から出土している。遺物の出土は平面的にＳＫ1267に切られる手前の範囲までは一様に出土しているが，特にＸ419Ｙ97からＸ420Ｙ93の範囲には，中世土師器を集中して投棄している箇所が3箇所もあった。中世土師器は種類が少なく，同じ形のものばかりで，口径14cm内外の口縁端部に面をとるものがほとんどであった。また，重複部分では出土しなかった珠洲がこの層では出土している。時期は13世紀前半のものである。下層になると覆土は各セクションで異なり，暗茶褐色粘質土が主体で，黒褐色粘質土と互層になったり，礫が混じるところもある。下層からの遺物の出土は少ない。これらのことから，ＳＤ1252の重複部分は，新しくＳＤ1250を掘削することにより埋められたが，西側部分はほとんどが埋まりつつも上層が13世紀前半まで機能したものと考えられよう。建物との関係はＳＢ52とＳＢ63が同時期に存在したと考える。

1285号溝（ＳＤ1285，第81図）

調査区を東西に横切る細い溝である。南北に走るＳＤ1250･ＳＤ1422に切られ，ＳＫ1286･ＳＫ1409にも切られる。幅55cm～69cm，深さ15cm～18cmである。覆土は黒褐色粘質土で，下層に暗茶褐色粘質土と砂の混土が堆積する所もある。遺物には中世土師器・白磁があり，時期は12・13世紀である。

1422号溝（ＳＤ1422，第76・77図，図版54）

東から南に屈曲した「Ｌ」字形状の溝である。東西方向に走る範囲は，約40m余り南に位置するＳＤ1222と並行関係にあり，方形区画をする同一の溝の可能性もある。東壁際はＳＤ1406と切り合い，これに勝っているが，他の切り合う遺構にはすべて負けている。断面形は逆台形状，幅は東壁際で305cmを測るが，他は180cm～205cm，底面幅は90cm～125cmである。深さは40cm～80cmである。覆土は基本的に3層に分けられ，レンズ状に堆積する。第1層は黄褐色粘質土が混じる暗茶褐色粘質土，第2層が暗灰色粘質土，所により黒灰色粘質土，第3層が暗灰褐色粘質土，所により黒褐色粘質土である。層によっては粘質土と砂の互層になっているものもある。遺物は第3層からの出土が多い。種類は須恵器・土師器，中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁がある。他には打製石斧・砥石・滑石製

石鍋，鉄製品がある。時期は13世紀である。

1423号溝（ＳＤ1423，第81図）

東壁際でＳＤ1422の北で検出した溝である。北西方向に流れるが，ＳＥ1424に切られ，北端ではＳＫ1425に切られる。断面形は開いた「Ｕ」字形状で，幅135cm，深さ45cm である。覆土は黒褐色粘質土が主体の土である。遺物には中世土師器と白磁がある。

2201号溝（ＳＤ2201，第79図）

Ａ２地区の南半分からＡ３地区，Ｘ368～390Ｙ91～99にかけて南北に走る溝である。幅2.5m～3.3m，深さ25cm～50cm である。断面形は逆台形である。溝底は南北で30cm の高低差があり，水流は北向きである。北端でＳＤ2451，南端でＳＤ2207に切られているため，溝の方向は明確でないが，現存長約49m を測る。覆土は茶褐色土（上層），褐色粘質土･灰褐色粘質土（下層）である。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁・青磁がある。時期は13世紀～15世紀である。

2203号溝（ＳＤ2203，第78～80図，図版56～58）

Ａ１･Ａ２地区の境を東西に走り，Ｘ411～414Ｙ91～99で98度南に屈曲してまっすぐ延び，Ｘ365～368Ｙ94･95で西に115度折れ曲がる。丁度「コ」字状に溝が走る。東側が未調査区のため，溝全体の配置は不明である。南北方向の溝は東西に走るＳＤ2451・ＳＤ2453に切られる。長さは北側の東西方向で9.5m，南側の東西方向で35.4m を測る。南北方向の長さは99.5m である。幅は上場で3.3m～4.2m，下場で2.1m～2.8m である。断面形は逆台形で，勾配は約25度～50度，平均約40度である。深さは1.2m～1.5m で，南東隅と北東隅とでは約１ｍの落差がある。水流は北向である。溝底は平坦だが，Ｘ403･404で穴のように深くなる（底面から深さ約50cm）。さらに，その北のＸ408以北では約15cm 深くなる。覆土は茶褐色土（上層），１cm～５cm 大の砂利と砂質土の互層（中層），砂質土混じりの灰褐色粘質土（下層）に分かれる。砂質土が多いことから，水が良く流れていたと考える。溝底には泥のたまりも少ない。溝の南から中程，Ｘ400付近以南までは上層と下層と明確だが，その北側に行くほど中層が不明瞭になり，灰色粘質土や砂質土が多くなる。下層には１cm～５cm 大の砂利と灰褐色粘質土が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・白磁・青磁・青白磁，フイゴの羽口，石硯などがある。中世土師器は上層から下層まで，大量に出土しており，12世紀後半～13世紀の良好な資料である。なお，溝の周辺には，土塁・柵・橋などの痕跡は確認できない。

2215号溝（ＳＤ2215，第121図）

Ｘ371～374Ｙ85～90に位置し，ＳＤ2207・ＳＫ2208・ＳＫ2210に切られる。幅80cm～142cm，深さ24cm～66cm の東西溝である。東と西での溝底で約10cm の高低差があるので，水流は西に向く。西側の未調査区に延びるが，現存長は11m である。断面形は逆台形で，溝底は少し凸凹している。覆土は茶褐色土，茶褐色粘質土である。遺物は縄文土器，中世土師器・白磁で，時期は13世紀である。

2450号溝（ＳＤ2450，第78・82図，図版57）

Ｘ392～396Ｙ105～108に位置し，南はＳＤ2451に切られ，北は未調査区に延びる南北溝である。北側で幅180cm，深さ23cm，南側で幅144cm，深さ44cm で，逆台形の断面形である。南と北の高低差は約10cm で，水流は南に向く。覆土は暗茶褐色土（上層），灰黒褐色土（下層）である。上層には１cm～５cm 大の小石が混じる。遺物は中世土師器・青磁で，時期は13世紀～14世紀である。

2451号溝（ＳＤ2451，第78・82図，図版57）

Ｘ391～395Ｙ93～107を東西に走る溝で，Ｙ99～101付近で屈曲する。ＳＤ2203･ＳＤ2450を切るが，ＳＤ2201・ＳＤ2456との切り合い関係は不明である。東側部分（ＳＤ2203以東）の幅は2.6m～3.0m，

西側部分（ＳＤ2203以西）のそれは4.1m～4.6mを測る。東側部分は深さ113cm～119cmで，約40度の勾配を持つ逆三角形の断面を呈する。西側部分は深さ100cm～130cmで，両肩上から深さ40cm～60cmの所に段を持つ。溝底は標高で約50cm西の方が低く，水流は西に向く。覆土は茶褐色土（上層），灰色砂質土（下層）である。東側部分の溝底には粘質土が確認できないが，西側部分には灰（褐）色粘質土が溜まる。断面図では，灰色粘質土と茶褐色砂土との互層土が５面確認できる。また，別の所では，下層に１cm～10cmの小石が混じる茶褐色土が確認できる。水がよく流れていたと考えられる。遺物には土師器・須恵器，中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁・青磁・青白磁がある。時期は13世紀～14世紀である。なお，溝周辺には土塁・柵・橋などは確認できない。

2453号溝（ＳＤ2453，第81図）

Ａ１地区とＡ２地区の境で検出した調査区を東西に横切る溝である。流路は西から東である。南に並走するＳＤ2453ｂには切り合いで勝っている。Ｘ415Ｙ100では下層に井戸状の土坑が切り合っており，溝上面では６基の長楕円形の土坑を検出している。幅は380cm～440cm，底面幅は80cm～120cm，深さは100cm～145cmである。断面形は逆台形状であるが，やや丸底気味である。覆土は基本的に５層に分けられ，上から茶褐色土，暗茶褐色粘質土，暗茶褐色粘質土，黄褐色粘質土，暗灰褐色粘質土と堆積する。黄褐色粘質土以外はあまり大差はなく，礫を多量に含む。遺物には中世土師器・珠洲・八尾・越前・瀬戸・白磁・青磁，打製石斧・砥石，鉄製品がある。時期は12世紀～14世紀のものである。主体は14世紀である。

2453ｂ号溝（ＳＤ2453ｂ，第81図）

ＳＤ2453と重複して検出した東西方向の溝である。ＳＤ2453とは検出した５分の４が重複する。上面幅235cm，底面幅約80cm，深さ53cm～68cmである。断面形は逆台形状で，覆土は上層が茶褐色粘質土，下層が明茶褐色粘質土で，共に礫が多量に混じる。遺物はＳＤ2453と分けて取り上げることができなかった。切り合いから14世紀以前の遺構である。

2463号溝（ＳＤ2463）

Ｘ395～398Ｙ95～97に位置し，幅32cm～60cm，深さ15cm～20cmの東西溝である。覆土は茶褐色土の単土である。土師器はＸ397Ｙ96に集中している。時期は13世紀～14世紀である。

3425号溝（ＳＫ3425，第83～88図，図版21）

Ａ３地区の中央部，Ｘ322～345Ｙ82～116に位置し，北東部分は未調査区に一部掛かるが，「ロ」字状に巡る。東西方向の北側の溝（北溝）は外幅で長さ45m（推定），南側の溝（南溝）は外幅で長さ41mである。南北方向の東側の溝（東溝）は外幅で長さ32.5m（推定），西側の溝（西溝）は外幅で長さ30mである。溝の方向は，東溝でＮ－18°－Ｅ，西溝でＮ－10°－Ｅ，北溝でＮ－72°（推定）－Ｗ，南溝でＮ－68°－Ｗである。この溝で区画された平面形は，北辺と東辺が少し大きい台形をしている。北溝は幅１m～3.1m（深さ33cm～38cm）で，西半分で１ｍ程度（深さ40cm～52cm）で，東側になると2.2m～2.7mと大きくなり（深さ52cm～54cm），さらに1.5mとすぼまり（深さ40cm～59cm），再び，広がり３ｍ以上（深さ50cm）になって，東溝につながる。北溝が屈曲して東溝と連なる部分は別の遺構との重複や，地山土が遺構の覆土とよく似ていることから，東溝の肩の部分が明確でない。東溝は南に行くに連れて幅76cmに一旦すぼまる（深さ12cm）が，再び，幅144cmの卵形に広がる（深さ12cm）。さらに，幅34cmと狭くなり（深さ8cm），また，幅180cm～214cmと広くなり（深さ17cmから深さ45cm～50cmの二段掘りになる），南溝に連なる。南溝につながる所では，24cm～34cm（標高72.72cm～72.82cm）と浅くなる。東溝の続く南溝は，幅196cmの所（深さ24cm）から，西に行くと，幅56

cmにすぼまる（深さ5 cm）が，幅130cmの四角形（深さ18cm）のように広がる。さらに西に行くと，幅52cmと少しすぼまる（深さ12cm）が，また，一定の幅90cm前後（7 cm～28cm）から118cm～130cmと少し広がって（深さ36cm～40cm），西溝につながる。西溝は南溝とつながる所で幅150cmと広く（深さ37cm），やがて130cm前後（36cm～40cm）から96cm（深さ40cm）に少しすぼまる。更に北に行くと，36cm～64cmの細いアーチ状（5 cm～12cm）になる。さらに，126cm～154cmの幅（深さ30cm～34cm）で北溝に接続する。溝は東・西で各一箇所細くなっており，出入口と考える。その出入口と考える所では，溝底が浅いが，その他の溝底の標高は，四箇所であまり変化がなく，水は所々で溜まっていたと考える。覆土は茶褐色土で，地山土・小砂利・炭化物が混じる。南溝の西半分から西溝の南部分には，底に黒褐色粘質土が溜まり，漆器が出土した。遺物には縄文土器・石器，土師器・須恵器，中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・白磁・青磁，石硯・五輪塔・石鍋，漆器，鉄製品がある。中世の遺物は北溝の東側から東溝の北側，東溝の南側に集中する。溝の遺物がＳＥ3431やＳＢ132の柱穴のそれと接合することから，それらの遺構は同時期に存在していたことがわかる。五輪塔の空風輪は西溝の出入口の覆土上面に廃棄されている。溝の時期は14世紀～15世紀前半である。

3777号溝（ＳＤ3777，第165図，図版101）

ＳＤ3425の北側，Ｘ340～343Ｙ93～117，ＳＤ3770に並行する東西溝である。幅40cm～98cm，深さ6 cm～14cmで，西流する。東と西で溝の両端は浅くなって確認できないが，現存長11.3mである。覆土は暗茶褐色土で，地山土がわずかに混じる。遺物には中世土師器・珠洲・白磁・青磁があり，時期は13世紀～14世紀である。

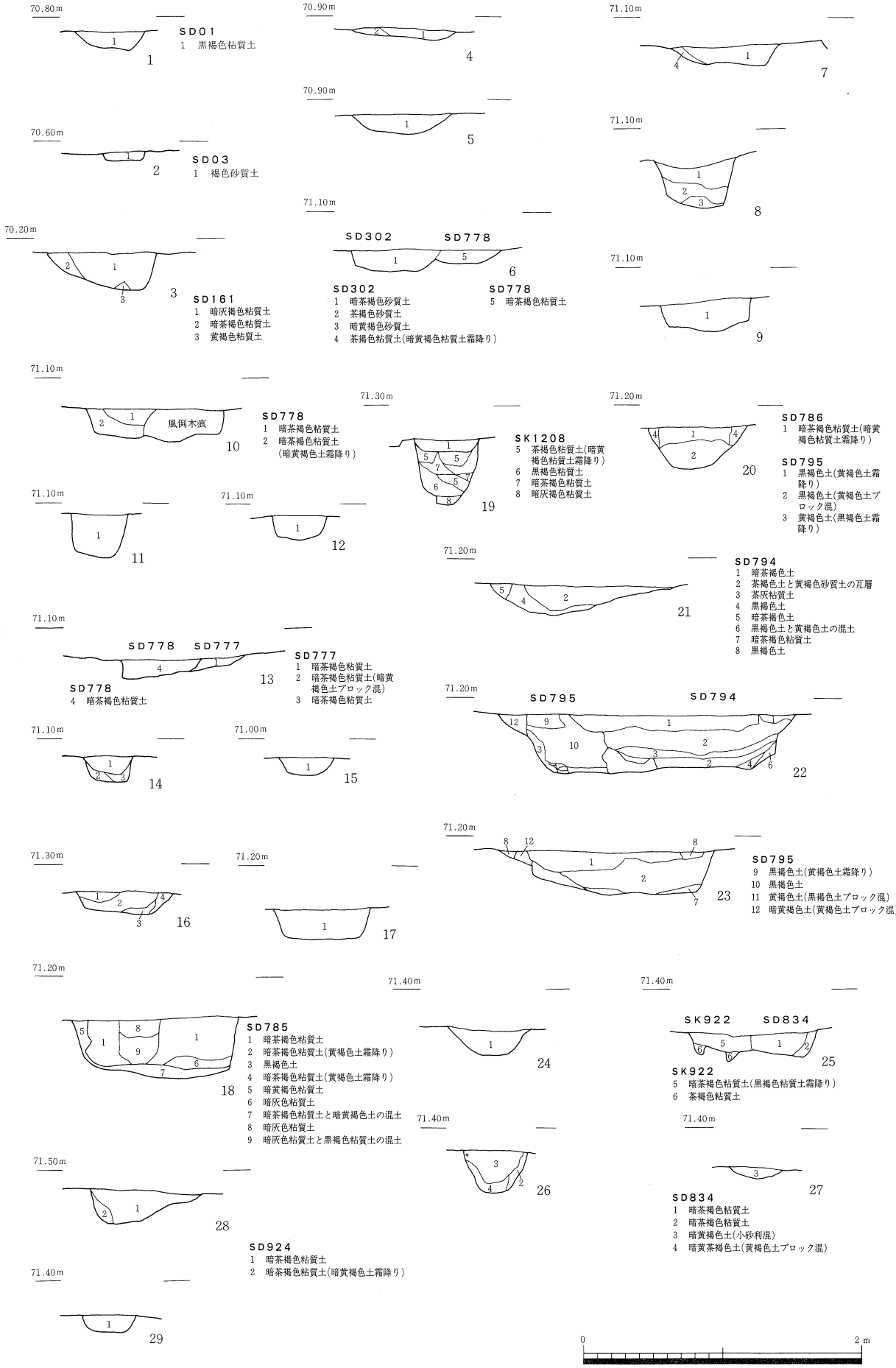
Ｂ地区

4484号溝（ＳＤ4484）

Ｘ303Ｙ93付近で検出した北から西方向へカーブする溝である。ＳＫ4308・ＳＫ4369・ＳＫ4376・ＳＥ4485と切り合うがどれよりも古い。幅は95cm～145cm，床面は平坦で深さは25cm～30cmである。覆土は小礫の混じる黒茶褐色土の単層である。遺物には須恵器，中世土師器の多数の小破片，珠洲がある。越中瀬戸が1点出土しているが，上面からの混入と考える。時期の確定できる遺物はないが，切り合い関係から当期の遺構と判断した。（宮田進一　島田美佐子）

遺構番号	整理番号	地　区	流　路	規模；幅	規模；深さ	覆　土	出　土　遺　物	備　　考	時　期
SD01	SD01	A	南→北	30～80	7～15	黒褐色粘質土	中世土師器		12C後半～13C初
SD03	SD03	A	南→北	20～40	3～5	褐色砂質土	－		
SD161	SD161	A	南→北	15～25	4～6	暗灰褐色粘質土	－		
SD302	SD302	A	南→北	60～80	5～45	暗茶褐色砂質土	中世土師器・珠洲・白磁	SD302＝SD774	13C
SD701	SD01	A1	東→北	560～1040	85～140	暗茶褐色粘質土	縄文土器・土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・常滑・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・砥石・打製石斧・磨製石斧・石鍋片		12·13·14C
SD750	SD50	A1	東→西	50～60	6	－	中世土師器・珠洲		13·14C前半
SD775	SD75	A1	北→南	20～33	7	暗茶褐色粘質土	－		
SD777	SD77	A1	南→北	30～47	13～17	暗茶褐色粘質土	－	SD777＝SD780	12C後半～13C前半
SD778	SD78	A1	南→北	32～53	17～31	暗茶褐色粘質土	中世土師器	SD778＝SD782、SD778＞SD777	14C初
SD779	SD79	A1	南→北	15～36	3～5	－	中世土師器・青磁		
SD785	SD85	A1	北→南	53～108	15～43	暗茶褐色粘質土	須恵器・中世土師器・珠洲・鉄滓		～13C後半
SD786	SD86	A1	南→北	34～51	6～8	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲	SD786＝SD795？	13C
SD794	SD94	A1	南→北	50～170	5～38	暗茶褐色土	土師器・中世土師器・珠洲・白磁	SD794＞SD786	
SD795	SD95	A1	南→北	60～68	30～41	黒褐色土	中世土師器		
SD819	SD119	A1	北→南	17～26	5	茶褐色土	－		
SD820	SD120	A1	西→東	20～25	15	茶褐色土	－		
SD834	SD134	A1	南→北	34～65	8～30	暗茶褐色粘質土	－		
SD911	SD211	A1	東→西	305～370	45～93	暗茶褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・白磁・青磁		13·14C
SD912	SD212	A1	－	－	－	－	中世土師器		13C末・14C
SD924	SD224	A1	南→北	52～112	12～23	暗茶褐色粘質土	－		
SD1131	SD431	A1	西→東	20～41	6～9	－	珠洲		13C前半
SD1198	SD498	A1	東→西	67	25	暗茶褐色土	－		
SD1206	SD506	A1	東→西	56～86	10	灰褐色粘質土	－		
SD1209	SD509	A1	－	42～55	10～33	暗茶褐色粘質土	土師器		
SD1250	SD550	A1	南→北	170～260	30～95	暗茶褐色土	須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・砥石	SD1250＞SD1252	13·14C
SD1252	SD552	A1	西→東	200～220	90～125	暗茶褐色粘質土	須恵器・中世土師器・珠洲・白磁・青磁・石鍋片・打製石斧・砥石・鉄製品		12C後半・13C前半
SD1272	SD572	A1	南→北	100～160	20～40	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・越前		13C
SD1285	SD585	A1	東→西	55～69	15～18	黒褐色粘質土	中世土師器・白磁		12·13C
SD1415	SD715	A1	南→北	22～62	10～13	黒褐色土	土師器・中世土師器・		13C
SD1418	SD718	A1	南→北	－	－	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・白磁		13C
SD1422	SD722	A1	東→西	180～305	40～80	暗茶褐色粘質土	須恵器・土師器・中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁・打製石斧・砥石・石鍋・鉄製品		13C
SD1423	SD723	A1	南→北	135	45	黒褐色粘質土	中世土師器・白磁		
SD1441	SD741	A1	東→西	220～280	10～75	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁・唐津・伊万里		13·14C
SD2022	SD1322	A1	－	25	－	－	中世土師器		13C
SD2201	SD01	A2	南→北	250～330	25～50	茶褐色土	土師器・中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・砥石		13～15C
SD2203	SD03	A2	南→北	330～420	120～150	茶褐色土	土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁・青磁・唐津・石硯・石鍋片		12C後半～13C
SD2215	SD15	A2	東→西	80～142	24～66	茶褐色土	中世土師器・白磁・縄文土器		13C
SD2243	SD43	A2	南→北	110～185	30	黒褐色土	中世土師器		
SD2245	SD45	A2	－	35	8	茶褐色土	中世土師器		
SD2450	SD250	A2	北→南	144～180	23～44	暗茶褐色土	縄文土器・土師器・中世土師器・青磁		13～14C
SD2451	SD251	A2	東→西	260～460	100～130	茶褐色土	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁・青磁・伊万里・瀬戸・砥石・石鍋片		13～14C
SD2453	SD253	A2	西→東	380～440	100～145	茶褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・白磁・青磁・打製石斧・砥石・鉄製品・鉄滓・骨	bと遺物は混在する	12～14C
SD2453b	SD253b	A2	西→東	235	53～68	茶褐色粘質土	－		～14C
SD2463	SD263	A2	北→南	32～60	15～20	茶褐色土	中世土師器		13～14C
SD2520	SD320	A2	－	24～38	8	茶褐色土	中世土師器		
SD3402	SD02	A3S	東→西	100～700	16～30	黒褐色土	縄文土器・土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里		8C後半～10C初
SD3425	SD25	A3S	－	34～300	7～59	茶褐色土	縄文土器・石器・土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・白磁・青磁・石硯・五輪塔・石鍋・漆器・鉄製品		14～15C前半
SD3777	SD377	A3S	東→西	40～98	6～14	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁		
SD3778	SD378	A3S	西→東	40～98	6～14	暗茶褐色土	須恵器・中世土師器		13～14C
SD4313	SD13	B1	北→東	140	15	黒茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		
SD4484	SD184	B1	東→西	95～145	25～30	黒茶褐色土	須恵器・中世土師器・珠洲・越中瀬戸		

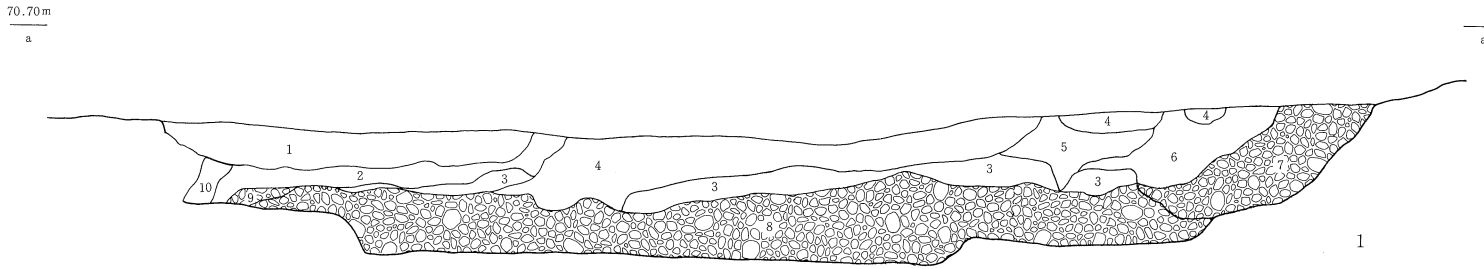
第５表　溝（中世前期）一覧

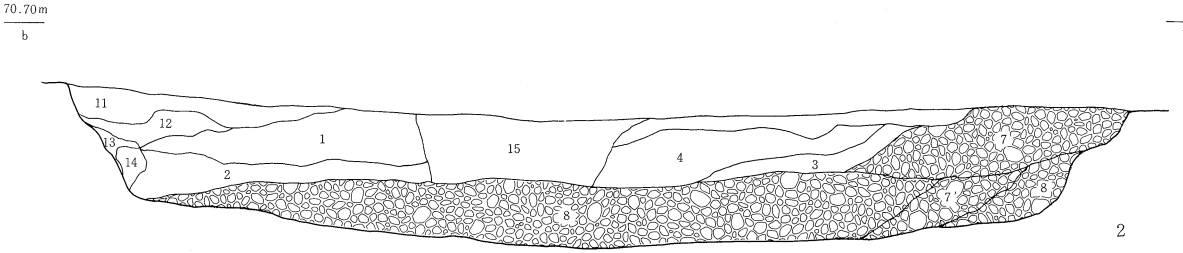


第68図　遺構実測図(中世前期)

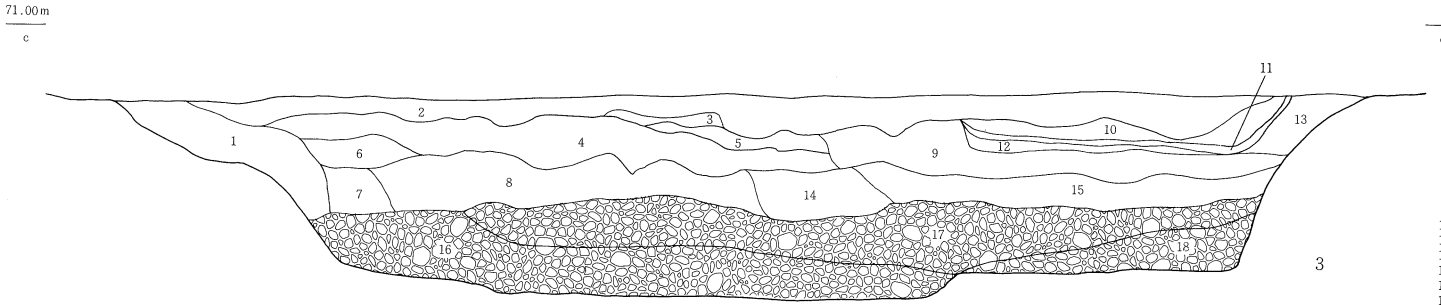
1.SD01　2.SD03　3.SD161　4･5.SD302　6.SD302・SD778　7～9.SD302　10～12.SD778　13.SD777・SD778　14･15.SD777　16～18.SD785　19.SD786　20.SD795　21.SD794　22･23.SD794・SD795　24～27.SD834　28･29.SD924

第69図　遺構実測図（中世前期）
1~3.SD701





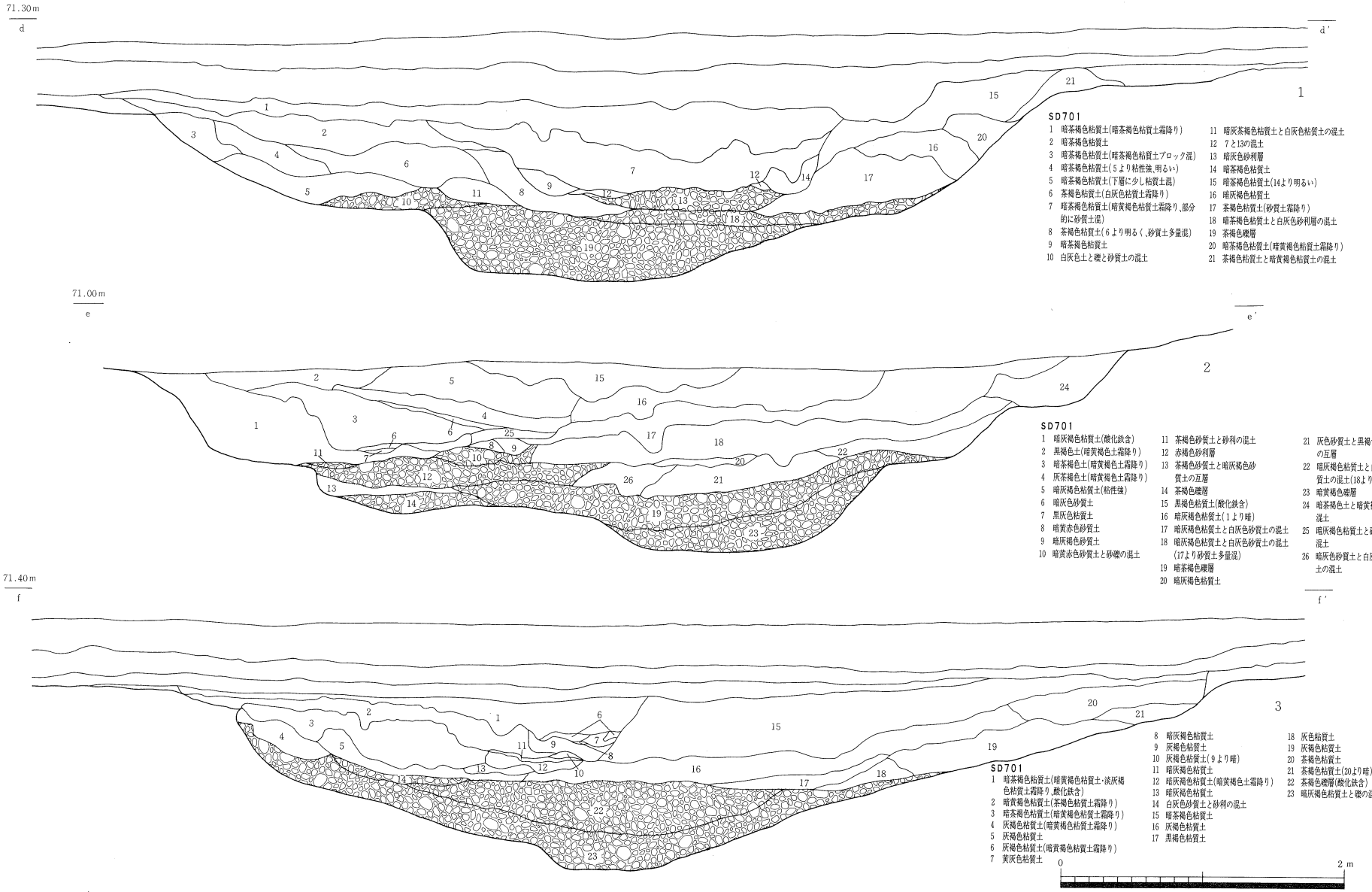
SD701(A・Bセクション)
1　暗茶褐色土(黄褐色土小ブロック霜降り)
2　黒褐色粘質土
3　暗茶褐色土と黄褐色砂層の薄い互層
4　茶褐色砂質土
5　暗茶褐色砂質土
6　黒褐色砂質土
7　黒褐色粘質土と砂礫の混土
7'　黒褐色粘質土と砂礫の混土(7より明)
8　暗茶褐色土と砂礫の混土
9　2と8の混土
10　黄褐色土(地山)と2の混土
11　茶褐色土(黄褐色土小ブロック霜降り)
12　暗茶褐色土
13　12と黄褐色土(地山)の混土
14　2と黄褐色土(地山)の混土
15　茶褐色粘質土

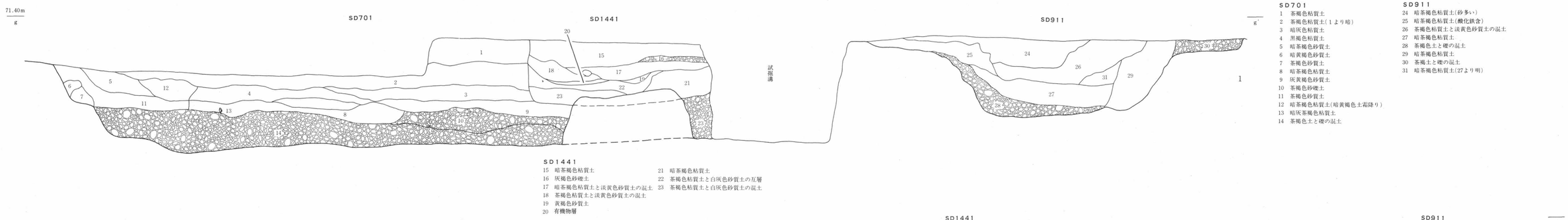


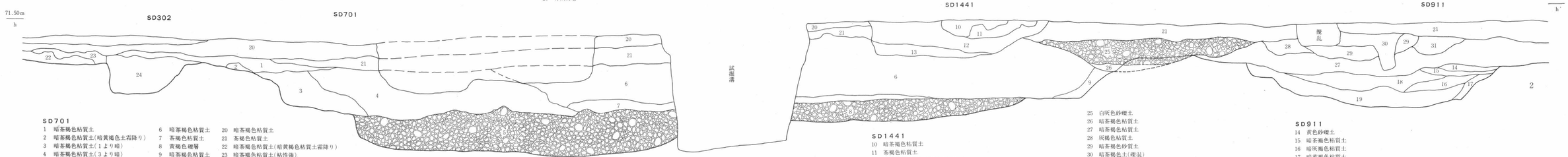
SD701(Cセクション)
1　灰褐色粘質土(暗茶褐色粘質土霜降り)
2　暗茶褐色粘質土(暗黄褐色粘質土霜降り)
3　暗茶褐色粘質土(4より暗)
4　暗茶褐色粘質土
5　暗茶褐色粘質土(4より粘性強)
6　暗茶褐色粘質土(4より明るい)
7　暗茶褐色砂質土
8　暗褐色砂質土
9　暗茶褐色粘質土(2より暗)
10　暗茶褐色粘質土(9より暗)
11　暗茶褐色粘質土(4より粘性強)
12　暗茶褐色粘質土(11より粘性強)
13　暗茶褐色粘質土
14　暗茶褐色砂質土
15　暗茶褐色砂質土(暗茶褐色土混)
16　暗茶褐色土と砂礫の混土
17　白灰色土と砂礫の混土
18　暗黄褐色土と砂礫の混土

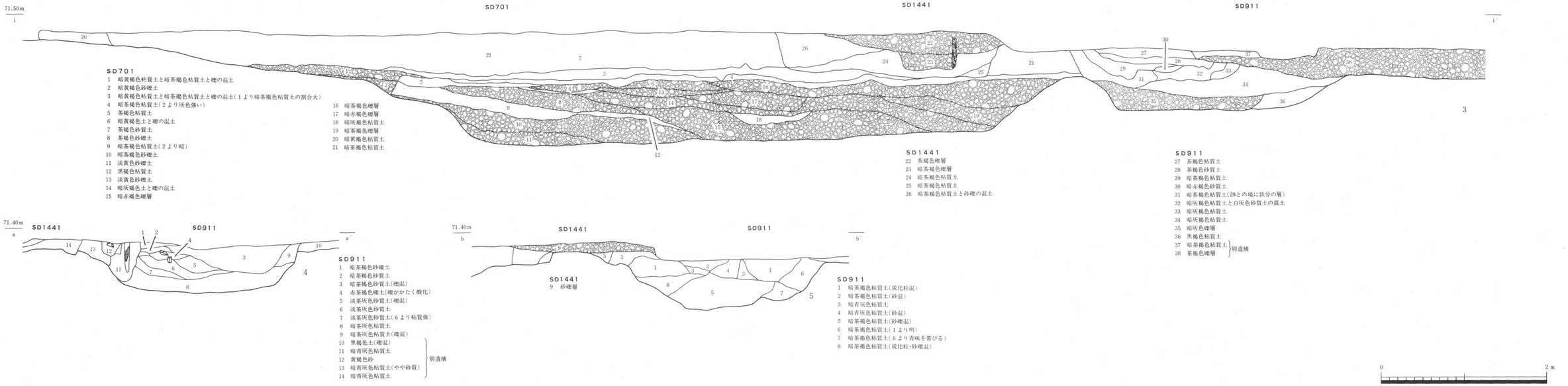
第70図　遺構実測図（中世前期）

1～3，SD701

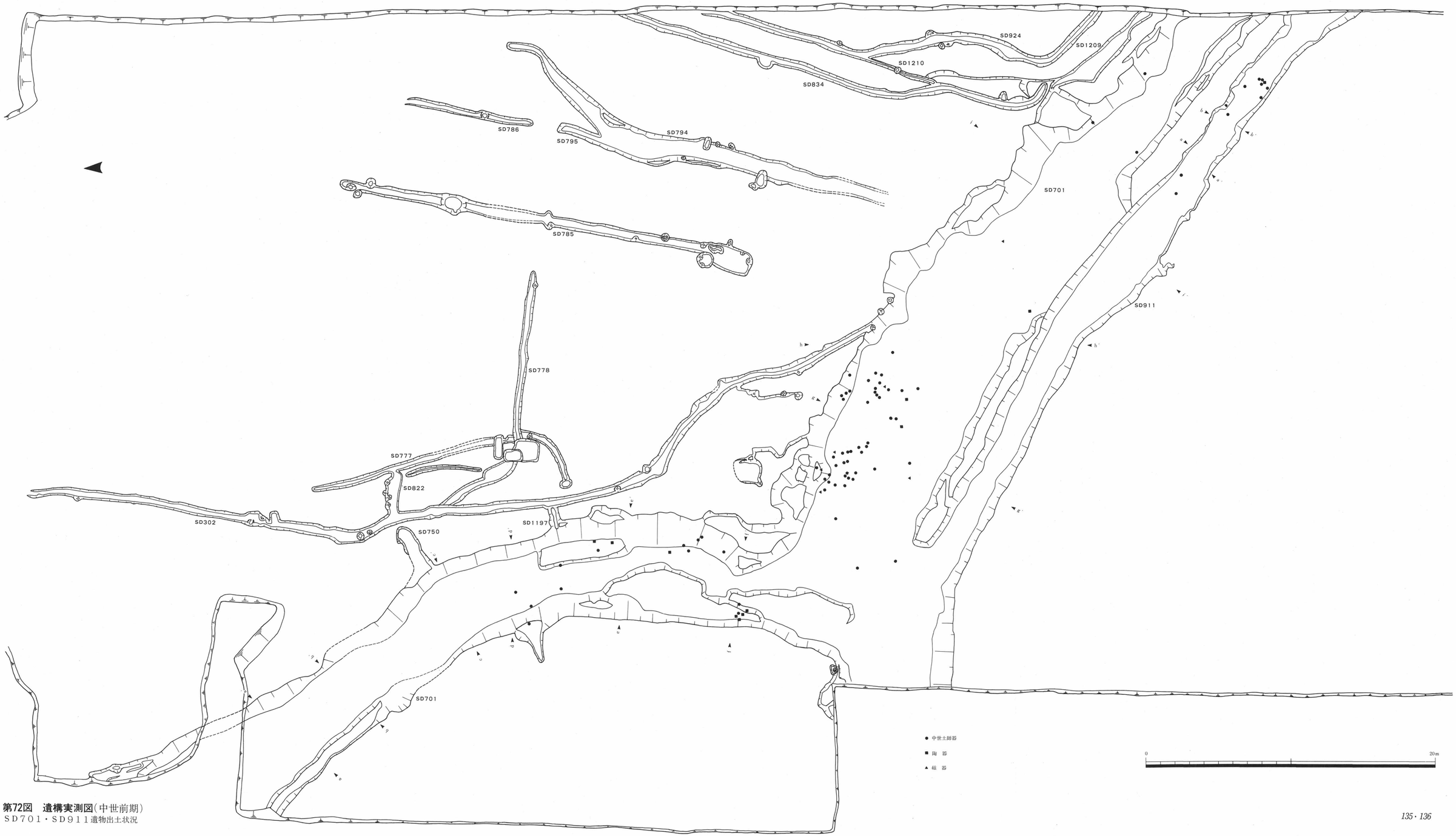








第71図　遺構実測図(中世前期)
1~3.SD701・SD911・SD1441　4・5.SD911・SD1441



第72図　遺構実測図（中世前期）
ＳＤ７０１・ＳＤ９１１遺物出土状況